

茨城県笠間市

# 長 峰 西 遺 跡

—畑地帯総合整備事業（小原地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010

笠間市教育委員会  
有限会社 勾玉工房Mogi

茨城県笠間市

# 長 峰 西 遺 跡

—畑地帯総合整備事業（小原地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010

笠間市教育委員会

有限会社勾玉工房 Mogi

## 序

笠間市は、茨城県のほぼ中央に位置し、北西部には八溝山系が、南西部には吾国山・難台山・愛宕山が連なり、中央を北西部から東部にかけて澗沼川が台地を潤す自然豊かな地域です。また、河川流域や台地上より数多くの埋蔵文化財が確認されていることから、原始・古代より人々が生活を営むうえで最適の地域であったといえます。

今回の調査は県営畑地帯総合整備事業に関わる発掘調査であります。この調査の結果、弥生時代から奈良・平安時代の遺跡が確認され、地域の歴史を知る上で重要な資料を得ることができました。

この報告書を通して郷土の歴史に対する理解を深め、ひいては教育・文化向上の一助として多くの人々に広く活用されますことを強く願っている次第です。

最後に、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大なるご指導・ご協力を賜りました関係機関並びに各位に対しまして心より感謝申し上げます。

平成 22 年 3 月

笠間市教育委員会教育長

飯 島 勇

## 例 言

1. 本書は、茨城県笠間市小原359番地外に所在する長峰西遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は畑地帯総合整備事業に伴うもので、笠間市の委託を受けて、笠間市教育委員会の指導の下、有限会社勾玉工房 Mogi の大賀健・田中統徳が調査を担当し、長谷川秀久・荒井秀樹・大越直樹・大久保隆史が調査員として参加した。
3. 調査は平成20年12月15日から平成21年3月31日まで実施し、調査面積は5,815㎡である。
4. 調査記録及び出土遺物の整理は、平成21年4月1日から平成22年3月15日まで行った。
5. 発掘調査で得られた出土遺物及びその他の資料は、笠間市教育委員会に保管している。
6. 本書の編集は大賀健が行った。執筆分担は笠間市教育委員会-1序 第1章、大賀健-1序 第2章、X考察 第2章・第3章、大越直樹-1序 第4章、X考察 第4章、角張淳一-X考察 第1章(株式会社アルカ)、高橋 哲-X考察 第1章(株式会社アルカ)、大賀さつき-遺物観察表、田中統徳-その他である。
7. デジタル編集は岩谷大吾・川口和之・岩崎美奈子・橋辺明子・大賀文香 が行った。石器の実測・トレース・撮影等は株式会社アルカに依頼した。遺物写真撮影は遺物の一部を大越直樹・川口和之、墨書土器の赤外線撮影を田中統徳が行い、それ以外を(有)スギハラに依頼した。
7. 調査参加者は以下のとおりである。

野村正子 佐藤利男 小場静江 鈴木とし江 小瀬増夫 豊島英則 篠原一郎 根欠隆 石川久男 露久保三郎  
 高田幸江 鈴木晃佳 山口辰彦 吹野昇 川又誠二 小坂部克巳 高野正行 仲田仙 鈴木浩 青木馨 瀧江稔  
 岡根光雄 中村伊重 吉田正子 中島トミ子 斉藤与志朗 海老原龍生 吉田みち 斉藤京子 武藤瑞良 吉田豊  
 高岡真士 小山義則 菅谷正義 川崎剛史 北村親 小山範子 飯田昭 青木誠 横田忠利 斉藤幸一 塩畑勝利  
 中村薫 平林敬子 山崎一義 大山年明 松本修児 岩田時彦 大内英雄 中村柄繁次 関律子 福島枝里子  
 菅谷和子 飯田博美

8. 整理調査の参加者は以下のとおりである。  
 大賀さつき 宇佐美薫 塩澤佑介 根本時子 岩崎美奈子 小山郷子 大賀文香 篠原美代子  
 稲坂なお子
9. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸氏、諸機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。  
 川崎純徳 能島清光 宮内勝巳 佐藤雅規 長井正欣 土生朗治 篠原 正 林田利之 茨城県教育委員会  
 水戸土地改良事務所 小原地区土地改良組合 (有)カワヒロ産業 (株)スカイサーベイ 芦田測量  
 (有)スギハラ (株)エイディー

## 凡 例

1. 本書で第1図に用いた地形図は国土地理院発行2万5千分の1『笠間』である。
2. 座標値は世界測地系第IX系を使用した。全体図、遺構図の方は座標北を示し、高さの数値は標高を示している。
3. 土層説明および遺物の観察には『新版 標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を用いた。
4. 堅穴住居跡の計測値は主軸方位を長軸とし、方向が不明な場合は長さにより決定した。
5. 掲載した図面は以下の縮尺に掲載した。  
 遺構図 堅穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑は1/60、竈は1/30を基準としている。  
 出土遺物 縄文土器1/3、弥生土器1/3、土師器・須恵器1/4、土製品・石製品1/3、鉄製品1/2を基準としている。
6. 掲載図面中のスクリーントーンは、次の内容を示す。

遺構		盛土範囲		カマ下地		硬化面範囲
		火床基礎範囲		炭化物範囲		灰範囲
遺物		柱		黒色系泥		赤色

7. なお墨書土器の文字は任意の縮尺である。遺物写真は実測図の縮尺に合わせて掲載した。

## 目次

### 序

#### 目次

##### I 序章

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の位置と考古学的環境	1
第1節 遺跡の立地	1
第2節 周辺の遺跡	2
第3章 調査区の立地と区分	3
第1節 調査区のグリッド配置	3
第2節 遺跡の様相と地層	3
第4章 調査の経過	4

##### II CUT1

第1章 遺跡の概要	5
第2章 検出された遺構と遺物	5
第1節 縄文時代の遺物	5
第2節 弥生時代後期～ 古墳時代初期の遺構と遺物	5
第1項 住居跡	5
第3節 古墳時代の遺構と遺物	15
第1項 住居跡	15
第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物	20
第1項 住居跡	20
第2項 その他の遺構	31
第3章 まとめ	32

##### III CUT2

第1章 遺跡の概要	34
第2章 検出された遺構と遺物	34
第1節 弥生時代の遺構と遺物	34
第1項 住居跡	34
第2節 古墳時代の遺構と遺物	38
第1項 住居跡	38
第3節 平安時代の遺構と遺物	40
第1項 住居跡	40
第2項 溝跡	42
第3項 遺構外出土遺物	42
第3章 まとめ	42

##### IV CUT5

第1章 遺跡の概要	43
第2章 検出された遺構と遺物	43
第1節 縄文時代の遺物	43
第2節 弥生時代後期～ 古墳時代初期の遺構と遺物	43
第1項 住居跡	43
第3節 古墳時代の遺構と遺物	44
第1項 住居跡	44
第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物	49
第1項 住居跡	49
第2項 孤立柱建物跡	96
第3項 土坑	101
第4項 ビット	102
第5項 遺構外出土遺物	102
第3章 まとめ	103

##### V CUT6

第1章 遺跡の概要	105
第2章 検出された遺構と遺物	105
第1節 奈良・平安時代の遺構と遺物	105
第1項 住居跡	105

第2項 孤立柱建物跡	111
第3章 まとめ	112

##### VI CUT8

第1章 遺跡の概要	113
第2章 検出された遺構と遺物	113
第1節 古墳時代の遺構と遺物	113
第1項 古墳	113
第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物	114
第3節 その他の遺構	115
第1項 土坑	115
第3章 まとめ	116

##### VII CUT9

第1章 遺跡の概要	116
第2章 検出された遺構と遺物	116
第1節 住居跡	116
第2節 その他の遺構と遺物	117
第3節 遺構外出土遺物	117
第3章 まとめ	117

##### VIII CUT10A

第1章 遺跡の概要	118
第2章 検出された遺構と遺物	119
第1節 奈良・平安時代の遺構と遺物	119
第1項 住居跡	119
第2節 中近世の遺構と遺物	122
第1項 地下式坑	122
第2項 その他の遺構と遺物	123
第3章 まとめ	124

##### IX CUT10B

第1章 遺跡の概要	126
第2章 検出された遺構と遺物	126
第1節 検出された遺構	126
第2節 遺構外出土遺物	126
第3章 まとめ	128

##### X 考察

第1章 旧石器時代及び縄文時代の 石器について	128
第2章 縄文土器	147
第3章 土器台式土器と古墳時代前期 古式土師器の共存について	148
第1節 土器台式期の住居	148
第2節 土器台式土器と五領式土器を 共存する住居	148
第3節 五領式土器を出土する住居跡	149
第4章 長峰西遺跡で検出された 初瀬期カマドについて	153
第5章 長峰西遺跡出土の製書土器について	153
第6章 遺跡全体の総括	151

## 挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第2図	標準地層土層柱状図	3
第3図	調査区全体図	折図1
CUT1		
第4図	CUT1 全体図	折図2
第5図	5号住居跡	6
第6図	5号住居跡出土遺物(1)	7
第7図	5号住居跡出土遺物(2)	8
第8図	10号住居跡(1)	9
第9図	10号住居跡(2)	9
第10図	10号住居跡出土遺物	10
第11図	12号住居跡	12
第12図	12号住居跡出土遺物	12
第13図	13号住居跡	13
第14図	13号住居跡出土遺物	14
第15図	3号住居跡	15
第16図	3号住居跡出土遺物	15
第17図	4号住居跡(1)	16
第18図	4号住居跡(2)	17
第19図	4号住居跡出土遺物	17
第20図	8号住居跡(1)	18
第21図	8号住居跡(2)	19
第22図	8号住居跡出土遺物	19
第23図	1号住居跡(1)	20
第24図	1号住居跡(2)	21
第25図	1号住居跡出土遺物	21
第26図	2号住居跡	22
第27図	2号住居跡出土遺物	22
第28図	6号住居跡(1)	23
第29図	6号住居跡(2)	24
第30図	6号住居跡出土遺物	24
第31図	7号住居跡	25
第32図	7号住居跡出土遺物	25
第33図	9号住居跡	28
第34図	9号住居跡出土遺物	28
第35図	11号住居跡	29
第36図	11号住居跡出土遺物	30
第37図	14号住居跡	30
第38図	14号住居跡出土遺物	31
第39図	15号住居跡出土遺物	31

## CUT2

第40図	CUT2 全体図	33
第41図	1号住居跡	34
第42図	2号住居跡	35
第43図	2号住居跡出土遺物	36
第44図	3号住居跡	36
第45図	3号住居跡出土遺物	37
第46図	5号住居跡(1)	38
第47図	5号住居跡(2)	39
第48図	5号住居跡出土遺物	39
第49図	4号住居跡	40
第50図	4号住居跡出土遺物	41
第51図	6号住居跡	41
第52図	6号住居跡出土遺物	41
第53図	遺構外出土遺物	42

## CUT5

第54図	CUT5 全体図	折図3
第55図	42号住居跡	43
第56図	42号住居跡出土遺物	43

## 挿図目次

第57図	18号住居跡(1)	44
第58図	18号住居跡(2)	45
第59図	18号住居跡出土遺物	45
第60図	21号住居跡	46
第61図	21号住居跡出土遺物	46
第62図	33号住居跡	47
第63図	33号住居跡出土遺物	47
第64図	36号住居跡	48
第65図	36号住居跡出土遺物	48
第66図	1号住居跡	49
第67図	2号住居跡	50
第68図	2号住居跡出土遺物	50
第69図	3号住居跡(1)	51
第70図	3号住居跡(2)	52
第71図	3号住居跡出土遺物	52
第72図	4号住居跡	53
第73図	4号住居跡出土遺物	53
第74図	5・6号住居跡(1)	54
第75図	5・6号住居跡(2)	55
第76図	5号住居跡出土遺物	55
第77図	6号住居跡出土遺物	56
第78図	10号住居跡	57
第79図	7・38号住居跡	58
第80図	7号住居跡出土遺物	58
第81図	38号住居跡出土遺物	59
第82図	8号住居跡	60
第83図	8号住居跡出土遺物	60
第84図	9・34号住居跡	61
第85図	9号住居跡出土遺物	61
第86図	10号住居跡(1)	62
第87図	10号住居跡(2)	63
第88図	10号住居跡出土遺物	64
第89図	11号住居跡(1)	66
第90図	11号住居跡(2)	67
第91図	11号住居跡出土遺物	67
第92図	12・37号住居跡	68
第93図	12号住居跡出土遺物	69
第94図	37号住居跡出土遺物	70
第95図	3・14・15・23・39号住居跡(1)	70
第96図	3・14・15・23・39号住居跡(2)	71
第97図	3・14・15・23・39号住居跡(3)	72
第98図	3号住居跡出土遺物	72
第99図	14号住居跡出土遺物(1)	73
第100図	15号住居跡出土遺物	74
第101図	23号住居跡出土遺物	75
第102図	16号住居跡	75
第103図	16号住居跡出土遺物	76
第104図	17号住居跡	77
第105図	19・20号住居跡(1)	78
第106図	19・20号住居跡(2)	79
第107図	19・20号住居跡出土遺物(1)	79
第108図	19・20号住居跡出土遺物(2)	80
第109図	22・35号住居跡	81
第110図	22号住居跡出土遺物	82
第111図	35号住居跡出土遺物	83
第112図	24・46・47号住居跡(1)	83
第113図	24・46・47号住居跡(2)	84
第114図	24号住居跡出土遺物	84
第115図	25・26・27・28・41・43号住居跡(1)	85
第116図	25・26・27・28・41・43号住居跡(2)	86
第117図	25・26・27・28・41・43号住居跡(3)	87
第118図	25・26・27・28・41・43号住居跡(4)	88

第119図	25号住居跡出土遺物	88
第120図	26号住居跡出土遺物	89
第121図	27号住居跡出土遺物	89
第122図	28号住居跡出土遺物	90
第123図	41号住居跡出土遺物	91
第124図	29・30・44号住居跡	91
第125図	29号住居跡出土遺物	92
第126図	30号住居跡出土遺物	92
第127図	32・45号住居跡	93
第128図	32・45号住居跡出土遺物	94
第129図	1号堀立柱建物跡	96
第130図	2号堀立柱建物跡	97
第131図	3号堀立柱建物跡	98
第132図	4・5・6・7・8・9号堀立柱建物跡(1)	99
第133図	4・5・6・7・8・9号堀立柱建物跡(2)	100
第134図	1・2号土坑出土遺物	101
第135図	9号土坑出土遺物	101
第136図	19号土坑出土遺物	102
第137図	ピット出土遺物	102
第138図	遺構外出土遺物	102

#### CUT6

第139図	CUT6 全体図	105
第140図	1号住居跡	106
第141図	1号住居跡出土遺物	106
第142図	2号住居跡	107
第143図	2号住居跡出土遺物(1)	107
第144図	2号住居跡出土遺物(2)	108
第145図	3号住居跡	109
第146図	3号住居跡出土遺物	109
第147図	4号住居跡	110
第148図	4号住居跡出土遺物(1)	110
第149図	4号住居跡出土遺物(2)	111
第150図	1号堀立柱建物跡	112

#### CUT8

第151図	CUT8 全体図	113
第152図	1号古墳	114
第153図	9号土坑	114
第154図	9号土坑出土遺物	114
第155図	12号土坑	115

#### CUT9

第156図	CUT9 全体図	116
第157図	1号住居跡	116
第158図	1・2・3号土坑	117
第159図	CUT9 出土遺物	117

#### CUT10A

第160図	CUT10A 全体図	118
第161図	1号住居跡	119
第162図	1号住居跡出土遺物(1)	120
第163図	1号住居跡出土遺物(2)	121
第164図	1号地下式坑	122
第165図	1号地下式坑出土遺物	122
第166図	2号地下式坑	123
第167図	1号土坑出土遺物	123
第168図	5号土坑出土遺物	123
第169図	9号土坑出土遺物	123
第170図	12号土坑出土遺物	124
第171図	1号溝出土遺物	124
第172図	遺構外出土遺物	124

#### CUT10B

第173図	CUT10B 全体図	125
第174図	遺構外出土遺物	126
第175図	山上御文土器	147
第176図	十王台式土器編年(1)	150
第177図	1王台式土器編年(2)	151
第178図	十王台式土器編年(3)	152

#### 遺構写真目次

##### 図版01(全体風景)

- 1 航空写真全景1(遺構配置)
- 2 航空写真全景2

##### 図版02(CUT1)

- 1 CUT1 航空写真

##### 図版03(CUT1)

- 1 標準地積十層
- 2 遺構確認全景

##### 図版04(CUT1)

- 1 1号住居跡全景
- 2 同 セクション
- 3 同 カマド
- 4 2号住居跡セクション
- 5 同 カマドセクション

##### 図版05(CUT1)

- 1 2号住居跡全景
- 2 3号住居跡全景

##### 図版06(CUT1)

- 1 3号住居跡セクション
- 2 同 カマド
- 3 4号住居跡セクション
- 4 同 カマドセクション
- 5 同 全風

##### 図版07(CUT1)

- 1 5号住居跡全景
- 2 同 セクション
- 3 同 遺物出土状況
- 4 同 遺物近景1
- 5 同 遺物近景2

##### 図版08(CUT1)

- 1 5号住居跡 遺物近景3
- 2 同 遺物近景4
- 3 同 遺物近景5
- 4 同 伊セクション
- 5 6号住居跡全景

##### 図版09(CUT1)

- 1 6号住居跡遺物出土状況
- 2 同 カマド
- 3 7号住居跡全景
- 4 同 遺物出土状況
- 5 8号住居跡焼上分布状況

##### 図版10(CUT1)

- 1 8号住居跡全景
- 2 同 遺物出土近景1
- 3 同 遺物出土近景2
- 4 同 遺物出土近景3
- 5 同 遺物出土近景4

##### 図版11(CUT1)

- 1 8号住居跡遺物出土近景
- 2 同 カマド
- 3 同 貯蔵穴セクション

- 4 同 貯蔵穴完掘状況  
5 9号住居跡全景  
図版 12 (CUT1)  
1 9号住居跡セクション  
2 同 カマドセクション  
3 同 カマド  
4 10号住居跡セクション  
5 同 全景  
図版 13 (CUT1)  
1 10号住居跡セクション  
2 同 遺物出土状況1  
3 同 遺物出土状況2  
4 同 炉セクション  
5 11号住居跡全景  
図版 14 (CUT1)  
1 11号住居跡セクション  
2 同 遺物出土状況  
3 同 カマドセクション  
4 同 カマド全景  
5 12号住居跡全景  
図版 15 (CUT1)  
1 12号住居跡セクション  
2 同 炉  
3 同 セクション  
4 13号住居跡伊  
5 同 全景  
図版 16 (CUT1)  
1 13号住居跡伊  
2 14号住居跡セクション  
3 同 全景  
4 1号土坑セクション  
5 2号土坑セクション  
図版 17 (CUT1)  
1 3号土坑セクション  
2 4・5号土坑セクション  
3 7号土坑セクション  
4 8号土坑セクション  
5 9号土坑セクション  
6 11号土坑セクション  
7 12号土坑セクション  
8 同 完掘状況  
図版 18 (CUT1)  
1 13号土坑セクション  
2 同 完掘状況  
3 14号土坑セクション  
4 同 完掘状況  
5 15号土坑セクション  
6 同 完掘状況  
7 16号土坑セクション  
8 同 完掘状況  
図版 19 (CUT1)  
1 18号土坑セクション  
2 同 完掘状況  
3 19号土坑完掘状況  
4 20号土坑セクション  
5 同 完掘状況  
6 1号溝セクション  
7 2号溝セクション  
8 3号溝セクション  
図版 20 (CUT1)  
1 4号溝セクション1  
2 同 セクション2  
3 同 出土遺物状況 (近世磁器)  
4 5号溝セクション  
図版 21 (CUT2)  
1 CUT2 航空写真  
図版 22 (CUT2)  
1 標準堆積土層1  
2 標準堆積土層2  
3 1号住居跡全景  
4 同 住居跡セクション  
5 同 炉セクション  
図版 23 (CUT2)  
1 1号住居跡完掘  
2 2号住居跡セクション  
3 同 完掘状況  
4 同 炉セクション  
5 同 炉完掘状況  
図版 24 (CUT2)  
1 3号住居跡全景  
2 同 セクション  
3 同 遺物出土状況  
4 4号住居跡セクション  
5 同 遺物出土状況  
図版 25 (CUT2)  
1 4号住居跡完掘全景  
2 5号住居跡セクション  
3 同 遺物出土状況  
4 同 炉セクション  
5 同 炉完掘状況  
図版 26 (CUT2)  
1 5号住居跡全景  
2 6号住居跡セクション  
3 1号溝セクション  
4 調査風景  
図版 27 (CUT5)  
1 CUT5 航空写真  
図版 28 (CUT5)  
1 調査前状況  
2 遺構確認状況  
図版 29 (CUT5)  
1 標準堆積土層  
2 調査風景1  
3 同2  
4 遺構確認東側  
5 遺構確認西側  
図版 30 (CUT5)  
1 1号住居跡全景  
2 2号住居跡全景  
図版 31 (CUT5)  
1 2号住居跡カマドセクション  
2 同 カマド遺物出土状況  
3 3号住居跡セクション  
4 4号住居跡カマドセクション  
5 同 カマド全景  
図版 32 (CUT5)  
1 4号住居跡全景  
2 5・40号住居跡全景  
図版 33 (CUT5)  
1 5号住居跡セクション  
2 同 遺物出土全景  
3 同 カマドセクション  
4 同 カマド完掘状況  
5 5号住居跡遺物出土状況

図版 34 (CUT5)

- 1 6号住居跡Aセクション
- 2 同 Bセクション
- 3 同 カマドセクション
- 4 同 カマド遺物出土状況
- 5 同 完掘状況

図版 35 (CUT5)

- 1 7号住居完掘状況
- 2 同 カマド遺物出土状況
- 3 同 カマドセクション
- 4 同 カマド完掘状況
- 5 9号住居跡セクション

図版 36 (CUT5)

- 1 3号住居跡セクション
- 2 同 1号ピット
- 3 同 2号ピット
- 4 同 カマドセクション
- 5 同 カマド完掘状況

図版 37 (CUT5)

- 1 10号住居跡完掘状況
- 2 同 カマド竈
- 3 同 カマド掘方
- 4 11号住居跡カマド完掘状況
- 5 同 カマド竈

図版 38 (CUT5)

- 1 11号住居跡掘方
- 2 12号住居跡完掘状況

図版 39 (CUT5)

- 1 12号住居跡カマド遺物出土状況
- 2 同 カマド完掘状況
- 3 13・39号住居跡完掘状況
- 4 13号住居カマドセクション
- 5 同 カマド完掘状況

図版 40 (CUT5)

- 1 14号住居跡遺物出土状況
- 2 同 セクション
- 3 同 カマドセクション
- 4 同 カマド遺物出土状況
- 5 同 カマド完掘状況

図版 41 (CUT5)

- 1 4号住居跡完掘状況
- 2 15号住居跡Aセクション
- 3 同 Bセクション
- 4 同 カマドセクション
- 5 同 カマド完掘状況

図版 42 (CUT5)

- 1 15号住居完掘状況
- 2 16号住居跡完掘状況

図版 43 (CUT5)

- 1 16号住居跡カマドセクション
- 2 同 カマド遺物出土状況 1
- 3 同 カマド遺物出土状況 2
- 4 同 カマド完掘状況
- 5 17号住居跡完掘状況

図版 44 (CUT5)

- 1 18号住居跡完掘状況
- 2 同 セクション
- 3 同 ピット5セクション
- 4 同 竈セクション
- 5 同 炉完掘状況

図版 45 (CUT5)

- 1 19・20号住居跡全景

- 2 同 ピット1セクション

- 3 同 ピット2セクション

- 4 同 ピット3セクション

- 5 同 ピット4セクション

図版 46 (CUT5)

- 1 19号住居跡カマドセクション 1

- 2 同 カマドセクション 2

- 3 同 カマド遺物出土状況 1

- 4 同 カマド遺物出土状況 2

- 5 21号住居跡全景

図版 47 (CUT5)

- 1 21号住居跡Aセクション

- 2 同 竈完掘状況

- 3 22・35号住居跡遺物出土状況

- 4 同 住居跡セクション

- 5 同 カマドセクション

図版 48 (CUT5)

- 1 22号住居跡カマドセクション 1

- 2 同 カマドセクション 2

- 3 同 カマド完掘状況

- 4 23号住居跡カマドセクション

- 5 24号住居跡全景

図版 49 (CUT5)

- 1 24号住居Aセクション

- 2 同 Bセクション

- 3 同 カマドAセクション

- 4 同 カマドBセクション

- 5 同 カマドセクション

- 6 同 カマド完掘状況

- 7 同 貯蔵穴セクション

- 8 同 貯蔵穴遺物出土状況

図版 50 (CUT5)

- 1 25号住居跡Aセクション

- 2 同 Bセクション

- 3 同 カマドAセクション

- 4 同 カマドBセクション

- 5 26号住居跡遺物出土状況

図版 51 (CUT5)

- 1 26号住居跡カマドセクション

- 2 27号住居跡Aセクション

- 3 同 Bセクション

- 4 同 カマド遺物出土状況

- 5 同 全景

図版 52 (CUT5)

- 1 28号住居跡Aセクション

- 2 同 Bセクション

- 3 24号住居跡全景

- 4 同 セクション

- 5 同 カマドセクション

図版 53 (CUT5)

- 1 29号住居カマドセクション

- 2 29・44号住居跡セクション

- 3 30・44号住居跡遺物出土状況

- 4 同 セクション

- 5 32・45号住居跡セクション

図版 54 (CUT5)

- 1 31号住居跡完掘状況

- 2 32・45号住居跡遺物出土状況

図版 55 (CUT5)

- 1 32号住居跡カマドセクション

- 2 同 カマド完掘状況

- 3 32・34号住居跡Bセクション

- 4 33号住居跡セクション  
5 33号住居跡全景  
図版 56 (CUT5)  
1 34号住居跡全景  
2 35号住居跡全景  
図版 57 (CUT5)  
1 35号住居跡遺物出土状況  
2 同 カマドセクション  
3 36号住居跡遺物山上状況  
4 同 セクション  
5 同 カセクション  
図版 58 (CUT5)  
1 37号住居跡Aセクション  
2 同 Bセクション  
3 41号住居跡セクション  
4 同 カマドセクション  
5 同 カマド遺物山上状況  
図版 59 (CUT5)  
1 41号住居跡全景  
2 42号住居跡全景  
図版 60 (CUT5)  
1 43号住居跡Aセクション  
2 同 Bセクション  
3 46号住居跡カマドセクション  
4 同 セクション  
5 同 完掘状況  
図版 61 (CUT5)  
1 1号掘立柱建物跡  
2 同 ビット1セクション  
3 同 ビット1完掘状況  
4 同 ビット2セクション  
5 同 ビット2完掘状況  
図版 62 (CUT5)  
1 1号掘立柱建物跡ビット3セクション  
2 同 ビット3完掘状況  
3 同 ビット4セクション  
4 同 ビット4完掘状況  
5 同 ビット5セクション  
6 同 ビット5完掘状況  
7 同 ビット6セクション  
8 同 ビット6完掘状況  
図版 63 (CUT5)  
1 1号掘立柱建物跡ビット7セクション  
2 同 ビット7完掘状況  
3 2号掘立柱建物跡  
4 同 ビット1  
5 同 ビット2  
図版 64 (CUT5)  
1 2号掘立柱建物跡ビット3  
2 同 ビット4  
3 同 ビット5  
4 同 ビット6  
5 同 ビット7  
6 同 ビット8  
7 同 ビット9  
8 同 ビット10  
図版 65 (CUT5)  
1 3号掘立柱建物跡  
2 4・5号掘立柱建物跡  
図版 66 (CUT5)  
1 6号掘立柱建物跡  
2 7～9号掘立柱建物跡

- 図版 67 (CUT5)  
1 3号掘立柱建物跡  
2 35号住居跡内1号土坑完掘状況  
3 4号土坑完掘状況  
4 6号土坑完掘状況  
5 7号土坑完掘状況  
6 8号土坑完掘状況  
7 9号土坑セクション  
8 同 完掘状況  
図版 68 (CUT5)  
1 10号土坑セクション  
2 11号土坑セクション  
3 15号土坑セクション  
4 18号土坑セクション  
5 56号土坑完掘状況  
6 76号土坑完掘状況  
7 77号土坑完掘状況  
8 78号土坑完掘状況  
図版 69 (CUT5)  
1 80号土坑完掘状況  
2 81号土坑完掘状況  
3 82号土坑完掘状況  
4 ビット29・330完掘状況  
5 ビット33完掘状況  
6 ビット256～259完掘状況  
7 ビット312完掘状況  
8 ビット315完掘状況  
図版 70 (CUT5)  
1 ビット31完掘状況  
2 ビット320完掘状況  
3 ビット321完掘状況  
4 ビット328完掘状況  
5 ビット329完掘状況  
6 ビット325完掘状況  
7 ビット35・260・323・324完掘状況  
8 ビット326完掘状況  
図版 71 (CUT5)  
1 ビット344完掘状況  
2 ビット345完掘状況  
図版 72 (CUT6)  
1 CUT6航空写真  
図版 73 (CUT6)  
1 遺構確認全景  
2 標準堆積土層  
図版 74 (CUT6)  
1 1号住居跡全景  
2 同 カマドセクション  
3 同 カマド内遺物出土状況  
4 同 カマド全景  
5 2号住居跡セクション  
図版 75 (CUT6)  
1 2号住居跡全景  
2 同 遺物出土状況  
図版 76 (CUT6)  
1 2号住居跡カマドセクション  
2 同 カマド遺物出土状況  
3 同 カマド完掘状況  
4 3号住居跡セクション  
5 同 住居跡全景  
6 同 カマド全景  
7 4号住居跡カマド  
図版 77 (CUT6)

- 1 1号住居跡全景
- 2 1号竪立柱建物跡全景

図版 78 (CUT6)

- 1 1号土坑全景
- 2 2号土坑セクション
- 3 3号土坑全景
- 4 4号土坑全景
- 5 5号土坑・3号ピット全景
- 6 6号土坑全景
- 7 1号ピットセクション
- 8 1号不明遺構全景

図版 79 (CUT8)

- 1 CUT8 航空写真

図版 80 (CUT8)

- 1 遺構確認全景
- 2 標準堆積土層

図版 81 (CUT8)

- 1 1号古墳セクション
- 2 同 周溝

図版 82 (CUT8)

- 1 1号土坑セクション
- 2 同 完掘状況
- 3 2号土坑セクション
- 4 同 完掘状況
- 5 3号土坑セクション
- 6 同 完掘状況
- 7 4号土坑セクション
- 8 同 完掘状況

図版 83 (CUT8)

- 1 5号土坑セクション
- 2 同 完掘状況
- 3 6号土坑セクション
- 4 同 完掘状況
- 5 7号土坑完掘状況
- 6 8号土坑セクション
- 7 9号土坑セクション
- 8 同 完掘状況

図版 84 (CUT8)

- 1 9号土坑蔵骨器
- 2 同 出土状況

図版 85 (CUT8)

- 1 10号土坑セクション
- 2 同 完掘状況
- 3 11号土坑セクション
- 4 同 完掘状況
- 5 12号土坑セクション
- 6 4号ピット完掘状況

図版 86 (CUT9・CUT103)

- 1 CUT9・CUT108 航空写真

図版 87 (CUT9・CUT10A)

- 1 1号土坑セクション
- 2 2号土坑セクション
- 3 3号溝セクション
- 4 CUT10A 航空写真

図版 88 (CUT10A)

- 1 1号住居跡セクション
- 2 1号溝完掘状況
- 3 1号地下式坑完掘状況
- 4 2号地下坑完掘状況

## 遺物写真図版

図版 89

- CUT1-S101 出土遺物  
CUT1-S102 出土遺物  
CUT1-S103 出土遺物  
CUT1 S104 出土遺物

図版 90

- CUT1-S105 出土遺物  
図版 91 (CUT1)

- CUT1 S105 出土遺物  
CUT1-S106 出土遺物  
CUT1-S107 出土遺物  
CUT1-S108 出土遺物

図版 92

- CUT1-S108 出土遺物  
CUT1-S109 出土遺物  
CUT1-S110 出土遺物

図版 93

- CUT1-S111 出土遺物  
CUT1-S112 出土遺物

- CUT1-S113 出土遺物

- CUT1 S114 出土遺物

- CUT1-SK15 出土遺物

- CUT2-S102 出土遺物

- CUT2-S103 出土遺物

図版 94

- CUT2-S103 出土遺物  
CUT2-S104 出土遺物

図版 95 (CUT1)

- CUT2-S105 出土遺物

- CUT2-S106 出土遺物

- CUT2 カクニン 出土遺物

- CUT5 S102 出土遺物

- CUT5-S103 出土遺物

図版 96

- CUT5-S104 出土遺物

- CUT5 S105 出土遺物

- CUT5-S106 出土遺物

- CUT5-S107 出土遺物

図版 97

- CUT5 S110 出土遺物

- CUT5-S111 出土遺物

図版 98

- CUT5-S112 出土遺物

- CUT5-S113 出土遺物

- CUT5 S114 出土遺物

- CUT5-S115 出土遺物

図版 99

- CUT5-S116 出土遺物

- CUT5 S118 出土遺物

- CUT5-S119 出土遺物

図版 100

- CUT5-S121 出土遺物

- CUT5-S122 出土遺物

- CUT5 S123 出土遺物

- CUT5-S124 出土遺物

- CUT5-S125 出土遺物

- CUT5-S126 出土遺物

- CUT5 S127 出土遺物

図版 101

- CUT5-S128 出土遺物

CUT5-SI29 出土遺物
CUT5-SI30 山上遺物
CUT5-SI32・45 州土遺物
図版 102
CUT5-SI32・45 出土遺物
CUT5-SI33 出土遺物
CUT5-SI35 州土遺物
CUT5-SI36 出土遺物
図版 103
CUT5-SI37 出土遺物
CUT5-SI38 州土遺物
CUT5-SI41 出土遺物
CUT5-SI42 山上遺物
CUT5-SK09 出土遺物
CUT5-SK19 州土遺物
CUT5-SK22 出土遺物
CUT5-ピット 山上遺物
CUT5 表採出土遺物
図版 104
CUT6-SI01 出土遺物
CUT6-SI02 山上遺物
CUT6-SI03 出土遺物
CUT6-SI04 出土遺物
図版 105
CUT08-SK09 出土遺物
CUT10A-SI01 出土遺物
図版 106
CUT10A-SI01 出土遺物
CUT10A-1号地 下式土坑出土遺物
CUT10A-SI01 出土遺物
CUT10A-SK01 出土遺物
CUT10A-SK05 州土遺物
CUT10A-SK09 出土遺物
CUT10A-SK12 出土遺物
CUT10A-カクラン 山上遺物
CUT10B-SK13 山上遺物
CUT10B-SK30 出土遺物
CUT10B-SK35 出土遺物
CUT10B-SK41 出土遺物
CUT10B-遺構外 山上遺物
図版 107
CUT1-石器
図版 108
CUT5-石器-1
図版 109
CUT5-石器-2
図版 110
CUT5-石器-3
図版 111
CUT10A 石器
図版 112
出土縄文遺物
図版 113
1 CUT5-SI10-4 「□」
2 CUT5-SI13-05 「□」
3 CUT5-SI14-04 「大伴」
4 CUT5-SI14-05 「山」
5 CUT5-SI16 04 「山」
6 CUT5-SI19-04 「□」
7 CUT5-SI22-02 「万」
8 CUT5-SI22-05 「□」
図版 114

1 CUT5-SI32・45-07 「□」
2 CUT6-SI03 05 「□」
3 CUT6-SI03-06 「□」
4 CUT10A-SI01-10 「片山」
5 CUT10A-SI01-15 「片山」
6 CUT10A-SI01 24 「片山」

## 表目次

CUT1
表 1 5号住居跡遺物観察表 (1) …………… 8
表 2 5号住居跡遺物観察表 (2) …………… 9
表 3 10号住居跡遺物観察表 …………… 11
表 4 12号住居跡遺物観察表 …………… 13
表 5 13号住居跡遺物観察表 …………… 14
表 6 3号住居跡遺物観察表 …………… 15
表 7 4号住居跡遺物観察表 …………… 17
表 8 8号住居跡遺物観察表 …………… 20
表 9 1号住居跡遺物観察表 …………… 21
表 10 2号住居跡遺物観察表 …………… 23
表 11 6号住居跡遺物観察表 …………… 25
表 12 7号住居跡遺物観察表 …………… 26
表 13 7号住居跡州土縄計測表 (1) …………… 26
表 14 7号住居跡出土縄計測表 (2) …………… 27
表 15 9号住居跡遺物観察表 …………… 29
表 16 11号住居跡遺物観察表 …………… 30
表 17 14号住居跡遺物観察表 …………… 31
表 18 15号土坑遺物観察表 …………… 31
表 19 CUT1 土坑・ピット計測表 …………… 32
表 20 CUT1 溝計測表 …………… 32
CUT2
表 21 2号住居跡遺物観察表 …………… 36
表 22 3号住居跡遺物観察表 (1) …………… 37
表 23 3号住居跡遺物観察表 (2) …………… 38
表 24 5号住居跡遺物観察表 …………… 40
表 25 4号住居跡遺物観察表 …………… 41
表 26 6号住居跡遺物観察表 …………… 41
表 27 CUT2 遺構外遺物観察表 …………… 42
CUT5
表 28 42号住居跡遺物観察表 …………… 44
表 29 18号住居跡遺物観察表 …………… 45
表 30 21号住居跡遺物観察表 …………… 46
表 31 33号住居跡遺物観察表 …………… 47
表 32 36号住居跡遺物観察表 …………… 49
表 33 2号住居跡遺物観察表 …………… 51
表 34 3号住居跡遺物観察表 …………… 52
表 35 4号住居跡遺物観察表 …………… 53
表 36 5号住居跡遺物観察表 …………… 55
表 37 6号住居跡遺物観察表 (1) …………… 56
表 38 6号住居跡遺物観察表 (2) …………… 57
表 39 7号住居跡遺物観察表 …………… 59
表 40 38号住居跡遺物観察表 …………… 59
表 41 8号住居跡遺物観察表 …………… 60
表 42 9号住居跡遺物観察表 …………… 61
表 43 10号住居跡遺物観察表 …………… 65
表 44 11号住居跡遺物観察表 …………… 67
表 45 12号住居跡遺物観察表 …………… 69
表 46 37号住居跡遺物観察表 …………… 70
表 47 13号住居跡遺物観察表 …………… 73
表 48 14号住居跡遺物観察表 …………… 74
表 49 15号住居跡遺物観察表 …………… 74

表 50	23号住居跡遺物観察表	75
表 51	16号住居跡遺物観察表	76
表 52	19・20号住居跡遺物観察表(1)	80
表 53	19・20号住居跡遺物観察表(2)	81
表 54	22号住居跡遺物観察表	82
表 55	35号住居跡遺物観察表	83
表 56	21号住居跡遺物観察表	84
表 57	25号住居跡遺物観察表	88
表 58	26号住居跡遺物観察表	89
表 59	27号住居跡遺物観察表	89
表 60	28号住居跡遺物観察表	90
表 61	41号住居跡遺物観察表	91
表 62	29号住居跡遺物観察表	92
表 63	30号住居跡遺物観察表	92
表 64	32・45号住居跡遺物観察表	95
表 65	1・2号土坑遺物観察表	101
表 66	9号土坑遺物観察表	102
表 67	19号土坑遺物観察表	102
表 68	ピット遺物観察表	102
表 69	CUT5 遺構外遺物観察表	103
表 70	CUT5 土坑・ピット計測表	104
CUT6		
表 71	1号住居跡遺物観察表	106
表 72	2号住居跡遺物観察表	108
表 73	3号住居跡遺物観察表	109
表 74	4号住居跡遺物観察表	111
表 75	CUT6 土坑・ピット計測表	112
CUT8		
表 76	9号土坑遺物観察表	115
表 77	CUT8 土坑・ピット計測表	115
CUT9		
表 78	CUT9 遺構外遺物観察表	117
CUT10A		
表 79	1号住居跡遺物観察表(1)	121
表 80	1号住居跡遺物観察表(2)	122
表 81	1号地下式土坑遺物観察表	122
表 82	1号土坑遺物観察表	123
表 83	5号土坑遺物観察表	123
表 84	9号土坑遺物観察表	123
表 85	12号土坑遺物観察表	124
表 86	1号溝遺物観察表	124
表 87	遺構外遺物観察表	124
表 88	CUT10A 土坑・溝計測表	124
CUT10B		
表 89	CUT10B 遺構外遺物観察表	127
表 90	CUT10B 土坑・不明遺構計測表	128

# 1 序

## 第1章 調査に至る経緯

畑地帯総合整備事業は、農業に伴う道路・灌漑施設・農地などの生産基盤を総合的に整備することによって、作物品質の向上、生産作物の拡大、反収の増加、輸送費の削減、荷傷みの防止など、より高い生産性と品質のさらなる向上を目指している。

笠間市では基本施策を総合計画で目標を定め、農林業の振興を図ることを目的とした産業振興プロジェクトが重点的に進められている。また、農業生産基盤の整備の一環として、旧友部町時代の平成13年に小原地区土地改良組合が設立され、県の指導の下、効率的な畑作農業地域を作るための整備事業が実施されている。

この整備事業の計画地は常磐線を挟んで南北に分かれている。この地区には市内最大級の山上塚古墳を有する一本松古墳群があり、重要な遺跡の包蔵地である。このことから整備事業計画の中で平成15年1月に三本松遺跡の発掘調査、翌年1月に小原遺跡の発掘調査、さらに平成20年に堀谷遺跡、長峰東遺跡の発掘調査が行われ、多大な成果が得られている。

今回の整備事業計画地は長峰西遺跡の範囲内であることから、笠間市教育委員会は平成19年8月から合計7回、笠間市文化財保護審議委員の能島清光氏に試掘確認の調査を依頼した。その結果多数の住居跡が確認され、出土遺物などから弥生時代から奈良・平安時代の集落があることが推定された。

工事主体者である水戸土地改良事務所（現茨城県農林事務所）は、茨城県教育委員会教育長に対して、平成20年8月29日付けで長峰西遺跡について文化財保護法94条第1項の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘調査について通知した。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要と判断し、平成20年10月21日付けで工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

これを受けて、笠間市教育委員会は有限会社勾玉工房 Mogi に調査を依頼した。承諾後、笠間市教育委員会・水戸土地改良事務所・有限会社勾玉工房 Mogi は三者協議を行い、試掘調査の結果に基づき、平成20年10月27日付けで文化財保護法第92条第1項の規定による発掘調査届け書を茨城県教育委員会へ提出、茨城県埋蔵文化財指導員の川崎純徳氏と笠間市文化財保護審議委員の能島清光氏を指導委員として平成20年12月15日より発掘調査を実施することとなった。

## 第2章 遺跡の位置と考古学的環境

### 第1節 遺跡の地理的環境

本遺跡が所在する茨城県笠間市は茨城県のほぼ中央に位置し、北西部には八溝山系が、南西部には吾門山・龜台山・愛宕山が連なる。潤沼川は友部駅の西側で北西部から東部にかけて愛宕山の裾を巡るよう大きく蛇行し、やがて古矢川と合流した後に潤沼へと流れ込む。潤沼川が山間地から低地帯へと抜ける友部周辺では、随所に灌漑用の溜池が点在し、古くよりこの周辺が低地帯であったことが想定できる。今回の発掘調査は冬季調査であったために、この灌漑用溜池に飛来する数多くのオオハクチョウの姿が観察された。

長峰西遺跡は常磐線友部駅と内原駅の中間、小原神社の西側の台地丘陵上にあり、常磐線沿線には田園地帯が広がり、山系から緩やかに標高を下げる丘陵の先端部では、樹枝状の小枝谷が形成されており、潤沼川の支流である潤沼前川と古矢川に挟まれる台地の縁辺部に位置する。小枝谷を挟んで西側には小原神社が併接している。遺跡の所在する台地の標高は45～47m前後で、南東端部に位置する調査区C101の西側側面周辺は標高40.5mの低地帯となり水田地帯が広がる。また、調査区の中央部分には泉足杉崎友部線が東西方向に貫いて通っており、この部分は灌漑開削時に掘削されて切り通しになっているが、さらに北東側に位置する調査区のCUT10Aでは標高が48mと徐々に山間地に向かい高くなる。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡(国土地理院 1/25000 地形図『空圖』に加筆)

## 第2節 周辺の遺跡

市内では縄文時代の遺跡が前期から分布する。しかし弥生時代の遺跡の分布は希薄である。古墳時代に入ると、市内最大級の山王塚古墳を有する一本松古墳群があり、遺跡周辺には古墳群が点在する。奈良時代には遺跡周辺は常陸国那珂郡あるいは茨城郡に属するが、遺跡がどちらの郡に属したかは定かではない。平安末期には九条家領荘園が成立し、以後室町後期までは穴戸氏の支配を受ける。遺跡付近には中世後期に里見氏が築城したと言われる平城、小原城跡がある。遺跡北東に隣接する舌状台地には弥生～平安時代の遺跡である丸谷遺跡、長峰東遺跡があり、平成20年に調査が行われている。

### 第3章 調査区の立地と区分

#### 第1節 調査区のグリッド配置 (第4図)

調査区のグリッド設定は世界測地系IX系により X=41.050, Y=44.200 をA1 杭とし、東にA、B・・・G、南に1、2・・・6 としその組合せにより表記し、50m 方眼の大グリッドを設定した。更にその中を 10m 四方の小グリッドに分割し、北西から 01、02、03・・・25 と表記した。

調査区は 10 区に分かれ、CUT1・2・3・5・6・8・9・10A・10B・15 と表記した。CUT3・15 では遺構は検出されなかった。

#### 第2節 遺跡の標準堆積土層

調査区が点在するため、各区は高低差が激しい。CUT10A が表面標高 50.300m、一番高く、CUT1 が 42.000m と一番低い。ソフトロームとその漸移層である II～IV 層は検出されなかった調査区もあるが、II 層は CUT5・6 に、III 層は CUT2・6・9 に、IV 層は CUT6 に見られた。V 層はハードロームで明褐色である。VI 層は鹿沼軽石層で CUT1・2・6・9・10A に見られる。VII 層は CUT6・9 以外に見られるハードロームで、褐色～灰オリーブ色の暗い色調である



第2図 標準堆積土層柱状図 (S=1/60)

## 第4章 調査の経過

遺跡は、舌状に張り出した南向き緩斜面の台地上に位置している。工事により削平される CUT1、2、3、5、6、8、9、10A、10B、15 の 10 地区の調査を平成 20 年 12 月 15 日～翌 21 年 3 月 31 日までの予定で行うことになった。

### <平成 20 年 12 月期>

平成 20 年 12 月 15 日、プレハブ、テント、トイレを設置し、発掘器材の搬入を行った。調査は、遺構密度の濃い CUT5・6 から調査を開始し、進捗状況にあわせて順次、他の各地区調査を開始した。

(CUT5) 15 日（～18 日）、調査範囲を枕とテープで囲い、重機により表土掘削を開始する。16 日、遺構精査を行う。18 日（～21 日）、基準杭の打設を行う。遺構確認作業の結果、調査範囲からは、弥生～平安時代に至る、竪穴住居跡及び掘立柱建物跡からなる集落跡が重複した状態で検出され、西側から順に調査を始める方針とした。25 日、霜害対策としてビニールシートで遺構を養生し平成 20 年度の調査を終了する。

(CUT6) 15 日、調査範囲を枕とテープで囲い、重機により表土を掘削する。16 日、精査を開始し、奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物を主体とした遺構を確認し、基準杭打設及び各遺構の掘り下げ作業を開始する。25 日、霜害対策としてビニールシートで遺構を養生し平成 20 年度の調査を終了する。

### <平成 21 年 1 月期>

(CUT1) 6 日（～8 日）、重機による表土掘削作業を開始する。13 日、精査を開始。調査区南西を主体に作業を進めた。19 日、基準杭打設を行う。遺構確認の結果、弥生時代～平安時代に至る竪穴住居跡が検出された。

(CUT2) 14 日、表土掘削作業を行う。15 日、精査を開始し、各遺構の掘り下げを行う。主な遺構として弥生～平安時代の竪穴住居跡が検出された。

(CUT3) 21 日、表土掘削作業を行う。精査を開始するが、遺構は検出されなかった。

(CUT5・6) 6 日、調査を開始し、主に竪穴住居跡の掘り下げを行った。

(CUT15) 19 日、表土掘削を行い、26 日より精査を開始するが遺構は検出されなかった。

### <同年 2 月期>

(GIT1) 主に調査区北の調査を行う。この中で、古墳時代中期の竪穴住居跡 S18 は、焼失家屋で、假土中におびただしい焼土及び炭化材が検出された。またプラン北壁には初現期のカマドが付設されていることが判明。キの字にベルトを設定して、内部を掘り下げることにした。28 日、終了確認を行う。

(GIT2) 主に調査区北の調査を行う。26 日、終了確認を行う。

(CUT3) 調査区は、台地上に点在する各調査区の中では最南側に位置しており、谷地に接する場所であり、雨天後は湧水もあった。13 日、終了確認を行う。

(CUT5) 主に調査区中央～北の調査を行う。

(CUT6) 竪穴住居跡及び掘立柱建物跡の調査を行う。

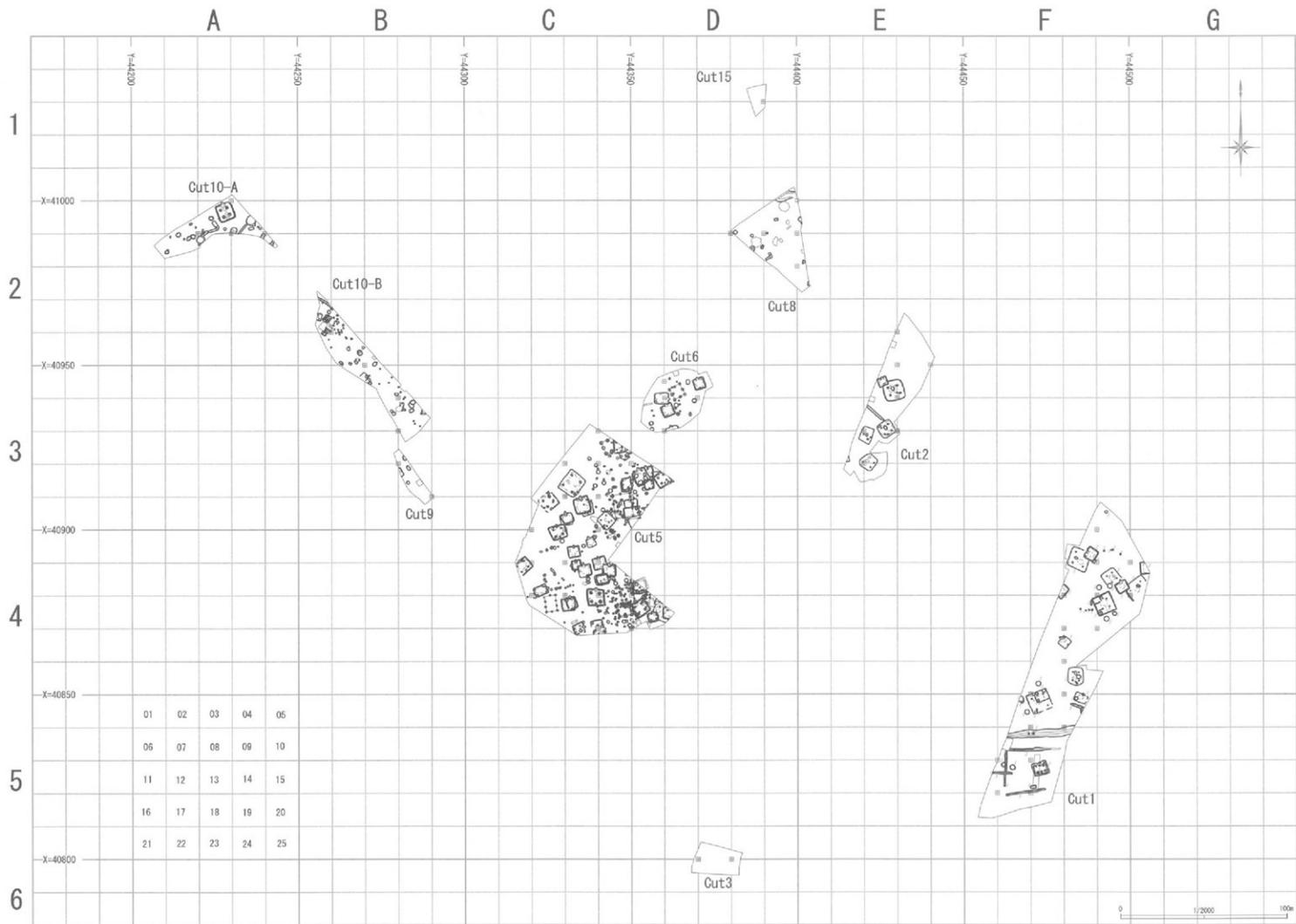
(GIT15) 26 日、調査区の撮影。終了確認を行う。

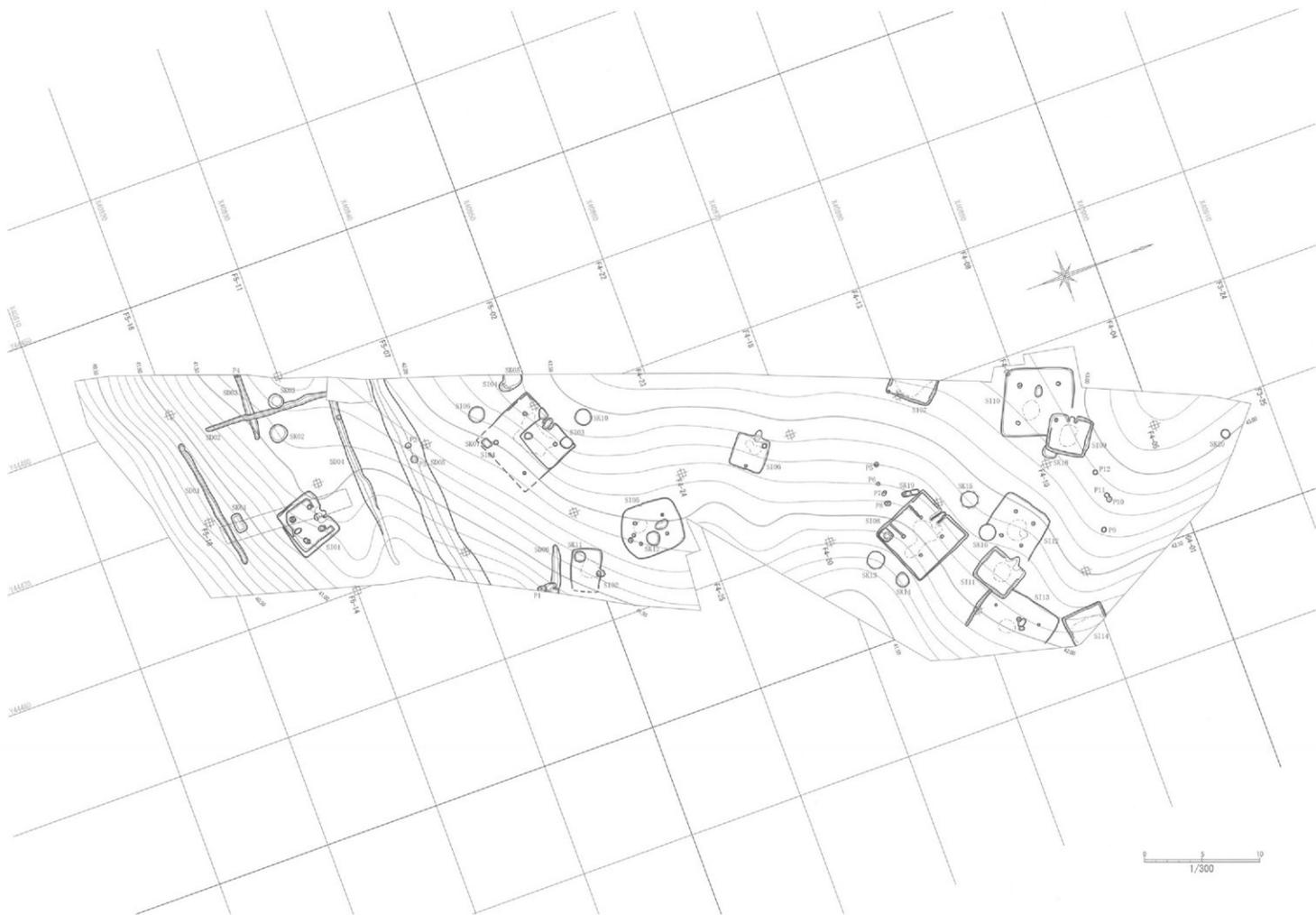
### <同年 3 月期>

(CUT5・6) 遺構掘り下げを行い 20 日・31 日に空撮を実施する。31 日、終了確認を行う。

(GIT8) 調査区外北側には古墳墳丘が隣接しており、周溝の存在が想定されていた。9 日、表土掘削。13 日、精査を行い、終了確認を行う。

(CUT9・10A・10B) 9 日、表土掘削。13 日、終了確認を行う。





- 折图 2 -

第 4 图 CUTI 全体图

## II CUT1

### 第1章 遺跡の概要

本調査区域は遺跡の存在する舌状台地の南東端部に位置し、地目は畑であるが周辺を取り巻く近接する低連帯では水田地帯となっている。調査区はこの舌状部分に南北に細長く広がるもので、台地の端部を絞り巻くように設定されている。

調査区の標高は北側で43.2m、南側で40.6mを測り、長峰西遺跡の調査区でもっとも標高が低い位置になる。

検出された遺構は弥生時代の住居跡4軒、古墳時代の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡8軒、土坑17基、ピット17基、溝6条であった。その他、遺物では縄文土器、石器が少量ながら出土している。

### 第2章 検出された遺構と遺物

#### 第1節 縄文時代の遺物

本区に於いて検出された縄文時代の遺構は検出されていない。遺物のみが検出されている。縄文土器片5点、石器4点を掲載した。いずれも弥生時代以降の住居跡覆土からの検出で遺構に伴うものはない。

#### 第2節 弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構と遺物

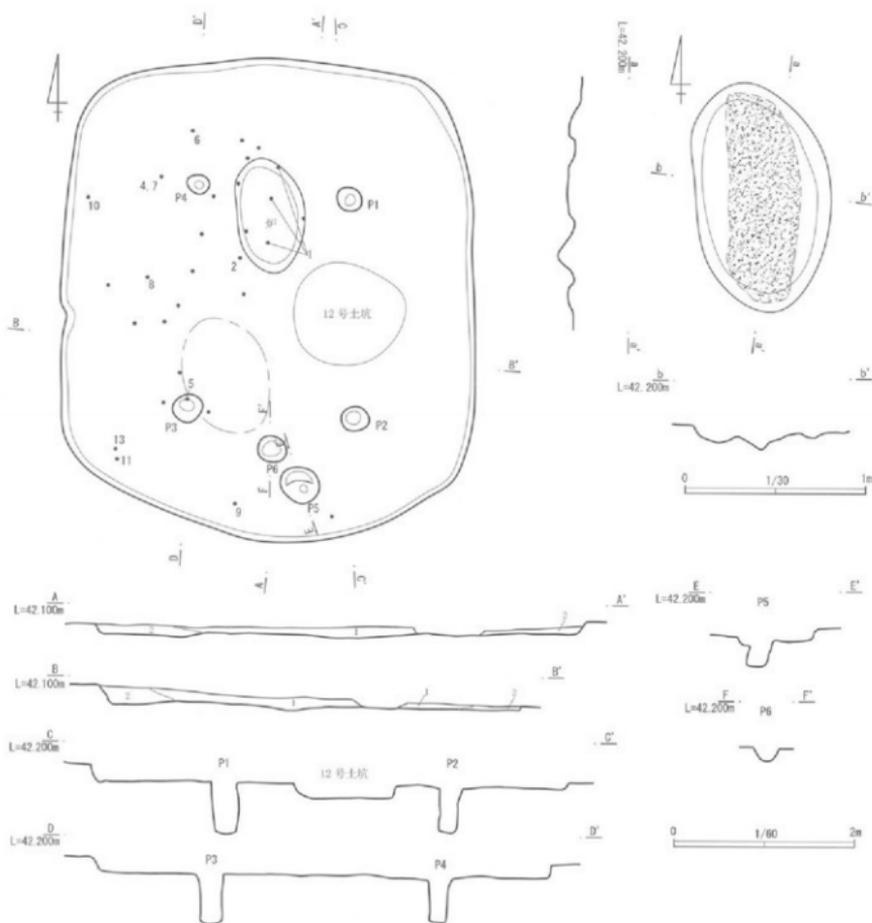
##### 第1項 住居跡

##### 5号住居跡 (第5・6・7図、図版07・08・90・91)

本遺構はF4-24グリッドに於いて検出された。12号土坑に切られる。規模は長軸5.46m、短軸4.62mで隅丸方形だが、南端中央がやや張り出す。主軸方位は $30^\circ$ を指す。確認面からの深さは19～4.2cmと浅い。覆土は2層に分層され、自然堆積と推定される。

かたは住居北半中央付近に南北1.25m、東西0.76m、深さ25cm前後の小判形のものが検出された。底面は凹凹が激しく中央は南北に長く被熱痕が残存していた。ピットは6基あり、そのうちP1～P4が柱穴と見られる。P5は出入口施設に伴うと考えられる。床面は平坦であるが、硬化面はP4の北東付近しか確認されていない。

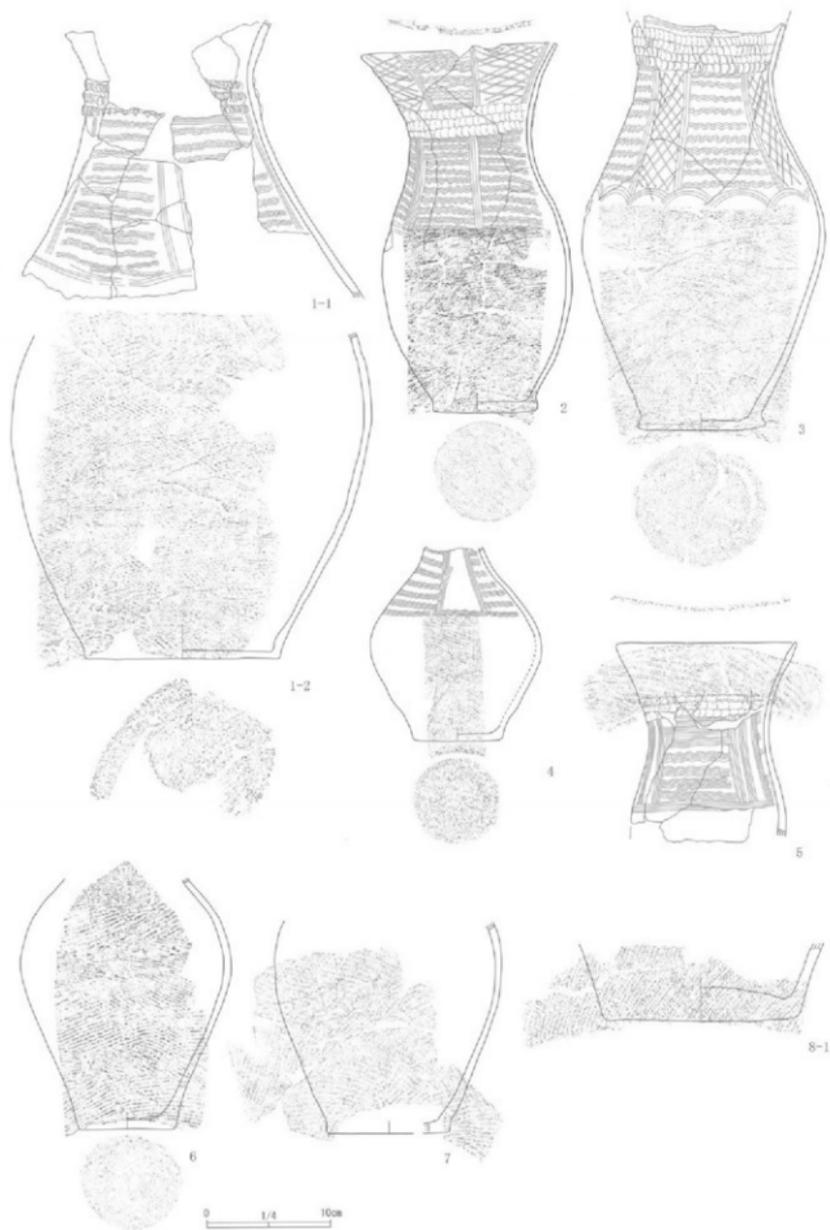
遺物は主に炉の周囲に分布していた。十平台1式の釜8点、土製紡錘車1点、土土4点、磨石1点が出土し、弥生時代後期の遺構と判断される。



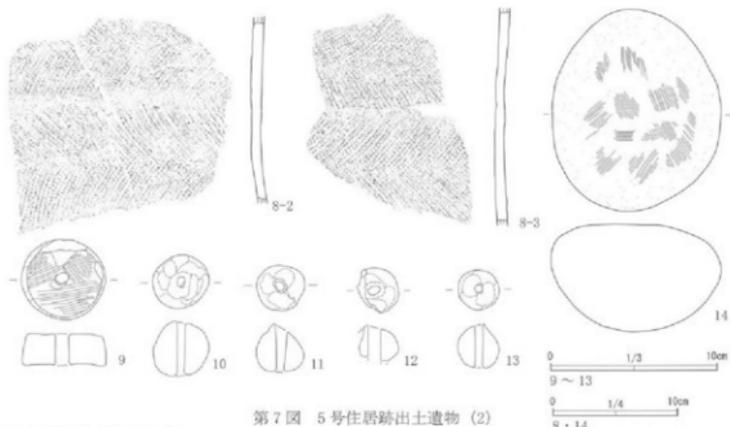
CTI 5号住居 土層説明

- 1 2.5YR2/2 黒褐色土 (シルト質) ローム粒・ブロックφ~20mm (φ5mm主体) 少 炭化粒少 しまり中 粘性強
- 2 7.5YR2/3 暗褐色土 (シルト質) ローム粒・ブロックφ~20mm (φ5mm主体) 中 しまり中 粘性強

第5図 5号住居跡



第6圖 5号住居跡出土遺物(1)



第7図 5号住居跡出土遺物(2)

表1 5号住居跡遺物観察表(1)

発掘 層位	位置	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	器形の名称	装飾の特徴	用途	出所	出土 層位	備考
1-1	Ⅴc.17 Ⅴc.19	物式土器	壺	—	—	17.7	205.0	底面は平底で縁口は、縦筋1段で中に内溝してあり、1-1と1-2より同じ形状と判明したが、保存できていない。口縁より内面縁中ほど内丸み、口縁部は縁口と同じ彫筋状を施した浅溝を巡らせた後、大きくラッパ状に開く。縦筋は口縁部より以下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された縁部を境にして施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.17 Ⅴc.19	口縁部、底面縁部、	
1-2	物式土器	壺	—	115.0	128.4	—	—	底面は平底、縁部は口中内溝して口縁部で内丸した。口縁は大きく開く。縁部には付加縁部が施された。縦筋は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。縦筋は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.17 Ⅴc.19	口縁部、底面縁部、	
2	Ⅴc.11	物式土器	壺	118.0	6.3	30.3	100.0	底面は平底、縁部は口中内溝して口縁部で内丸した。口縁は大きく開く。縁部には付加縁部が施された。縦筋は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。縦筋は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.11	口縁部、底面縁部、	
3	Ⅴc.25	物式土器	壺	—	18.2	128.0	120.0	底面は平底、縁部は口中内溝して口縁部で内丸した。口縁は大きく開く。縁部には付加縁部が施された。縦筋は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。縦筋は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.25	口縁部、底面縁部、	
4	物式土器	壺	—	7.1	154.0	60.9	—	底面は平底、縁部は大きく開く。縁部には付加縁部が施された。縦筋は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。縦筋は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	—	口縁部、底面縁部、	
5	Ⅴc.3	物式土器	壺	14.2	—	116.3	318.4	縁部は口中内溝して口縁部は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。口縁部は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.3	口縁部、底面縁部、	
6	Ⅴc.24	物式土器	壺	—	7.8	126.5	301.9	底面は平底で、平縁部である。縁部は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。口縁部は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.24	口縁部、底面縁部、	
7	Ⅴc.15	物式土器	壺	—	8.9	117.4	243.7	底面は平底で、平縁部である。縁部は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。口縁部は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.15	口縁部、底面縁部、	
8-1	Ⅴc.11	物式土器	壺	—	18.1	96.8	158.0	1-1と1-2より同じ形状と判明したが、保存できていない。口縁より内面縁中ほど内丸み、口縁部は縁口と同じ彫筋状を施した浅溝を巡らせた後、大きくラッパ状に開く。縦筋は口縁部より以下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	Ⅴc.11	口縁部、底面縁部、	
8-2	物式土器	壺	—	—	—	116.0	362.4	底面は平底で、平縁部である。縁部は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。口縁部は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	—	口縁部、底面縁部、	
8-3	物式土器	壺	—	—	—	113.0	214.4	底面は平底で、平縁部である。縁部は縁部から口縁部まで大きく上に付加される。口縁部は縁部からラッパ状底面縁の中に施された縁部を境にして施された。縁部は口縁部より下に付加され縁部が幅広に施された。溝筋はラッパ状底面縁の間に施された。口縁部は縦文、底面には斜目筋が内る。	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	内面 10000/400 外面 2,377/400 口縁部 10000/400	—	口縁部、底面縁部、	
9	Ⅴc.1	土器片	口縁部	縦径1.05	横径0.4	口径6.8	64.7	上下両面に沿って平字彫筋、横筋は縁部から口縁部まで施される。	Ⅴc.1	Ⅴc.1	Ⅴc.1	口縁部、底面縁部、	
10	Ⅴc.17	土器片	口縁部	縦径0.9	横径0.3	口径5.5	34.4	口縁部、底面縁部、	Ⅴc.17	Ⅴc.17	Ⅴc.17	口縁部、底面縁部、	

表2 5号住居跡遺物観察表(2)

発見 番号	品名	種類	材質	寸法	重量	重量	発見の状況	発見の場所	出土	包圍	出土	備考
11	No.7	土製品	土瓦	縦2.9	横1.9	孔径0.55	18.9	ほぼ垂直、 西に上る傾斜、敷面に西に中 間法線を穿す。	良好	内外面に凹陥した 広い溝を穿す。	ほぼ垂直、 凹陥・凹陥状 子・黄色粘土 層状。	良好
12	4744	土製品	土瓦	縦2.2	横2.2	孔径0.7	13.2	縦向き、 西に上る傾斜、	良好	内外面 に凹陥した 広い溝を穿す。	ほぼ垂直、 凹陥・凹陥状 子層状。	良好
13	No.8	土製品	土瓦	縦2.7	横2.5	孔径0.5	15.4	ほぼ垂直、 西に上る傾斜、	良好	内外面に凹陥した 広い溝を穿す。	ほぼ垂直、 凹陥・凹陥状 子・黄色粘土 層状。	良好
14	石製品	磨石	長さ10.5	幅3.5	厚さ3.7	200.0	材質はアモナイト、敷内面の自然面を磨石にするもので、全面に磨石の痕が認められる。					良好

## 10号住居跡 (第8・9・10図, 図版12・13・92)

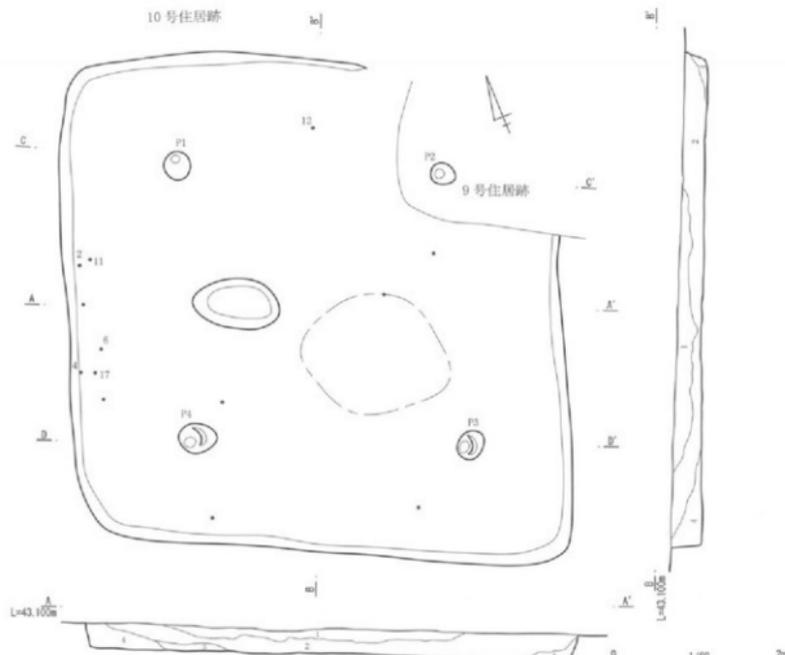
本遺構はF4-04・F5-09グリッドに於いて検出された。古代の住居である9号住居跡に切られる。

規模は長軸5.97m、短軸6.03mの方形の住居である。主軸方位はN64.3° Wを指し、確認面からの深さは32.4cmを測る。掘り込みは比較的深く遺存状況は良い。覆土は4層に分層され、自然堆積の状況を示す。

炉は住居中央やや西寄りには設けられ、長軸105.4cm、短軸62.4cm、深さ8.8cmの東西に長い楕円形である。底面は凹凸が見られ、焼土が分布する。柱穴は4本確認され、ほぼ対角線上に配される。硬化面は炉の東側のごく狭い範囲に確認された。

遺物は西壁中央付近に分布する。1～5は五領式土器で、6～15は弥生十王台2式の壺である。このほか土製紡錘車3点が出土している。遺物より住居の時期は4世紀前～中葉と判断される。

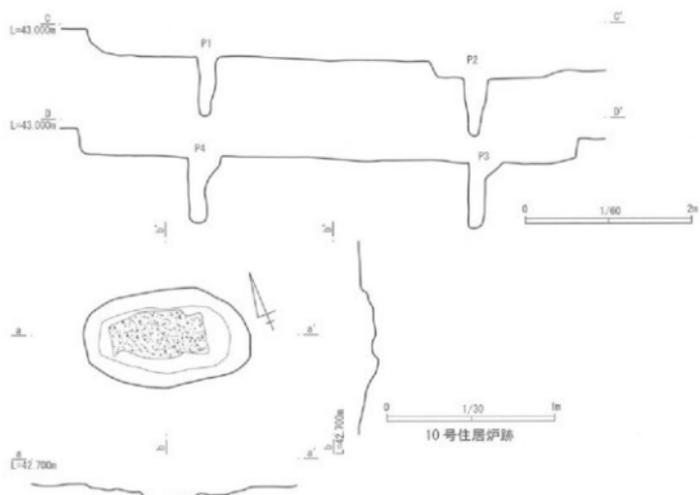
10号住居跡



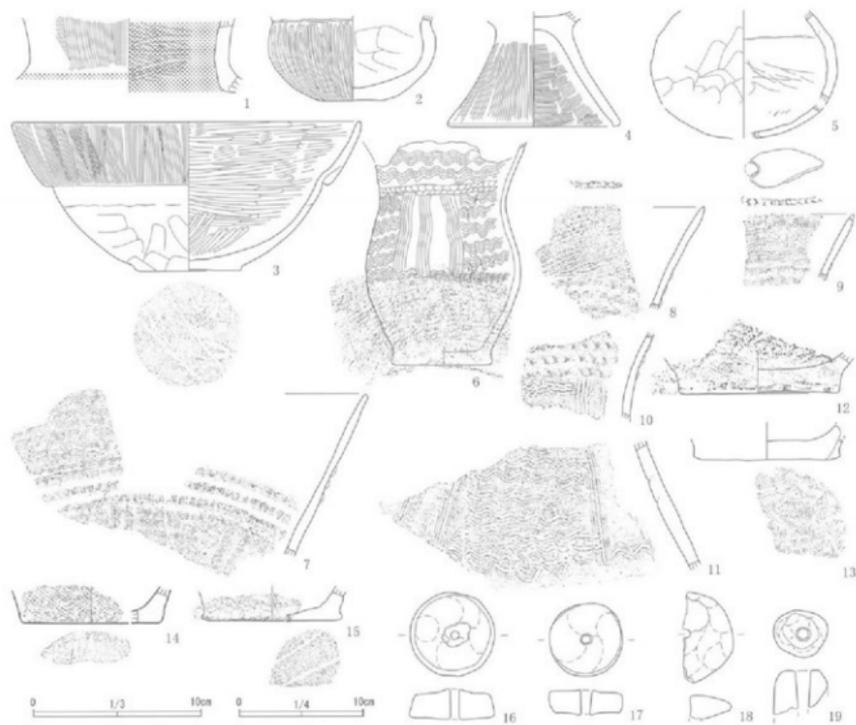
CUT1 10号住居 土層説明

- |                         |                   |             |            |         |
|-------------------------|-------------------|-------------|------------|---------|
| 1 7.5YR2/7 黒色土 (砂質シルト)  | ローム粒・ブロックφ2～10mm少 | 炭化粒φ2～5mm粒多 | 焼土粒φ2～5mm少 | しまり・粘付中 |
| 2 7.5YR2/3 黒色土 (砂質シルト)  | ローム粒・ブロックφ2～10mm多 | 炭化粒φ2～5mm少  | 焼土粒φ2～5mm少 | しまり・粘付中 |
| 3 7.5YR1.7/1 黒色土 (シルト質) | ローム粒・ブロックφ2～10mm中 | 炭化粒φ2～5mm多  | 焼土粒φ2～5mm中 | しまり・粘付中 |
| 4 7.5YR2/3 暗褐色土 (砂質シルト) | ローム粒・ブロックφ2～10mm多 | 炭化粒φ2～5mm少  | しまり・粘付中    |         |

第8図 10号住居跡(1)



第9图 10号住居跡(2)



第10图 10号住居跡出土遺物

表 3 10号住居跡遺物観察表

集積 層	階	種類	時期	出所	数量	寸法	形状	遺物の特徴	発掘の状況	発掘の時期	発掘 位置	出土 位置	保存 場所	備考
1	地上	瓦片土器	Ⅱ	—	—	4.6	33.2	破片はほぼ全量見失った。	当面は土層の浅層まで、10m 程度掘削した。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 1.50cm 2. 50cm× 30cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
2	Ⅱa	瓦片土器	Ⅱ	—	3.5	3.3	217.8	土器は小片の片断で、中身・ 胎土、正しく成形された物 をほとんど見出す。胎土は赤い。	発掘は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
3	Ⅱb	瓦片土器	Ⅱ	20.5	6.1	9.3	263.3	土器は小片の片断の中心部 に、胎土が埋もれた物を見出した。 胎土は正しく成形された物 をほとんど見出す。胎土は赤い。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
4	Ⅱc	瓦片土器	Ⅱ	36.9	11.6	11.1	481.2	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
5	Ⅱd	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	71.6	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
6	Ⅱe	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	6.0	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
7	Ⅱf	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	3.7	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
8	Ⅱg	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	16.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
9	Ⅱh	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	13.9	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
10	Ⅱi	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	13.2	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
11	Ⅱj	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
12	Ⅱk	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.2	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
13	Ⅱl	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
14	Ⅱm	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
15	Ⅱn	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
16	Ⅱo	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
17	Ⅱp	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
18	Ⅱq	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
19	Ⅱr	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年
20	Ⅱs	瓦片土器	Ⅱ	—	—	—	12.3	赤土層は、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	内庭北側、順次小片の遺物 のみならず、赤土層が埋も れた部分。	1950	内庭 北側 西側	1. 50cm× 10cm 2. 50cm× 10cm	1950年、1951年 住居跡発見、 調査開始	1951年

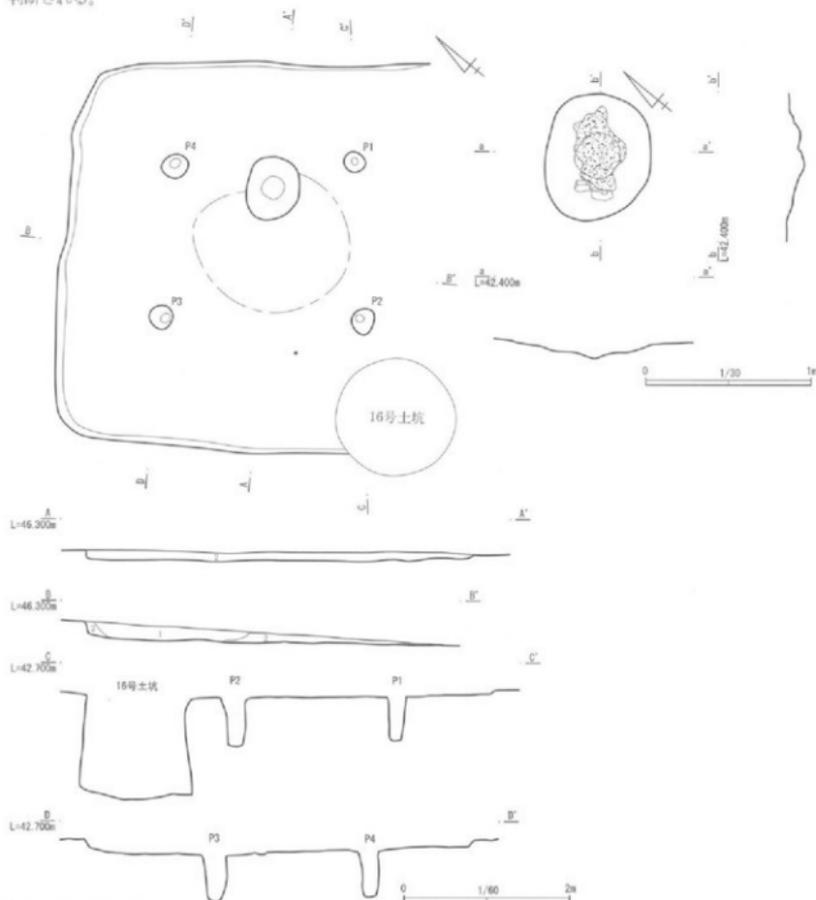
## 12号住居跡 (第11・12図, 図版14・15・95)

本遺構はF4-10グリッドに於いて検出された。16号土坑に切られる。

方形を呈すると見られるが、深さが浅いため、南東部が削平されている。規模は長軸4.75m、残存短軸4.43m、主軸方位はN 50.8° Eを指す。西壁には溝溝が確認されたが、その他では検出されなかった。確認面からの深さは12cm以下となる。覆土は2層に分層される。

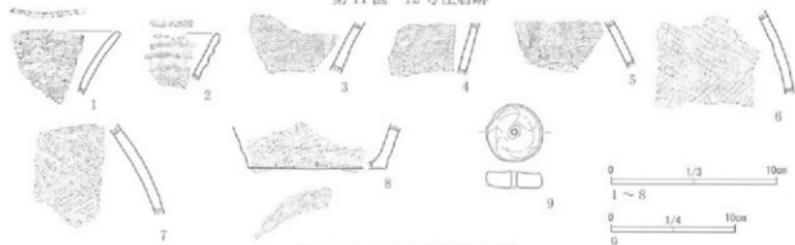
伊は南北に長い楕円形で長径76.9cm、短径61.6cm、深さ11.4cmで底面は粘土が覆っており、凹凸があり、南寄りにはが石と見られる石が出土した。柱穴は4本確認され、ほぼ対角線上に配される。横切面は中心の狭い範囲に検出された。

遺物は十王台1新式の壺片8点と五領式の土器6点と土製紡錘車が出土している。遺物より弥生時代後期の遺構と判断される。



CT1 12号住居 土器説明  
 1 7.532/3 編織褐色土(砂質シルト) ローム粒・ブロック径2~10mm(φ2mm主体)中 炭化粒径2mm少 しまり・粗粒中  
 2 7.532/4 編織褐色土(砂質シルト) ローム粒・ブロック径2~10mm(φ5mm主体)多 炭化粒径2mm少 しまり・粗粒中

第11図 12号住居跡



第12図 12号住居跡出土遺物



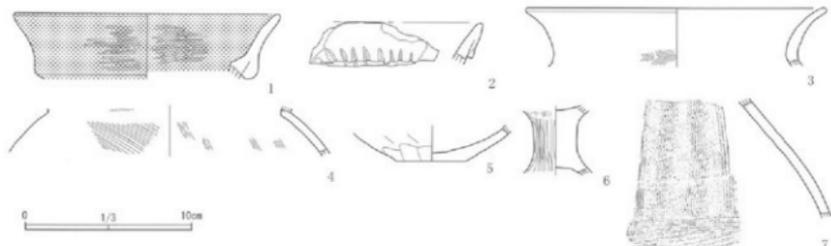
13号住居跡 (第13・14図、図版15・16・93)

木遺構はF4-10、G4-6・11グリッドに於いて検出された。11号住居跡に切られる。

方形を呈すると見られるが、深度が浅いため、東部が削平されている。規模は長軸6.85m、残存短軸5.23m、主軸方位はN 35.2° Wを指す。西壁には周溝が確認されたが、その他では検出されなかった。確認面からの深さは18.3cm以下となる。覆土は2層に分層され、自然地積の様相を示している。

炉は南北に長い楕円形で長径79.0cm、短径47.1cm、深さ6.4cmで底面は焼土が覆っており、凹凸があり、南寄りには炉石と見られる石が出土した。また炉に接して深さ17cmほどのピットが2基検出されたが、炉と関連するものかは不明である。柱穴は2基しか検出されず、位置も対称ではない。硬化面は炉の南に小規模なものが検出された。

遺物は十王台2式の壺片1点と五願式の土器6点が出土している。遺物より4世紀前～中葉の遺構と判断される。



第14図 13号住居跡出土遺物

表5 13号住居跡遺物観察表

遺物番号	品名	種類	図録	口径	底径	高さ	重量	器形の特色	器形の特色	形成	色澤	胎土	位置	備考
1	覆土	古式土器	壺	(16.0)	—	(14.0)	31.5	おり返し口縁、口縁は底中央に外反する。	内外面共に滑り。	内面 土器30.9 外面 土器12.0	褐色胎土・白粉を塗、赤褐色、白色粉状物付着	白粉部付	内側部	内外面赤褐色
2	覆土	古式土器	壺	—	—	(2.40)	19.1	おり返し口縁、口縁は赤褐色に焼く。胎土は赤い。	口縁外面は鋭角の突起があり、おり返し部分の下縁には厚みのある突起が認められる。内面は網毛による器形の痕跡がみられる。	内面 土器17.5 外面 土器16.9	褐色胎土・白粉を塗、赤褐色、白色粉状物付着	白粉部付		
3	覆土	古式土器	壺	(17.0)	—	(13.40)	39.3	口縁は底中央に外反する。	口縁は内外面共に鋭角あり、外縁部には網毛目が見られる。	内面 土器34.4 外面 土器36.0	褐色胎土・白粉を塗、赤褐色、白色粉状物付着	白粉部付		
4	覆土	古式土器	壺片	—	—	(5.1)	17.4	胎土は赤い。	外面は鋭角の突起あり、内縁は網毛目による器形の痕跡がみられる。	内面 土器34.4 外面 土器36.0	褐色胎土・白粉を塗、赤褐色、白色粉状物付着	白粉部付		
5	No.2	古式土器	壺	—	4.3	(2.2)	15.9	口縁は平底で小傾、胎土下部は底中央に内反する。	外面胎土下部はヘララテ、底面及び内面はヘララテ。	内面 土器36.0 外面 土器36.0	褐色胎土・白粉を塗、赤褐色、白色粉状物付着	白粉部付		
6	No.1	古式土器	壺片	—	—	(4.2)	49.9	胎土は赤い。	胎土は赤い。	内面 土器17.4 外面 土器16.0	褐色胎土・白粉を塗、赤褐色、白色粉状物付着	胎土の赤		
7	覆土	新式土器	壺	—	—	(8.7)	50.7	内縁は平底で小傾、胎土下部は底中央に内反する。以下胎土には付着物の痕跡が認められている。	胎土は赤い。	内面 土器36.0 外面 土器36.0	褐色胎土・白粉を塗、赤褐色、白色粉状物付着	胎土の赤		

### 第3節 古墳時代の遺構と遺物

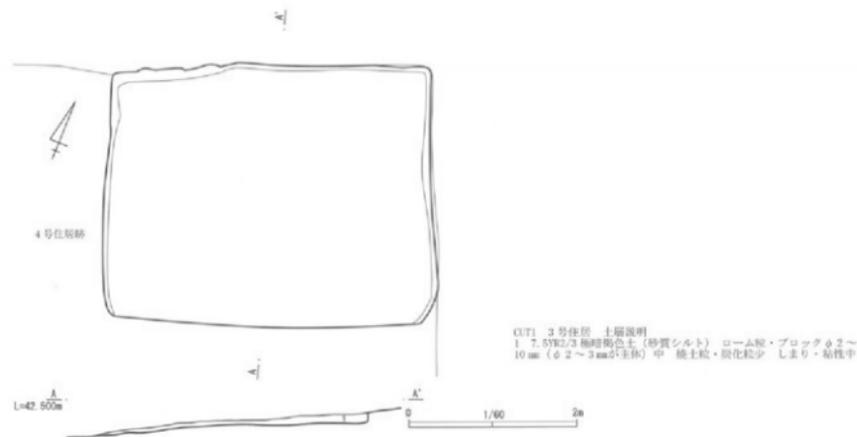
#### 第1項 住居跡

##### 3号住居跡 (第15・16図, 図版05・06・89)

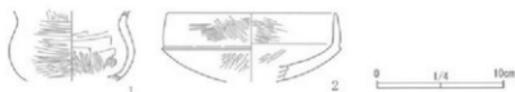
本遺構はF4-23、F5-02・03 グリッドに於いて検出された。重複する4号住居跡より新しい。規模は長軸3.2m、短軸3.92m、主軸方位はN 22° Wを指す。確認面からの深さは最大11.0cmを測り、覆土は単層である。

カマド・柱穴・周溝は確認されなかった。

遺物は土師器埴1点、カマド周辺から土師器坏1点が出土している。遺物より6世紀後半期の遺構と判断される。



第15図 3号住居跡



第16図 3号住居跡出土遺物

表6 3号住居跡遺物観察表

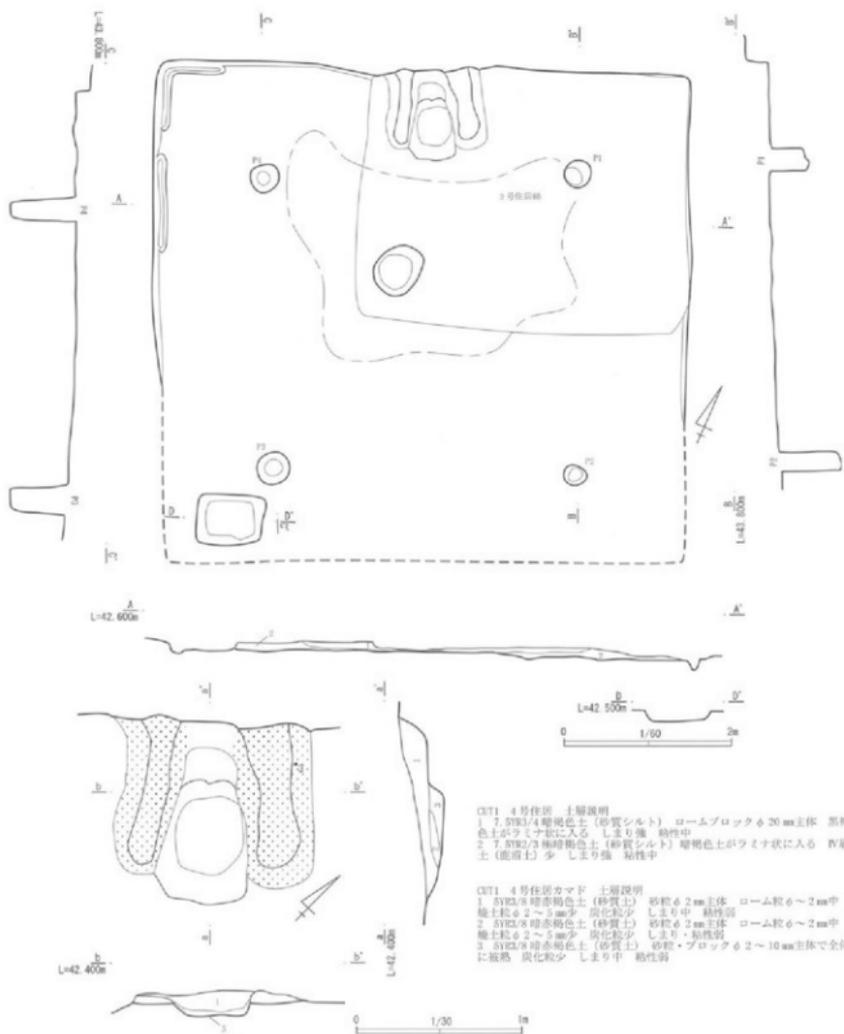
調査 番号	位置	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	器形の概要	器形の概要	用途	出所	貯土	成分	備考	
1		土師器	埴	—	—	0.8.7	31.1	断面は割れた埴片。断面で 見ると割れた後、口縁は角状す る。	断面内面はヘラズリ状の 1. 厚さ。内面は割れたヘラ ズリによるザラツキの断面 2. 厚さの1/2程度。断面付近は ザラツキ。	点取	内外面 1. 0.01/4	白色粘土・黒 色粘土・黄 色粘土・黄 色砂土。黄 色砂土。0.01 ・0.01/4 白色粘り物 質。			
2	No. 3 997	土師器	坏	0.8.0	—	0.8.0	108.1	断面は丸扁で、断面は断面中 心に内湾し、上縁は明確な角を 持った断面中に内縁反折に立 つ。断面の断面は写し。	口縁内面は、扁平状で厚 さ。断面内面はヘラズリ状 1. 厚さ。内面は黒く塗 られているが、口縁に1/2程度 厚さがある。	点取	内外面 1. 0.01/4	白色粘土・黒 色粘土・黄 色砂土。	口縁・内 面1/4		

##### 4号住居跡 (第17・18・19図, 図版06・89)

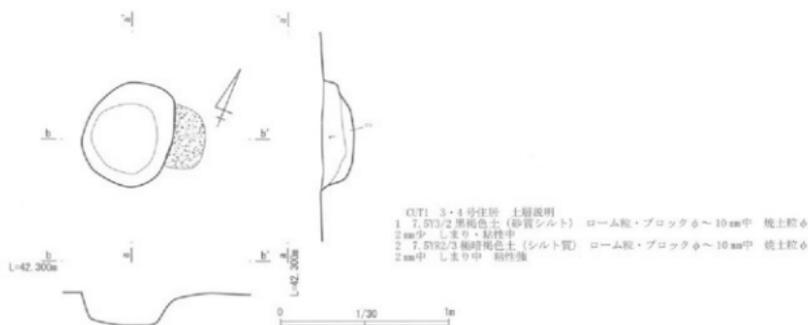
本遺構はF4-22・23、F5-2・3 グリッドに於いて検出された。北東部を3号住居跡に切られる。規模は長軸6.45m、南壁は削平されているため推測となるが、短軸5.27m、主軸方位はN 21.9° Wを指す。確認面からの深さは15.8cmを測る。覆土は2層に分層される。

カマドは北壁中央に付設され、直線的な軸を持ち、軸内面上部は被熱する。住居ほぼ中央に炉跡が検出された。カマドの形態や炉が併設されることから、初原的な形態のカマドと考えられる。柱穴は4本確認され、ほぼ対角線上に配される。床面は平坦で硬化面が炉の周囲に検出された。平面が長方形で長軸80.3cm、短軸62.3cm、深さ62cmの貯蔵穴が南西隅に検出された。

遺物は土師器杯2点、陶色I型式と見られる須恵器高坏1点が出土した。遺物と坪をもつ住居であることから5世紀中葉の遺構と判断される。



第17図 4号住居跡(1)



第18図 4号住居跡 (2)



第19図 4号住居跡出土遺物

表7 4号住居跡遺物観察表

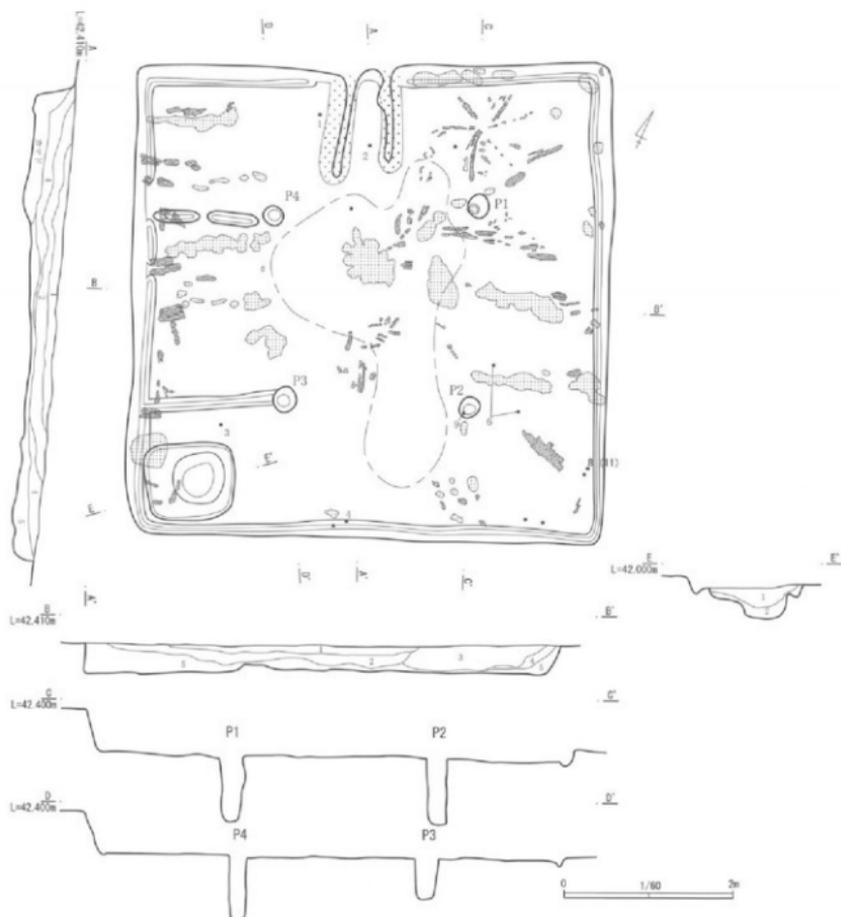
発見 番号	品名	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の概要	器材の概要	焼成	色澤	胎土	形状	備考	
1	土師器	甕	(12.5)	(8.5)	(18.5)	10.8		底面は丸底で、器口は縁中か 内傾し、下縁は強い稜を有 した直線状の外縁形状に類 する。	表面は白磁土で滑り、縁部は ヘラズラ。内面は黒褐色。	良好	2. 350/1000	赤褐色	115/4 115/4	115/4 115/4	
2	土師器	高杯	—	(11.0)	(12.0)	10.7		縁部は平縁で約1/4に傾斜して いる。器口は内傾して内傾 する。底は少しへたにより滑 り。これら各点を有すると思 われる。	白磁土製。	良好	内面 50/600 外面 50/600	赤褐色	115/4 115/4	115/4 115/4	
144・ 焼土	土師器	甕	(14.5)	—	(14.5)	15.9		底面は大底で、器口は縁中か 内傾し、中に強い稜を有し た直線状にする。	内外面共に部分的にヘラズラ する。	良好 2. 350 1000	赤褐色	115/4 115/4	115/4 115/4		

8号住居跡 (第20・21・22図, 図版09・10・11・91・92)

本遺構はP4-14・15グリッドに於いて検出された。規模は長軸5.78m、短軸5.68m、主軸方位はN 23.5° Wを指す。確認面からの深さは30 cmを測り、南の床面が低くなっている。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を示している。床面には焼土と炭化材が散っており、火災住居の可能性が考えられる。

カマドの形状は軸が直線的に伸びる初期の形態である。内部には倒位で土師器埴が出土しているが、その手前には火床面と見られる焼土範囲が確認されている。柱穴は4本確認され、ほぼ対角線上に配される。柱の掘方の径は28.5 cmと細いが、深さ47.6～77.2 cmと深い。P3・4から西壁には間仕切り溝が構築され、溝沸は途切れてはいるが、ほぼ全周する。床の硬化面はカマド前から南壁にかけて検出された。南東隅には貯蔵穴と思われるピットが検出された。上部は長軸104 cm、短軸93.1 cmの方形で、下部は径60.3 cmの漏斗状の形状で、深さ38.1 cmとなる。

遺物はカマド内から土師器埴 (2) が倒位で出土した。そのほか甕・埴・坏・鉄製品 (鉄鎌・鋸先)・磁石が床面で出土した。鋸先は古い形状である。遺物の時期とカマドの形態から古墳中期、5世紀中葉の遺構と考えられる。



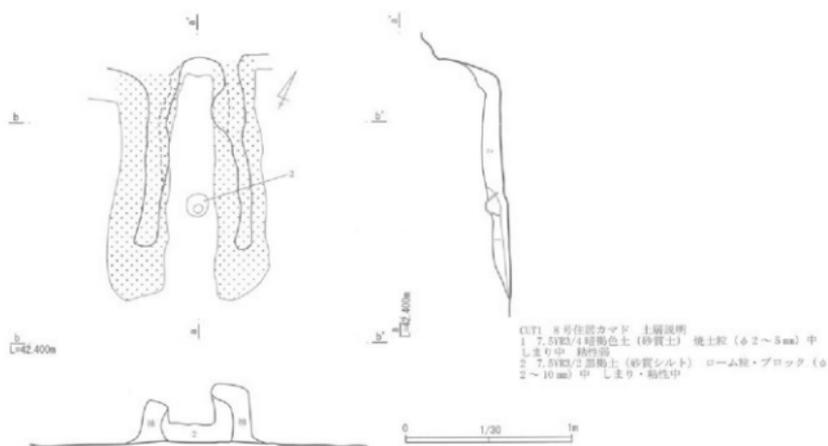
CE11 8号住居 土層説明

- 1 7.5V/R1/4 褐色土 (砂質シルト) ツフトローム主体 黒色土ブロックφ 10~30mm中 しまり・粘性中
- 2 7.5V/R1.7/1 黒色土 (砂質シルト) ローム粒φ 2~3mm (φ 2mm主体) 中 炭化粒・ブロック (φ 2~10mm主体) 中 炭土粒少 しまり・粘性中
- 3 7.5V/R2/2 輪暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒φ 2~4mm多 炭化粒少
- 4 7.5V/R3/2 黒褐色土 ローム粒・ブロックφ 2~10mm (φ 2mm主体) 少 炭土粒多
- 5 7.5V/R3/4 暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒φ 2~4mm少

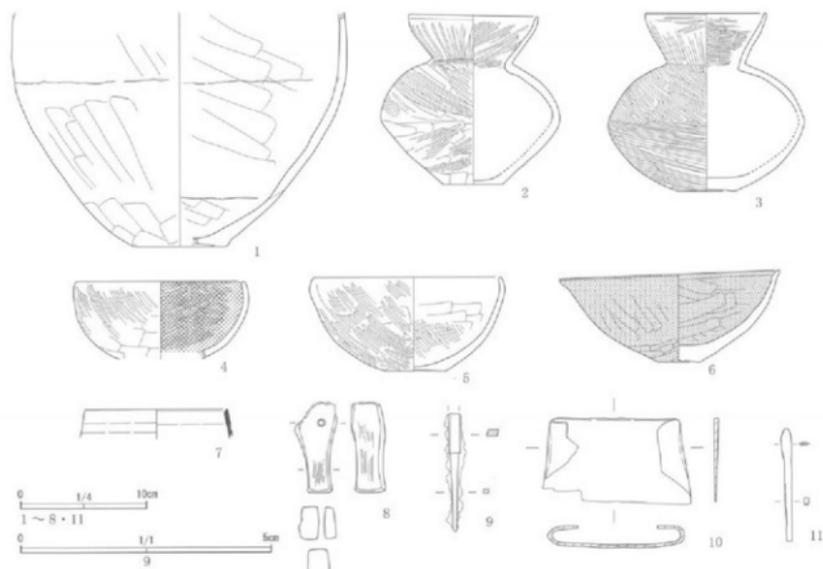
CE11 8号住居 P5 土層説明

- 1 7.5V/R1.7/1 黒色土 (砂質シルト) ローム粒・炭化粒・炭屑土粒φ 2mm中 しまり・粘性中
- 2 7.5V/R2/3 輪暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒・炭屑土粒φ 2mm少 しまり・粘性中

第20図 8号住居跡 (1)



第21図 8号住居跡(2)



第22図 8号住居跡出土遺物

表8 8号住居跡遺物観察表

番号	種別	形状	素材	口径	高さ	底径	重量	発出の層位	発出の範囲	特徴	土質	覆土	備考	
1	No. 8	土師器	楕	—	17.2	14.0	378.7	底径は上唇直下の平直で、胴は上唇から、胴中心に内湾する。	裏面は輪びね状を用いている。胴下部に刻み状の溝あり。外縁はヘラツズリ状なり。内縁は平直で鋭利。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	長石・石膏・炭素の多い、中～多量の赤土	胴上部へ底縁1/3	
2	107 No. 1	土師器	円	18.2	8.8	14.7	618.2	底径は平直で小さい。胴はほぼコロンと数で最大径を中縁に有す。胴縁は中や窄まり「く」の形状を呈し、口縁は内湾面に鋭利な唇状に尖り口となる。	裏面はほぼ、胴縁外縁は鋭利なヘラツズリ状の粗目なり。内面は平直で、口縁外縁はヘラツズリ状の粗目なり。内面は鋭利な唇状に尖り口となる。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒色・赤褐色の中や多い、白色粒の少ない。中～多量の赤土	笠形	
3	No. 2	土師器	円	9.4	4.4	14.4	502.9	底径は上唇直下の平直で小さい。胴はほぼコロンと数で最大径を中縁に有す。胴縁は中や窄まり「く」の形状を呈し、口縁は内湾面に鋭利な唇状に尖り口となる。	内面ほぼ底縁は平直で、内面は平直で、口縁外縁は内外両面に鋭利な唇状に尖り口となる。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒色・赤褐色の中や多い、白色粒の少ない。中～多量の赤土	口縁は穴開	
4	No. 3	土師器	円	13.2	—	16.3	492.4	底径は丸腰なり。胴縁は胴中央に内湾し口縁に至る。胴縁である。	内外両面にヘラツズリ状の粗目なり。内面は平直で鋭利。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒色・白色粒の少ない。中～多量の赤土	内面赤褐色	
5	No. 1	土師器	円	13.7	4.9	7.8	246.7	底径は平直で小さい。胴縁は胴中央に内湾し口縁に内縁する。胴縁である。	裏面は平直でヘラツズリ状。内外両面にヘラツズリ状の粗目なり。内面は平直で鋭利。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒色・石膏・炭素の多い。中～多量の赤土	内面赤褐色	
6	No. 2・3	土師器	円	17.1	3.4	7.1	208.2	底径は上唇直下の平直で小さい。胴縁は胴中央に内湾し口縁に大きく開き、口縁は丸腰状に尖る。胴縁である。	内外両面に平直で鋭利。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒色・石膏・炭素の多い。中～多量の赤土	内面赤褐色	
7	No. 1	新石器	円	11.4	—	12.0	1.9	口縁部に長巻を呈しヘラツズリ状に鋭利。	コロンと数。	良好	内面 5000/320 外面	黒土	内面赤褐色	
8	No. 1	新石器	楕	2.2	2.2	2.2	0.75	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒土	内面赤褐色	
9	No. 1	新石器	楕	2.2	2.2	2.2	0.75	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒土	内面赤褐色	
10	No. 10	新石器	楕	2.2	2.2	2.2	0.75	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒土	内面赤褐色	
11	No. 12	新石器	楕	2.2	2.2	2.2	0.75	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	底縁は丸腰。全周に厚し上縁部の白く灰色なり。孔が穿たれたる痕跡がある。底縁により、短く尖っている。	良好	内面 5000/320 外面 5000/320 底面	黒土	内面赤褐色	

## 第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

## 第1項 住居跡

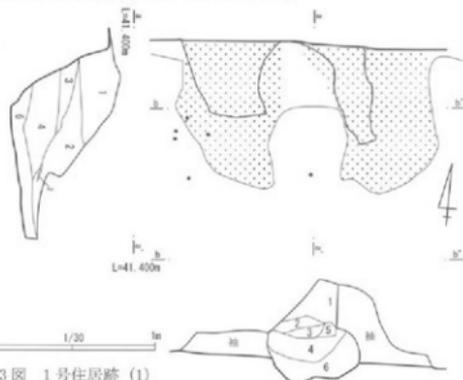
## 1号住居跡 (第23・24・25図, 図版04・89)

本遺構はF5-13グリッドに於いて検出された。試掘調査に於けるトレンチで確認されていたものである。規模は長軸3.9m、短軸4.5m、主軸方位はN 18.2° Wを指す。確認面からの深さは最大58cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は6層に分層され、自然堆積の様相を示している。

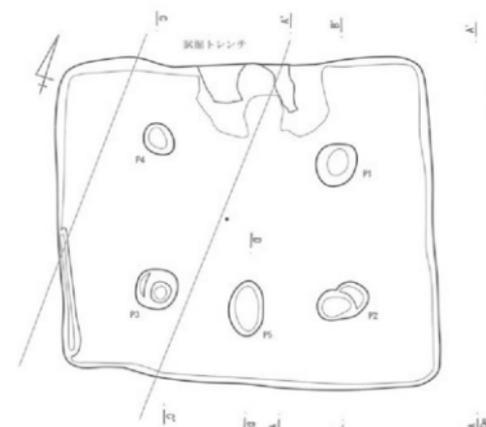
カマドは北壁中央部分に設置され、カマド左半は試掘トレンチにより上部を削平されている。柱穴は4本確認され、東側2本が若干干渉にずれ配置になる。また、カマドと対象の位置に出入口ピットが検出された。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。

遺物は常総甕(1・2)、須恵器蓋・坏が出土しており、9世紀前半に属すると判断される。

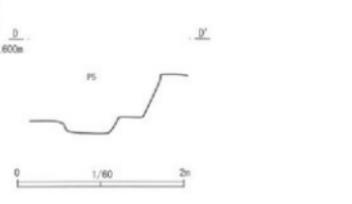
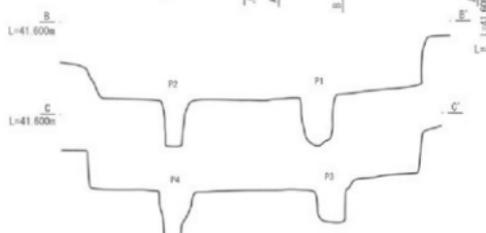
- CU1: 1号住居カマド 土層説明  
 1 暗褐色土(粘質土) 焼土粒φ2mm少 しまり・粘性强  
 2 7.0/3/2 黒褐色土(砂質シルト) 焼土粒φ~5mm多 しまり・粘性强  
 3 7.0/3/4 暗褐色土(砂質シルト) 焼土粒φ~5mm主体  
 ローム粒中 しまり・粘性强  
 4 5000/8 暗褐色土(砂質シルト) 焼土粒φ~5mm多  
 ローム粒φ2mm主体 しまり・粘性强  
 5 5000/8 暗褐色土(砂質シルト) 焼土粒φ~5mm多  
 しまり中 粘性强  
 6 7.0/3/4 暗褐色土(砂質土) 焼土粒φ2~10mm多(φ5mm主体)  
 硬化粒・ローム粒少 しまり中 粘性强



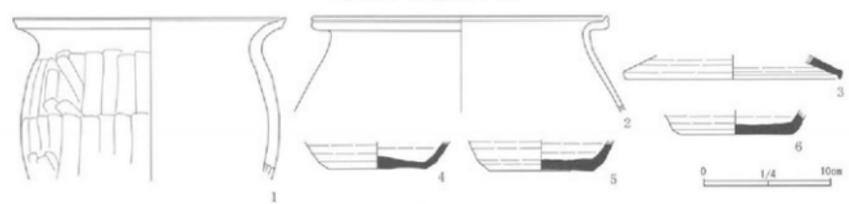
第23図 1号住居跡(1)



CUT1 1号住居 土層説明  
 1 7.573/2 暗褐色土 (シルト) ローム粒・ブロックφ〜20mm中 炭化粒φ2mm前後中 しまり中 粘性強  
 2 7.578/3 暗褐色土 (シルト) ローム粒多 炭化粒φ2mm前後中 焼土粒φ2mm少 しまり中 粘性強  
 3 7.578/2 暗褐色土 (シルト) ローム粒・ブロックφ〜10mm中 炭化粒φ2mm前後中 しまり中 粘性強  
 4 7.578/3 暗褐色土 (シルト) ローム粒多 しまり中 粘性強  
 5 7.578/4 暗褐色土 (シルト) ローム粒・ロームブロックφ2〜20mm多 炭化粒・ブロック (φ2mm前後) 少 しまり中 粘性強  
 6 7.578/1 暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒・ブロックφ2〜40mm多 炭化粒φ2mm前後少 しまり・粘性中



第24図 1号住居跡 (2)



第25図 1号住居跡出土遺物

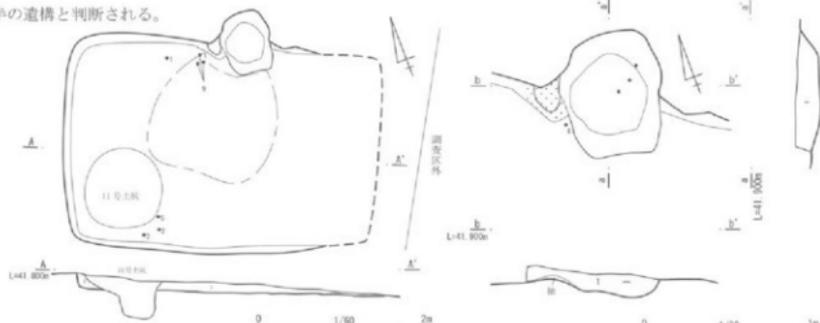
表9 1号住居跡遺物観察表

発見 番号	目録	種類	形状	寸法	重量	測定 高さ	重量	形状の特徴	形状の特徴	産地	産地	出土	保存	備考
1	土	土層跡	溝	21.8	—	(11.2)	900.0	掘削は縦向き、掘削途中中心部で折れ、以後は中心部に再反しは管は掘上げられぬ。	口縁は内外面共に平直で、胴部は内面へラケズ、外面は平直。	良好	良好	良好	良好	
2	土	土層跡	溝	(25.0)	—	(2.8)	832.1	掘削は縦向き、口縁は、断面で「C」の字に折曲しはば断面が折れ、以後は掘上げられぬ。	口縁は内外面共に平直で、胴部も内外面共に平直。	良好	良好	良好	良好	
3	土	土層跡	溝	(18.0)	—	(2.8)	17.4	掘削途中中心部付近に折曲する。底は折れぬ。	口縁は平直。	良好	良好	良好	良好	
4	土	土層跡	溝	—	7.6	(1.2)	88.1	掘削は平直で体部下半は傾斜に内湾する。	口縁は平直、体部下端〜底面は傾斜へラケズ。	良好	良好	良好	良好	
5	土	土層跡	溝	—	8.4	(2.2)	88.9	掘削は平直で体部下半は傾斜に内湾する。	口縁は平直、体部下端〜底面は傾斜へラケズ。	良好	良好	良好	良好	
6	土	土層跡	溝	—	8.6	(2.8)	94.8	掘削は平直で体部下半は傾斜に内湾する。	口縁は平直、体部下端〜底面は傾斜へラケズ。	良好	良好	良好	良好	

2号住居跡 (第26・27図, 図版04・05・89)

本遺構はF4-24、F5-04グリッドに於いて検出された。11号土坑により住居南西隅を切られる。規模は長軸3m、短軸3.8m、主軸方位はN 21° Eを指す。主軸方位が短い長方形を呈する。確認面からの深さは18cmでごく浅く東壁は削平されほとんど検出されなかった。覆土は1層である。カマドは北壁中央に敷設されるが、袖が左袖の一部のみが残存する。柱穴は確認されなかった。床面は平坦で硬化面がカマド前から住居中央部において検出された。

遺物はカマド左脇と南西床面付近、カマド内部より出土した。カマド出土の土師器等は内面ミガキ・黒色処理である(6・8)。椀形の器形が多い。11は灰釉陶器高台付皿で黒笹90号窯段階のものと思われる。遺物からは9世紀後半の遺構と判断される。



- CLTS 2号住居 土層説明  
 1 7.5IVC/2 黒褐色土 (シルト質) ローム状・ブロックφ2〜3mm少 灰化粒φ2〜3mm少 しまり中 粘牲物  
 CLT1 2号住居カマド 土層説明  
 1 7.5VII, 7/1 黒色土 (砂質シルト) ローム状・ブロックφ2〜10mm少 炭土粒φ2少 しまり・粘牲中

第26図 2号住居跡

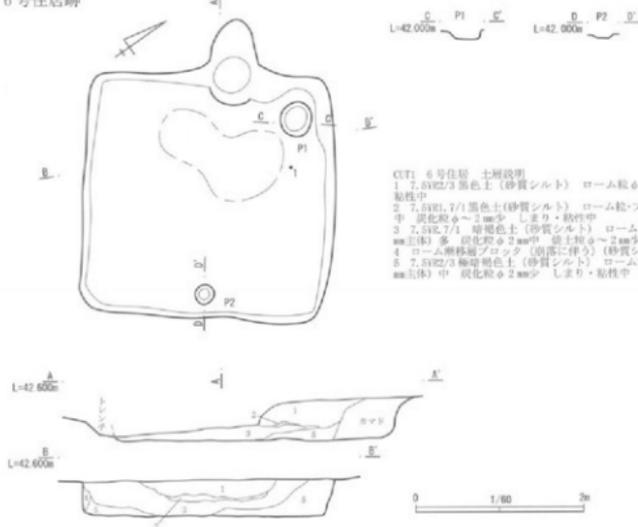


第27図 2号住居跡出土遺物

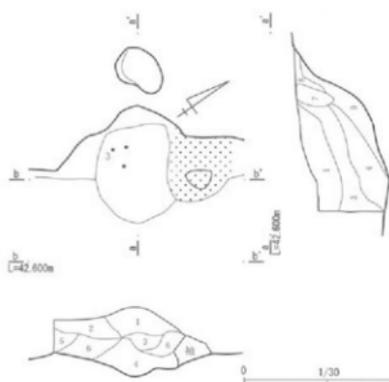
表 10 2号住居跡遺物観察表

遺物番号	住居	種類	数量	寸法	重量	観察の概要	観察の概要	出土	位置	出土	保存	備考	
1	No. 1	土師器	壺	12.40	—	121.40	652.9	頸部は口縁の内側に約10%、口縁で約1/2のみに内底する。口縁は縁高が約1.5cm、口縁の縁高は約1.5cm。	口縁の内側に約10%、頸部内外面に口縁部分を除く頸部も内底する。口縁の縁高は約1.5cm。	高野	内面 1.459x6 外面 1.616x6.1 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	編年不明 口縁部・頸部 口縁部・頸部
2	No. 2	土師器	壺	11.70	—	77.0	61.8	口縁は、縁高が約1/2のみに内底し口縁は縁高が約1.5cm。	口縁の内側に約10%、頸部内外底する。口縁の縁高は約1.5cm。	高野	内面 1.616x6.1 外面 1.616x6.1 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
3	No. 1	土師器	壺	—	16.7	127.2	589.4	頸部以下は、頸部以下は約1/2のみに内底する。口縁は縁高が約1.5cm。	頸部以下は、頸部以下は約1/2のみに内底する。口縁は縁高が約1.5cm。	高野 二次層 高野	内面 1.616x6.1 外面 1.616x6.1 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
4		土師器	壺	—	8.8	18.3	84.9	口縁は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	口縁は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野 二次層 高野	内面 2.151x3.9 外面 2.151x3.9 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
5	No. 3	灰土器	壺	19.0	—	21.9	198.9	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野	内面 3.117x7.2 外面 3.117x7.2 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
6	117 No. 1	土師器	杯	15.0	6.2	5.1	117.1	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野	内面 1.616x3.9 外面 1.616x3.9 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
7		土師器	杯	14.0	3.6	5.9	114.3	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野	内面 1.616x3.9 外面 1.616x3.9 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
8	No. 1 4 11 1	土師器	杯	13.5	—	13.9	78.1	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野	内面 1.616x3.9 外面 1.616x3.9 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
9	No. 15 ・14 ・13	土師器	杯	13.0	—	14.9	42.4	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野 二次層 高野	内面 2.151x3.9 外面 2.151x3.9 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
10		土師器	杯	13.0	—	13.9	36.6	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	頸部以下は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野	内面 2.151x3.9 外面 2.151x3.9 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部
11		灰土器	杯	11.0	10.2	12.9	35.3	口縁は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	口縁は約1/2の内底し、口縁は縁高が約1.5cm。	高野	内面 2.151x3.9 外面 2.151x3.9 口縁 1.51	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部	口縁部・頸部 口縁部・頸部 口縁部・頸部

## 6号住居跡



第28図 6号住居跡(1)

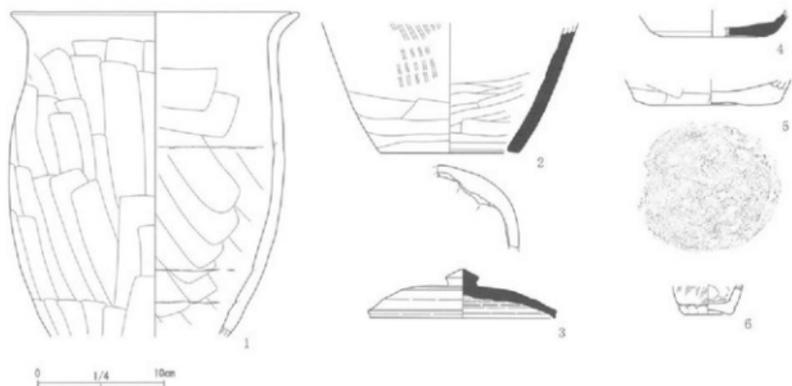


第29図 6号住居跡(2)

6号住居跡 (第28・29・30図, 図版08・09・91)

本遺構はF4-18・19グリッドに於いて検出された。規模は長軸3.64m、短軸3.03m、主軸方位はN 54.3° Wを指す。確認面からの深さは43.4cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を示している。カマドは煙道が遺存しており、傾斜は緩やかである。右袖が一部残り、煙道の排煙部分とカマド天井部に被熱痕が見られる。北隅にP1、東壁中央にP2が検出された。P2は出入口ピットと見られるが、P1は浅く、性格は不明である。

遺物は土師器甕(1)が北壁寄りの床面に完形に近い状態で横倒しで出土した。須恵器蓋(3)はカマド内の底面近くから出土している。遺物より遺構の年代は9世紀前半期と判断される。



第30図 6号住居跡出土遺物

CU1: 6号住居カマド 土層説明	
1 7.5YR5/4暗褐色土(砂質シルト)	ローム粒φ2mm 中 しまり・粘性中
2 7.5YR4.7/1黒褐色土(シルト質)	ローム粒φ~5mm少 しまり中 粘性強
3 7.5YR1.7/1黒褐色土(シルト質)	ローム粒・ブロックφ~10mm少 しまり・粘性中
4 7.5YR3/4暗褐色土(砂質シルト)	ローム粒φ~5mm少 焼土粒φ2~5mm少 しまり・粘性中
5 7.5YR3/4暗褐色土(砂質シルト)	ローム粒・ブロックφ~10mm (φ5mm主体) しまり中 粘性強
6 7.5YR3/4暗褐色土(砂質土) 雲母(φ2~3mm)が主体 焼土ブロックφ2~30mm (φ5mm主体)多	ローム粒多 しまり中 粘性弱
7 7.5YR2/3暗褐色土(砂質土) 雲母(φ2~3mm)が主体	ローム粒中 しまり強 粘性なし
8 7.5YR3/4暗褐色土(砂質土)	焼土粒・炭化粒中 しまり・粘性中
9 7.5YR2/2黒褐色土(砂質シルト)	ローム粒少 しまり・粘性中

表 11 6号住居跡遺物観察表

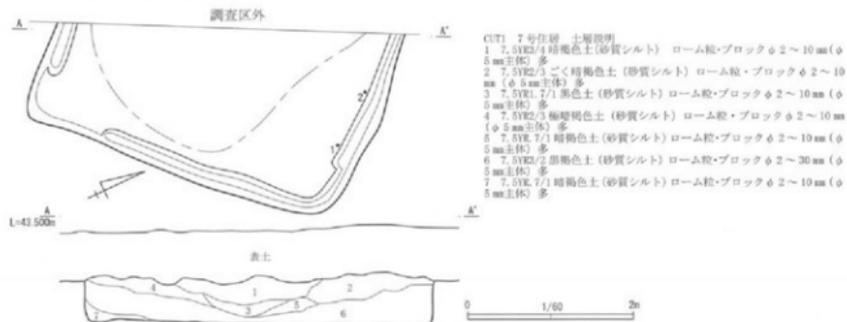
発掘番号	住居	種類	形状	位置	長さ	幅	高さ	観察の概要	観察の概要	状況	位置	取上	西片	備考
1	No. 19	土壁跡	溝	22.4	—	136.0	200.0	掘削の途中に近く北壁の残存、白土は壁の中に入り込む。部断はなし。	1は壁の内外面共に壁が、掘削途中に壁自体のヘラマーク。内面はヘラマーク。内面に幅断あり。	直射	内面 1000/20 外面 1000/40 高さ 1000/40	灰白・石炭層 少〜中硬・炭 層中硬多。	10段〜15段 丸断 斜 下	住居12134005 9.2.17.15
2	No. 1	土壁跡	溝	—	15.9	136.0	202.4	バツヤ等々。多角式であるが 先の数には平角。掘削途中で 中に内陥した後遺物の下に く。	1は壁の内外面。掘削途中に平角のヘラマーク。下層は1000/40の丸断〜ヘラマーク。中層は平角の丸断。下層でヤシが埋められている。	直射	内面 1000/20 外面 1000/40 高さ 1000/40	白土跡子 少〜中硬・炭 層中硬多。	製土7.1.2 直射丸断	
3	197 197 No. 1	土壁跡	溝	14.6	2.6	14.5	146.7	左側は壁の中に内陥し遺物は 多く残す。掘削途中で 中に内陥した後遺物の下に く。	1は壁の内外面。掘削途中に平角のヘラマーク。下層は1000/40の丸断〜ヘラマーク。中層は平角の丸断。下層でヤシが埋められている。	直射	内面 1000/20 外面 1000/40 高さ 1000/40	白土跡子 少〜中硬・炭 層中硬多。	1/2	
4	No. 11	土壁跡	溝	—	8.0	12.1	62.9	掘削は上げ遺物の平角で、 掘削途中に平角の内陥する。	1は壁の内外面。掘削途中に平角のヘラマーク。下層は1000/40の丸断〜ヘラマーク。中層は平角の丸断。下層でヤシが埋められている。	直射	内面 1000/20 外面 1000/40 高さ 1000/40	白土跡子 少〜中硬・炭 層中硬多。	直射1/2	
5	No. 12	土壁跡	溝	—	10.3	12.1	106.1	掘削途中に平角の内陥する。 内陥は壁の中に内陥して いる。部断はなし。	1は壁の内外面。掘削途中に平角のヘラマーク。下層は1000/40の丸断〜ヘラマーク。中層は平角の丸断。下層でヤシが埋められている。	直射	内面 1000/20 外面 1000/40 高さ 1000/40	白土跡子 少〜中硬・炭 層中硬多。	直射	
6	No. 1	土壁跡	溝	—	3.6	12.0	23.4	掘削途中に平角の内陥する。 内陥は壁の中に内陥して いる。部断はなし。	1は壁の内外面。掘削途中に平角のヘラマーク。下層は1000/40の丸断〜ヘラマーク。中層は平角の丸断。下層でヤシが埋められている。	直射	内面 1000/20 外面 1000/40 高さ 1000/40	白土跡子 少〜中硬・炭 層中硬多。	製土7.1.2 直射丸断	

7号住居跡 (第31・32図、図版09・91)

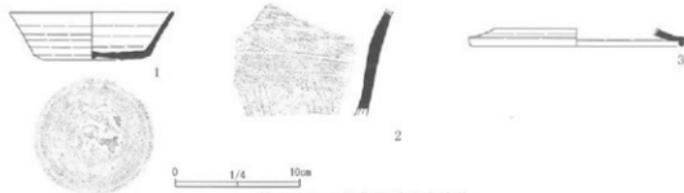
本遺構はF4-8・9・13グリッド、西側調査区壁際において検出された。西部が調査区外となるため全体が不明だが、残存規模は長軸4.07m、短軸(2.41)m、主軸方位はN 1.5° Eを指す。確認面からの深さは55 cmを測り、掘り込みが深い。覆土は7層に分層され、自然堆積の様相を示している。

カマド・炉は検出されていないが、調査区外にカマドが存在する可能性がある。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。柱穴は検出されず、比較的浅く幅広い周溝が南隅を除き巡っている。

遺物は3点掲載したが、1は北壁東隅近くの床面に近い位置から出土し、2は北壁床面上約30 cmからの出土であり、小片であることから、住居に伴うものかは不明である。3は住居覆土中からの出土である。遺物の時期から遺構の年代は8世紀中〜後葉と見られる。



第31図 7号住居跡



第32図 7号住居跡出土遺物

表 12 7号住居跡遺物観察表

番号	品名	種類	材質	寸法	重量	出土地	出土層	出土状況	備考
1	丸い	土器	土	41.0	9.55	3.83	121.0	陶器	陶器
2	丸い	土器	土	—	—	—	126.0	陶器	陶器
3	丸い	土器	土	—	—	—	134.0	陶器	陶器

表 13 7号住居跡出土土器計測表 (1)

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	5.0	5.2	3.4	117.8	硬石炭灰土
2	6.2	5.8	3.9	200.5	硬石炭灰土
3	6.0	4.3	3.5	62.8	硬石炭灰土
4	6.4	5.9	2.3	95.8	硬石炭灰土
5	6.4	4.9	2.9	84.9	硬石炭灰土
6	6.5	2.4	2.9	93.2	硬石炭灰土
7	4.7	2.7	3.7	94.8	硬石炭灰土
8	9.5	6.2	2.7	93.6	硬石炭灰土
9	5.5	3.1	2.8	81.6	硬石炭灰土
10	1.7	3.7	3.6	54.9	硬石炭灰土
11	4.7	4.5	2.8	92.4	硬石炭灰土
12	4.4	3.0	2.9	58.3	硬石炭灰土
13	6.3	4.0	1.9	31.6	硬石炭灰土
14	3.2	3.7	1.5	35.9	硬石炭灰土
15	3.8	2.5	1.5	32.0	硬石炭灰土
16	4.4	3.0	1.4	35.0	硬石炭灰土
17	3.4	3.0	2.7	35.1	硬石炭灰土
18	4.2	4.0	2.7	30.3	硬石炭灰土
19	4.0	3.9	2.4	28.8	硬石炭灰土
20	3.8	3.0	2.3	25.9	硬石炭灰土
21	4.2	3.2	—	22.7	硬石炭灰土
22	2.7	3.3	—	22.3	硬石炭灰土
23	2.0	3.9	2.9	26.7	硬石炭灰土
24	2.7	4.7	—	19.6	硬石炭灰土
25	2.6	3.0	—	22.8	硬石炭灰土
26	4.6	2.3	2.3	10.1	硬石炭灰土
27	4.1	2.4	1.9	23.3	硬石炭灰土
28	3.1	2.4	—	15.9	硬石炭灰土
29	3.7	2.8	1.1	17.9	硬石炭灰土
30	2.6	3.2	1.0	16.6	硬石炭灰土
31	3.7	3.2	1.2	11.1	硬石炭灰土
32	3.3	2.6	1.6	13.9	硬石炭灰土
33	2.6	3.0	1.9	16.9	硬石炭灰土
34	2.6	2.6	1.7	15.0	硬石炭灰土
35	3.8	2.1	3.1	14.7	硬石炭灰土
36	3.7	2.9	1.2	11.2	硬石炭灰土
37	2.5	1.3	2.0	7.5	硬石炭灰土
合計重量					1614.8

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	5.7	5.2	2.6	26.8	ガラス片
2	1.7	1.4	1.6	2.3	ガラス片
合計重量					28.9

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	1.6	0.9	0.7	301.9	硬石炭灰土
2	2.3	3.6	1.7	33.8	硬石炭灰土
合計重量					339.4

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	2.3	4.6	3.6	118.3	硬石炭灰土
2	4.1	3.1	1.9	25.9	硬石炭灰土
合計重量					144.2

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	4.9	1.9	2.6	62.4	硬石炭灰土
2	4.5	2.1	2.6	62.1	硬石炭灰土
3	4.4	4.7	3.1	70.4	硬石炭灰土
合計重量					194.9

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	3.7	4.8	2.1	79.7	硬石炭灰土
2	4.3	2.9	3.1	60.3	硬石炭灰土
3	6.0	5.1	1.3	21.4	硬石炭灰土
4	3.9	2.7	1.7	19.7	硬石炭灰土
5	4.8	2.8	2.7	48.2	硬石炭灰土
6	5.5	3.5	2.3	33.2	硬石炭灰土
7	3.8	3.5	2.1	21.1	硬石炭灰土
8	2.9	2.5	2.2	19.4	硬石炭灰土
9	2.8	2.5	2.5	19.7	硬石炭灰土
10	2.7	2.0	1.9	8.3	硬石炭灰土
11	3.0	2.0	1.1	9.7	硬石炭灰土
12	3.2	1.7	1.2	5.8	硬石炭灰土
合計重量					357.9

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	4.2	3.6	2.0	38.5	青石
2	4.1	3.1	1.6	23.0	青石
3	3.6	4.1	1.0	16.8	青石
4	3.0	3.0	2.0	33.0	青石
5	4.3	3.8	0.8	14.2	青石
6	3.0	2.9	1.3	19.6	青石
7	3.2	2.2	0.9	9.2	青石
8	4.1	2.3	1.0	11.1	青石
9	3.1	2.3	1.7	19.1	青石
10	2.8	1.2	1.6	5.2	青石
11	2.0	1.7	1.0	4.5	青石
12	2.2	1.3	1.1	2.6	青石
合計重量					176.0

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
1	6.5	5.4	5.8	204.5	砂岩
2	3.8	5.9	3.1	223.3	砂岩
3	6.7	6.5	2.6	166.0	砂岩
4	6.0	6.9	2.8	123.2	砂岩
5	8.1	5.6	3.3	154.4	砂岩
6	6.9	5.4	2.3	93.2	砂岩
7	5.0	5.1	4.0	182.4	砂岩
8	9.0	3.9	3.1	81.9	砂岩
9	7.8	2.6	3.8	129.6	砂岩
10	7.0	3.2	3.3	101.2	砂岩
11	6.9	2.7	4.4	80.9	砂岩
12	3.9	4.0	2.0	83.1	砂岩
13	3.7	4.2	3.0	91.6	砂岩
14	8.0	4.6	2.2	71.9	砂岩
15	5.0	5.0	2.0	78.1	砂岩
16	4.7	4.5	3.5	89.1	砂岩
17	3.8	4.5	2.2	72.0	砂岩
18	3.5	3.0	2.7	64.7	砂岩
19	3.6	4.3	2.8	65.6	砂岩
20	7.9	3.7	2.9	84.1	砂岩
21	3.7	3.7	2.5	37.0	砂岩
22	3.6	4.0	3.7	76.0	砂岩
23	3.2	4.5	2.8	66.1	砂岩
24	6.0	4.5	2.2	37.1	砂岩
25	6.2	3.0	3.4	34.8	砂岩
26	1.5	3.2	2.7	33.2	砂岩
27	4.7	4.7	2.3	35.9	砂岩
28	3.0	2.5	2.6	33.9	砂岩
29	3.2	3.1	2.2	32.4	砂岩
30	4.5	3.3	3.5	60.2	砂岩
31	4.7	3.8	1.9	36.6	砂岩
32	4.6	3.5	2.2	41.2	砂岩
33	3.0	4.3	3.1	31.4	砂岩
34	3.7	3.2	2.3	42.7	砂岩

番号	計測 (cm・g)				材質
	径	横	高さ	重量	
35	5.1	2.3	2.7	41.1	砂岩
36	4.8	4.0	1.2	23.8	砂岩
37	4.9	3.5	2.0	41.8	砂岩
38	4.6	2.7	1.8	22.9	砂岩
39	3.3	2.8	2.6	32.1	砂岩
40	4.8	2.8	1.3	24.1	砂岩
41	4.1	2.7	3.0	43.0	砂岩
42	4.9	3.3	3.0	48.7	砂岩
43	4.5	2.9	1.6	27.6	砂岩
44	5.5	2.2	1.7	21.5	砂岩
45	4.7	3.2	2.0	34.4	砂岩
46	4.2	3.0	2.1	25.2	砂岩
47	4.3	3.7	1.8	29.7	砂岩
48	4.7	2.4	2.0	19.1	砂岩
49	4.4	2.6	1.5	23.2	砂岩
50	3.8	3.4	3.0	29.5	砂岩
51	4.6	2.9	3.9	34.8	砂岩
52	3.5	3.0	6.0	30.3	砂岩
53	3.6	2.5	2.9	22.5	砂岩
54	4.0	2.3	2.9	22.6	砂岩
55	2.7	3.0	1.7	14.6	砂岩
56	3.8	3.5	3.1	29.8	砂岩
57	4.0	2.5	2.6	28.4	砂岩
58	4.7	2.8	2.1	21.4	砂岩
59	4.5	1.9	1.9	4.9	砂岩
60	3.3	2.2	1.8	4.6	砂岩
61	3.6	3.2	2.0	16.3	砂岩
62	3.2	2.3	0.8	9.7	砂岩
63	3.5	1.6	1.3	9.0	砂岩
64	3.3	1.9	1.5	11.6	砂岩
65	3.5	2.1	1.9	11.2	砂岩
66	4.2	2.5	2.0	7.7	砂岩
67	3.5	3.0	2.1	15.8	砂岩
68	3.8	2.1	1.4	12.0	砂岩
69	2.7	2.5	1.3	8.0	砂岩
70	2.9	2.4	1.2	8.4	砂岩
71	3.4	2.0	1.3	9.5	砂岩
72	3.7	2.8	1.3	11.0	砂岩
73	4.0	2.9	1.4	12.5	砂岩
74	3.3	2.2	2.3	12.4	砂岩
75	4.4	2.9	2.0	19.7	砂岩
76	2.8	2.6	1.1	13.0	砂岩
77	3.5	2.3	2.0	15.0	砂岩
78	3.4	2.2	2.2	16.3	砂岩
79	3.3	2.1	1.2	10.1	砂岩
80	3.5	2.7	1.0	9.0	砂岩
81	2.9	2.3	2.0	11.1	砂岩
82	3.4	2.7	1.6	17.2	砂岩
83	2.9	1.7	1.6	8.8	砂岩
84	3.1	2.0	1.5	8.9	砂岩
85	2.5	1.9	1.5	8.7	砂岩
86	3.2	1.5	1.7	8.6	砂岩
87	3.5	2.2	1.3	13.7	砂岩
88	3.6	2.2	1.2	8.2	砂岩
89	2.6	1.5	1.4	7.7	砂岩
90	3.3	2.6	1.2	7.8	砂岩
91	4.0	1.9	1.6	16.8	砂岩
92	2.7	1.6	1.4	8.4	砂岩
93	2.4	1.7	1.6	3.2	砂岩
94	2.1	1.5	1.7	5.3	砂岩
95	3.3	2.2	1.7	10.0	砂岩
96	2.8	2.6	2.6	6.5	砂岩
97	2.4	1.8	0.7	3.9	砂岩
98	2.4	1.3	1.0	3.0	砂岩
99	4.2	2.7	2.5	32.7	砂岩
100	3.9	1.5	1.5	4.9	砂岩
101	2.0	1.6	1.2	7.7	砂岩
102	3.8	1.7	1.7	5.8	砂岩
103	2.3	1.7	1.6	4.9	砂岩
合計重量					4128.6

表 14 7号住居跡出土土器計測表(2)

番号	径長 (cm ×)				材質
	底	径	厚さ	重量	
1	7.7	5.7	4.3	122.3	瀬灰土
2	7.3	6.4	4.8	216.0	瀬灰土
3	8.4	4.1	4.9	104.8	瀬灰土
4	7.0	4.4	3.2	155.1	瀬灰土
5	6.9	5.7	5.1	178.4	瀬灰土
6	8.3	5.6	3.4	183.7	瀬灰土
7	5.6	5.8	4.1	282.0	瀬灰土
8	5.5	4.9	4.1	188.2	瀬灰土
9	5.9	4.7	3.3	186.5	瀬灰土
10	6.5	5.9	3.3	184.8	瀬灰土
11	5.8	5.2	3.2	161.2	瀬灰土
12	5.8	5.2	3.3	166.7	瀬灰土
13	6.2	5.6	3.6	200.0	瀬灰土
14	6.2	5.6	3.5	164.3	瀬灰土
15	6.8	5.8	2.1	78.3	瀬灰土
16	6.6	5.4	2.5	79.7	瀬灰土
17	5.6	5.2	1.8	5.9	瀬灰土
18	7.2	5.8	2.3	80.5	瀬灰土
19	7.6	5.7	1.6	62.5	瀬灰土
20	6.1	3.9	2.5	71.6	瀬灰土
21	6.4	3.7	2.1	78.2	瀬灰土
22	3.3	3.7	2.4	78.0	瀬灰土
23	4.0	3.2	4.9	58.8	瀬灰土
24	3.1	4.5	2.3	72.0	瀬灰土
25	4.5	2.9	3.3	64.1	瀬灰土
28	4.3	3.2	3.1	51.4	瀬灰土
29	4.9	3.3	2.5	81.5	瀬灰土
30	4.9	4.3	2.7	87.2	瀬灰土
31	4.7	4.0	2.5	86.2	瀬灰土
32	4.5	3.6	2.6	89.9	瀬灰土
33	6.1	3.2	2.7	31.1	瀬灰土
34	4.7	2.6	3.0	31.5	瀬灰土
35	6.1	4.0	3.4	91.8	瀬灰土
36	5.4	3.5	3.0	32.1	瀬灰土
38	5.7	3.0	2.7	53.0	瀬灰土
39	4.5	2.8	2.6	36.9	瀬灰土
37	4.6	4.1	1.9	27.2	瀬灰土
38	5.5	4.1	2.8	82.4	瀬灰土
39	4.8	3.4	3.2	51.4	瀬灰土
40	5.9	3.5	2.9	39.4	瀬灰土
41	4.5	2.9	2.9	26.6	瀬灰土
42	3.7	3.0	1.4	20.0	瀬灰土
43	3.3	3.1	2.0	28.4	瀬灰土
44	3.7	2.9	1.6	26.3	瀬灰土
45	3.6	2.9	2.2	29.3	瀬灰土
46	4.4	3.2	1.3	24.2	瀬灰土
47	3.9	2.4	2.9	25.6	瀬灰土
48	6.7	3.9	2.6	28.6	瀬灰土
49	3.5	2.5	2.2	22.2	瀬灰土
50	6.0	3.0	2.2	31.1	瀬灰土
51	3.3	2.6	1.9	21.7	瀬灰土
52	4.9	3.8	1.6	35.2	瀬灰土
53	4.1	3.1	2.3	32.7	瀬灰土
54	4.4	3.1	1.7	18.8	瀬灰土
55	4.1	2.7	1.5	20.0	瀬灰土
56	3.4	2.8	2.1	12.9	瀬灰土
57	4.7	2.9	2.6	23.2	瀬灰土
58	3.8	3.1	1.9	21.2	瀬灰土
59	3.8	3.2	1.8	30.3	瀬灰土
60	5.2	3.0	1.8	96.6	瀬灰土
61	3.7	3.0	2.7	39.5	瀬灰土
62	5.0	3.6	2.0	94.1	瀬灰土
63	3.8	2.0	2.0	12.2	瀬灰土
64	3.1	2.4	2.0	18.5	瀬灰土
65	6.2	3.1	1.7	21.4	瀬灰土
66	5.5	1.8	1.4	13.6	瀬灰土
67	3.9	2.5	2.3	24.6	瀬灰土
68	4.1	2.0	1.9	50.6	瀬灰土
69	2.9	2.2	2.3	11.8	瀬灰土
70	6.8	2.0	1.5	16.8	瀬灰土
71	3.7	2.2	1.5	12.2	瀬灰土
72	3.4	1.9	1.2	11.7	瀬灰土
73	2.8	2.2	2.2	15.5	瀬灰土
74	3.4	2.5	2.1	12.2	瀬灰土
75	2.9	2.5	1.5	9.7	瀬灰土
76	3.5	1.2	2.5	12.0	瀬灰土
77	3.5	2.4	1.9	14.1	瀬灰土
78	3.6	2.3	2.2	16.5	瀬灰土
79	3.3	2.3	1.9	12.7	瀬灰土
80	2.9	1.2	1.9	8.2	瀬灰土
81	3.6	3.4	2.1	25.1	瀬灰土
82	4.3	3.2	1.9	25.4	瀬灰土
83	3.8	3.1	1.3	16.2	瀬灰土
84	3.9	2.7	1.9	8.8	瀬灰土
85	3.1	2.6	1.7	16.1	瀬灰土
86	2.9	2.9	1.9	11.4	瀬灰土
87	2.5	2.9	1.8	8.6	瀬灰土
88	3.1	2.5	1.9	15.3	瀬灰土
89	2.1	2.2	2.3	7.8	瀬灰土

番号	径長 (cm ×)				材質
	底	径	厚さ	重量	
90	2.8	2.1	1.9	8.6	瀬灰土
91	3.6	3.1	1.3	11.0	瀬灰土
92	3.1	2.4	1.1	10.5	瀬灰土
93	2.3	2.6	1.1	12.2	瀬灰土
94	2.8	2.3	2.0	10.8	瀬灰土
95	2.0	2.3	1.2	16.8	瀬灰土
96	2.3	2.3	1.7	7.2	瀬灰土
97	2.0	2.4	1.1	7.4	瀬灰土
98	2.1	1.7	1.3	7.0	瀬灰土
99	2.7	2.1	1.6	8.1	瀬灰土
100	2.5	2.2	0.8	6.9	瀬灰土
101	3.7	1.7	0.9	6.3	瀬灰土
102	3.3	2.7	1.7	5.0	瀬灰土
103	3.3	2.4	2.0	13.4	瀬灰土
104	3.0	2.2	1.4	19.2	瀬灰土
105	2.9	2.2	1.4	9.8	瀬灰土
106	3.0	1.9	1.0	8.2	瀬灰土
107	2.6	2.2	1.2	7.5	瀬灰土
108	2.7	2.7	0.6	12.6	瀬灰土
109	2.5	1.8	1.0	6.1	瀬灰土
110	3.9	1.6	2.0	17.4	瀬灰土
111	2.6	2.2	1.3	6.5	瀬灰土
112	2.4	2.4	1.8	10.3	瀬灰土
113	2.9	2.3	1.3	8.5	瀬灰土
114	2.8	2.6	2.3	17.7	瀬灰土
115	2.7	2.2	2.1	13.2	瀬灰土
116	2.9	1.9	1.5	9.0	瀬灰土
117	2.7	1.7	1.1	8.9	瀬灰土
118	2.5	2.2	2.0	9.1	瀬灰土
119	2.9	2.1	1.4	9.0	瀬灰土
120	2.2	2.0	1.0	8.3	瀬灰土
121	2.8	1.9	1.6	8.2	瀬灰土
122	2.0	2.0	1.9	8.0	瀬灰土
123	3.1	2.5	1.6	10.3	瀬灰土
124	2.6	1.1	1.5	3.9	瀬灰土
125	3.2	1.7	1.3	5.9	瀬灰土
126	2.6	2.1	1.3	6.6	瀬灰土
127	2.6	2.0	1.5	7.2	瀬灰土
128	2.6	1.6	1.5	8.5	瀬灰土
129	2.5	1.6	1.2	7.5	瀬灰土
130	4.4	1.9	1.6	6.7	瀬灰土
131	3.0	0.9	1.2	3.1	瀬灰土
132	2.5	1.6	1.5	5.9	瀬灰土
133	2.3	1.6	1.0	6.8	瀬灰土
134	2.5	1.5	1.2	4.4	瀬灰土
135	1.9	1.8	2.0	6.8	瀬灰土
136	2.5	1.7	1.1	7.7	瀬灰土
137	2.0	1.9	1.2	4.0	瀬灰土
138	2.0	1.5	1.4	4.9	瀬灰土
139	2.8	1.5	1.8	3.8	瀬灰土
140	2.0	0.8	1.0	3.1	瀬灰土
141	1.9	1.0	0.7	3.6	瀬灰土
142	1.8	1.3	1.4	3.1	瀬灰土
143	2.1	1.2	1.3	5.4	瀬灰土
144	2.0	1.6	0.7	2.4	瀬灰土
145	1.4	1.2	1.1	2.7	瀬灰土
146	1.6	1.2	1.3	2.9	瀬灰土
147	1.4	1.1	1.0	1.4	瀬灰土
148	1.6	1.2	0.9	1.3	瀬灰土
149	1.2	1.0	0.5	0.7	瀬灰土
150	1.5	1.0	0.7	1.2	瀬灰土
151	0.9	0.8	0.9	1.0	瀬灰土
152	1.3	1.0	1.1	1.3	瀬灰土
153	1.1	0.9	0.9	0.6	瀬灰土
154	1.1	0.8	0.7	0.7	瀬灰土
155	1.5	1.0	0.6	0.7	瀬灰土
156	1.3	0.9	0.6	0.7	瀬灰土
157	1.1	0.8	0.6	0.2	瀬灰土

合計重量

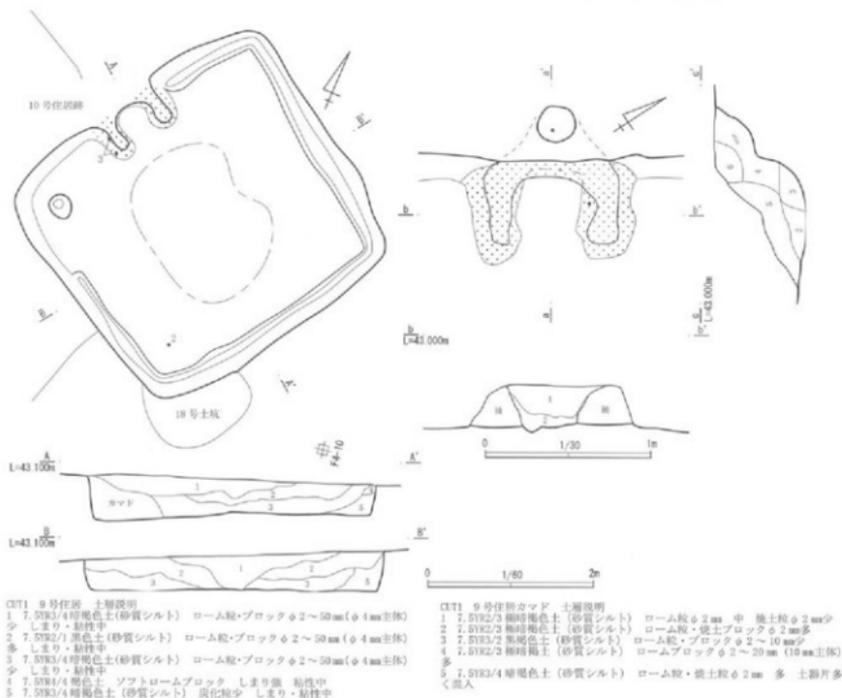
4753.1

番号	径長 (cm ×)				材質
	底	径	厚さ	重量	
15	6.0	3.2	2.7	43.8	チャート
14	5.2	3.7	2.0	45.4	チャート
16	4.5	4.0	2.4	45.6	チャート
15	5.8	4.0	2.4	51.2	チャート
17	6.0	3.8	3.2	72.1	チャート
18	4.5	4.1	2.5	50.0	チャート
19	4.0	2.9	2.7	36.2	チャート
20	1.0	3.9	2.8	46.8	チャート
21	3.6	3.3	1.8	21.2	チャート
22	5.7	2.6	2.4	36.4	チャート
23	4.0	3.0	2.9	28.9	チャート
24	3.9	3.7	2.4	47.2	チャート
25	3.7	3.3	3.0	44.3	チャート
26	4.2	3.2	2.9	42.9	チャート
27	4.4	3.9	3.5	41.0	チャート
28	3.8	2.4	2.4	30.6	チャート
29	3.4	2.5	2.2	14.8	チャート
30	4.6	2.6	2.1	28.0	チャート
31	3.5	3.1	2.4	24.6	チャート
32	5.1	2.7	3.1	24.0	チャート
33	4.8	2.8	1.8	26.9	チャート
34	3.2	2.6	2.4	26.8	チャート
35	3.4	3.2	2.9	27.4	チャート
36	4.1	2.6	1.9	26.3	チャート
37	4.2	4.1	2.4	22.3	チャート
38	3.9	3.4	2.2	24.4	チャート
39	4.2	2.8	1.6	14.3	チャート
40	3.6	2.7	2.5	23.8	チャート
41	3.3	2.3	2.5	19.7	チャート
42	3.5	2.3	2.4	22.0	チャート
43	3.2	1.9	2.3	13.2	チャート
44	3.3	2.5	1.2	11.9	チャート
45	3.4	2.7	1.9	17.2	チャート
46	3.1	2.4	2.2	19.4	チャート
47	3.4	1.9	2.3	13.7	チャート
48	3.2	2.6	2.3	23.0	チャート
49	3.2	2.8	2.9	19.6	チャート
50	3.3	2.8	1.9	17.5	チャート
51	2.9	3.0	1.9	13.5	チャート
52	2.4	2.7	2.1	12.9	チャート
53	2.9	2.5	2.0	16.1	チャート
54	2.5	2.2	1.9	15.5	チャート
55	4.0	2.2	2.6	12.5	チャート
56	2.6	2.2	1.3	8.8	チャート
57	3.2	2.4	2.6	14.7	チャート
58	3.1	2.5	1.2	13.0	チャート
59	3.5	2.8	1.8	14.0	チャート
60	2.8	1.9	2.2	12.4	チャート
61	2.8	2.4	0.3	9.5	チャート
62	3.4	2.6	1.3	12.3	チャート
63	2.6	2.2	1.4	9.2	チャート
64	2.0	2.6	1.6	10.0	チャート
65	3.0	2.4	1.8	8.9	チャート
66	2.8	2.5	1.2	8.0	チャート
67	3.0	1.9	2.1	12.0	チャート
68	4.5	1.7	0.9	7.4	チャート
69	4.2	1.8	1.5	10.2	チャート
70	2.8	1.8	1.5	7.2	チャート
71	2.8	1.7	1.0	10.6	チャート
72	2.1	1.9	1.5	8.4	チャート
73	2.9	1.9	1.1	3.7	チャート
74	2.5	1.7	1.7	6.1	チャート
75	3.0	1.4	1.6	5.7	チャート
76	2.7	2.2	1.5	10.1	チャート
77	2.1	2.1	1.1	6.5	チャート
78	2.5	1.6	1.4	6.2	チャート
79	2.2	1.8	1.3	5.3	チャート
80	2.1	2.0	1.2	8.7	チャート
81	1.7	1.7	1.3	5.3	

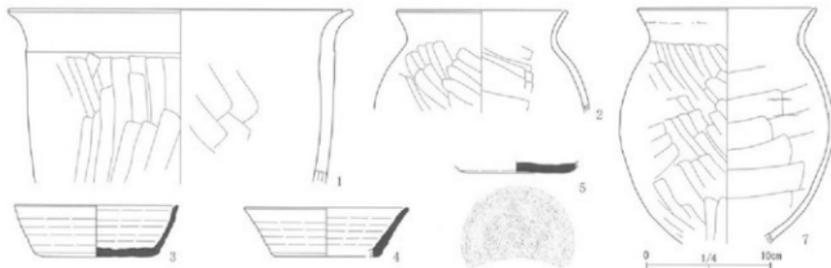
本遺構はF4-Iグリッド, 調査区北部で検出された。18号土坑に切られ、10号住居跡を切る。規模は長軸3.40m、短軸3.67m、主軸方位はN 56.6° Wを指す。確認面からの深さは約41cmを測り、掘り込みが深い。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を示している。

カマドは西壁中央に設けられ、袖がやや直線的に伸びる。床面は平坦で硬化面が中央に見られる。柱穴は検出されず、周溝は10号住居跡との重複部分を除いて巡っている。

遺物は土師器瓶・甕、須恵器環が出土している。遺物の時期から8世紀中頃の住居と判断される。



第33図 9号住居跡



第34図 9号住居跡出土遺物

表 15 9号住居跡遺物観察表

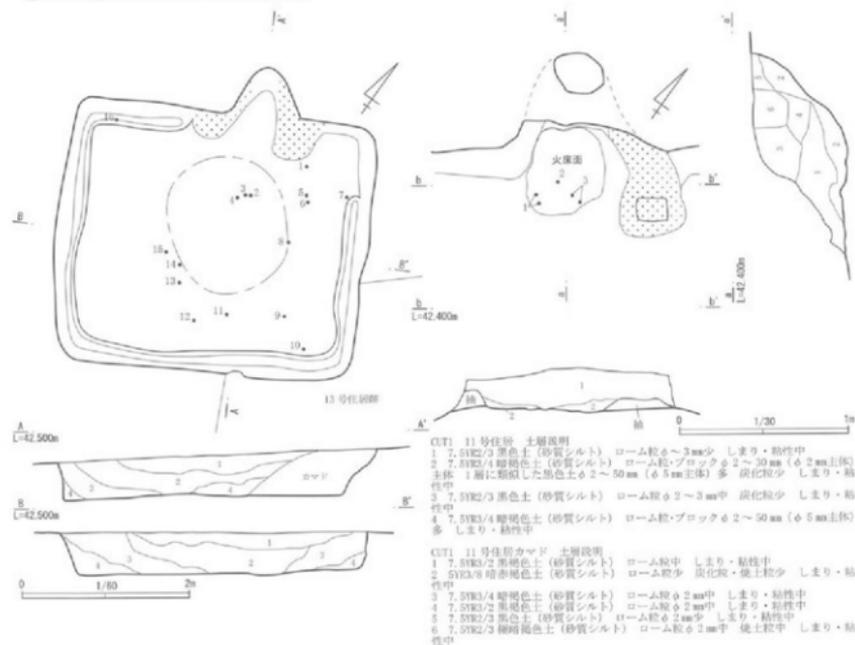
遺物番号	品名	種類	素材	寸法	重量	取付の角度	取付の角度	出所	品名	寸法	取付	出所	備考
1	191	土師器	甕	18.4	—	18.4	405.8	ハタケ型。胴部は厚肉に内湾するもの内湾的で、口縁は細中位の厚肉に再反する。頸部は厚肉。	口縁は内外面共に直線ナズ。胴部外面はヘラタヌリ。内面はナズ。	内径 2.513(黄) 長径・石高 約 200 口径 100x117 201(黄)	高径	1181/3 1181/4	
2	No. 5	土師器	甕	13.0	—	13.0	49.3	胴部厚肉に直線。口縁は細中位の厚肉に再反する。	口縁は内外面共に直線ナズ。胴部外面はヘラタヌリ。内面はナズ。	内径 2.513(黄) 長径・石高 約 200 口径 100x117 201(黄)	高径	1181/3 1181/4	
3	No. 1 191 No. 2	土師器	甕	13.9	8.6	8.2	106.2	胴部は平直。底部下面は直線的に傾き、上段で傾斜の内湾した縁の厚で反く再反する。	口縁は直線。底部下面は直線的に傾く。	内径 2.513(黄) 長径・石高 約 200 口径 100x117 201(黄)	高径	1181/3 1181/4	
4	191	土師器	甕	13.9	18.4	18.4	28.3	胴部は厚肉に直線。	口縁は直線。底部下面は直線的に傾く。	内径 2.513(黄) 長径・石高 約 200 口径 100x117 201(黄)	高径	1181/3 1181/4	
5	191	土師器	甕	—	7.6	13.0	61.3	胴部はやや中位の厚肉に直線的に傾き、上段で傾斜の内湾した縁の厚で反く再反する。	口縁は直線。底部下面は直線的に傾く。	内径 2.513(黄) 長径・石高 約 200 口径 100x117 201(黄)	高径	1181/3 1181/4	
6	No. 6 191 191	土師器	甕	11.6	—	118.2	43.3	胴部はやや中位の厚肉に直線的に傾き、上段で傾斜の内湾した縁の厚で反く再反する。	口縁は内外面共に直線ナズ。胴部外面は直線的に傾く。内面は直線的に傾く。	内径 2.513(黄) 長径・石高 約 200 口径 100x117 201(黄)	高径	1181/3 1181/4	

11号住居跡 (第35・36図, 図版13・14・93)

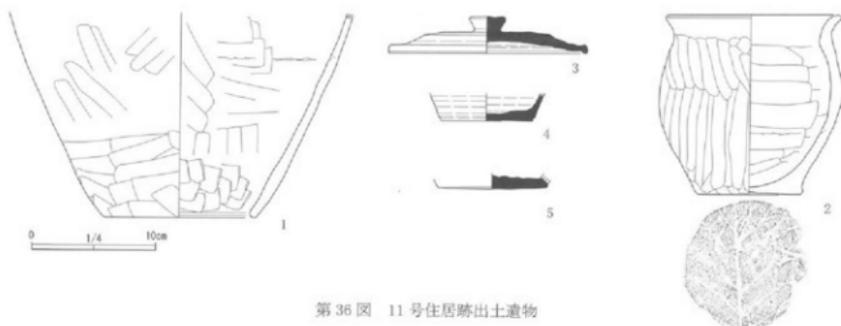
本遺構はF4-10グリッドに於いて検出された。13号住居跡を切る。規模は長軸3.77m、短軸3.76m、主軸方位はN31°Wを指す。確認面からの深さは50cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。周溝は北東隅とカマドを除き全周する。覆土は4層に分層され、自然堆積の様相を示している。

カマドは北壁東寄りに付設され右袖が若干遺存する。壁外に煙道が確認され、火床面が検出され、カマド内から遺物も出土した。柱穴は検出されなかったが、カマド前から住居中央にかけて硬化面が確認された。

遺物から遺構も8世紀中葉と見られる。



第35図 11号住居跡



第36図 11号住居跡出土遺物

表16 11号住居跡遺物観察表

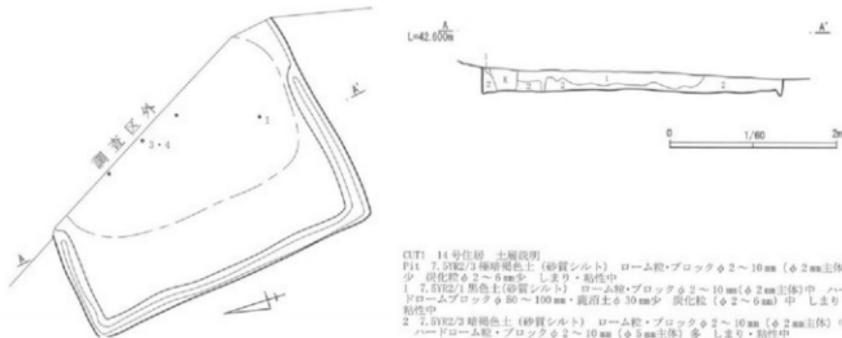
発見 番号	注記	種類	形状	口径	底径	高さ	底深	資料の概要	資料の概要	出土	位置	出土	状況	備考
1		土師器	椀	—	22.0	106.3	516.2	ハーフアタ、胴部は直線的に膨らみ、内面はハーフアタ、外側はハーフアタ。	内面はハーフアタ、外側はハーフアタ。	直射	内面 201/11区 外側 201/11区	表層・土層1 土層2	破片あり	
2		土師器	甕	13.4	8.2	14.7	402.7	胴部は中や大径直径の平直でふくらみ、胴部は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ。	胴部は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ。	直射	内面 201/11区 外側 201/11区	表層・土層1 土層2	破片あり	
3	%.9	銅器	蓋	15.0	銅厚2.9	3.0	182.8	中央は楕円形に内径は直線的に膨らみ、外縁は直線的に膨らみ、外縁は直線的に膨らみ、外縁は直線的に膨らみ。	中央は楕円形に内径は直線的に膨らみ、外縁は直線的に膨らみ。	直射	内面 201/11区 外側 201/11区	表層・土層1 土層2	破片あり	
4	%.12	銅器	片	—	18.20	12.30	36.7	胴部は中や大径直径の平直でふくらみ、胴部は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ。	胴部は中や大径直径の平直でふくらみ、胴部は直線的に膨らみ。	直射	内面 201/11区 外側 201/11区	表層・土層1 土層2	破片あり	
5		土師土	破片	—	2.2	4.30	19.4	胴部は中や大径直径の平直でふくらみ、胴部は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ、口縁は直線的に膨らみ。	胴部は中や大径直径の平直でふくらみ、胴部は直線的に膨らみ。	直射	内面 201/11区 外側 201/11区	表層・土層1 土層2	破片あり	

14号住居跡 (第37・38図、図版16・93)

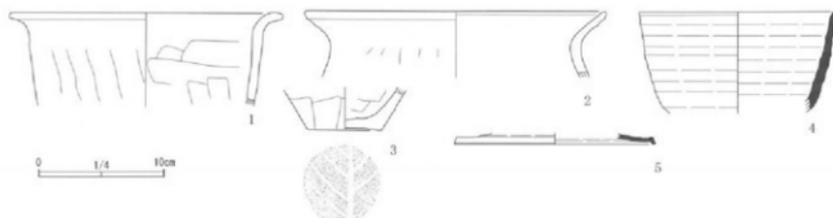
本遺構はG4-6グリッド、調査区北部で検出された。調査区壁に掛かり、全体は不明だが、残存規模は長軸3.67m、短軸(2.71)m、主軸方位はN7.1°Wを指す。確認面からの深さは約23cmを測る。覆土は2層に分層される。

カマドは検出されていないが調査区外に存在すると思われる。床面は平坦で硬化面が中央に見られる。柱穴は検出されず、周溝は調査範囲では概ね検出された。

遺物は土師器甕・甕、須恵器蓋・坏が出土している。遺物の時期から9世紀前半の遺構と判断される。



第37図 14号住居跡



第38図 14号住居跡出土遺物

表17 14号住居跡遺物観察表

番号	位置	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	原料の特徴	彫刻の特徴	産地	色澤	胎土	焼存	備考
1	No.4	土師器	鉢	23.0	—	17.0	138.0	表面は比較的粗毛で、口縁は「」の字に外反する。	口縁は内外面共に直下で、底部外面はヘラズリ、内面はナズ。	高野	内面 2,310/200 灰黄 外面 2,310/200	赤褐色・茶色 白・赤多量混入。	製法不明	
2	No.1	土師器	鉢	23.0	—	15.0	87.1	口縁は「く」の字に外反し、口縁は縁り上げられた後彫り込まれている。	口縁は内外面共に直下で、底部外面はヘラズリ、内面はナズ。	高野	内面 1940/102 白・黄緑 外面 2,006/50	赤褐色・茶色 白・赤・茶 白・赤・茶 白・赤・茶	製法不明	
3	No.2	土師器	鉢	—	6.0	13.0	138.0	表面は中や下子底安房の子底。製法は縁り込まれている。	表面は縁り、縁り下縁外面ヘラズリ、内面はナズ。	高野	内面 7,390/50 灰黄 外面 4,000/40 白・赤・黄緑	赤褐色・茶色 白・赤・茶 白・赤・茶	製法不明	
4	No.2	土師器	片	18.0	—	18.0	83.3	表面は縁り込まれているもの表面に外反し、縁りである。	口縁は縁り。	高野	内面 2,310/200 白・黄 外面 2,310/200	赤褐色・茶色 白・赤・茶 白・赤・茶	製法不明	
5	No.1	土師器	鉢	13.0	—	10.0	11.7	口縁は縁りし、縁り下縁り込まれているもの表面に外反し、縁りである。	口縁は縁り。	高野	内面 4,000/40 灰黄 外面 2,310/200	赤褐色・茶色 白・赤・茶 白・赤・茶	製法不明	

第2項 その他の遺構 (図版18・93)



第39図 15号土坑出土遺物

表18 15号土坑遺物観察表

番号	位置	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	原料の特徴	彫刻の特徴	産地	色澤	胎土	焼存	備考
1	No.1	土師器	片	13.0	—	13.0	33.2	表面は粗毛で、縁り下縁り込まれているもの表面に外反し、縁りである。	表面は縁り、縁り下縁り込まれているもの表面に外反し、縁りである。	高野	内面 7,390/50 灰黄 外面 2,310/200 白・赤・黄緑	赤褐色・茶色 白・赤・茶 白・赤・茶	製法不明	

表 19 CUT1 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	規模		備考	遺構名	位置	規模		備考	
		長さ	幅				長さ	幅		
SK01	F5-13	175.6	86.4	× 76.0	SK20	F3-25	88.2	77.8	× 25.0	
SK02	F5-12	159.7	158.2	× 16.0	P01	F5-4	73.8	55.1	× 36.0	
SK03	F5-12	127.0	175.7	× 16.0	SK02	F5-7	52.1	40.8	× 17.0	
SK04	F5-2	93.0	(41.8)	× 9.0	<SK05	P03	F5-6	64.5	55.1	× 11.0
SK05	F5-2	184.1	(171.2)	× 27.0	>SK04	P04	F5-1	23.2	23.2	× 28.0
SK06	F5-2	141.5	138.7	× 71.0	P05	F4-14	38.6	36.3	× 31.0	
SK07				次層	P06	F4-14	30.4	30.1	× 70.0	
SK08				次層	P07	F4-4	49.2	31.5	× 109.0	
SK09				次層	P08	F4-14	53.5	41.1	× 33.0	
SK10	F4-23	145.5	144.6	× 28.0	P09	F4-5	44.5	36.0	× 18.0	
SK11	F5-4	98.1	92.5	× 35.0	>S102	P10	F4-5	44.2	44.2	× 47.0
SK12	F4-24	124.1	111.3	× 15.0	>S105	P11	F4-5	41.2	41.2	× 48.0
SK13	F4-15	149.7	146.8	× 88.0		P12	F4-5	40.2	40.2	× 50.0
SK14	F4-15	95.5	92.4	× 32.0						
SK15	F4-16	145.6	137.2	× 104.0						
SK16	F4-10	147.9	144.3	× 129.0	>S112					
SK17				次層						
SK18	F4-4	179.6	(164.8)	× 12.0	<S108					
SK19	F4-14	150	44.1	× 42.0						

表 20 CUT1 溝計測表

遺構名	形状	方位	断面形状	規模	走向	備考
1号溝	7・11・17・18・21号住居、P30～32・37を切る	N35° E	楕圓状	幅1.50～2.00m 深さ40～50cm	西端標高北端19.57m、南端18.40m、北→南	二神器・須磨器・縄文土器が山二
2号溝	1号住居を切る	N65° E	直状	幅0.48～0.83m 深さ5～12cm	西端標高北端21.05m、南端21.12m、東西→北東	須磨器片が出土
3号溝	P34～36に切られる、P22を切る	N55° E	楕圓状	幅0.50～1.30m 深さ9～12cm	西端標高北端22.99m、南端20.87m、北→南	二神器・須磨器・近世陶磁器・須磨器・埴が出土している
4号溝	21号居住柱礎物を切る	ほぼN90° E	直状	幅0.60～0.90m 深さ5～15cm	西端標高北端23.09m、南端20.81m、東→西→南西	二神器・須磨器・近世陶磁器・須磨器・埴が出土している
5号溝	25・26号住居、15・17号居住柱礎物を切る	N65° W	楕圓状	幅1.70～1.90m 深さ30～36cm	西端標高北端20.53m、南端20.57m、北→南	土師器・須磨器・瓦・埴が出土している

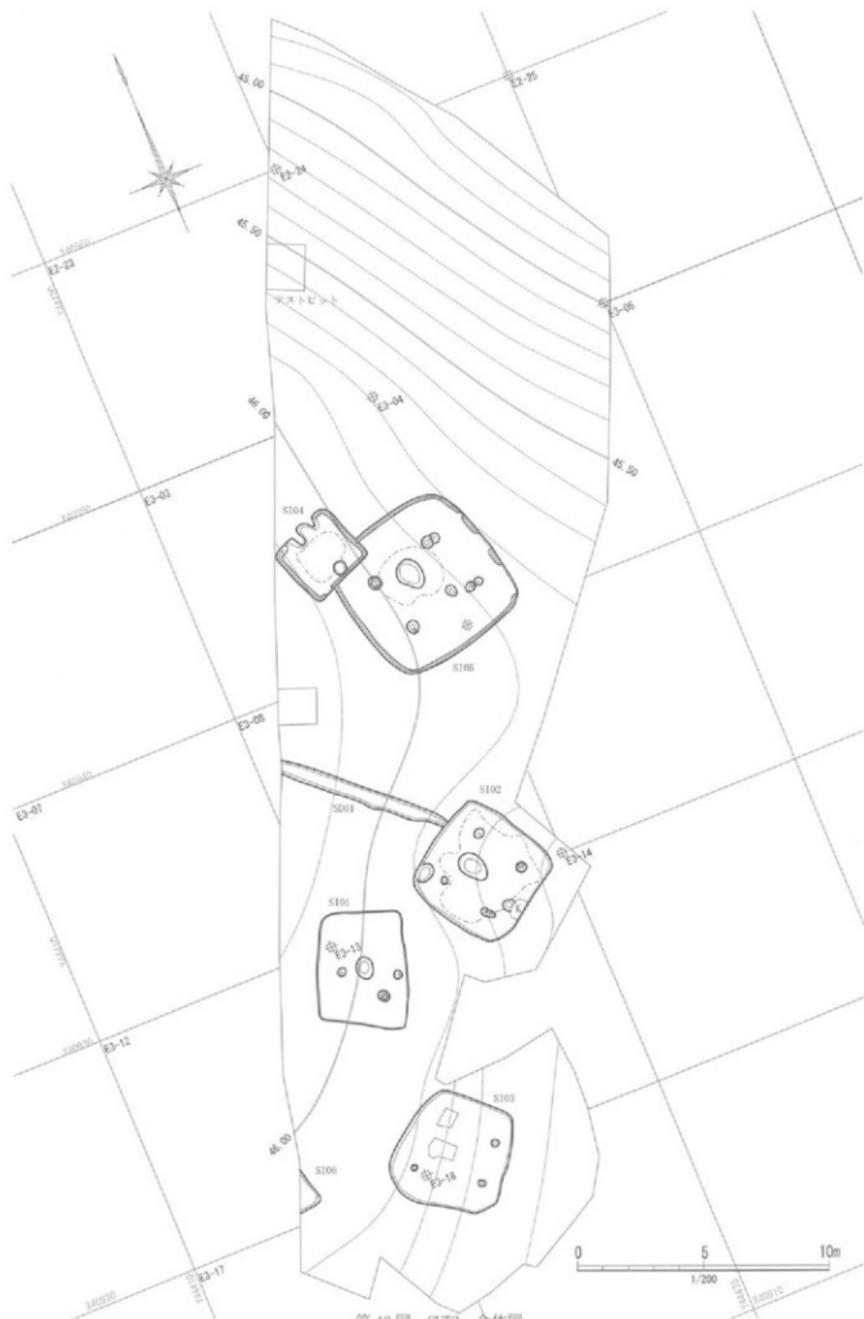
## 第3章 まとめ

CUT1 においては縄文土器が出土しており、付近に当該期の遺構が存在する可能性が指摘される。

弥生時代の遺構は5・10・12・13号住居が検出され、5・12が弥生時代後期、10・13が4世紀前～中葉、弥生時代末期と判断される。土王台1式～2式新段階の壺が主に出土し、2式段階では五領式土器との共存関係が重要である。

古墳時代に入ると3・4・8号住居が検出され、陶器須磨器が出土した5世紀前～中葉の1・8号住居においては住居の隅に長方形の貯蔵穴を持つ。3号住居は6世紀後半の住居でカマドが住居隅に付設される。

奈良・平安時代になると8世紀中葉には9・11号住居、やや遅れて8世紀後半にかけて7号住居が見られる。9世紀前半になると、1・6・14号住居が出現し、9世紀後半には2号住居1軒となる。前代までの住居と比較して規模が縮小化し、カマドが壁の中央に配されるようになる。



第40図 CUT2 全体図

### III CUT2

#### 第1章 遺跡の概要

本調査区は1区の北西に位置し、おおむね南北方向に長三角形の調査範囲である。調査区の標高は中央付近で46mを測り、北東方向に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の尾根部に当たる。検出された遺構は住居跡6軒である。弥生時代住居跡3軒、古墳時代住居跡1軒、平安時代住居跡2軒である。その他では、時期不明の溝1条が検出されている。遺構は耕作によって大きく攪乱を受けており、遺構の遺存状況は不良である。

#### 第2章 検出された遺構・遺物

##### 第1節 弥生時代の遺構と遺物

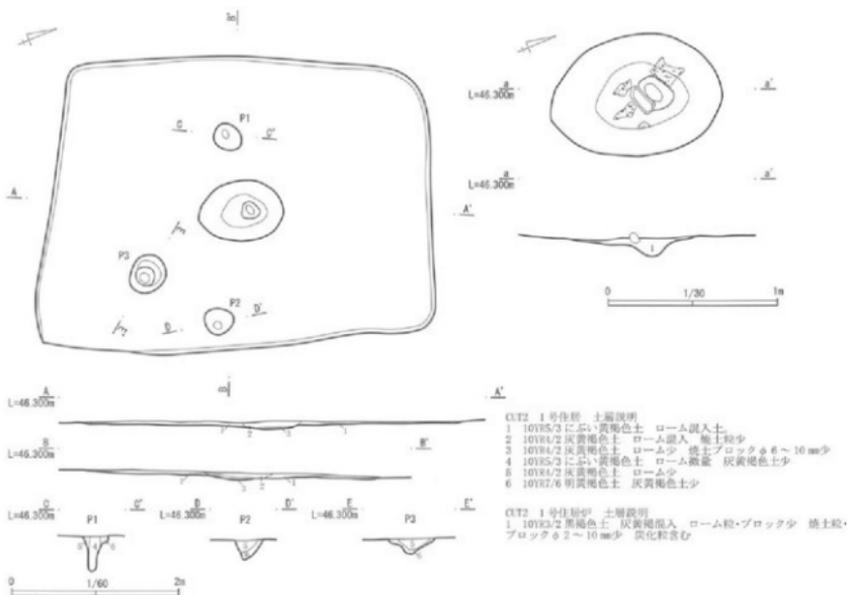
###### 第1項 住居跡

###### 1号住居跡 (第41図, 図版22・23)

本住居跡はE3-8, 12, 13グリッドに於いて検出された。長軸は4.57m、短軸は(3.59)m、確認面下の掘り込みの深さは5cm以下で、覆土は単層である。住居東部は削平され残存していないが、平面は方形であったと推測される。柱穴は炉を挟んで東西に1基ずつ検出された。P3については柱穴としていまいかが不明である。

炉は住居のほぼ中央に敷設されたと考えられるが、掘り込みの深さは3.8cmと浅く、103cm×74cmの楕円形を呈する。炉の中央より北寄りに径21.4cmで深さ11cmのビットが見られ、その縁から炉石が出土した。焼土は炉底面に疎らに検出された。

遺物の出土はなく、時期が明示できないが、遺構の形状から弥生～古墳時代の住居の可能性が考えられる。



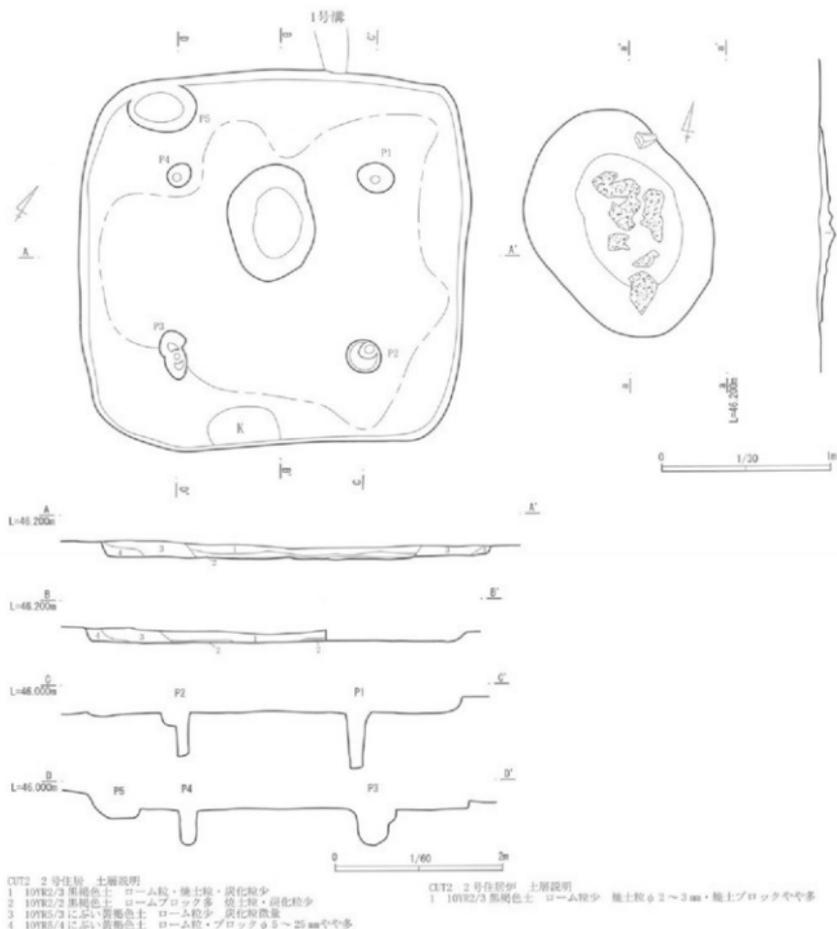
第41図 1号住居跡

2号住居跡 (第42・43図, 図版23・93)

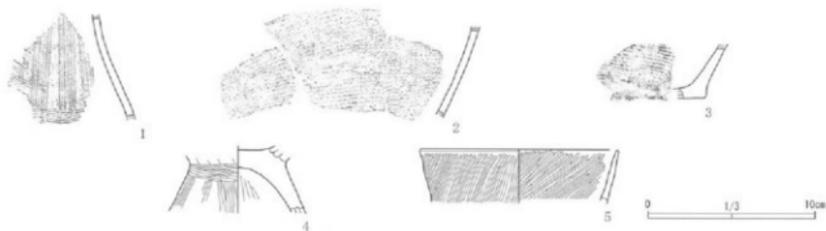
本住居跡はE3-8, 13グリッドに於いて検出された。長軸は45.8m、短軸は46.6m、確認面下の掘り込みの深さは10cmで、覆土は4層である。平面は方形である。柱穴は4基あり、対称に配され、炉が北西寄りに敷設される。硬化面は住居内に広く分布している。

炉は南北に長い不整形楕円で142.5cm×103.1cmの楕円形を呈する。掘り込みの深さは6.4cm以下で底面にはやや凹凸が見られる。焼土は炉底面に疎らに検出された。炉石の一部と見られる硬が炉の縁より出土した。

遺物は十王台2式の竜片3点と五領式の台付甕(4)、埴(5)が相伴している。遺物の時期から、4世紀前半～中葉の遺構と判断される。



第42図 2号住居跡



第43図 2号住居跡出土物

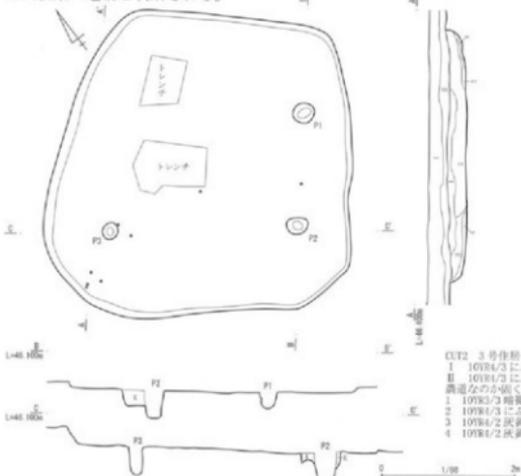
表 21 2号住居跡遺物観察表

層位番号	地層	種類	経緯	方位	面積	高さ	厚さ	形状の特徴	形状の特徴	構成	土質	粘土	備考
1	層土	赤土式土器	直	—	06.90	11.7		片断する部位の焼付。縦方向のストリートを縦断面の内部に縦方向の条痕と横方向の条痕を交互に並べている。断面の断面が平直。		片断	内面 100R/12 灰白・黄褐色 外面 100R/11 赤褐色	黒色・白色計 灰白質土	観察片
2	層土	赤土式土器	直	—	05.90	14.6		断片平部の破片である。断面に付加垂直線の焼付痕が認められる。		片断	内面 100R/12 灰白・黄褐色 外面 100R/12赤褐色	灰白質土	観察片
3	層土	赤土式土器	直	—	03.30	15.3		破片の破片である。断面下部にまで付加垂直線の焼付痕が認められる。		片断	内面 2.00R/12 灰質 外面 2.00R/12赤褐色	白色粘土少 量。黒質土	破片片
4	層土	土器類	付着	—	04.17	05.9		複合層の資料。断面は大きく開く。	断面外部に注しずり。内部は平直。土壌層の境界は不明。	片断	断面内 2.00R/12 赤褐色 断面外 100R/12 赤褐色 断面内 100R/12 赤褐色	灰白・赤褐色 やまやま。白色 粘状物質混入。 断面内 100R/12 赤褐色	複合層土 古墳時代中期
5	層土	土器類	付	—	03.30	32.2		口縁は直線的に平ら。口内で厚さが薄くなる。	断面外部に赤褐色の注しずり。	片断	内面 100R/12 灰白・黄褐色	黒色粘土・灰 白少混。	口縁部土

3号住居跡 (第44・45図, 図版24・94)

本住居跡はE3-12, 13, 17, 18 グリッドに於いて検出された。長軸は4.49m、短軸は4.38m、確認面下の掘り込みの深さは31.7cmで、覆土は4層で自然堆積の様相を呈する。平面は南西が広角になる隅丸方形である。柱穴は3基しか検出されず、硬化面や炉も検出されていない。

遺物は十王台1式古段階の壺(1~10)、土製紡錘車(11)、鉄製鋤先(12)などが出土した。遺物の時期から弥生時代後期の遺構と判断される。

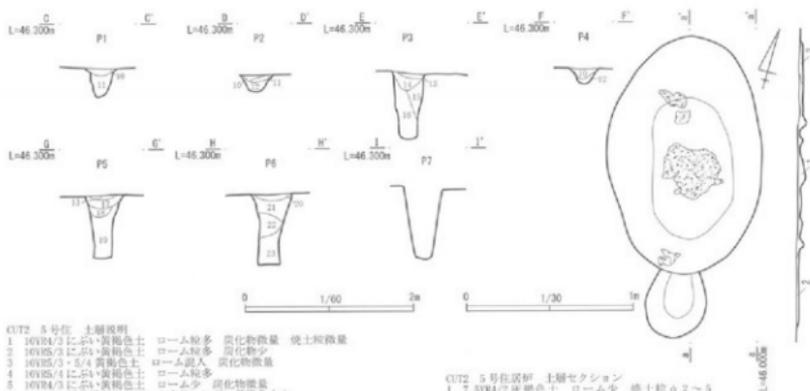


第44図 3号住居跡

- CU2 3号住居 土層説明
- 1 101R/1にぶい黄褐色土 緑粘土
  - 2 101R/1にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロックも2~20mm少 耕作土。構造面が小さく硬化する
  - 3 101R/2暗褐色土 黒褐色土少
  - 4 101R/3にぶい黄褐色土 ローム粒少 炭化粒微量
  - 5 101R/2灰黄褐色土 ローム微量 炭化粒微量
  - 6 101R/2灰黄褐色土 ローム少







- CU72 5号住居 土層説明
- |    |                    |              |                    |           |
|----|--------------------|--------------|--------------------|-----------|
| 1  | 10YR4/3 に近い黄褐色土    | ローム粒多        | 炭化物微量              | 焼土粒微量     |
| 2  | 10YR5/3 に近い黄褐色土    | ローム粒多        | 炭化物少               |           |
| 3  | 10YR5/3 - 5/4 黄褐色土 | ローム混入        | 炭化物微量              |           |
| 4  | 10YR5/4 に近い黄褐色土    | ローム多         | 炭化物微量              |           |
| 5  | 10YR4/3 に近い黄褐色土    | ローム少         | 炭化物微量              |           |
| 6  | 10YR7/6 明黄褐色土      | ローム主体        | にがい黄褐色土少           |           |
| 7  | 10YR5/4 に近い黄褐色土    | ローム混入        | 炭化物微量              |           |
| 8  | 10YR4/2 灰黄褐色土      | ローム混多        | 炭化物微量              |           |
| 9  | 10YR4/2 灰黄褐色土      | 明黄褐色土混入      | ローム粒多              | 炭化物微量     |
| 10 | 10YR5/2 灰黄褐色土      | ローム粒少        | 炭化物微量              |           |
| 11 | 10YR5/2 灰黄褐色土      | ローム混入        | ローム粒多              | 炭化物微量     |
| 12 | 10YR7/6 明黄褐色土      | ローム主体        |                    |           |
| 13 | 2.5Y1/1 黄褐色土       | 黄褐色土混入       | ローム少               | 炭化物微量     |
| 14 | 10YR5/4 に近い黄褐色土    | ローム粒少        | 黄褐色土微量             |           |
| 15 | 10YR5/4 に近い黄褐色土    | ローム粒やや多      | 焼附土・炭化物微量          |           |
| 16 | 10YR7/6 明黄褐色土      | ローム主体        | にがい黄褐色土微量          |           |
| 17 | 10YR5/2 に近い黄褐色土    | 黄褐色土混入       | ローム粒・ブロックφ 2~15mm多 | 炭化物少      |
| 18 | 10YR5/2 に近い黄褐色土    | ローム粒φ 2~8mm少 | 炭化物多               |           |
| 19 | 10YR5/3 に近い黄褐色土    | 炭化物・焼附土少     |                    |           |
| 20 | 10YR1/2 に近い黄褐色土    | ローム少         | 炭化物微量              |           |
| 21 | 2.5Y5/2 黄褐色土       | 黄褐色土主体       | ローム粒・ブロックφ 2~12mm少 | 焼土粒・炭化物微量 |
| 22 | 2.5Y5/2 黄褐色土       | ロームブロック微量    | 焼附土粒微量             | 炭化物少      |
| 23 | 2.5Y5/2 黄褐色土       | ローム粒微量       | 焼附土粒微量             |           |

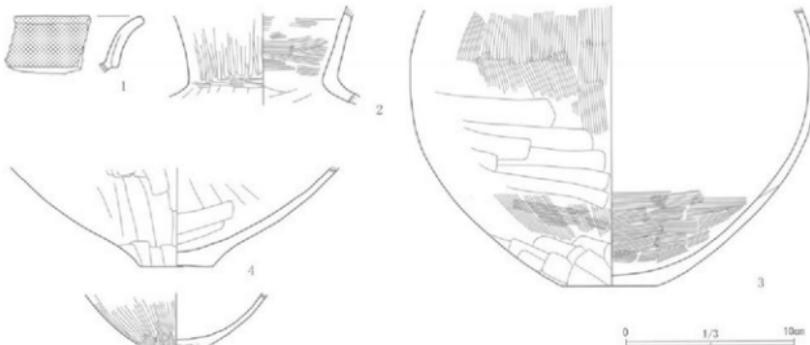
- CU72 5号住居跡 土層セクション
- |   |               |       |             |       |
|---|---------------|-------|-------------|-------|
| 1 | 7.5YR4/2 灰褐色土 | ローム少  | 焼土粒φ 2~5mm少 | 炭化物微量 |
| 2 | 7.5YR4/2 灰褐色土 | ローム混入 | 焼土粒・ブロック少   | 炭化物微量 |

第47図 5号住居跡 (2)

5号住居跡 (第46・47・48図, 図版25・26・95)

本住居跡はE3-3, 4, 8, 9グリッドに於いて検出された。4号住居跡に切られる。長軸は6.21m、短軸は6.19m、確認面下の掘り込みの深さは25cmで、覆土は8層である。平面は隅丸方形であり、硬化面は炉の周囲のみ検出された。周溝が明瞭に巡るが、東壁溝は部分的にしか見られない。柱穴はP3・5~7となり、柱穴の内側に北寄り南北に長い楕円形の炉が敷設されている。炉には南にごく浅い小ピットが付随する。長径183.6cm、短径93cm、深さ4.5cm以下で底面の凹凸は激しい。部分的に焼土が検出された。

遺物から古墳時代前期末の時期のものとして判断される。



第48図 5号住居跡出土遺物

表 24 5号住居跡遺物観察表

項目	住居	種類	形状	材質	長さ	幅	厚さ	観察の状況	観察の状況	用途	色調	出土	保存	備考
1	土師器	蓋	—	—	13.0	21.2	—	底面に凹凸、口縁部に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部の外面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	蓋	内外面 灰褐色	口縁部・底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部	口縁部内外面
2	No.1	土師器	蓋	—	—	13.0	21.2	口縁部は、底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部の外面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	蓋	内外面 灰褐色	口縁部・底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部	口縁部内外面
3	No.6-1	土師器	蓋	—	11.7	19.0	20.0	底面は平直で手取、口縁部は底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	底面は平直で手取、口縁部は底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	蓋	内面 7.590/6 外面 10185/42	底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部	口縁部内外面
4	土師器	蓋	—	8.2	14.9	—	—	底面は平直で手取、口縁部は底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	底面は平直で手取、口縁部は底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	蓋	内面 10184/28 外面 10183/42	底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部	口縁部内外面
5	No.18	土師器	高杯	—	—	13.0	18.2	口縁部は平直で手取、口縁部は底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部は平直で手取、口縁部は底面に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	高杯	内面 7.591/3 外面 10180/42	口縁部に付着した厚さ約1cmの灰土層が認められる。	口縁部	口縁部内外面

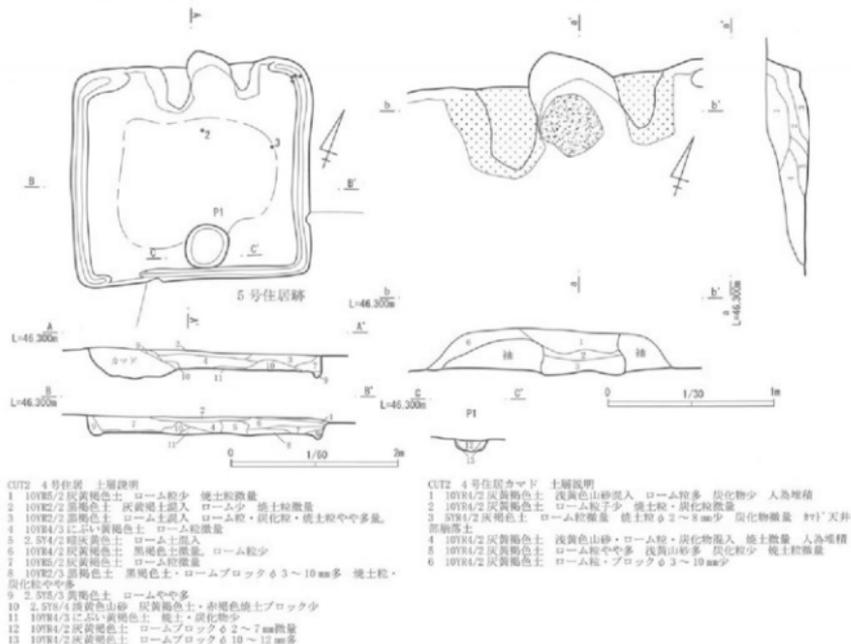
## 第3節 平安時代の遺構と遺物

## 1項 住居跡

## 4号住居跡 (第49・50図, 図版24・25・94)

本住居跡はE3-3グリッドに於いて検出された。5号住居跡を切る。長軸は2.60m、短軸は2.85m、確認面下の掘り込みの深さは16cmで、覆土は11層である。平面は方形であり、北壁のほぼ中央にカマドが付設されている。柱穴は出入りに当たるビットしか検出されていない。硬化面は住居中央に広く確認された。カマドは袖が遺存しており、床面も検出された。

遺物は須恵器5点(高台付盤・高台付杯・杯)が出土した。遺物の時期から遺構は9世紀前半と判断される。



第49図 4号住居跡



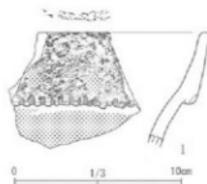
## 第2項 溝跡

### 1号溝跡

全長7.12m、幅35～71cm、深さ3～10cmである。遺物が出土していないため、遺構の時期は不明である。

## 第3項 遺構外遺物 (第53図、図版95)

確認面より弥生土器の赤彩の壺が出土している。



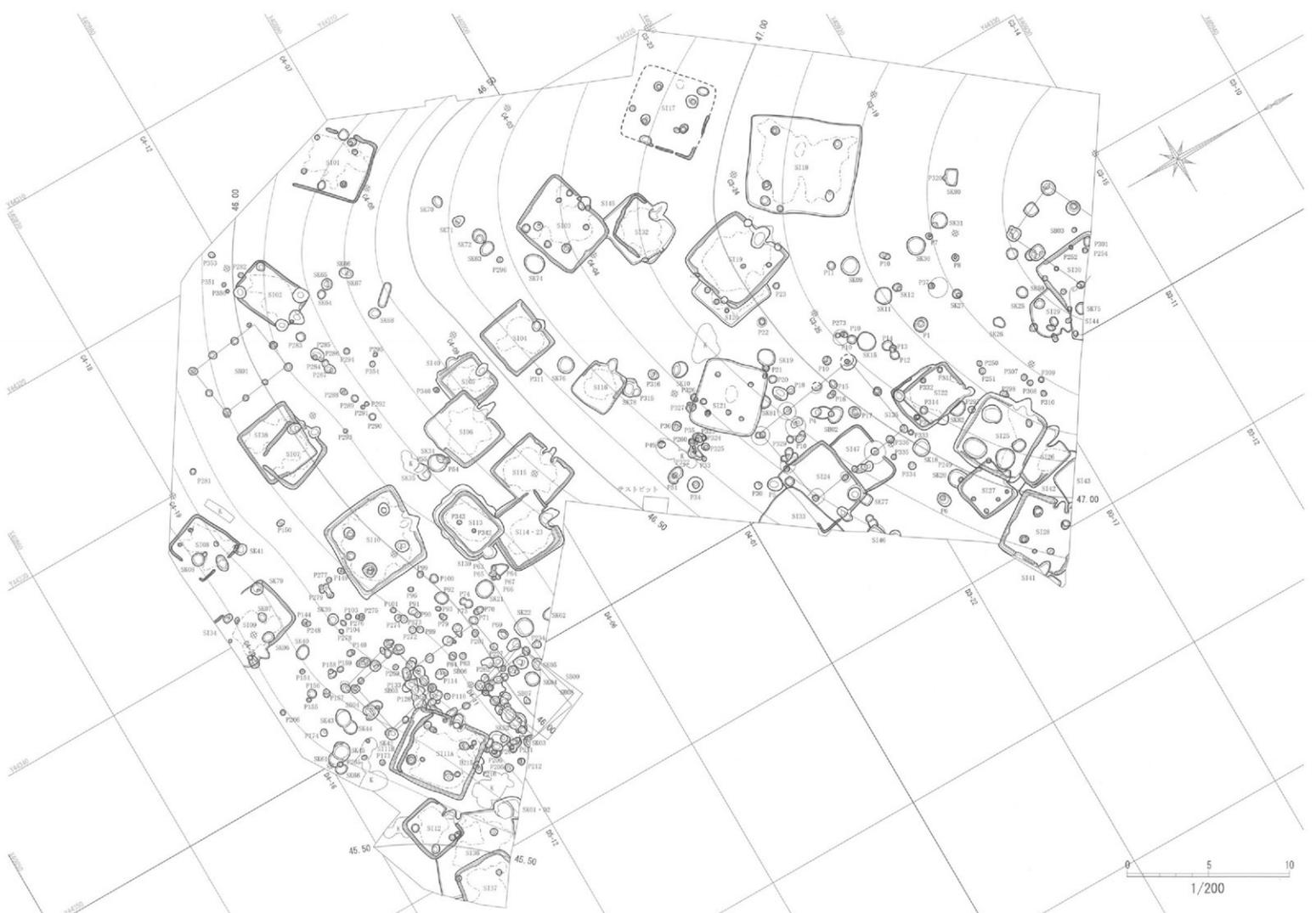
第53図 遺構外出土遺物

表27 CUT2 遺構外遺物観察表

遺物番号	日記	種類	器種	口徑	口径	器高	重量	器形の画像	器形の画像	出土	位置	備考
1		弥生式土器	壺	—	—	7.40	67.3	口縁部外縁は、弥生時代の壺と同等の部に縄目状跡が文字施えされている。弥生時代最終または、古墳時代初期の可能性が高い。		赤彩部分 土器(弥生時代) 口縁部、口 径7.40cm・高約	溝北側1号遺 構・口縁部付 神奈川遺	口縁部付 赤彩

## 第3章 まとめ

弥生時代の遺構は3号住居は十王台1式古段階の土器が出土した。弥生時代後期である。2号住居は十王台2式と五領式土器が共存する4世紀前半～中葉の遺構である。5号住居は古墳時代前期末である。4・6号住居は9世紀前半に属する。1号住居は遺物の出土が無く、時期が明確ではないが弥生～古墳時代にかけての住居と推測される。



## IV CUT5

### 第1章 遺跡の概要

本調査区域は遺跡の存在する舌状台地上にあり、調査区の標高は北側で47.8m、南側で45.5mを測り、台地上の安定した立地である。

検出された遺構は弥生時代の住居跡1軒、古墳時代の住居跡4軒、奈良・平安時代の住居跡39軒、掘立柱建物跡9棟、土坑49基、ピット139基であった。その他、遺物では縄文土器が少量ながら出土している。石器については縄文・弥生時代のものが出土した。

### 第2章 検出された遺構と遺物

#### 第1節 縄文時代の遺物

本区に於いて縄文時代の遺構は検出されていないが、土器・石器が出土している。

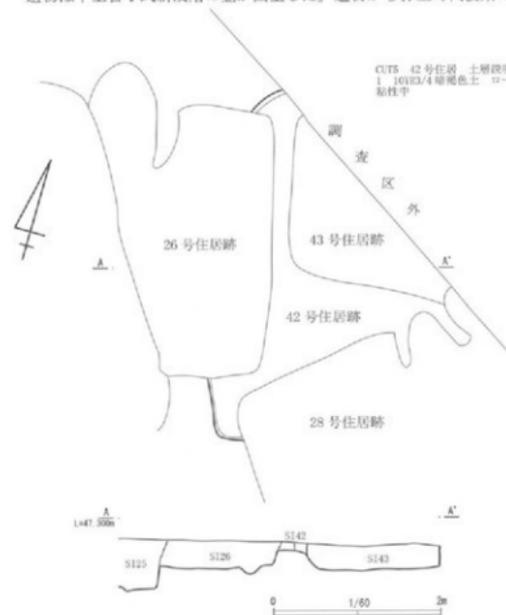
#### 第2節 弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構と遺物

##### 第1項 住居跡

##### 42号住居跡 (第55・56図、図版59・103)

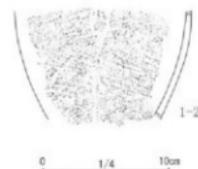
本遺構はD3-16グリッド、調査区北西端において検出された。26・28・43号住居跡に切られているため遺構の全容が不明である。確認面からの深さは約12cmと見られる。

遺物は十王台1式新段階の壺が出土した。遺物から弥生時代後期の遺構と考えられる。



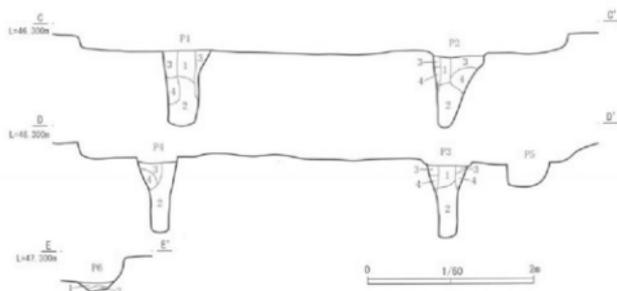
第55図 42号住居跡

CUT5 42号住居 土層説明  
1 10/33/4 凝褐色土 ローム粒φ1~3mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ1~3mm微量 しまり・粘柱土



第56図 42号住居跡出土遺物



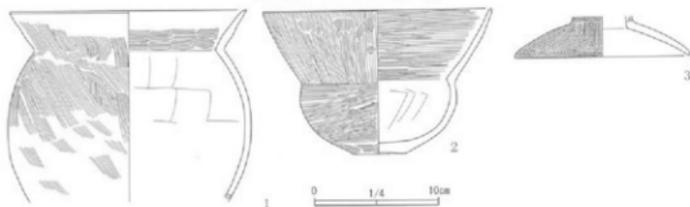


CUTS 18号住居 土層説明  
 住居を切る土層 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~5mm多 しまり・粘性中  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm少 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm少 しまり強 粘性中  
 2 10YR1/6に多い黄褐色土 ローム粒φ1~2mm多 ロームブロックφ3~10mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~10mm少 しまり・粘性強  
 3 7.5YR2/3暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~3mm多 炭化粒φ1~2mm中 しまり・粘性中  
 4 10YR1/6に多い黄褐色土 ローム粒φ1~2mm少 炭化粒微量 しまり・粘性強  
 5 10YR1/6に多い黄褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm少 炭化粒φ1~10mm微量 しまり・粘性中

CUTS 18号住居P1~4+6 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり中 粘性強  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒微量 炭化粒φ1~5mm微量 しまり中 粘性強  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多量 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒微量 しまり・粘性強  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~15mm少 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性強

CUTS 18号住居P8 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm多 炭化粒中 しまり強 粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm少 焼土粒φ1~2mm少 炭化物粒少 しまり・粘性中  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性強

第58図 18号住居跡(2)



第59図 18号住居跡出土遺物

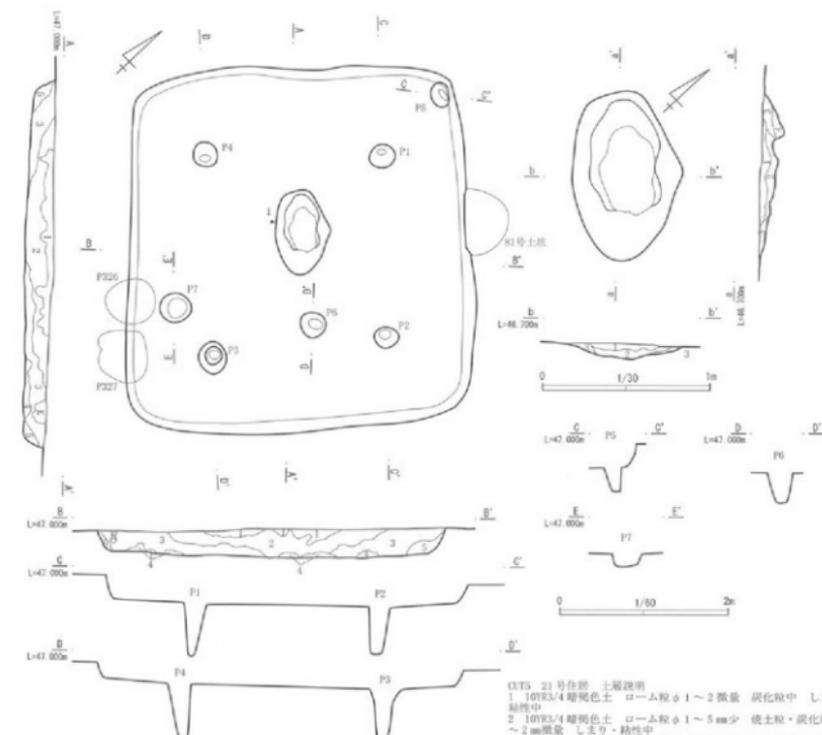
表29 18号住居跡遺物観察表

発見 層位	出所	種類	品名	形状	重量	発見の状況	発見の位置	測定	色相	粘土	備考
1	5c.2	土師器	盃	(18.7)	(13.3)	—	200.6	高野	10YR6/4L 10YR6/4C 10YR6/4C	口縁部・口縁部 厚・少量の中 やない、白色 非粘物質・粘 性石少量	口縁部・口縁部 厚・少量の中 やない、白色 非粘物質・粘 性石少量
2	層土	土師器	杯	(18.3)	31.7	4.2	190.4	高野 二木塚 成行	10YR6/4C 10YR6/4C 10YR6/4C	少量少量、口縁部 粘土子・黄砂 質	口縁部・口縁部 厚・少量の中 やない、白色 非粘物質・粘 性石少量
3	層土	土師器	高野	—	(3.2)	(13.4)	96.1	高野	10YR6/4C 10YR6/4C 10YR6/4C	少量少量、口縁部 粘土子・黄砂 質	口縁部・口縁部 厚・少量の中 やない、白色 非粘物質・粘 性石少量

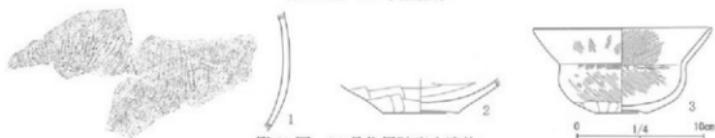
21号住居跡 (第60・61図, 図版46・47・100)

本遺構はC3-25グリッドにおいて検出された。81号土坑、P326・327に切られる。平面形は方形で長軸4.44m、短軸4.14m、主軸方位はN47°Wである。確認面からの深さは30cmで、覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を呈する。炉は中央に敷設され、楕円形の平面形で長径102cm、短径66cm、深さ9~15cmである。柱穴は4基確認され、ほぼ対称の位置に設けられている。周溝はなく、硬化面は確認されていない。

遺物は五願式土器で十玉台式並行段階直後、4世紀後半のもので、遺構もその時期と判断される。



第60図 21号住居跡



第61図 21号住居跡出土遺物

表30 21号住居跡遺物観察表

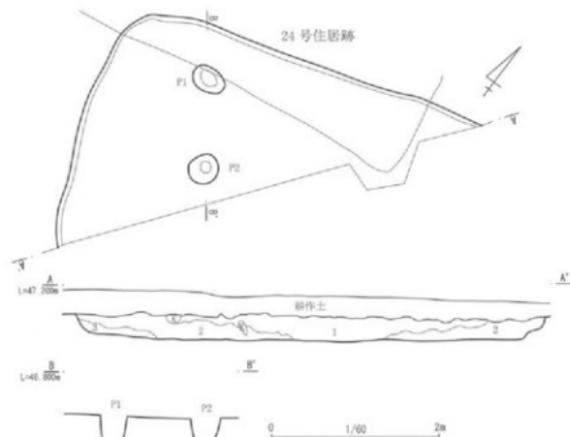
番号	状況	種類	形状	口縁	底径	高さ	重量	器内の特徴	器底の特徴	構成	色調	胎土	焼色	備考
1	No.1	土器器	皿	—	—	96.4	—	器中に内面から鉄粒の付着	外面は細毛目、内面はアツ黒	片持	内面 10YR3/4 外面 10YR3/4 胎土 粘性 赤い鉄粒 赤褐色 赤褐色 赤褐色	白色粘土中 赤褐色 赤褐色 赤褐色 赤褐色	表面は 赤褐色	
2		焼土	土器器	皿	—	47.0	63.6	表面は中々上層炭化粒の平流で、裏面下部は大きく窪く	外面はヘラマーク、内面はアツ黒	片持	内面 10YR3/4 赤い鉄粒	赤褐色 赤褐色 赤褐色 赤褐色	表面は 赤褐色	
3		焼土	土器器	杯	(13.4)	8.9	41.5	表面は水削で、煎りだしによる土質変質の平流。裏面は赤い鉄粒を呈し、裏面で見出した層が大きく窪く	外面は細毛目及び鉄粒の付着、裏面は細毛目とアツ黒、下部はヘラマークが認められる。内面はほとんど水削されている	片持	内面 10YR3/4 赤い鉄粒 赤褐色 赤褐色 赤褐色	白色粘土・黄褐色 赤褐色 赤褐色 赤褐色	表面は 赤褐色	

33号住居跡 (第62・63図, 図版55・102)

本遺構はC3-25、D3-21グリッドにおいて検出された。24号住居跡に切られる。南は調査区外になるため全容は不明である。平面形は方形と推測される。長軸(4.50)m、短軸(2.94)m、主軸方位はN 18° Wである。確認面からの深さは30cmで、覆土は3層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

炉・カマドは検出されなかった。ピットは2基確認されたが柱穴になりうるのか不明である。周溝はなく、硬化面は確認されていない。

遺物は高坏脚部を掲載した。その形態から5世紀代と考えられ、遺構もその時期と判断される。



CUTS 33号住居 土層説明  
 1 10YR2/1 黒褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm多 炭化粒φ1~2mm中 しまり・粘性中  
 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~4mm中 粘土粒φ1~2mm多 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性中  
 3 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性中

第62図 33号住居跡



第63図 33号住居跡出土遺物

表31 33号住居跡遺物観察表

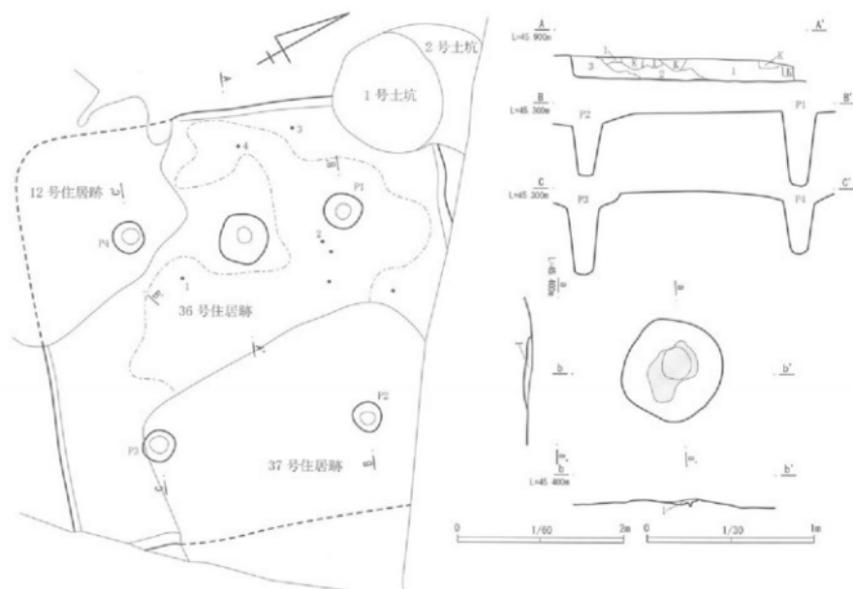
調査号	注記	種類	器種	口径	底径	高さ	重量	器底の形状	器底の表面	構成	状態	加工	保存	備考	
1		覆土	土間層	高平	—	(3.4)	—	204.3	器底は中厚部のみを有し、器底で認められず。器底は中厚部を有する。	内面は土質、内面は土質。内面は土質。内面は土質。	内面 10YR2/1 黒褐色土・黄褐色土 内面 7.5YR5/1 黄褐色土	器底・器底土質・黄褐色土・黄褐色土・黄褐色土・黄褐色土	器底土質・黄褐色土・黄褐色土・黄褐色土・黄褐色土		

36号住居跡 (第64・65図, 図版57・102)

本遺構はD4-11・12グリッド、調査区東端において検出された。12・37号住居跡、1・2号土坑に切られる。平面は方形と見られるが、遺存する長軸(5.22)m、短軸(4.80)m、主軸方位はN 68.5° Wである。確認面からの深さは24cmである。

炉は西の2基の柱穴の間に敷設され、平面形は円形で長径63cm、短径60cm、深さ4.5cmで、底面に焼土が分布する。柱穴は4基対称に配置されている。周溝はなく、硬化面は炉周辺に確認できた。

遺物は5世紀前〜中葉で、遺構もその時期と判断される。



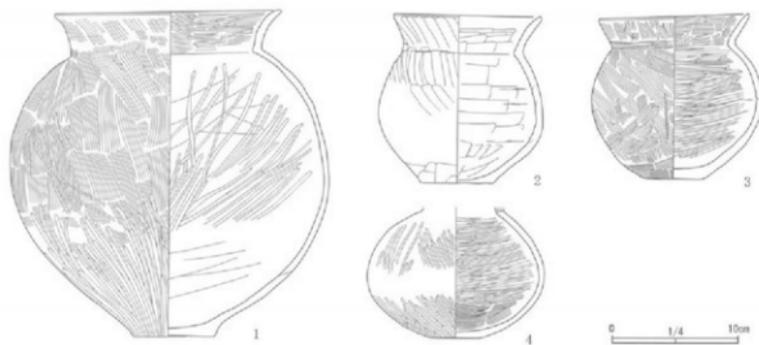
CUT5 36号住居 土層説明

- 1 10/E3/4 暗褐色土 ローム状  $\phi$  1~3mm少 粘土粒  $\phi$  1~7mm微量 炭化粒  $\phi$  1~3mm微量 しまり強・粘性中  
 2 10/E3/4 暗褐色土 ローム状  $\phi$  1~3mm中 粘土粒  $\phi$  1~3mm微量 炭化粒  $\phi$  1~2mm微量 しまり強・粘性中  
 3 10/E3/4 暗褐色土 ローム状  $\phi$  1~2mm中 ロームブロック  $\phi$  3~15mm微量 粘土粒  $\phi$  1~3mm微量 炭化粒  $\phi$  1~2mm微量 しまり強 粘性中

CUT5 36号住居F 土層説明

- 1 10/E3/3 暗褐色土 ローム状  $\phi$  1~2mm少 粘土粒  $\phi$  1~5mm多 炭化粒  $\phi$  1~2mm微量 しまり・粘性中

第64図 36号住居跡



第65図 36号住居跡出土遺物

表 32 36号住居跡遺物観察表

遺物	住居	種類	形状	寸法	数量	観察の概要	観察の概要	状況	位置	粘土	焼色	備考	
1	No. 3	土師器	甕	18.1	26.2	8.6	1004.5	甕口はほぼ円形に開き、甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	甕口はほぼ円形に開き、甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	良好	内面 下約1/4に白土・赤土の混在が認められる。内面 下約1/4に白土・赤土の混在が認められる。	白土・赤土の混在が認められる。白土・赤土の混在が認められる。	
2	No. 3	土師器	甕	13.7	13.6	5.9	604.4	甕口は平直。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	甕口はほぼ円形に開き、甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	良好	内面 約1/4に白土・赤土の混在が認められる。内面 約1/4に白土・赤土の混在が認められる。	白土・赤土の混在が認められる。白土・赤土の混在が認められる。	
3	No. 1	土師器	甕	13.7	13.2	4.5	492.9	甕口は平直。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	甕口はほぼ円形に開き、甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	良好	内面 約1/4に白土・赤土の混在が認められる。内面 約1/4に白土・赤土の混在が認められる。	白土・赤土の混在が認められる。白土・赤土の混在が認められる。	
4	No. 6	土師器	甕	—	10.6	4.6	433.6	甕口は平直で狭い。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	甕口はほぼ円形に開き、甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。甕底は浅く、口縁は「く」の字に折曲した後に直する。	良好	内面 約1/4に白土・赤土の混在が認められる。内面 約1/4に白土・赤土の混在が認められる。	白土・赤土の混在が認められる。白土・赤土の混在が認められる。	

## 第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

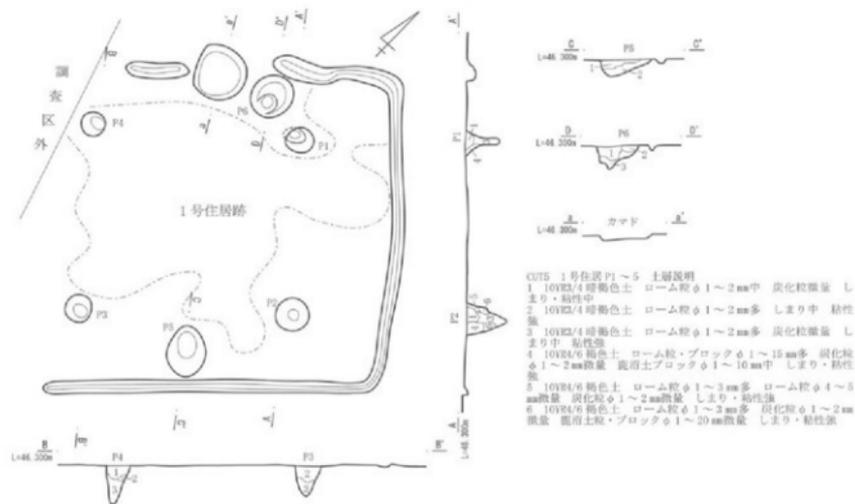
### 第1項 住居跡

#### 1号住居跡 (第66図, 図版30)

本遺構はC4-2,7グリッド、調査区南東端で検出された。

一部調査区壁に掛かるが、残存規模は長軸4.02m、短軸(4.62)m、主軸方位はN 42° Wを指す。住居壁が削平されており、確認面において既に周溝が検出される状況であった。よってカマドも掘方のみ検出された。周溝は東壁部分が調査区外となるがその他はカマド部分を除き確認された。柱穴は4基確認され、出入口ピットがカマドと対称の位置に検出された。またカマド右脇にピットが見られるが、その性格は不明である。

遺物は土師器片・縄が出土したのみで、掲載遺物はない。住居の形態から、奈良・平安時代の遺構と推測される。



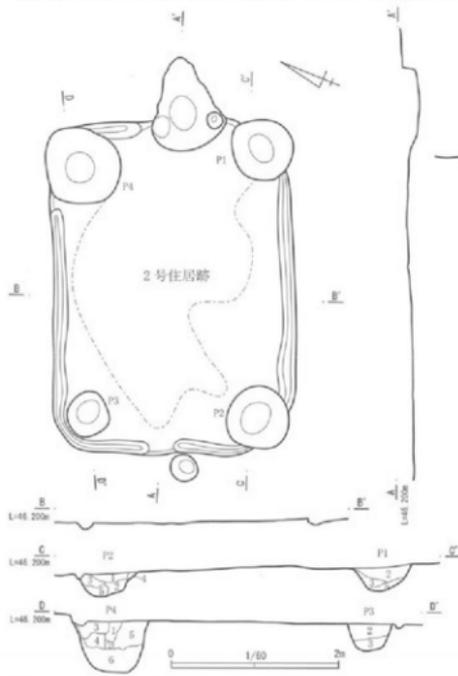
第66図 1号住居跡

2号住居跡 (第67・68図, 図版30・31・95)

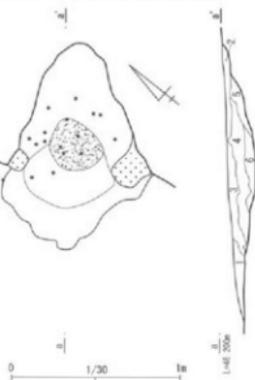
本遺構はC4-8グリッドにおいて検出された。平面形は主軸方位に長い長方形で、長軸4.08m、短軸2.94m、主軸方位N 66.5° Eである。遺構は削平されていたため、確認面ではすでに床面となっていた。

カマドは東壁中央に付設され、袖は基部のみが確認された。火床面が遺存する。主柱穴は4基であるが、他の住居と異なり住居の四隅に掘方を大きく穿つ形態を採る。硬化面は住居内に広く見られ、周溝はカマド・主柱穴を除き、ほぼ全周する。

遺物は内面黒色処理の坏などが出土しており、その編年から遺構も9世紀中頃と判断される。



- CUTS 2号住居カマド 土層説明
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm少 焼土粒・炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒少 しまり・粘性中
  - 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多量 ロームブロックφ20mm微量 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性強
  - 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 ロームブロックφ20mm微量 焼土粒φ1~3mm中 炭化粒φ1~3mm中 雲母粒微量 しまり強 粘性中
  - 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 ロームブロックφ15mm微量 焼土粒・ブロックφ1~10mm多 焼土ブロックφ100mm含む 炭化粒φ1~3mm中 雲母粒中 しまり強 粘性中
  - 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~10mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm中 炭化粒φ1~2mm少 雲母粒微量 しまり強 粘性中
  - 6 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒φ1~4mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性強



- CUTS 2号住居 土層説明
- 1 7.5YR2/2 黒褐色土 (シルト) ローム粒・ブロックφ~30mm少 炭化粒φ~3mm少 しまり中 粘性強
  - 2 7.5YR2/3 暗褐色土 (シルト) ローム粒・ブロックφ2~30mm多 炭化粒φ~3mm少 しまり・粘性強

- CUTS 2号住居ニベレーション 土層説明
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~4mm少 炭化粒φ1~5mm少 灰褐色粘土粒・ブロック1~10mm中 しまり強 粘性中
  - 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~4mm少 焼土粒φ1~5mm微量 炭化粒φ1~4mm微量 しまり・粘性中
  - 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 焼土粒・炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
  - 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒・炭化粒微量 しまり・粘性強
  - 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 ロームブロックφ3~15mm微量 炭化粒φ1~3mm少 しまり中 粘性強

- F-1
- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 炭化粒微量 しまり・粘性強
  - 2 10YR3/6 褐色土 ローム粒φ1~2mm多 炭化粒微量 しまり・粘性強
  - 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 炭化粒微量 しまり中 粘性強
  - 4 10YR3/4 暗褐色土 しまり中 粘性強
  - 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 炭化粒微量 しまり・粘性強
  - 6 10YR3/6 褐色土 ローム粒φ1~2mm多 炭化粒φ1~3mm微量 しまり中 粘性強

第67図 2号住居跡



第68図 2号住居跡出土遺物

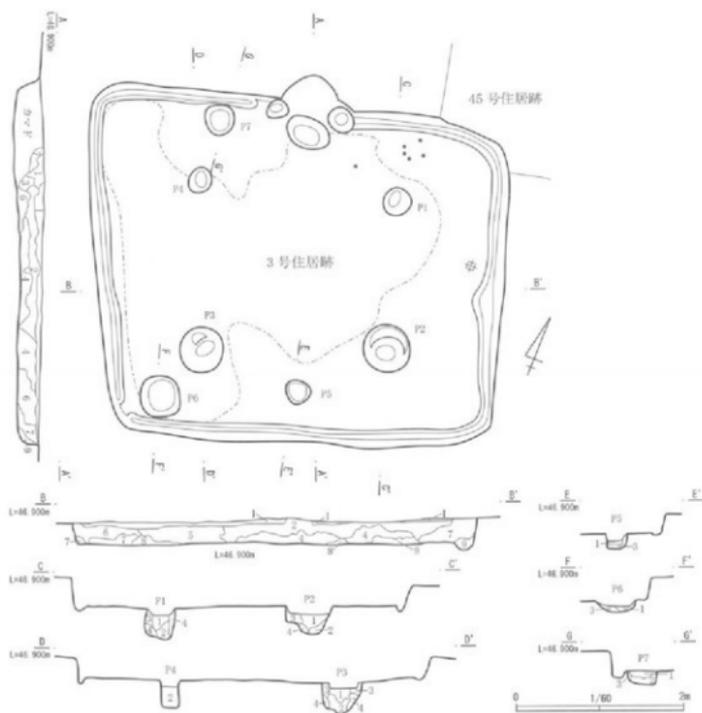
表 33 2号住居跡物観察表

建物番号	床記	種類	形状	寸法	高さ	断面	用途	壁跡の構造	壁跡の敷設	地味	柱石	柱石	地台	備考	
1	No.1	土壁跡	壁	(18.4)	(8.9)	—	113.0	断面の上部は直線で、下部は(7)の字に反し(1)の字に認められる。	1)土1)内面赤土に灰サテ、外面赤土にヘラツラサ、内面はサテ。	直柱 二重柱 直柱	円柱 1000×1000	黒色灰子・白土(1)の字 内面 1000×1000 外壁、白色砂子・灰サテ	1012~1013 1014	内面赤土に灰サテ	
2	P-3	土壁跡	壁	(13.7)	(4.7)	—	20.3	断面は直線を中心とし、上部は直線になっている。	ロームが粗粒、内面は上等な土で塗られている。	直柱	円柱 1000×1000	黒色灰子多量 内面 1000×1000 外壁、白色砂子・灰サテ	1014~1015	内面赤土に灰サテ	
3	P-1	土壁跡	高さ付 壁	—	(12.6)	(4.6)	113.4	断面は「7」の字に行き渡り、上部は下部より厚くなる。	ロームが粗粒、内面赤土に(7)の字になる。	直柱	円柱 1000×1000	黒色灰子・白土(1)の字 内面 1000×1000 外壁、白色砂子・灰サテ	1014~1015	内面赤土に灰サテ	

3号住居跡 (第69・70・71図, 図版32・95)

本遺構はC3-23・C4-3グリッドで検出された。45号住居跡を切る。平面形は主軸方位が狭い長方形で、長軸4.26m、短軸4.92m、主軸方位N17°Wである。確認面からの深さは30cmで、覆土は9層に分層される。

カマドの遺存状況は比較的良好で、袖はやや弧を描くように火床面・灰層を囲む。主柱穴は4基確認され、カマドと対称の位置に出入口ピットが配される。周溝はカマドを除き全周する。硬化面は住居中央と西壁付近で確認された。遺物は土師器壺・須恵器環が出土し、遺物から遺構は9世紀後半と判断される。



CUTS 3号住居 土層説明

- |   |            |                    |                         |                   |         |
|---|------------|--------------------|-------------------------|-------------------|---------|
| 1 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~2mm少        | 焼土粒微量 炭化粒微量             | しまり強              | 粘性中     |
| 2 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~3mm少        | 炭1粒φ1~4mm微量 炭化粒微量       | しまり・粘性中           |         |
| 3 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~3mm少        | 焼土粒φ1mm微量 炭化粒微量         | しまり・粘性中           |         |
| 4 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~3mm少        | 焼土粒・ブロックφ1~45mm微量       | 炭化粒φ1~2mm微量       | しまり・粘性中 |
| 5 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~3mm少        | ロームブロックφ1~20mm微量        | 焼土粒・炭化粒微量         | しまり・粘性中 |
| 6 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~3mm少        | 焼土粒φ1~2mm微量             | 炭化粒微量             | しまり・粘性中 |
| 7 | 1012/3時褐色土 | ローム粒・ブロックφ1~10mm微量 | 焼土粒微量 炭化粒・ブロックφ1~10mm微量 | しまり・粘性中           |         |
| 8 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~2mm少        | ロームブロックφ3~10mm微量        | 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 | しまり・粘性強 |
| 9 | 1012/3時褐色土 | ローム粒φ1~2mm多        | ローム粒φ3~4mm微量            | 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 | しまり強    |

第69図 3号住居跡(1)

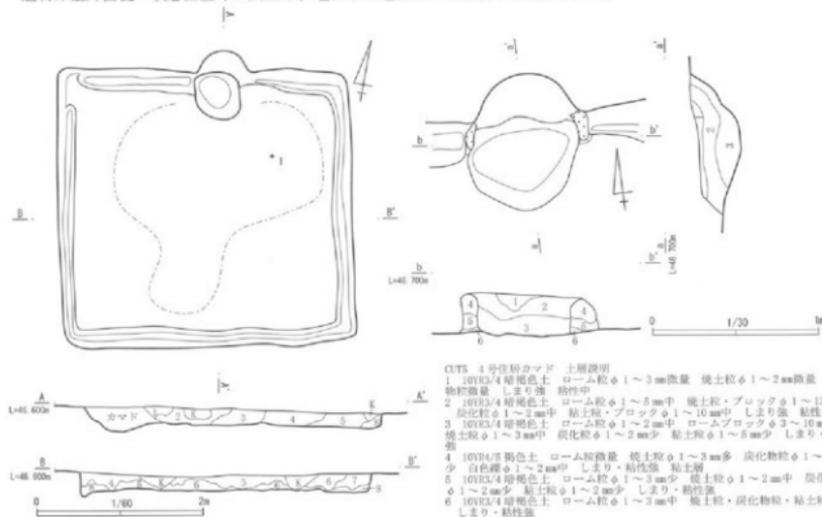


4号住居跡 (第72・73図, 図版31・32・96)

本遺構はC3-24グリッドで検出された。平面形は方形で、長軸3.42m、短軸3.54m、主軸方位N 11° Wである。確認面からの深さは18cmで、覆土は8層に分層される。

カマドの遺存状況は悪く、軸は基部が僅かに残る程度である。ピットは確認されなかった。溝槽はカマドと西隅を除き全周する。硬化面は住居中央と南壁中央壁付近で確認された。

遺物は土師器甕・須恵器蓋坏が出土し、遺物から遺構は8世紀後半と判断される。



- CUTS 4号住居カマド 土層説明
- 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化物粒微量 しまり強 粘性中
  - 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm中 焼土粒・ブロックφ1~13mm多 炭化粒φ1~2mm中 粘土粒・ブロックφ1~10mm中 しまり強 粘性中
  - 3 10Y3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~10mm多 焼土粒φ1~3mm中 炭化粒φ1~3mm少 しまり・粘性強
  - 4 10Y4/5褐色土 ローム粒微量 焼土粒φ1~3mm多 炭化物粒φ1~10mm少 白色粒φ1~2mm中 しまり・粘性強 粘土質
  - 5 10Y3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 焼土粒φ1~2mm中 炭化物粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~2mm少 しまり・粘性強
  - 6 10Y3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 焼土粒・炭化物粒・粘土粒微量 しまり・粘性強

CUTS 4号住居 土層説明

- 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ローム粒φ3~5mm微量 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~5mm少 雲母粒少 しまり中 粘性強
- 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~2mm中 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり強 粘性中
- 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~3mm少 しまり・粘性中
- 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ローム粒φ4~5mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~3mm微量 しまり・粘性中
- 5 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 ロームブロックφ4~10mm微量 焼土粒φ1~5mm微量 炭化粒・ブロックφ1~20mm中 しまり・粘性中
- 6 10YR2/3里褐色土 ローム粒φ1~2mm少 ロームブロックφ30~50mm微量 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~3mm中 雲母粒微量 しまり強 粘性中
- 7 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm少 焼土粒微量 炭化粒φ1~3mm少 しまり強 粘性中
- 8 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性強

第72図 4号住居跡

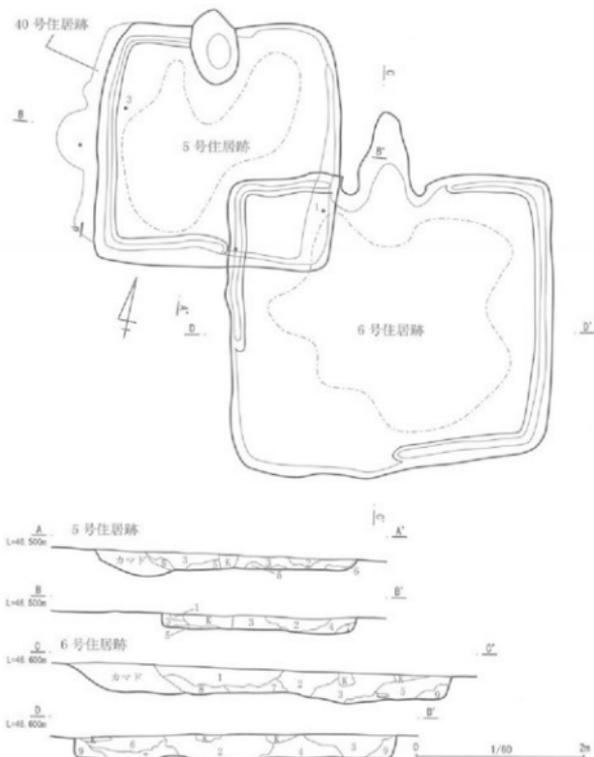


第73図 4号住居跡出土遺物

表35 4号住居跡遺物観察表

発見 番号	状況	種類	形状	寸法	検出 位置	方位	深さ	発見の状況	発見の場所	組成	色調	粘土	発見 層位	備考
1	No. 1	土師器	甕	17.0 (9.5)	—	402.7	—	掘削直前、10YR3/4の C3-24グリッドで 発見された。	10YR3/4暗褐色土に埋まらず、掘 削直前には10YR3/4のC3-24 グリッドで発見された。 外面は10YR3/4のC3-24 グリッドで発見された。 外面は10YR3/4のC3-24 グリッドで発見された。 外面は10YR3/4のC3-24 グリッドで発見された。	内面 10YR3/4 外面 10YR3/4 底 10YR3/4	白色粘土・黄 褐色粘土 雲母粒・ス ズリ少 白色炭化物粒 微量	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4
2	覆土	須恵器	坏	6.5(7) (3.3)	—	13.0	—	発見直前、10YR3/4の C3-24グリッドで 発見された。土層は 10YR3/4のC3-24グリ ッドで発見された。	10YR3/4暗褐色土	内面 10YR3/4 外面 10YR3/4 底 10YR3/4	白色粘土・黄 褐色粘土 雲母粒・ス ズリ少 白色炭化物粒 微量	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4	10YR3/4 10YR3/4 10YR3/4

5・6号住居跡



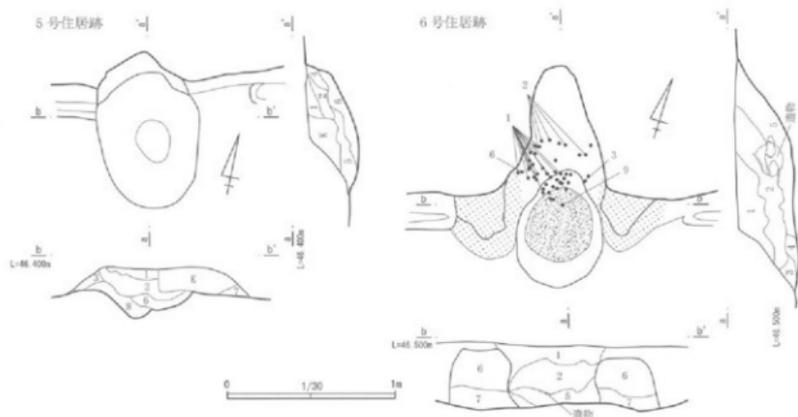
CX5 5号住居跡 土層説明

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 微量 粘土粒微量 しまり・粘性中
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック径  $\phi$  1 ~ 10mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 微量 しまり・粘性中
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック径  $\phi$  1 ~ 30mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 少 炭化粒微量 しまり・粘性中
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック径  $\phi$  1 ~ 15mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 微量 炭化粒微量 しまり・粘性中
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック径  $\phi$  1 ~ 10mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 微量 炭化粒微量 しまり・粘性中
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 多 しまり・粘性強
- 7 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 多 しまり・粘性強

CX5 6号住居跡 土層説明

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 5mm 中 粘土粒  $\phi$  1 ~ 3mm 微量 炭化粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 3mm 微量 しまり強 粘性中
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 4mm 多 粘土粒  $\phi$  1 ~ 3mm 少 炭化粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 微量 しまり強 粘性中
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 3mm 少 ロームブロック径 30mm 微量 粘土粒  $\phi$  1 ~ 5mm 少 炭化粒径  $\phi$  1 ~ 3mm 少 しまり強 粘性中
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 5mm 微量 炭化物  $\phi$  1 ~ 12mm 少 しまり・粘性中
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック径  $\phi$  1 ~ 10mm 中 粘土粒  $\phi$  1 ~ 4mm 少 炭化物  $\phi$  1 ~ 10mm 少 しまり強 粘性中
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 中 ローム粒径  $\phi$  3 ~ 4mm 微量 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 微量 炭化粒径  $\phi$  1 ~ 2mm 少 しまり強 粘性中
- 7 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒径・ブロック径  $\phi$  1 ~ 10mm 中 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 少 炭化物  $\phi$  1 ~ 10mm 中 しまり強 粘性中
- 8 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒径  $\phi$  1 ~ 4mm 少 粘土粒  $\phi$  1 ~ 3mm 微量 炭化粒径  $\phi$  1 ~ 5mm 中 粘土粒・ブロック径  $\phi$  1 ~ 25mm 多 しまり・粘性強
- 9 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック径  $\phi$  1 ~ 40mm 多 粘土粒  $\phi$  1 ~ 2mm 微量 炭化粒径  $\phi$  1 ~ 3mm 少 しまり・粘性強

第74図 5・6号住居跡 (1)



- CLT5 5号住居カマド 土層説明**
- 1 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~2mm微量 焼土粒φ 1~2mm微量 炭化粒φ 1mm程度 白色粒微量 しまり・粘性中
  - 2 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~3mm微量 焼土粒φ 1~2mm φ 6mm微量 炭化粒φ 1~2mm微量 白色粒微量 しまり・粘性中
  - 3 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~2mm中 焼土粒φ 1~2mm中 焼土粒φ 4mm微量 炭化粒φ 1~2mm微量 白色粒微量 しまり・粘性中
  - 4 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~3mm少 焼土粒φ 1~2mm微量 炭化粒φ 少量 白色粒微量 しまり・粘性中
  - 5 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~2mm少 焼土粒φ 1~4mm少 炭化粒φ 1~3mm微量 白色粒φ しまり・粘性中
  - 6 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~2mm中 焼土粒φ 1~2mm多 焼土粒φ 3~5mm微量 炭化粒φ 1~5mm微量 白色粒微量 しまり・粘性中
  - 7 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~2mm多 ロームブロックφ 3~10mm微量 焼ブロックφ 10mm微量 炭化粒φ 1~2mm微量 しまり・粘性中
  - 8 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~2mm多 焼土粒φ 1~5mm中 炭化粒φ 1~2mm微量 白色粒φ しまり・粘性中
- CLT5 6号住居カマド 土層説明**
- 1 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~4mm少 ロームブロックφ 5~6mm微量 焼土粒・炭化粒φ 1~2mm少 粘土粒少 しまり強 粘性中
  - 2 10VX2/3時褐色土 ローム粒φ 1~2mm少 ロームブロックφ 3~20mm量 焼土粒φ 1~3mm中 炭化粒φ 1~3mm中 粘土粒・ブロックφ 1~10mm多 しまり・粘性強
  - 3 10VX2/4時褐色土 ローム粒φ 1~3mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ 1~2mm微量 しまり・粘性中
  - 4 10VX2/4時褐色土 ローム粒φ 1~5mm少 焼土粒・炭化粒φ 1~2mm微量 粘土粒微量 しまり強 粘性中
  - 5 10VX2/4時褐色土 ローム粒φ 1~8mm中 焼土粒・ブロックφ 1~20mm多 炭化物粒φ 1~10mm多 粘土粒φ 1~5mm中 しまり強 粘性中
  - 6 10VX2/4時褐色土 焼土粒φ 1~3mm中 炭化粒φ 1~10mm少 しまり・粘性強 粘土層
  - 7 10VX2/4時褐色土 ローム粒φ 1~4mm中 焼土粒少 炭化粒φ 1~3mm少 焼土層 しまり・粘性強

第75図 5・6号住居跡 (2)

5号住居跡 (第74・75・76図, 図版32・33・96)

本遺構はC4-9グリッドにおいて検出された。6号住居跡に切られ、40号住居跡を切る。平面形は方形で、長短軸2.88m、主軸方位N10°Wである。確認面からの深さは18cmで覆土は9層に分層される。

カマドは北壁中央に付設されているが、遺存状況が悪く、掘り方のみ確認された。ピットは確認されなかった。硬化面は住居内に広く見られるが、周溝は6・40号住居跡に影響されない範囲では検出された。

遺物は内面黒色処理の環・須恵器環・磁石が出土している。遺物から遺構も8世紀後半と判断される。



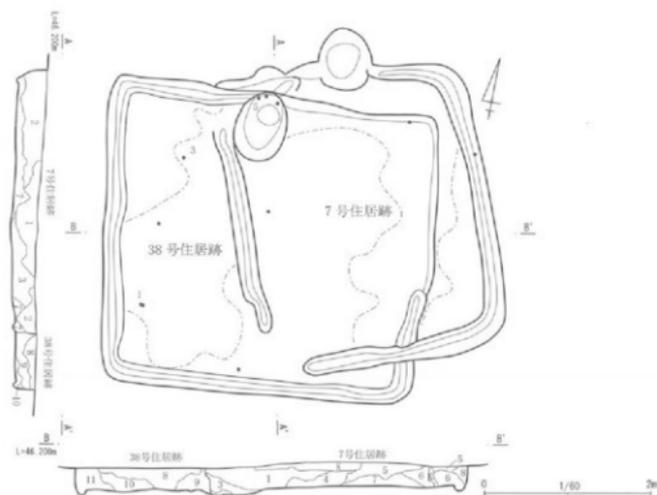
第76図 5号住居跡出土遺物

表36 5号住居跡遺物観察表

番号	注記	種類	形状	寸法	重量	高さ	重量	産地の特徴	産地の特徴	用途	色調	粘土	保存	備考
1	So. 1	土器環	円	13.5	6.4	8.3	336.9	表面は1/4程度凹凸があり、断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。	断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。	良好 二次焼成 内面	内面 10V15K 外面 土層10K	灰青・赤褐色 白色粒中中 多量・白色粒 粒状物微量	良好	10V15K 10V15K
2	埋土	磁器環	円	—	11.9	12.8	23.7	表面は平滑で、断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。	断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。	良好 二次焼成	内面 10V15K 外面 土層10K	灰青・赤褐色 白色粒中中 多量・白色粒 粒状物微量	良好	10V15K 10V15K
3	So. 4	石製土	環	10.5	8.1	9.5	244.2	断面は平滑で、断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。	断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。断面下部は凹凸が顕著で、内面は平滑である。	良好 二次焼成	内面 10V15K 外面 土層10K	灰青・赤褐色 白色粒中中 多量・白色粒 粒状物微量	良好	10V15K 10V15K



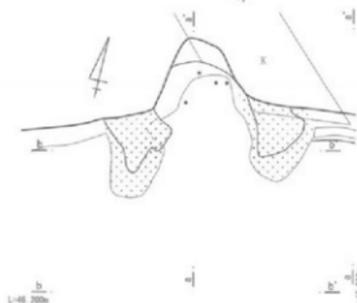




CUTS 7・38号住居 土層説明

土層説明 (7号住)

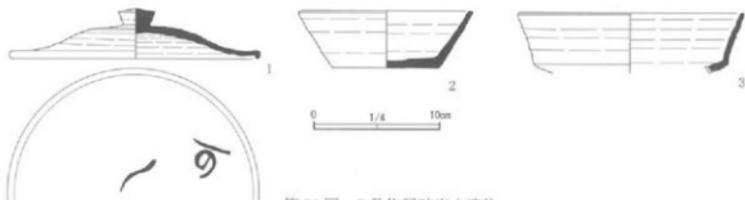
- 1 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 炭化粒・ブロックφ1~30mm散量 焼土粒・ブロックφ1~30mm散量 しまり強 粘性中
- 2 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 炭化粒・ブロックφ1~20mm少 焼土粒φ1~2mm散量 しまり強 粘性中
- 3 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 ロームブロックφ5~30mm少 炭化粒・ブロックφ1~40mm中 焼土粒φ1~3mm少 しまり強 粘性中
- 4 10YR2/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 炭化粒φ1~3mm散量 しまり・粘性中
- 5 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 ロームブロックφ3~10mm少 炭化粒φ1~2mm散量 しまり強 粘性中
- 6 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 ロームブロックφ5~10mm散量 炭化粒φ1~3mm少 しまり強 粘性中
- 7 10YR2/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ2~3mm散量 しまり強 粘性中
- a 10YR2/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~40mm多 しまり強 粘性中
- 8 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 炭化粒φ1~3mm散量 焼土粒φ1~2mm散量 しまり・粘性中
- 9 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 炭化粒・ブロックφ1~20mm散量 焼土粒・ブロックφ1~20mm散量 しまり・粘性中
- 10 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 炭化粒・ブロックφ1~10mm多 しまり・粘性中
- 11 10YR2/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 炭化粒φ1~5mm中 しまり・粘性中
- b 10YR2/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~20mm多 しまり強 粘性中



CUTS 7号住居カマド 土層説明

- 1 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 炭化粒・ブロックφ1~20mm少 焼土粒φ1~2mm散量 しまり強 粘性中
- 2 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 向心・ブロックφ1~2mm散量 焼土粒φ1~2mm散量 しまり強 粘性中
- 3 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 向心・ブロックφ1~2mm散量 褐色粘土粒φ1~2mm中 しまり・粘性中
- 4 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散量 焼土粒φ1~2mm散量 褐色粘土粒φ1~10mm中 しまり・粘性中
- 5 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒φ1~2mm散量 褐色粘土粒φ1~20mm多 しまり・粘性中
- 6 10YR2/4暗褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1~2mm多 焼土粒φ1~2mm散量 しまり・粘性中
- 7 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒φ1~10mm中 炭化粒φ1~2mm散量 褐色粘土粒φ1~2mm散量 しまり・粘性中
- 8 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm散量 しまり・粘性中
- 9 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散量 焼土粒φ1~3mm中 炭化粒φ1~2mm散量 白色線φ1~2mm中 しまり・粘性強 粘土層
- 10 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散量 焼土粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ1~5mm散量 白色線φ1~2mm中 しまり・粘性強 粘土層
- 11 10YR2/4暗褐色土 ローム粒散量 焼土粒φ1~5mm多 炭化粒φ1~2mm散量 白色線φ1~2mm多 しまり・粘性強 粘土層
- 12 10YR2/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm少 焼土粒散量 炭化粒φ1~2mm散量 白色線φ1~2mm中 しまり・粘性強 粘土層

第79図 7・38号住居跡



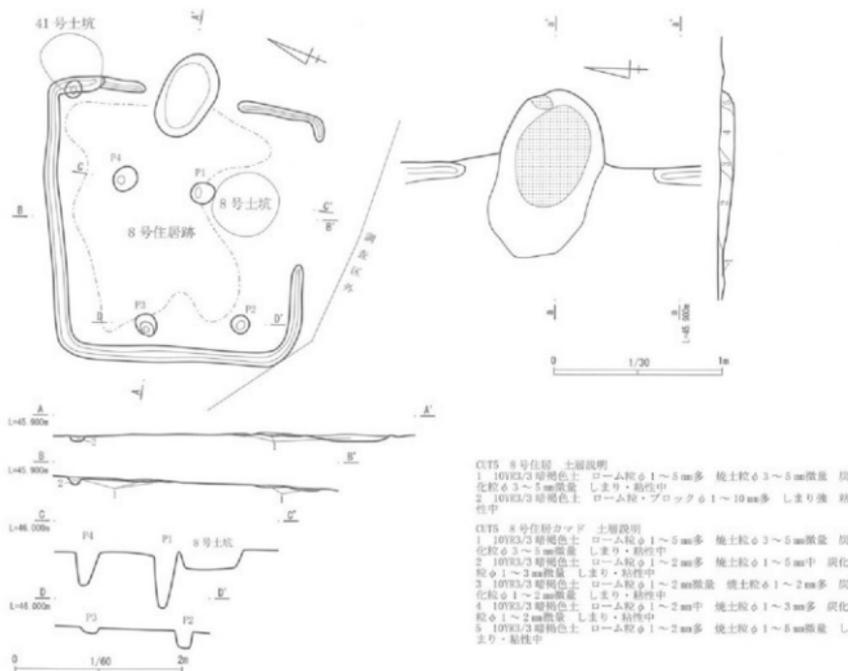
第80図 7号住居跡出土遺物



本遺構はC4-14・19グリッドにおいて検出された。8・41号土坑に切られる。平面形は東壁が傾斜するものの概ね方形で、長軸3.42m、短軸3.12m、主軸方位N 67° Eである。住居壁はほとんど削平されている。

カマドは底面のみ検出され、火床面が確認された。主柱穴は4基確認されたが、配置に歪みがある。周溝はカマドと南壁の一部を除き全周する。硬化面は住居内に広がる。

遺物は土師器・須恵器の小片が出土したが、内面黒色処理の坏を掲載した。遺物から遺構は9世紀前半と判断される。



第82図 8号住居跡



第83図 8号住居跡出土遺物

表41 8号住居跡遺物観察表

番号	品名	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	取付の位置	取付の向き	構成	色調	胎土	形状	備考
1	甕土	土師器	片	12.1	5.8	6.3	71.7	取付の縁より傾きは約1/4、内面はほぼ水平で内面は黒色処理が認められる。	口縁の傾斜、底面はほぼ水平で、内面はほぼ水平で内面は黒色処理が認められる。	片持	内面 10YR3/2 暗褐色土 外面 2.0YR3/2 赤土	内面黒色・底面・内側の赤土	口縁1/4・内面黒色処理	

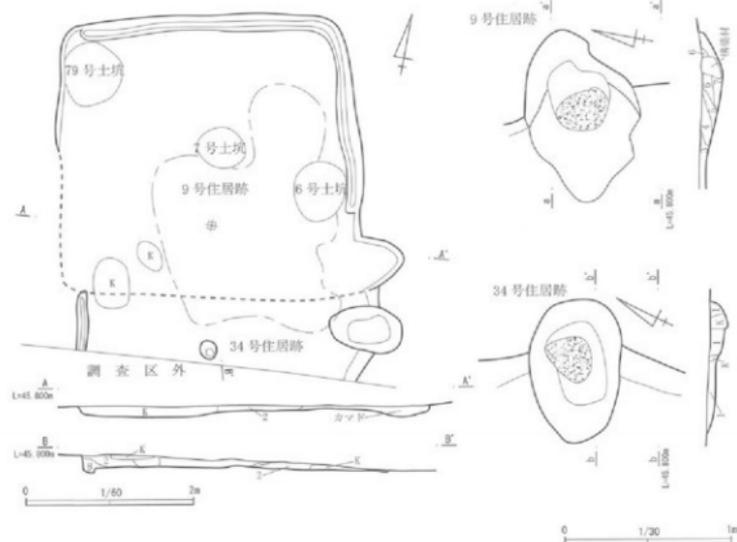


図25 9号住居・カマド 土層説明

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~4mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒微量 しまり・粘性中
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~2mm中 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒少 しまり・粘性中
- 5 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm少 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm少 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 7 10YR/4 褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒微量 しまり強 粘性中
- 8 10YR/4 褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒微量 炭化粒微量 しまり強 粘性中

図26 34号住居カマド 土層説明

- 1 10YR/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm中 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm少 雲母粒少 しまり中 粘性強

### 第84図 9・34号住居跡

#### 9号住居跡 (第84・85図, 図版35・36・96)

本遺構はC4-14・15・19・20グリッドにおいて検出された。遺構の検出の状況から34号住居跡を切ると推測される。6・7・79号土坑に切られる。平面形は方形と考えられ、長軸3.72m、短軸(3.42)m、主軸方位N80°Eである。確認面からの深さは12cmで、覆土は3層に分層される。

カマドは東壁南隅に付設されるが底面のみ遺存し、火床面が検出された。硬化面はカマド前と住居東部に偏在している、周溝は北・東壁に確認された。

遺物は土師器環類で、遺物から遺構も9世紀後半と判断される。



第85図 9号住居跡出土遺物

表42 9号住居跡遺物観察表

調査番号	品名	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	発見の状況	発見の位置	調査	色調	胎土	保存	備考
1	917	土師器	環	—	(8.9)	(8.9)	12.2	調査(掘削)して土師器環の中心部、見出し(2.5cm)。	カマド前縁、炭化土層直下層にあり。	点検	内面黒 10YR/4 外面黒	炭化粒子少 炭、雲母・白土粒子微量。	図版3/4	内蔵国立博物館
2	918	土師器	環	—	(2.2)	(2.3)	16.9	調査(掘削)してカマド前縁直下層にあり。調査(掘削)して土師器環の中心部、見出し(2.5cm)。	カマド前縁、炭化土層直下層にあり。調査(掘削)して土師器環の中心部、見出し(2.5cm)。	点検	内面 10YR/4 外面 10YR/4	炭化粒子少 炭、雲母・白土粒子微量。	図版3/4	内蔵国立博物館

34号住居跡 (第84図, 図版56)

本遺構はC4-9・20グリッドにおいて検出された。遺構の検出の状況から9号住居跡に切られると推測され、また南部が調査区外になるため、平面形は不明だが、長軸3.60m、短軸(0.72)m、主軸方位N 80° Eである。確認面では既に床面が検出され、覆土は3層に分層される。

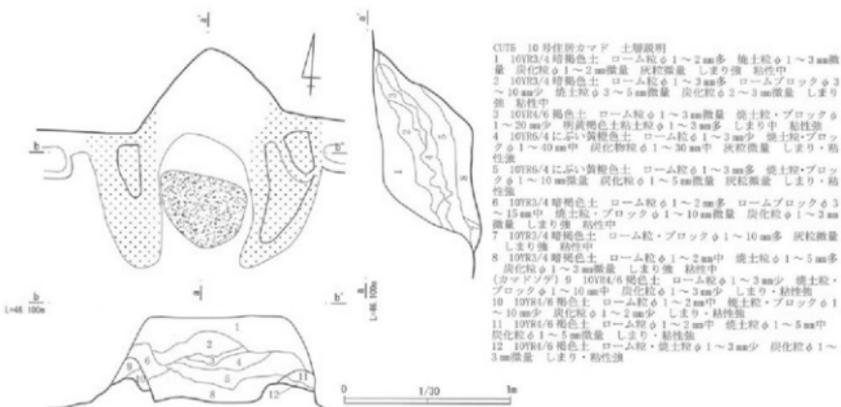
カマドは東壁に付設されるが底面のみ遺存し、火床面が検出された。硬化面はカマド前と住居東部に偏在している、周溝は北・東壁に確認された。

遺物は土師器・須恵器の小片が出土しているが、時期は不明である。遺構は奈良・平安時代と考えられ、重複遺構の年代から下限は9世紀後半である。

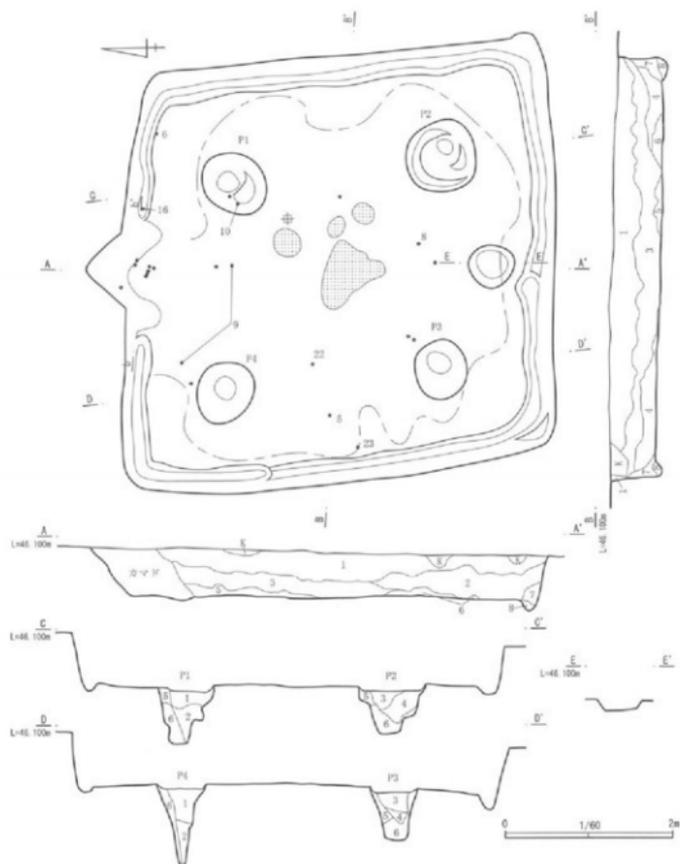
10号住居跡 (第86・87・88図, 図版37・97)

本遺構はC4-9・10・14・15グリッドにおいて検出された。平面形は方形で、長軸5.16m、短軸5.22m、主軸方位N 3° Wである。確認面からの深さは54cmで遺存状態は良好である。覆土は8層に分層され自然堆積の様相を呈する。カマドは北壁中央に付設され袖は丸味を持ち、火床面を囲む。主柱穴は4基確認され、掘方は比較的大きい。他に出入口ピットがカマドと対称の位置に検出された。硬化面は住居内に広く確認され、中央には焼土が分布している。周溝はカマドを除き全周する。

遺物は土師器壺・坏、須恵器壺・瓶・蓋・坏・高台付盤などで、本遺跡の当該期の遺構の中では良好な遺物群である。遺物から遺構は8世紀後半と判断される。なお土師器坏(4)は底部外面に墨書がなされるが、釈読は出来ない。この土器については覆土中からの出土であり、土器の特徴から9世紀後半～10世紀の時期と考えられ、遺構発掘後の混入の可能性が高い。



第86図 10号住居跡(1)



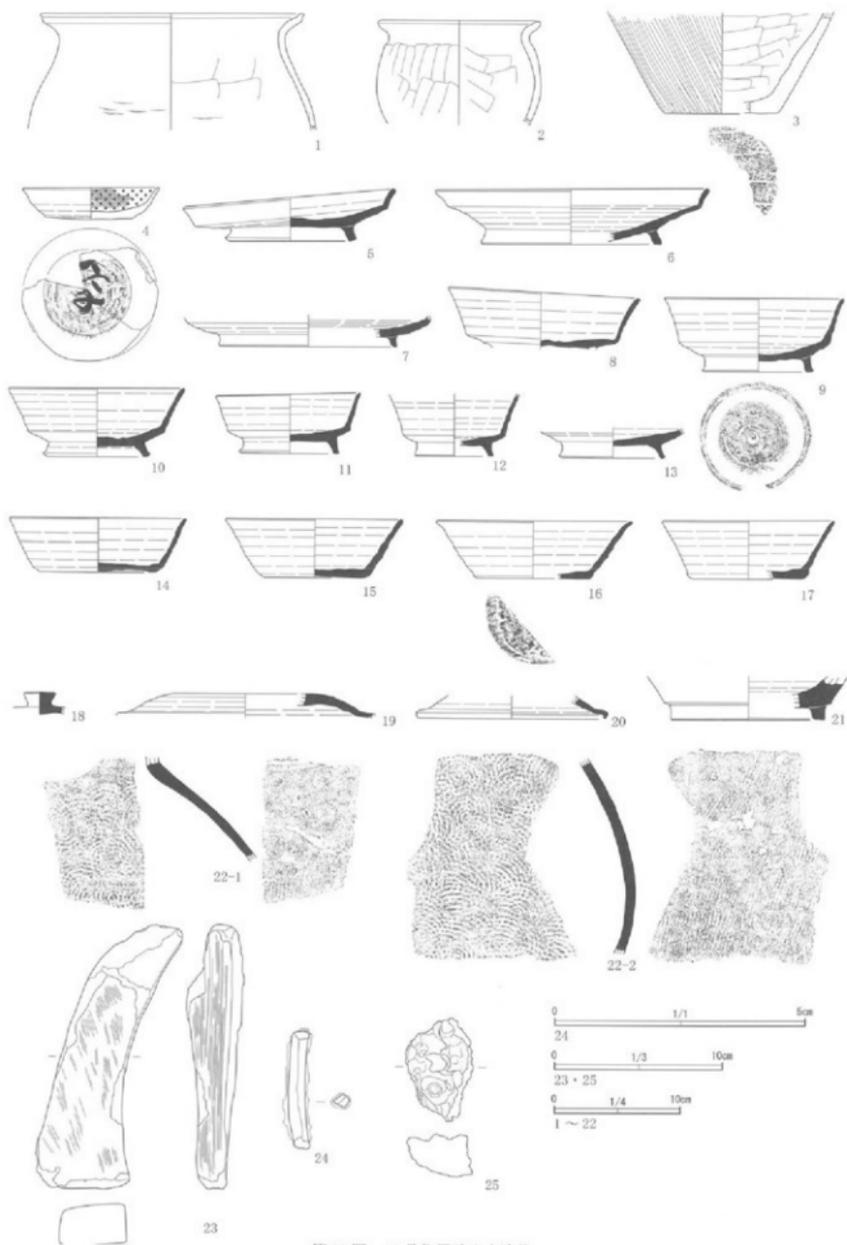
CUTS 10号住居 土層説明

- 1 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~10mm微量 焼土粒φ1~5mm微量 炭化粒φ1~5mm微量 しまり・粘性中
- 2 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~10mm少 焼土粒φ1~5mm微量 炭化粒φ1~5mm少 しまり・粘性中
- 3 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm中 ロームブロックφ6~15mm少 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性中
- 4 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~10mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり中 粘性強
- 5 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 ロームブロックφ3~10mm微量 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~20mm少 炭化粒・ブロックφ1~10mm多 しまり・粘性強
- 6 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~4mm多 ロームブロックφ5~20mm少 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 炭褐色粘土粒φ1~2mm中 しまり・粘性強
- 7 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 ロームブロックφ3~10mm微量 焼土粒・炭化粒微量 しまり・粘性中
- 8 10YK3/3 暗褐色土 ローム粒中・ロームブロックφ1~2mmやや多量・φ3~4mm少量含む。焼土粒子ごく微量。炭化粒子ごく微量。ややしるる。やや粘性あり。

CUTS 10号住居 P1~P4 土層説明

- 1 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~20mm中 焼土粒φ1~5mm少 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性強
- 2 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少量 ロームブロックφ3~30mm微量 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
- 3 7.5YR2/3 極暗褐色土 ローム粒φ1~2mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性中
- 4 7.5YR2/3 極暗褐色土 ローム粒φ1~5mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性中
- 5 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~8mm中 焼土粒微量 炭化粒微量 しまり・粘性強
- 6 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~30mm中 焼土粒・ブロックφ1~30mm中 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性強

第 87 図 10号住居跡 (2)



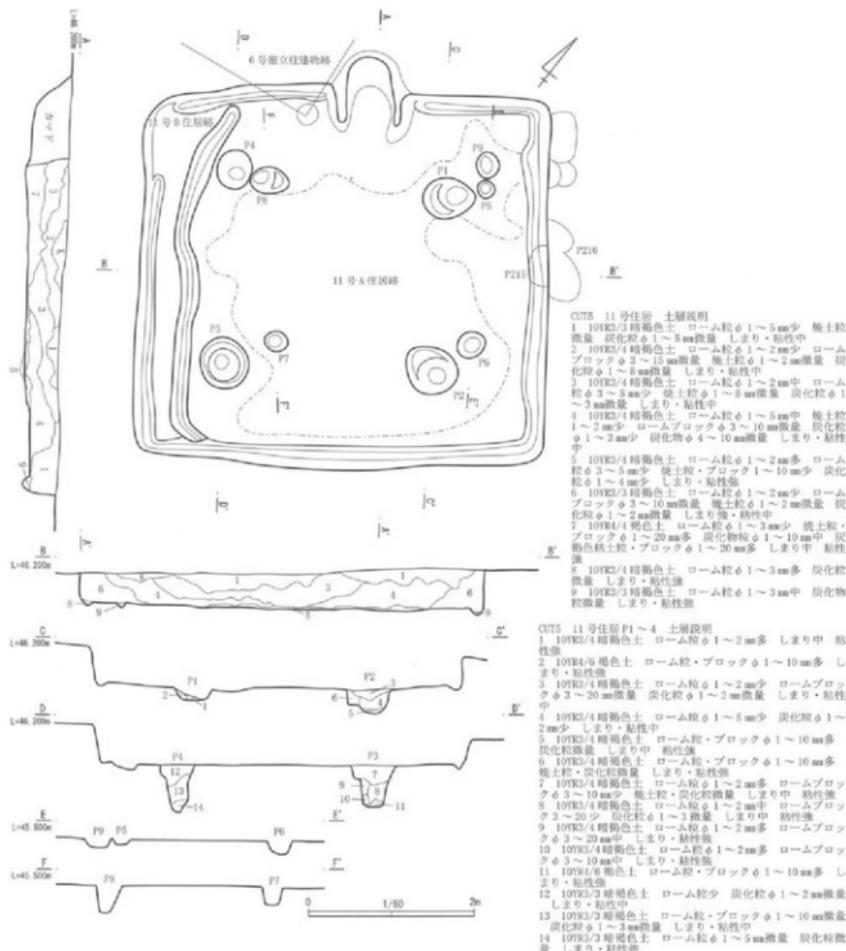
第 88 图 10 号住居跡出土遺物



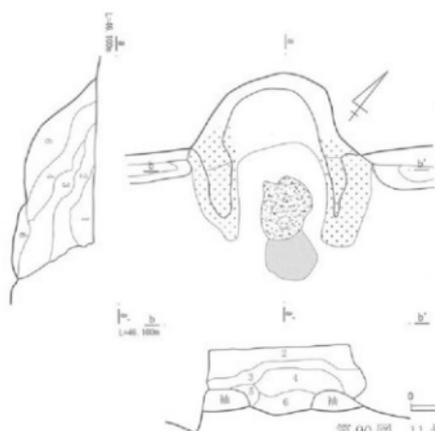
本遺構はD4-16グリッドにおいて検出された。6号孤立柱建物跡、P215・216に切られる。平面形は方形で、両住居跡とも長軸47.4m、A住居跡が短軸4.44m、B住居跡が短軸4.98m、主軸方位N 36.5° Wである。確認面からの深さは42cmで遺存状態は良好である。覆土は9層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され軸はやや直線的に伸びた後、やや内へと入る。内部では火床面と灰層が検出された。主柱穴はその位置からA住居がP5～9、B住居がP1～4と考えられる。硬化面は住居内に広く確認された。周溝はカマドとB住居の西隅を除き全周する。両遺構はA住居からB住居に東南壁を拡張したものと考えられる。

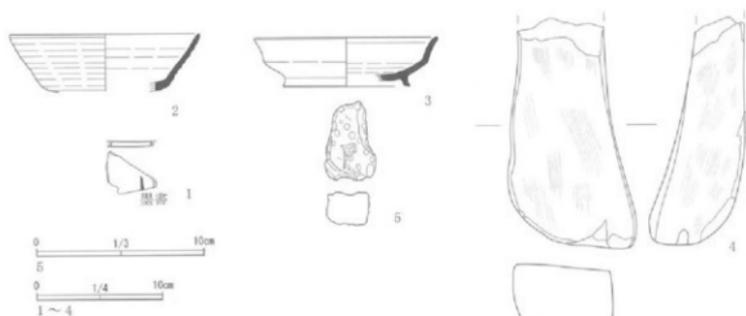
遺物は体部外面に墨書された土師器片、須恵器坏類、磁石である。遺物から8世紀後半と判断される。



第89図 11号住居跡(1)



第90図 11号住居跡(2)



第91図 11号住居跡出土遺物

表 44 11号住居跡遺物観察表

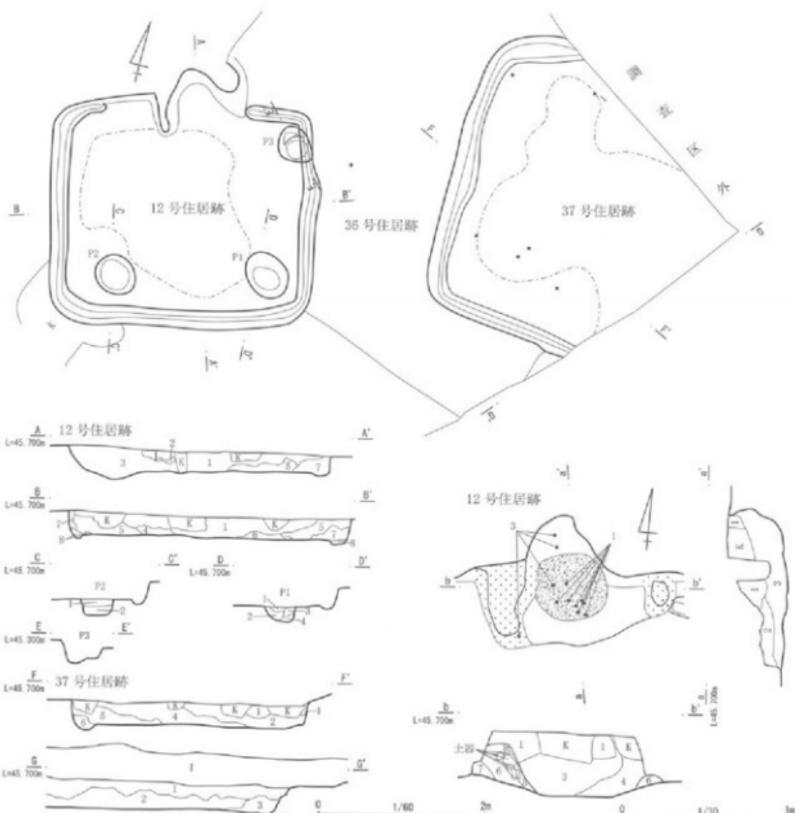
調査番号	位置	種類	形状	寸法	重量	製法の特徴	装飾の特徴	用途	器種	加工	保存	備考
1	覆土	土層面	形	—	—	面下に内溝する。	内外面共に十字彫筋。	良好	内面 190mm×420mm 外面 下190mm×60mm	白色粘土・灰 赤土質 自然乾燥 装飾物付無し	破断片	表面外面装飾無し
2	覆土	磁器片	形	14.10	14.40	—	—	良好	内外面 170mm×100mm	黄色粘土・灰 赤土質	1/4破断片	—
3	覆土	磁器片	楕円台形	14.30	14.40	99	41.2	良好	内外面 下140mm×140mm	白色粘土・灰 赤土質 自然乾燥 装飾物付無し	1/4破断片	—
4	覆土	石製品	楕円	89.3	85.9	147.3	196.8	—	—	—	—	—
5	覆土	石製品	楕円台形	64.25	62.9	147.3	15.9	5.8	—	—	—	—

12号住居跡 (第92・93図, 図版38・39・98)

本遺構はD4-11グリッドにおいて検出された。36号住居跡を切る。平面形は方形で、長軸2.88m、短軸3.18m、主軸方位N15°Wである。確認面からの深さは28cmである。覆土は8層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され、左軸はやや直線的に伸び、火床面を囲む。右軸はほとんど遺存していない。ピットは3基見られるが、柱穴となるかは不明である。硬化面は住居内に広く確認された。周溝はカマドを除き、ほぼ全周する。

遺物は土師器甕、須恵器坏が出土し、遺物から遺構は9世紀前半と判断される。



CIS 12号住居 土層説明

- 1 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ローム粒φ3~4mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~3mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 2 10YR2/3 に近い黄褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~2mm中 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒多 しまり・粘性中
- 3 10YR2/3 に近い黄褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒中 しまり・粘性中
- 4 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒φ1~2mm中 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 5 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 6 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 7 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ローム粒φ3~5mm少 ロームブロックφ20mm 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 8 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ローム粒・ブロックφ3~10mm微量 炭化粒・雲母粒微量 しまり・粘性中

CIS 12号住居カマド 土層説明

- 1 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ1~2mm少 灰褐色粘土粒φ1~3mm多 しまり中 粘性強
- 2 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ1~2mm中 灰褐色粘土粒φ1~3mm多 しまり中 粘性強
- 3 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ1~2mm中 灰褐色粘土粒φ1~3mm多 しまり中 粘性強
- 4 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ1~2mm中 灰褐色粘土粒φ1~3mm多 しまり中 粘性強
- 5 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒多 炭化粒φ1~5mm少 炭化粒φ1~2mm少 灰褐色粘土粒微量 しまり・粘性強
- 6 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒多 炭化物量少 灰褐色粘土粒φ1~3mm多 しまり強 粘性中
- 7 10YR2/6 褐色土 ローム層 しまり・粘性強
- 8 10YR2/6 褐色土 ローム層 しまり・粘性強

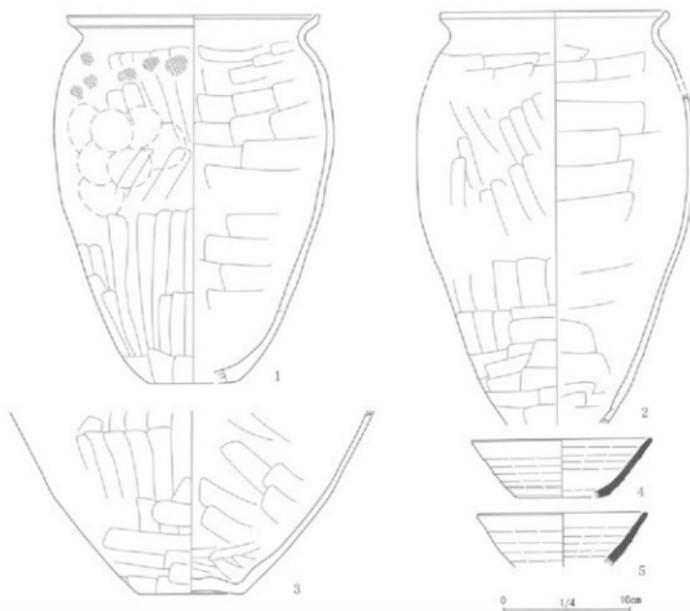
CIS 12号住居P1・2 土層説明

- 1 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm微量 炭化粒φ1~4mm微量 しまり・粘性中
- 2 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり強 粘性強
- 3 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり強 粘性中
- 4 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり強 粘性中

CIS 37号住居 土層説明

- 1 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 ローム粒φ3~10mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり強 粘性中
- 2 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒φ1~2mm中 炭化粒φ1~5mm多 炭化粒φ1~5mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 3 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~1mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 4 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 雲母粒中 しまり・粘性中
- 5 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ4~10mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~3mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中
- 6 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 ロームブロックφ3~10mm少 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~3mm微量 雲母粒微量 しまり・粘性中

第92図 12・37号住居跡



第93図 12号住居跡出土遺物

表 45 12号住居跡遺物観察表

発見番号	品名	種類	器形	口径	底径	高さ	重量	形状の特徴	装飾の特徴	出土	保存	備考	
1	No. 7, 9 No. 10, No. 11 7	土師器	甕	19.8	19.8	7.9	968.7	胴部の上方は深く中央部は浅く、胴部は短く「C」の字に再反し、お椀は縁外上げされる。	口縁は内外面に縦ナズ、外面胴部上方はナズ部であるが、腹面に肩部に平行ゆがみが観察される。下部にはヘラナズが施される。胴部内面はヘラナズ、輪部は有り。	内面 1079/120 外面 1, 1086/9 底面 1079/120 口径 1079/120	灰色・赤・黒・茶の点描や中央部は白点彩の青い点描。	118-1-1 ア112 底面1/9	実物写真
2	347	土師器	甕	17.8	13.5	—	432.3	胴部の上方は深く胴部は浅く、お椀は縁外上げされる。お椀は縁外上げされる。	口縁は内外面に共に縦ナズ、外面胴部上方はナズ部、下部はヘラナズが施される。胴部内面はヘラナズ、輪部は有り。	内面 1, 1086/9 外面 1079/120 底面 1079/120 口径 1079/120	灰色ナズ・黒・赤・茶の点描や中央部。	118-1-1 ア112	実物写真
3	No. 1, 2 341 No. 1, 1 8	土師器	甕	—	14.7	8.8	321.4	胴部は中央に絞られた平底で、胴部下部は大きく開く。	胴部内面はヘラナズ、内面はナズ、底面はナズ。	内面 1079/120 外面 1079/120 口径 1079/120	灰色ナズ・黒・赤・茶の点描や中央部。	胴下部1/3 底面1/9	実物写真
4	347	土師器	鉢	14.2	4.7	16.4	43.1	浅部下部で縁の中に内湾した縁部縁部に開く。	口縁はナズ。	内面 2, 1013/6 外面 2, 1013/6 口径 2, 1013/6	灰色ナズ・白・赤・茶の点描や中央部。	118-1-1 底面1/9	実物写真
5	347	土師器	鉢	13.4	4.3	—	32.2	浅部は浅部縁部に開く。	口縁はナズ。	内面 1079/120 外面 2, 1013/6 口径 1079/120	灰色ナズ・黒・赤・茶の点描や中央部。	118-1-1 底面1/9	実物写真

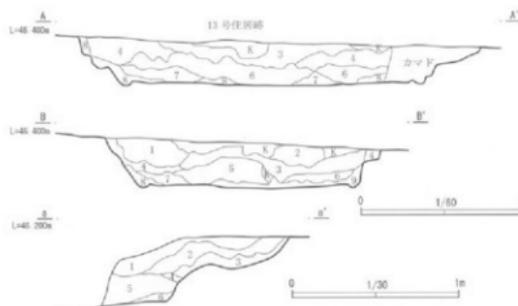
37号住居跡 (第92・94図, 図版58・103)

本遺構はD4-12グリッドにおいて検出された。36号住居跡を切る。東が調査区外となるが、平面形は方形と推測される。長軸3.66m、短軸(3.48)m、主軸方位N 0.5° Wである。確認面からの深さは30cmである。覆土は6層に分層され自然堆積の横相を呈する。

カマドは調査区外にあると推測される。ピットは検出されていない。硬化面は住居内に広く確認された。周溝は調査区内では全周する。

遺物は土師器甕、内面黒色処理の甕、須恵器甕、鉄鏝が出土し、遺物から遺構は9世紀前半と判断される。



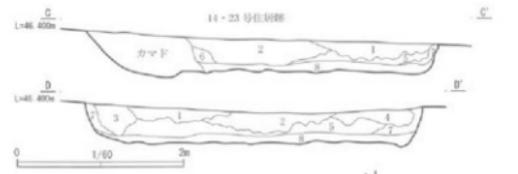


**CIT5 13号住居跡 土層説明**

- 1 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
- 2 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒φ1~2mm中 炭化粒微量 しまり・粘性中
- 3 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ1~3mm微量 炭化粒微量 しまり・粘性中
- 4 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 焼土粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
- 5 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 焼土粒φ1~3mm微量 しまり・粘性中
- 6 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 しまり・粘性中
- 7 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
- 8 7.5YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~80mm多 しまり・粘性中

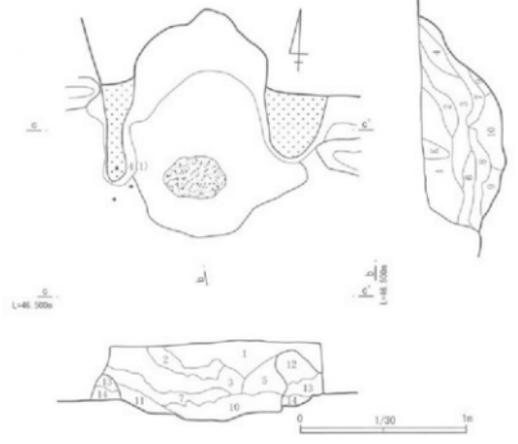
**CIT5 13号住居カマド 土層説明**

- 1~1 10YR3/2にぶい黄褐色土 ローム粒φ1~5mm微量 焼土粒φ1~5mm少 炭化粒φ1~2mm微量 炭褐色粘土粒φ1~2mm多 灰褐色粘土粒φ3~3.5mm微量 しまり強 粘性中
- 2 10YR3/2にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロックφ1~20mm微量 焼土粒・ブロックφ1~10mm多 炭化粒φ1~2mm少 炭褐色粘土粒φ1~5mm多 しまり・粘性中
- 3 10YR3/2にぶい黄褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ローム・ブロックφ3~10mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 炭褐色粘土粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
- 4 10YR3/2にぶい黄褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒・炭化粒微量 しまり・粘性中
- 5 10YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒微量 しまり・粘性中
- 6 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm少量 炭化粒微量 しまり・粘性中



**CIT5 11・23号住居跡 土層説明**

- 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性中
- 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性中
- 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~3mm微量 しまり強 粘性中
- 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm少 焼土粒φ1~5mm微量 炭化粒φ1~4mm微量 しまり強 粘性中
- 5 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~5mm少 炭化粒φ1~3mm少 しまり強 粘性中
- 6 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒・ブロックφ1~15mm中 炭化粒φ1~2mm少 しまり強 粘性中
- 7 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~2mm多 炭化粒粒微量 しまり・粘性強
- 8 10YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~15mm中 焼土粒φ1~5mm中 焼土・ブロックφ6~20mm中 炭化粒φ1~4mm少 しまり・粘性強

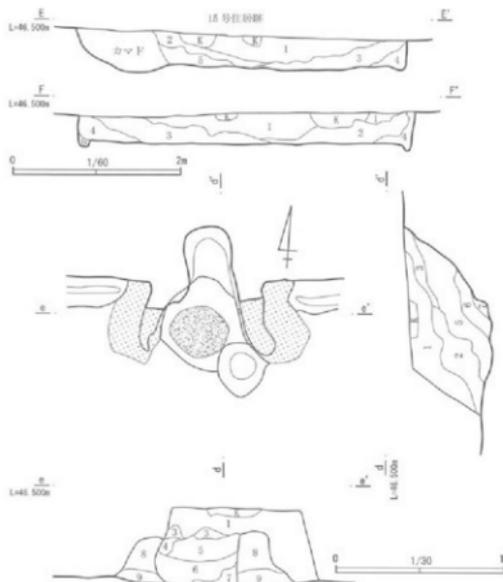


**CIT5 14号住居カマド 土層説明**

- 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 焼土粒φ1~5mm少 焼土・ブロックφ20mm微量 炭化粒φ1~2mm少 黄褐色粘土粒・ブロックφ1~10mm少 しまり・粘性強
- 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~3mm少 焼土・ブロックφ4~20mm微量 炭化粒φ1~2mm少 炭化粒φ3~5mm微量 黄褐色粘土粒・ブロックφ1~10mm多 しまり強・粘性強
- 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒・ブロックφ1~15mm少 炭化粒φ1~3mm少 黄褐色粘土粒φ1~3mm少 しまり強 粘性中
- 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~5mm多 炭化粒φ1~3mm多 粘土粒φ1~2mm少 しまり強 粘性強
- 5 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒φ1~4mm多 炭化粒φ1~3mm中 黄褐色粘土粒φ1~4mm多 しまり 粘性強
- 6 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm中 炭化粒φ1~3mm中 黄褐色粘土粒φ1~4mm中 しまり・粘性強
- 7 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~8mm多 炭化粒φ1~2mm少 黄褐色粘土粒φ1~2mmφ1~2mm強・粘性中
- 8 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~3mm中 黄褐色粘土粒少 しまり強 粘性中
- 9 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm中 焼土粒φ1~4mm少 炭化粒φ1~4mm中 黄褐色粘土粒微量 しまり強 粘性中
- 10 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 焼土粒・ブロックφ1~15mm多 炭化粒φ1~3mm中 炭化φ5mm微量 黄褐色粘土粒微量 しまり強 粘性中
- 11 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒φ1~5mm少 炭化粒φ1~3mm少 黄褐色粘土粒φ1~3mm少 しまり・粘性強
- 12 10YR3/6褐色土 ローム粒微量 焼土粒φ1~4mm中 炭化粒φ1~3mm少 しまり中 粘性強 黄褐色粘土粒
- 13 10YR3/4暗褐色土 ローム粒微量 粘土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~4mm少 炭褐色粘土粒・黄褐色粘土粒φ1~2mm中 しまり・粘性強
- 14 10YR3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~3mm少 黄褐色粘土粒φ1~2mm中 しまり・粘性強

第96図 13・14・15・23・39号住居跡(2)

13・14・15・23・39号住居跡



第97図 13・14・15・23・39号住居跡 (3)

CUTS 15号住居 土層説明

- 1 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ロームブロックφ4~10mm少 粘土粒φ1~3mm少 炭化物粒φ1~10mm中 しまり強 粘性中
- 2 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm多 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~2mm微量 しまり強 粘性中
- 3 10VRI/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~15mm多 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~4mm中 しまり強 粘性中
- 4 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ロームブロックφ4~20mm微量 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~4mm少 しまり強 粘性中
- 5 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ロームブロックφ4~15mm微量 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~3mm少 粘土粒・ブロックφ1~15mm中 しまり・粘性強
- 6 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒微量 炭化粒φ1~2mm少 しまり・粘性中

CUTS 15号住居カマド 土層説明

- 1 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm中 ロームブロックφ5~10mm少 焼土粒・ブロックφ1~15mm少 炭化粒φ1~12mm少 粘土粒・ブロックφ1~20mm少 しまり・粘性強
- 2 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ロームブロックφ4~20mm微量 焼土粒・ブロックφ1~10mm少 焼土ブロックφ20~30mm微量 炭化粒φ1~5mm少 粘土ブロックφ1~25mm中 しまり・粘性強
- 3 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒φ1~5mm中 炭化粒φ1~3mm中 炭化物φ10mm微量 粘土粒・ブロックφ1~10mm多 しまり・粘性強
- 4 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~5mm多 炭化粒φ1~4mm多 粘土粒・ブロックφ1~10mm中 しまり・粘性中
- 5 10VRI/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm微量 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm少 しまり・粘性中
- 6 10VRI/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒・ブロックφ1~30mm多 炭化物φ1~10mm多 粘土粒・ブロックφ1~20mm中 しまり・粘性中
- 7 10VRI/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒微量 しまり・粘性中
- 8 10VRI/6褐色土 焼土粒・ブロックφ1~10mm少 炭化粒φ1~3mm少 しまり・粘性強 粘土層
- 9 10VRI/6褐色土 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒微量 しまり・粘性強 ローム層

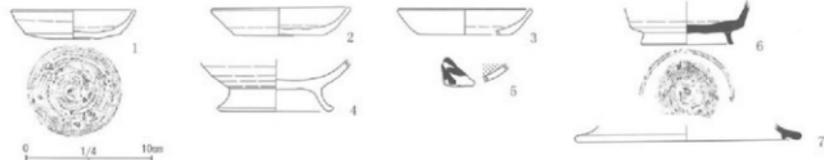
13号住居跡 (第95・96・97・98図, 図版39・98)

本遺構はC4-10グリッドにおいて検出された。14・23・39号住居跡を切る。平面形は長方形で長軸4.20m、短軸3.30m、主軸方位N 77° Eである。確認面からの深さは54cmである。覆土は9層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されなかった。ピットは東西に2基検出された。硬化面は住居内に広く確認された。周溝は全周する。

遺物は土師器坏類、墨書土器片が出土した。須恵器蓋は7世紀末~8世紀初めのもので、遺構外遺物と考えられる。

須恵器高台付坏 (6) は重複する39号住居跡カマド出土遺物である。遺物から遺構は10世紀前半と判断される。



第98図 13号住居跡出土遺物

表 47 13号住居跡遺物観察表

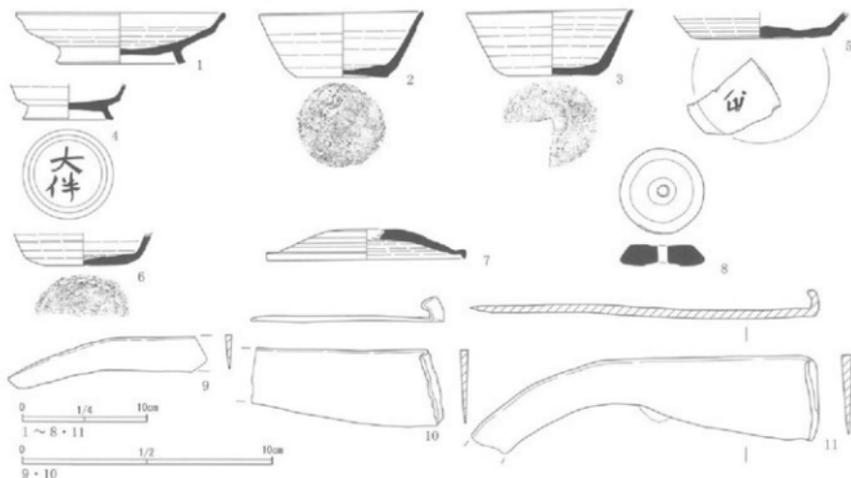
遺物番号	注記	種類	形状	口径	底径	器高	重量	器内の状態	原料の種類	焼成	色調	胎土	保存	備考	
1	36.1	土師器	皿	8.2	3.25	7.8	89.7	底面は土流瓦葺の平床で床面は土流瓦の中心に内湾する。小形で軽い。	コクロ製肌。底面は同製ヘラ磁器。	真紅	内径 2.88(6.4) 外径 2.88(7.6)	黒色胎土・底面・白色胎土の間に黒色胎土・黒色胎土・黒色胎土の層。	13141.24	底面ヘラ磁器	底面ヘラ磁器
2	覆土	土師器	皿	11.0	2.3	7.4	77.6	底面は平床で床面は土流瓦の中心に内湾する。小形で軽い。	コクロ製肌。底面は同製ヘラ磁器。	真紅	内径 3.09(6.4) 外径 2.94(6.4) 口径(裏) 2.61(裏)	黒色胎土・中心部・黒色胎土・黒色胎土・黒色胎土の層。白色胎土の間に黒色胎土の層。	13141.24	底面ヘラ磁器	底面ヘラ磁器
3	覆土	土師器	皿	10.4	2.1	—	88.5	底面は平床で床面は土流瓦の中心に内湾する。小形で軽い。	コクロ製肌。底面は同製ヘラ磁器。	真紅	内径 2.82(7.4) 外径 2.82(7.4) 口径(裏) 2.51(裏)	黒色胎土・中心部・黒色胎土・黒色胎土・黒色胎土の層。白色胎土の間に黒色胎土の層。	13141.24	底面ヘラ磁器	底面ヘラ磁器
4	37	土師器	高台付鉢	—	14.3	18.4	75.9	高台は「一」の字に付され床面は土流瓦で床面は土流瓦。土流瓦である。底面は土流瓦の中心に内湾する。	コクロ製肌。底面は同製ヘラ磁器を数ミリ厚で覆う。	真紅	内径 2.52(6.4) 外径 2.52(6.4)	黒色胎土・白色胎土の間に黒色胎土の層。黒色胎土・黒色胎土・黒色胎土の層。	13141.24	底面ヘラ磁器	底面ヘラ磁器
5	覆土	土師器	鉢	—	11.5	—	2.7	底面に内湾する床面は土流瓦。	コクロ製肌。下に同製ヘラ磁器が確認される。	真紅	内径 3.02(7.6) 外径 2.98(7.6)	黒色胎土・白色胎土の間に黒色胎土の層。	13141.24	底面ヘラ磁器	底面ヘラ磁器
6	37	須恵器	高台付鉢	—	13.6	7.2	82.4	高台は土流瓦で「一」の字に付される。底面は土流瓦で床面は土流瓦である。	コクロ製肌。底面は同製ヘラ磁器。	真紅	内径 2.51(6.4) 外径 2.51(6.4)	黒色胎土・白色胎土の間に黒色胎土の層。黒色胎土・黒色胎土・黒色胎土の層。	13141.24	底面ヘラ磁器	底面ヘラ磁器
7	覆土	須恵器	皿	17.4	11.3	—	5.9	底面は土流瓦で内湾し、底面に土流瓦の層がある。	コクロ製肌。	真紅	内径 3.02(7.6) 外径 3.02(7.6)	黒色胎土・白色胎土の間に黒色胎土の層。	13141.24	底面ヘラ磁器	底面ヘラ磁器

## 14号住居跡 (第95・96・97・99図, 図版40・41・98)

本遺構はC4-10グリッドにおいて検出された。15号住居跡を切る。土層の堆積状況からは23号住居跡の建替えて、8層上面が14号住居跡床面になると考えられる。平面形は方形で長軸3.84m、短軸4.08m、主軸方位N1.5°Wである。確認面からの深さは30cmである。覆土は7層に分層される。

カマドは北壁中央に付設され、やや直線的の伸び、火床面が確認された。ピットは検出されていない。硬化面はカマドから住居内中央にかけて分布し、周溝はカマド以外はほぼ全周する。

遺物は須恵器蓋坏頸、須恵器転用紡錘車、鉄製品が出土した。墨書土器は坏の底部外面に「□山」、高台付坏底部外面に「大伴」である。遺物から遺構は8世紀後半と判断される。



第99図 14号住居跡出土遺物

表 48 14号住居跡遺物観察表

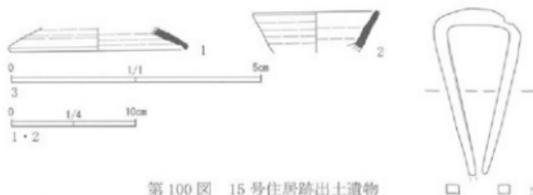
調査番号	法名	種類	図例	口数	長さ	幅	高さ	築期	遺物の特徴	形状の特徴	検出	土層	製土	存在	備考
1	36-8	須恵器	高台付蓋	14.1	4.15	8.4	215.1		高台は「ハ」の字状に付される。底面は平直で中央に内凹し、中央に蓋は、口縁は高くなる。内凹部あり。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。	良好	内面 215・200 外面 215・170	蓋面が内凹し、中央に「ハ」の字状の窪みあり。白土で少量。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
2	36-4	須恵器	杯	12.9	3.2	7.2	218.1		高台は中央より高台の半面。高台は平直で中央に内凹する。高台は平直で中央に内凹する。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	良好	内面 215・210 外面 215・200	白土製。蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
3	36-4	須恵器	杯	12.9	3.2	7.2	118.9		高台は中央より高台の半面。高台は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	良好	内面 215・210 外面 215・200	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
4	36-1	須恵器	高台付杯	—	(2.80)	8.9	89.8		高台は「ハ」の字状に付される。底面は平直で中央に内凹する。高台は平直で中央に内凹する。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	良好	内面 215・200 外面 215・170	白土製。蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
5	36-1	須恵器	杯	—	(2.17)	11.0	28.5		高台は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	不満足	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
6	36-1	須恵器	杯	—	(2.40)	17.61	45.2		高台は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	不満足	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
7	36-1	須恵器	蓋	(13.8)	(2.8)	—	32.4		高台は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	不満足	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
8	36-1	須恵器	須恵器	101.75	100.2	101.8	80.2		高台は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	良好	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
9	須恵器	罐	高台付 1.2	幅 1.4	長さ 0.2	高さ 0.8			口縁は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	良好	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
10	須恵器	罐	高台付 1.2	幅 1.4	長さ 0.2	高さ 0.8			口縁は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	良好	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
11	須恵器	罐	高台付 1.4	幅 1.6	長さ 0.4	高さ 0.8			口縁は平直で中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。蓋面は内凹部へツタナシ。蓋面は平直で中央に内凹する。	良好	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。

15号住居跡 (第95・96・97・100図, 図版41・42・98)

本遺構はC4-5・10グリッドにおいて検出された。14・23号住居跡に切られる。平面形は方形で長軸3.60m、短軸4.02m、主軸方位N 17° Wである。確認面からの深さは36cmである。覆土は6層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され、袖は袖はハの字状に伸び、火床面が確認された。ピットは検出されていない。硬化面は住居内に広く確認され、周溝はカマドと他遺構と重複する部分以外は全周する。

遺物は須恵器蓋、鉄製品が出土した。遺物から遺構の時期は8世紀中葉と判断される。



第100図 15号住居跡出土遺物

表 49 15号住居跡遺物観察表

調査番号	法名	種類	図例	口数	長さ	幅	高さ	築期	遺物の特徴	形状の特徴	検出	土層	製土	存在	備考
1	36-1	須恵器	蓋	14.0	11.90	—	15.0		高台は平直で中央に内凹し、蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。	良好	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。
2	36-1	須恵器	杯	10.0	(2.8)	—	14.1		高台は平直で中央に内凹し、中央に内凹する。蓋は口縁に付けて高くなる。	ロタコ製。	良好	内面 215・210 外面 215・210	蓋面が内凹部へツタナシ。蓋面が平直で中央に内凹する。	1111.2A	高台へツタナシ。内面へツタナシ。外面へツタナシ。蓋面に自然釉付あり。

23号住居跡 (第95・96・97・101図, 図版48・100)

本遺構はC4-10グリッドにおいて検出された。15号住居跡を切る。土層の堆積状況からは建替があり、8層上面が14号住居跡床面になると考えられる。平面形は方形で長軸3.42m、短軸3.60m、主軸方位N 1.5° Wである。確認面からの深さは36cmである。覆土は1層に分層される。

カマド・硬化面・周溝は検出されなかった。

遺物は須恵器高台付杯を掲載した。遺物から遺構の時期は8世紀中～後半と判断される。



第101図 23号住居跡出土遺物

表50 23号住居跡遺物観察表

発掘 層位	位置	種類	数量	寸法	重量	形状の概要	製作の概要	用途	色澤	質料	備考	図号	
1	壁土	須恵器	高台付杯	—	(3.8)	(7.5)	66.3	口辺17cm×19cmに約3cmある。内縁部隆。底辺が約5cmに内湾する。	口の裏面、底辺に細いへらノズル。	淡黄 赤 黄	2.05×1.8 1.1×0.9 1.1×0.9 1.1×0.9 1.1×0.9	11号館・12号館 13号館 14号館 15号館 16号館 17号館 18号館 19号館 20号館 21号館 22号館 23号館 24号館 25号館 26号館 27号館 28号館 29号館 30号館 31号館 32号館 33号館 34号館 35号館 36号館 37号館 38号館 39号館 40号館 41号館 42号館 43号館 44号館 45号館 46号館 47号館 48号館 49号館 50号館	表50

39号住居跡 (第95・96・97図)

本遺構はC4-10 グリッドにおいて検出された。13号住居跡に切られる。重複する14・23号住居跡との新旧関係は不明である。平面形は長方形で長軸4.20m、短軸3.42m、主軸方位N 77° Eである。確認面からの深さは42cmである。13号住居跡にほとんど削平されているため覆土の堆積状況は不明である。

カマドは東壁中央に付設されたが、掘方のみしか検出されていない。周溝は確認されていない。

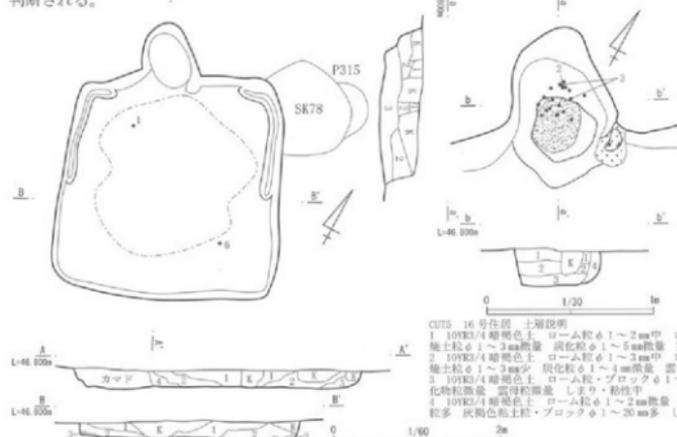
遺物は13号住居跡として掲載した須恵器高台付杯(6)が39号住居跡カマド出土遺物である。遺物から遺構は9世紀代と判断される。

16号住居跡 (第102・103図, 図版42・43・99)

本遺構はC4-4 グリッドにおいて検出された。SK76との切合いは不明である。平面形は主軸方位に長い長方形で長軸2.76m、短軸2.64m、主軸方位N 26.5° Wである。確認面からの深さは21cmである。覆土は4層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設されたが、右袖基部が遺存し、火床面が検出されただけである。周溝はカマドを除く北半に確認された。硬化面は住居中央に検出された。柱穴は確認されていない。

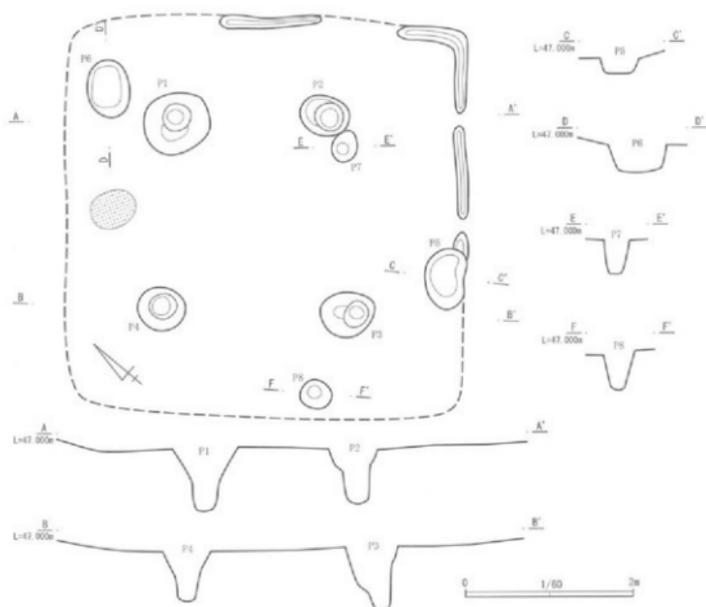
遺物は土師器甕・坏、内面黒色処理坏、須恵器甕・瓶・坏、墨書土器片が出土した。遺物から遺構は9世紀中葉と判断される。



- CL15 16号住居 土層説明
- 1 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒φ1~5mm少量 炭化粒φ1~2mm少 灰土粒φ1~2mm少 しまり中 粘性中
  - 2 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm少 炭化粒φ1~2mm少 灰土粒φ1~2mm少 しまり中 粘性中
  - 3 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm少 灰土粒φ1~2mm少 しまり中 粘性中
  - 4 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少量 焼土粒・炭化粒φ1~2mm少量 灰土粒φ1~2mm少量 しまり中 粘性中
- CL16 16号住居カマド 土層説明
- 1 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm少 灰土粒φ1~2mm少 しまり中 粘性中
  - 2 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm少 灰土粒φ1~2mm少 しまり中 粘性中
  - 3 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少量 焼土粒・炭化粒φ1~2mm少量 灰土粒φ1~2mm少量 しまり中 粘性中
  - 4 10YK3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少量 焼土粒・炭化粒φ1~2mm少量 灰土粒φ1~2mm少量 しまり中 粘性中

第102図 16号住居跡





第104図 17号住居跡

19号住居跡 (第105・106・107・108図, 図版45・46・99)

本遺構はC3-24グリッドにおいて検出された。20号住居跡を切る。平面形は方形で長軸4.80m、短軸4.80m、主軸方位N 15.5° Wである。確認面からの深さは42cmで遺存状況は良好である。覆土は9層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央にあり両脇に柱穴がある。対称の位置にあと2基の柱穴があり、すべての柱が住居の内に傾斜するように掘方が検出された。カマドは右袖基部が遺存し、内部に火床面と灰層が検出され、遺物も多く出土した。住居中央には炉が検出された。平面形は円形で長径72cm、短径60cm、深さ7.5cmである。炉には焼土が一面覆っている。

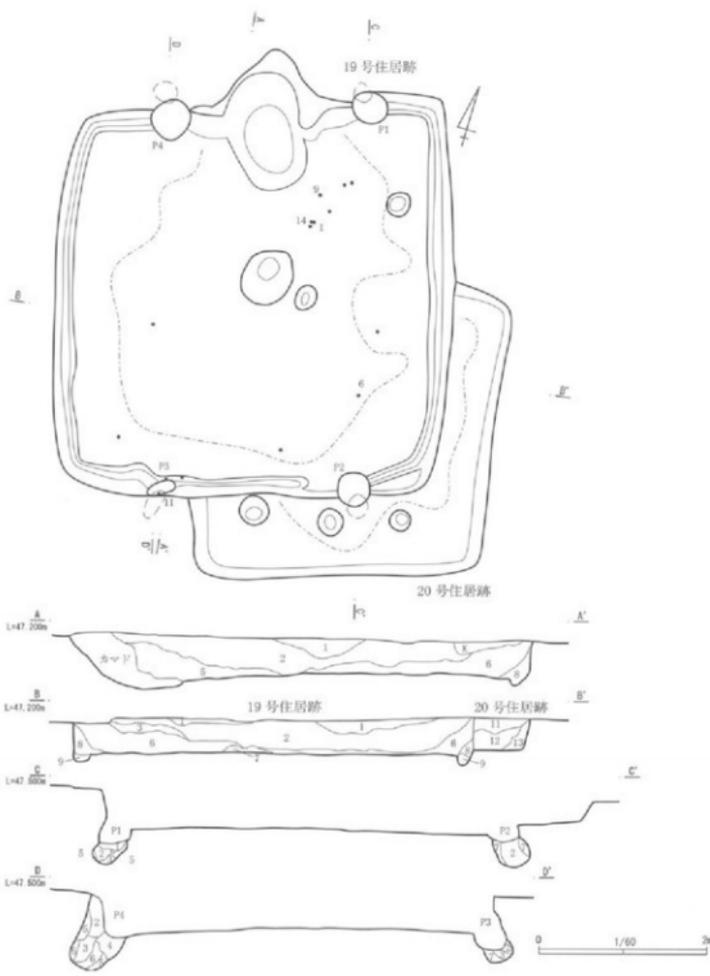
遺物は須恵器坏(11)・高坏(17)を除き、本遺構の遺物であるが、墨書土器片2点を含む。鉄製品では磁・穂摘具が出土した。遺物から遺構の時期は9世紀後半と判断される。

20号住居跡 (第105・106・107・108図, 図版45)

本遺構はC3-24グリッドにおいて検出された。19号住居跡に切られるため、全容は不明だが、平面形は方形で長軸3.60m、短軸3.60m、主軸方位N 14° Wである。確認面からの深さは40cmである。覆土は3層に分層される。

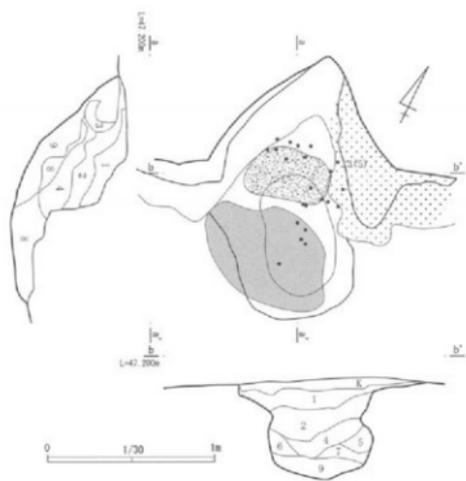
カマドは確認されなかった。柱穴と出入口施設と見られるピットが南壁付近に検出された。検出された硬化面からは住居内に広く分布したと推測される。周溝は検出されなかった。

遺物は須恵器坏(11)・高坏(17)が出土した。遺物から遺構の時期は8世紀後半と判断される。



- CUTS 19・20号住跡** 土層説明
- |    |              |                   |                  |                   |                  |                   |
|----|--------------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|-------------------|
| 1  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~2mm少       | 炭土粒φ1~2mm微量      | 炭化粒φ1~2mm微量       | しまり強             | 粘性中               |
| 2  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~3mm少       | ロームブロックφ4~20mm微量 | 炭土粒φ1~3mm微量       | 炭化粒φ1~3mm微量      | 炭化粒・ブロックφ1~10mm微量 |
| 3  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~7mm多       | 炭土粒φ1~2mm微量      | 炭化粒φ1~3mm微量       | しまり強             | 粘性中               |
| 4  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~3mm少       | 炭土粒φ1~3mm少       | 炭化粒・ブロックφ1~10mm微量 | 炭土粒・ブロックφ1~45mm多 | しまり・粘性強           |
| 5  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒・ブロックφ1~20mm少 | 炭土粒φ1~5mm中       | 炭化粒φ1~2mm少        | 炭土粒φ1~3mm微量      | しまり・粘性強           |
| 6  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~4mm少       | 炭土粒φ1~8mm微量      | 炭化粒φ1~2mm微量       | しまり強             | 粘性中               |
| 7  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~3mm多       | ロームブロックφ4~15mm中  | 炭化粒φ1~2mm微量       | しまり強             | 粘性中               |
| 8  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~4mm微量      | 炭土粒φ1~2mm微量      | 炭化粒φ1~2mm微量       | しまり強             | 粘性中               |
| 9  | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~3mm中       | 炭化粒φ1~2mm微量      | しまり中              | 粘性強              |                   |
| 10 | 7.5YR2/3暗褐色土 | ローム粒φ1~2mm微量      | 炭化粒φ1~3mm微量      | しまり・粘性中           |                  |                   |
| 11 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~2mm少       | 炭土粒微量            | 炭化粒φ1~2mm微量       | しまり強             | 粘性中               |
| 12 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~3mm中       | 炭土粒微量            | 炭化粒φ1~2mm微量       | しまり強             | 粘性中               |
| 13 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒・ブロックφ1~12mm多 | 炭土粒微量            | 炭化粒φ1~3mm微量       | しまり・粘性強          |                   |
- CUTS 19・20号住跡P1~4 土層説明**
- |   |              |                   |            |            |         |     |
|---|--------------|-------------------|------------|------------|---------|-----|
| 1 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~2mm少       | 炭化粒少       | しまり弱       | 粘性中     |     |
| 2 | 7.5YR2/3暗褐色土 | ローム粒φ1~3mm少       | 炭土粒微量      | 炭化粒少       | しまり・粘性中 |     |
| 3 | 7.5YR2/3暗褐色土 | ローム粒φ1~2mm少       | 炭化粒φ1~2mm少 | 炭土粒φ1~3mm少 | しまり弱    | 粘性中 |
| 4 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~2mm少       | 炭化粒微量      | しまり・粘性中    |         |     |
| 5 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~2mm少       | 炭化粒少       | 炭土粒φ1~3mm多 | しまり強    | 粘性中 |
| 6 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒φ1~2mm少       | 炭化粒φ1~3mm少 | 炭土粒φ1~3mm中 | しまり弱    | 粘性中 |
| 7 | 10YR2/4暗褐色土  | ローム粒・ブロックφ1~10mm中 | 炭化粒φ1~5mm少 | しまり強       | 粘性中     |     |

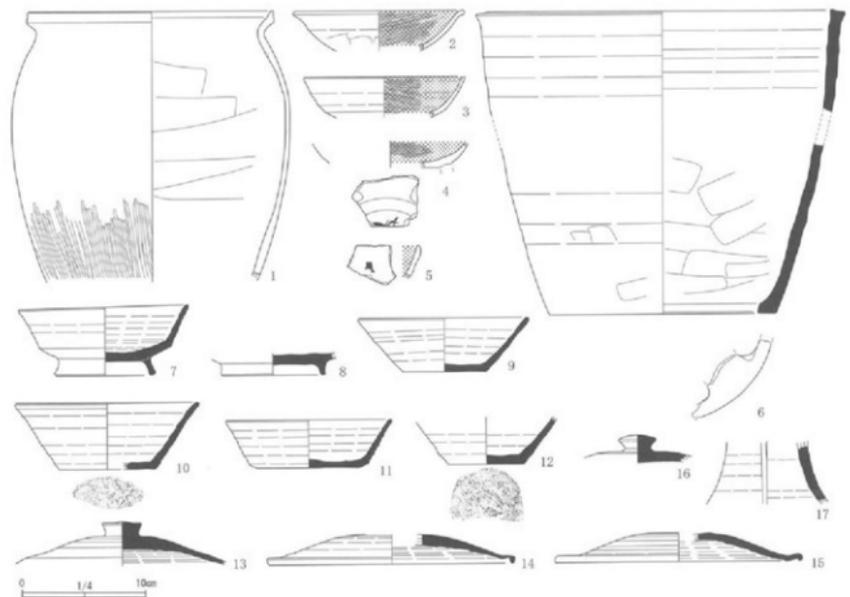
第105図 19・20号住跡(1)



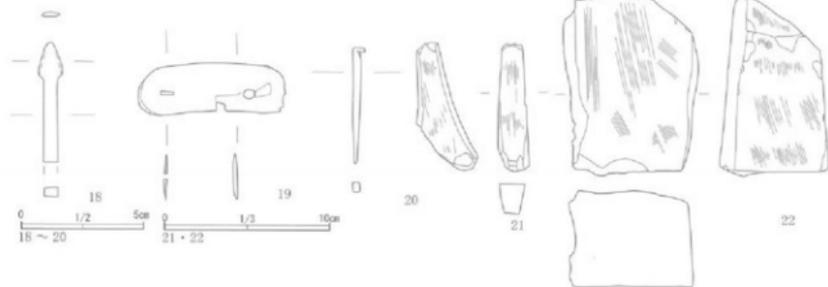
CUTS 19号住居甲 土層説明  
 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm多 炭化物粒φ1~10mm中 しまり中 粘性強 灰層  
 2 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 粘土粒φ1~5mm中 しまり・粘性中 炭化物層

CUTS 19号住居カド 土層説明  
 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~4mm中 粘土粒φ1~5mm少 炭化物粒φ1~5mm少 粘土粒濃量 しまり強 粘性中  
 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~6mm中 ロームブロックφ7~30mm濃量 粘土粒φ1~3mm中 炭化物粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~5mm中 しまり・粘性強  
 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~5mm多 炭化物粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~2mm中 しまり・粘性中  
 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm中 粘土ブロックφ4~15mm少 炭化物粒φ1~5mm少 粘土粒φ1~5mm多 しまり・粘性強  
 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 粘土粒・ブロックφ1~20mm多 炭化物粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~5mm中 しまり・粘性中  
 6 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒・ブロックφ1~19mm多 炭化物粒φ1~3mm濃量 粘土粒φ1~5mm中 しまり・粘性強  
 7 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm少 炭化物粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm濃量 しまり・粘性中  
 8 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 粘土粒・ブロックφ1~40mm少 炭化物粒φ1~5mm少 粘土粒φ1~3mm濃量 しまり・粘性中  
 9 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~3mm多 粘土ブロックφ4~10mm少 炭化物粒φ1~2mm中 粘土粒φ1~3mm中 しまり・粘性中

第106図 19・20号住居跡(2)



第107図 19・20号住居跡出土遺物(1)



第108図 19・20号住居跡出土遺物(2)

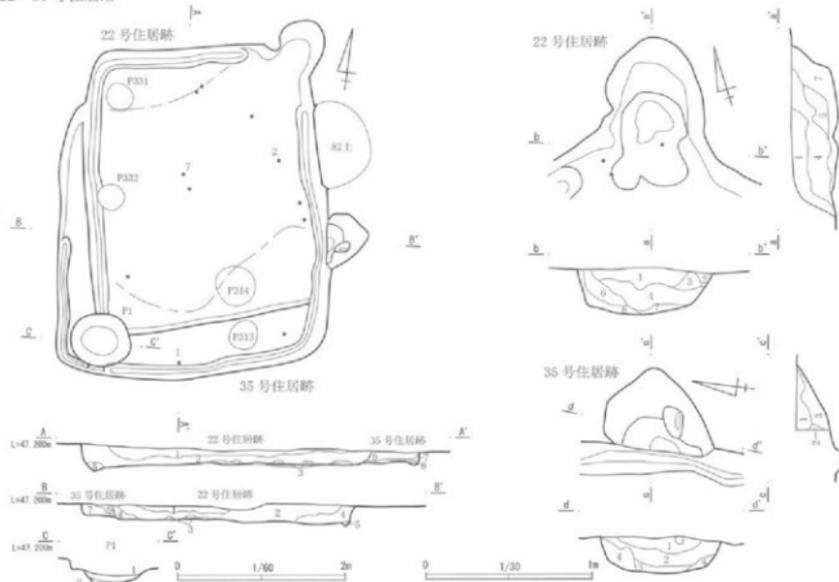
表52 19・20号住居跡遺物観察表(1)

番号	品名	種類	形状	寸法	重量	高さ	長さ	断面の形状	断面の形状	材質	色澤	加工	備考
1	No.18	土製器	棒	(18.4)	(0.2)	—	260.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好 二次焼成	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
2	No.19	土製器	棒	(19.4)	(0.3)	—	20.8	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
3	No.20	土製器	棒	(21.2)	(0.2)	—	18.4	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
4	No.21	土製器	棒	—	(2.2)	—	18.3	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
5	No.22	土製器	棒	—	(2.8)	—	0.9	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
6	No.8	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好 二次焼成	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
7	No.9	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
8	No.10	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
9	No.11	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
10	No.12	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
11	No.13	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
12	No.14	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
13	No.15	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
14	No.16	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土
15	No.17	磁器器	棒	(27.18)	(25.0)	88.2	238.2	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。下部は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	断面は細く、先端が丸く、中央に内径が狭い。	良好	灰白色 土質	加工なし	19号住居跡出土

表 53 19・20号住居跡遺物観察表(2)

発見 番号	所在	種類	形状	寸法	重量	素材	位置	資料の考査	形跡の考査	状況	台割	粘土	焼色	備考
18	溝土	灰磁器	蓋	—	(3.2)	9(径)3	40.6	ツラ(1.5mm厚)灰質黄褐色土質 平ら。底面は平らな凹状の窪みがある。	口縁部は、ツラ(1.5mm厚)の凹 み(ツラ)が作られている。	台割	内径 4.5cm	白色粉引土 質。白色粉引 質土質。	ツラ(4)	
12	灰砂	灰磁器	蓋	—	(3.3)	—	37.4	蓋は口縁部中央に穴がある。口 縁部は平ら。	口縁部は、ツラ(1.5mm厚)の凹 み(ツラ)が作られている。	台割	内径 2.5cm	灰質の硬質土。黄褐色 土質。口縁部中央に穴がある。口 縁部は平ら。	ツラ(4)	
19	溝土	鉄製品	釘	直径1.40 長さ1.60 厚さ2.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	溝土	鉄製品	釘	直径1.40 長さ1.60 厚さ2.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	石垣土	粘土	瓦	縦2.1 横1.1 厚さ1.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	石垣土	粘土	瓦	縦2.1 横1.1 厚さ1.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

22・35号住居跡



- CUTS 22・35号住居 土層説明**
- 7.5YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm散見 粘土粒散見 炭化粒φ1~2mm散見 しまり強 粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 粘土粒φ1~2mm散見 炭化粒φ1~2mm散見 しまり強 粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 しまり強 粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散見 ロームブロックφ3~20mm散見 粘土粒・ブロックφ1~20mm少 しまり強 粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~2mm散見 炭化物粒散見 しまり 粘性強
  - 7.5YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散見 粘土粒φ1~3mm散見 炭化物粒散見 しまり強 粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散見 粘土粒φ1~2mm散見 炭化物粒散見 しまり 粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒散見 炭化物粒散見 しまり 粘性強
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 粘土粒散見 炭化物粒散見 しまり 粘性強
- CUTS 22号住居カマド 土層説明**
- 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散見 粘土粒φ1~2mm散見 炭化粒φ1~2mm多 粘土粒散見 しまり強 粘性中
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm散見 粘土粒φ1~2mm散見 炭化粒中 粘土粒・ブロックφ1~20多 しまり強 粘性中
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~6mm少 しまり強 粘性中
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm中 炭化粒φ1~2mm中 粘土粒φ1~3mm中 しまり 粘性強
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm中 しまり中 粘性強
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~7mm散見 粘土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~5mm少 しまり 粘性中
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~5mm中 炭化粒φ1~3mm中 粘土粒φ1~2mm少 しまり 粘性中
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~12mm中 粘土粒・炭化物粒・粘土粒散見 しまり 粘性中
- CUTS 35号住居カマド 土層説明**
- 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 粘土粒φ1~3mm少 細砂粒多 しまり・粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm中 炭化粒多 しまり・粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 粘土粒φ1~3mm多 細砂粒多 しまり・粘性中
  - 10YR2/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~30mm多 粘土粒φ1~2mm散見 細砂粒少 しまり・粘性中
- CUTS 35号住居P1 土層説明**
- 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ロームブロックφ10~30mm中 粘土粒散見 しまり・粘性中
  - 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~30mm多 しまり・粘性中

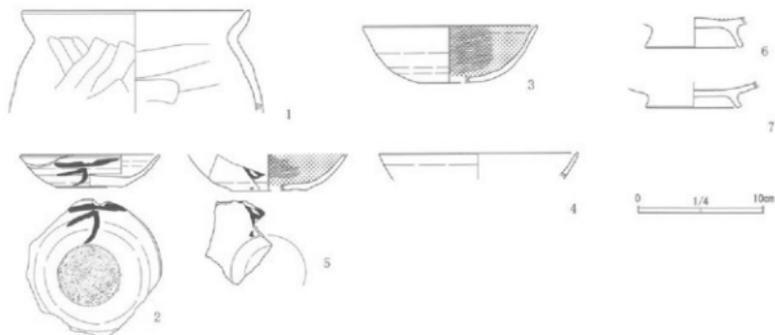
第109図 22・35号住居跡

22号住居跡 (第109・110図, 図版47・48・100)

本遺構はC3-20グリッドにおいて検出された。82号土坑・P314・331・332に切られ、35号住居跡を切る。平面形は長方形で長軸4.02m、短軸2.88m、主軸方位N9°Wである。確認面からの深さは21cmで、覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北東隅に付設されるが、袖は遺存していない。ピットは検出されず、硬化面は広く分布している。周溝はカマドと南壁を除き検出された。

遺物は土師器甕・埴類が出土し、土師器埴(2)は体部外面に正位で「万」と墨書されている。内面黒色処理の埴も体部外面に墨書されるが、釈読出来なかった。遺物から遺構の時期は9世紀後半と判断される。



第110図 22号住居跡出土遺物

表54 22号住居跡遺物観察表

順位	品名	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	出土	保存	備考
1	埴 <sup>1</sup>	土師器	片	17.0	16.2	—	81.7	断面はやや平直。口縁は「ク」の字に折曲し縁口に変形している。	口縁の内外面共に縁子片。胴部外面はヘラケズリ。内面は平直。	真灰	内面 10007/32 白-黒色 外面 10004/32 白-黒色	黒色胎子・表裏に正位「万」・定形・平直	11層目	断面黒色処理
2	甕 <sup>2</sup>	土師器	鉢	16.6	3.7	5.1	102.1	断面はやや平直。口縁は縁子の平直で、断面は大きく湾曲。縁口の断面は高く鋭い。	口縁の断面、断面は縁部平直。内面は平直。	真灰	内面 10007/32 白-黒色 外面 10008/32 白-黒色	黒色胎子ややや平直。白色胎子・定形・内面平直。白色胎子片が露出。	口縁部/35 真灰	断面外面正位「万」
3	埴 <sup>1</sup>	土師器	片	13.6	14.0	5.0	103.9	断面はやや平直。断面は縁や中心の内側に縁の縁口が外側平直。	口縁の断面、断面は下平直縁部付帯部ヘラケズリ。	真灰	内面 10017/47 白-黒色 外面 10008/42 白-黒色	定形・白色胎子・定形・平直	11層目	内面黒色処理
4	埴 <sup>1</sup>	土師器	片	13.7	12.0	—	7.6	断面はやや平直。断面は縁や中心の内側に縁の縁口が外側平直。	口縁の断面、断面は下平直縁部付帯部ヘラケズリ。	真灰	内面 10017/47 白-黒色 外面 10008/42 白-黒色	定形・白色胎子・定形・平直	口縁部/35	断面黒色処理
5	埴 <sup>1</sup>	土師器	片	—	13.0	16.0	10.8	断面はやや平直。断面は縁や中心の内側に縁の縁口が外側平直。	口縁の断面、断面は下平直縁部付帯部ヘラケズリ。	真灰	内面 10017/47 白-黒色 外面 10008/42 白-黒色	定形・白色胎子・定形・平直	11層目	内面黒色処理
6	埴 <sup>1</sup>	土師器	片	—	12.0	7.5	15.4	断面はやや平直。断面は縁や中心の内側に縁の縁口が外側平直。	口縁の断面、断面は下平直縁部付帯部ヘラケズリ。	真灰	内面 10017/47 白-黒色 外面 10008/42 白-黒色	定形・白色胎子・定形・平直	11層目	内面黒色処理
7	埴 <sup>1</sup>	土師器	片	—	12.0	11.0	10.0	断面はやや平直。断面は縁や中心の内側に縁の縁口が外側平直。	口縁の断面、断面は下平直縁部付帯部ヘラケズリ。	真灰	内面 10017/47 白-黒色 外面 10008/42 白-黒色	定形・白色胎子・定形・平直	11層目	内面黒色処理

35号住居跡 (第109・111図, 図版47・48・102)

本遺構はC3-20グリッドにおいて検出された。P313・22号住居跡に切られる。大半が削平されるため全容は不明だが、平面形は長方形で長軸3.30m、短軸3.42m、主軸方位N84°Eである。確認面からの深さは12cmで、覆土は3層に分層される。

カマドは東壁に付設されるが、袖は遺存していない。ピットは検出されなかった。周溝は西壁南半と南壁に周溝が確認された。

遺物は内面黒色処理の高台付埴が出土した。遺物から遺構の時期は9世紀後半と判断される。

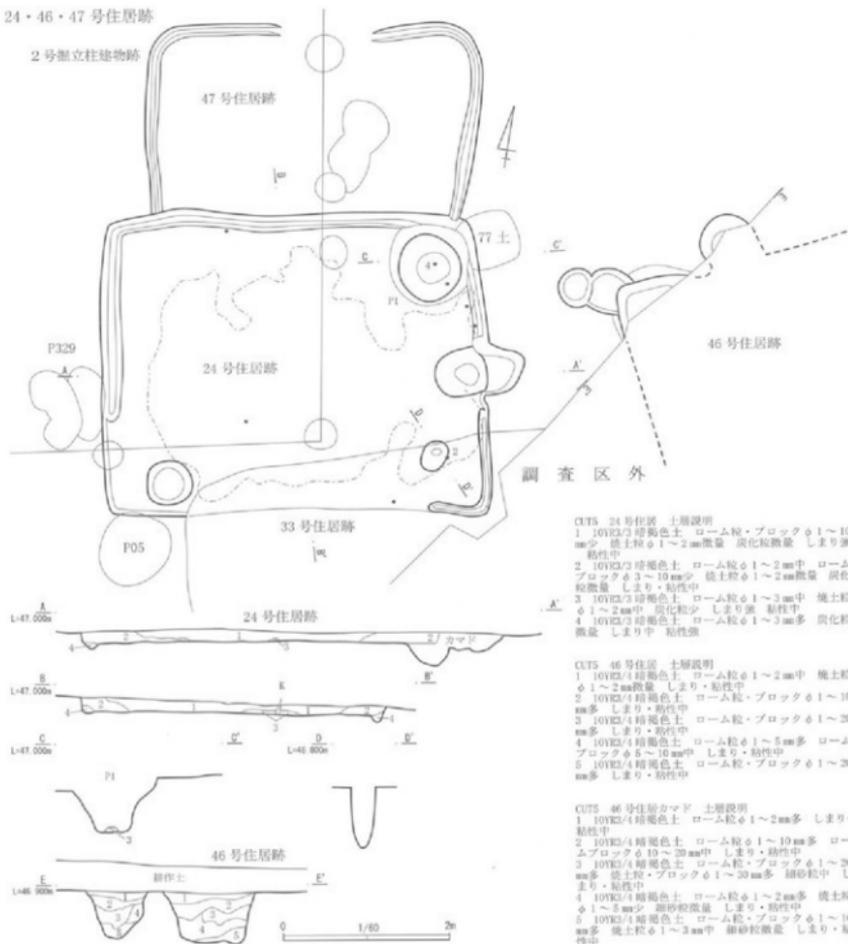


第111図 35号住居跡出土遺物

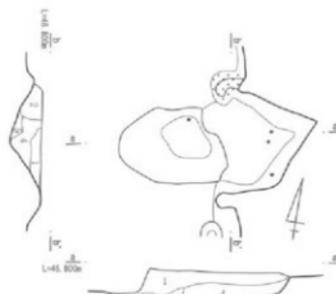
表 55 35号住居跡遺物観察表

調査番号	位置	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	撮影の準備	撮影の準備	構成	色調	粘土	存在	備考
1	35.2	土製器	高脚鉢	13.5	6.5	8.5	107.3	底の内径は、47号に好む丸文高脚鉢である。体面は7層で底面は1~2層の内径はほぼ同心。	口は口縁部、外縁部及び口縁部より2層は陶ヘアブリ。内縁部1層は土製。	高脚	緑褐色	少量粘土、白土質の粘土質の粘土質	内縁部1層は陶ヘアブリ	

24・46・47号住居跡



第112図 24・46・47号住居跡 (1)



第113図 24・46・47号住居跡(2)

CUTS 24号住居カマド 土層説明  
 1 10%Ⅲ/4暗褐色土 ローム層φ1~2mm少量 焼土粒φ1~5mm少 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒少量 しまり痕 粘粒中  
 2 10%Ⅲ/4暗褐色土 ローム層φ1~5mm多 焼土粒φ1~3mm多 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~5mm多 しまり・粘粒中  
 3 10%Ⅲ/4暗褐色土 ローム層φ1~2mm中 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒少量 しまり痕 粘粒中  
 4 10%Ⅲ/4暗褐色土 ローム層φ1~3mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm多 炭化粒φ1~3mm中 粘土粒φ1~2mm中 しまり痕 粘粒中  
 5 10%Ⅲ/4暗褐色土 ローム層φ1~2mm少 焼土粒φ1~3mm多 炭化物粒少 粘土粒少 しまり・粘粒中

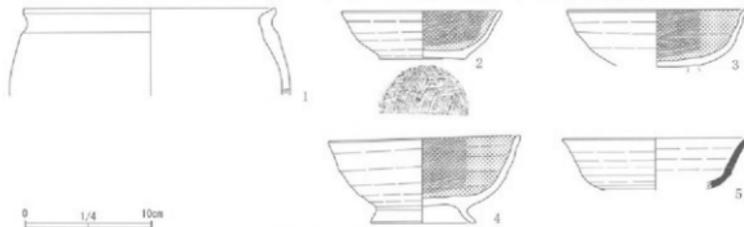
24号住居跡 (第112・113・114図, 図版48・49・100)

本遺構はC3-25、D3-21グリッドにおいて検出された。P05・77号土坑・2号掘立柱建物跡に切られる。33・47号住居跡を切る。平面形は方形と推測され、残存する長軸3.96m、短軸(2.34)mである。確認面からの深さは18cmで、覆土は4層に分層され自然堆積の塚相を呈する。

カマドは東壁に付設されるが、軸は基部が僅かに残るのみである。

北東隅には貯蔵穴(P1)が検出された。南壁～西壁の一部以外は周溝が確認された。硬化面は住居内に広く分布する。

遺物は内面黒色処理の高台付埴などが出土した。遺物から遺構の時期は9世紀後半と判断される。



第114図 24号住居跡出土遺物

表56 24号住居跡遺物観察表

番号	形状	種類	名称	口径	底径	高さ	量定	器形の特徴	装束の特徴	検出	色澤	胎土	焼色	備考
1	30×30	土師器	埴	19.9	17.1	—	102.5	胴部の裏面は直線的、口縁は少し曲がる。底は平坦で、裏面は直線的である。裏面は直線的である。裏面は直線的である。	裏面直線的。	良好 二次焼成 成行	内面 7.0%Ⅲ/4 外面 10%Ⅲ/4 黄褐色	赤褐色・黄褐色 赤褐色・黄褐色	口縁～胴部 直線的	検出
2	50×1	土師器	埴	12.0	3.9	7.0	79.3	裏面は中や全平面的な平直な面から成り立っている。縁はほぼ直線的に内湾し、口で縁部が鋭く閉じる。	ワタロ形制。底径は胴高の9年、内径は1/2弱である。	良好	内面 7.0%Ⅲ/4 外面 10%Ⅲ/4 黄褐色	赤褐色・黄褐色 赤褐色・黄褐色	1/2 赤褐色・黄褐色	内面黒色処理 赤褐色・黄褐色
3	P-1	土師器	埴	14.0	14.0	—	138.7	裏面は平直。縁部は平直に内湾し、口で縁部が鋭く閉じる。	ワタロ形制。底径は胴高の9年、内径は1/2弱である。	良好	内面 7.0%Ⅲ/4 外面 10%Ⅲ/4 黄褐色	赤褐色・黄褐色 赤褐色・黄褐色	口縁～胴部 直線的	内面黒色処理 赤褐色・黄褐色
4	P-1 No.2	土師器	高台付埴	15.0	6.9	8.2	211.4	高台は中や全平面的な平直な面から成り立っている。縁はほぼ直線的に内湾し、口で縁部が鋭く閉じる。	ワタロ形制。底径は胴高の9年、内径は1/2弱である。	良好	内面 7.0%Ⅲ/4 外面 10%Ⅲ/4 黄褐色	赤褐色・黄褐色 赤褐色・黄褐色	口縁～胴部 直線的	内面黒色処理 赤褐色・黄褐色
5	焼土	灰土器	埴	(14.7)	(14.1)	—	19.3	縁部以下で平直に内湾し、口で縁部が鋭く閉じる。	ワタロ形制。	良好	内面 7.0%Ⅲ/4 外面 10%Ⅲ/4 黄褐色	赤褐色・黄褐色 赤褐色・黄褐色	口縁～胴部 直線的	内面黒色処理 赤褐色・黄褐色

46号住居跡 (第112・113図, 図版60)

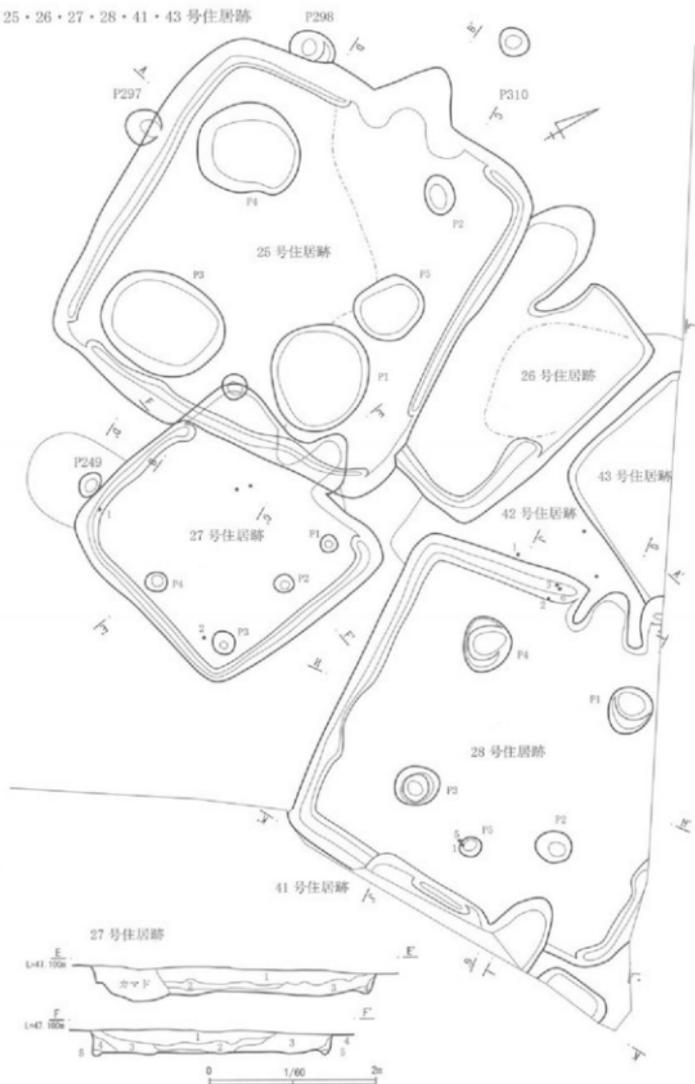
本遺構はD3-21グリッドにおいて検出された。ほとんどが調査区外であり、カマドと住居壁の一部のみ検出された。主軸方位N 18° Wである。確認面からの深さは60cmである。周溝は確認されなかった。

遺物が出土していないが、カマドが付設されることから古代の遺構と推測される。

47号住居跡 (第112・113図)

本遺構はC3-25、D3-21グリッドにおいて検出された。2号掘立柱建物跡、24号住居跡に切れ、33号住居跡を切る。平面形は長方形で長軸4.62m、短軸3.72m、主軸方位N 80° Eである。確認面において、既に床面が検出されていた。カマドは検出されていない。24号住居跡との重複部分を除き検出された。

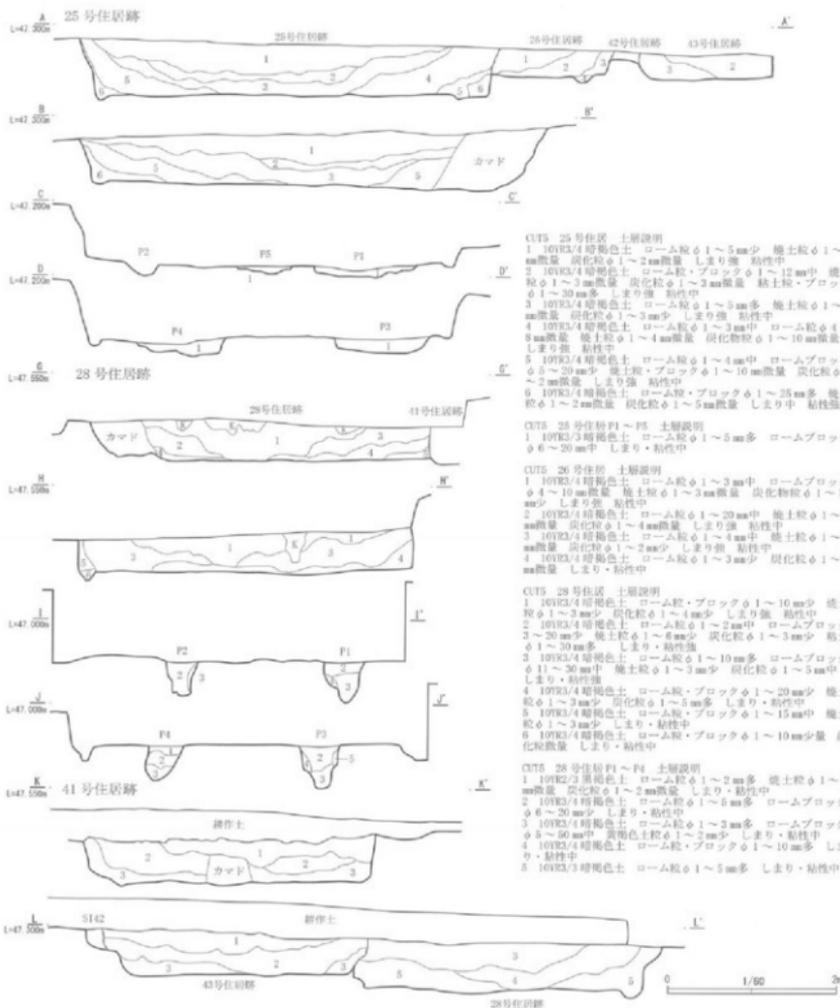
遺物は弥生土器・土師器片が出土した。遺構は古代と推測される。



CUTS 27号住居跡 土層説明

- 1 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒・ブロックφ1~10mm少 灰化粒φ1~2少 粘土粒少 しまり強 粘性中
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm微量 焼土粒・ブロックφ1~10mm中 灰化粒φ1~2中 粘土粒φ1~5mm多 しまり強 粘性中
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm微量 焼土粒φ1~2mm微量 灰化粒φ1~2mm微量 しまり強 粘性中
- 4 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~2mm微量 灰化粒φ1~2mm微量 しまり・粘性強
- 5 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 灰化粒微量 しまり中 粘性強
- 6 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~30mm多 しまり・粘性強

第115図 25・26・27・28・41・43号住居跡 (1)



CUTS 25号住居跡 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり強 粘性中  
 2 10YR2/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~12mm中 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~3mm微量 粘土粒、ブロックφ1~30mm多 しまり強 粘性中  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 焼土粒φ1~4mm微量 炭化粒φ1~3mm少 しまり強 粘性中  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ロームブロックφ1~4mm微量 焼土粒φ1~4mm微量 炭化粒φ1~10mm微量 しまり強 粘性中  
 5 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm中 ロームブロックφ1~20mm少 焼土粒φ1~6mm少 炭化粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり強 粘性中  
 6 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~25mm多 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~5mm微量 しまり中 粘性強

CUTS 25号住居跡 F1~F5 土層説明  
 1 10YR2/3暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 ロームブロックφ6~20mm中 しまり、粘性中

CUTS 26号住居跡 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 ロームブロックφ4~10mm微量 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~10mm少 しまり強 粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~20mm中 焼土粒φ1~4mm微量 炭化粒φ1~4mm微量 しまり強 粘性中  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm中 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm少 しまり強 粘性中  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~2mm微量 しまり、粘性中

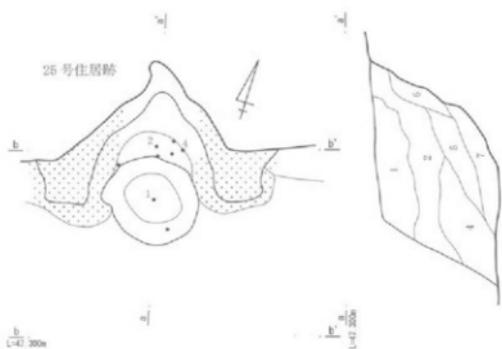
CUTS 28号住居跡 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~10mm少 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~4mm少 しまり強 粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~20mm少 焼土粒φ1~6mm少 炭化粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~20mm多 しまり、粘性強  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~10mm多 ロームブロックφ11~30mm中 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~5mm中 しまり、粘性強  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~20mm少 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~5mm多 しまり、粘性中  
 5 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~15mm中 焼土粒φ1~3mm少 しまり、粘性中  
 6 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~10mm少量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり、粘性中

CUTS 28号住居跡 F1~F4 土層説明  
 1 10YR2/3暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 焼土粒φ1~3mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり、粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 ロームブロックφ6~20mm少 しまり、粘性中  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 ロームブロックφ3~50mm中 炭化粒φ1~1mm少 しまり、粘性中  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~10mm多 しまり、粘性中  
 5 10YR2/3暗褐色土 ローム粒φ1~5mm多 しまり、粘性中

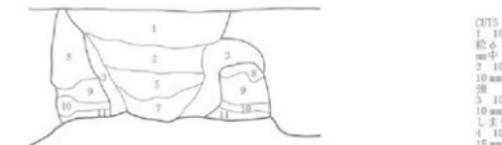
CUTS 41号住居跡 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~10mm微量 焼土粒微量 炭化粒φ1~3mm中 しまり、粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒、ブロックφ1~12mm中 焼土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~3mm少 粘性中  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~2mm微量 しまり、粘性中

CUTS 43号住居跡 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 ロームブロックφ4~15mm多 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~3mm少 しまり、粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 ロームブロックφ20mm中 焼土粒φ1~2mm微量 炭化粒φ1~3mm少 しまり、粘性中  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~25mm少 焼土粒、ブロックφ1~10mm少 炭化粒φ1~3mm少 しまり、粘性中

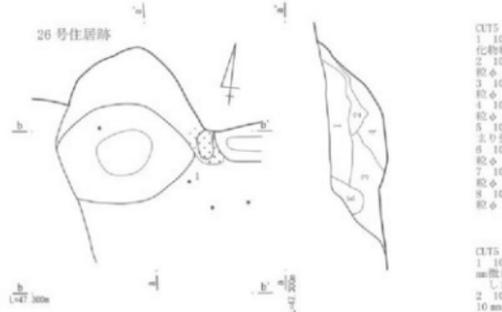
第116図 25・26・27・28・41・43号住居跡(2)



CIT5 25号住居カマド 土層説明  
 1 10YR3/3暗褐色土 ローム粒φ1~2mm微量 粘土粒・ブロックφ1~10mm少 炭化物φ1~3mm少 灰褐色粘土粒・ブロックφ1~10mm少 しまり・粘性中  
 2 10YR3/3暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~3mm少 炭化物φ1~10mm少 灰褐色粘土粒・ブロックφ1~20mm少 しまり・粘性中  
 3 10YR3/3暗褐色土 ローム粒少 粘土粒φ1~3mm少 炭化物φ1~2mm少 灰褐色粘土粒φ1~10mm中 しまり強 粘性中  
 4 10YR3/3暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 粘土粒φ1~3mm少 炭化物φ1~2mm少 灰褐色粘土粒・ブロックφ1~10mm少 しまり・粘性中  
 5 10YR3/3暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 ロームブロックφ3~10mm微量 炭化物φ1~3mm中 炭化物粒中 灰褐色粘土粒・ブロックφ1~10mm少 しまり・粘性中  
 6 10YR3/3暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm中 炭化物φ1~2mm少 灰褐色粘土粒中 しまり・粘性強  
 7 10YR3/3暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 粘土粒φ1~3mm多 炭化物φ1~2mm中 灰褐色粘土粒中 しまり・粘性強 (カマドツグ部) 8 10YR3/3にふい黄褐色土 ローム粒少 粘土粒φ1~2mm少 炭化物粒微量 しまり・粘性強 灰褐色粘土粒  
 9 10YR5/2灰黄褐色土 ローム粒・ブロックφ1~20mm少 粘土粒φ1~4mm少 炭化物φ1~4mm少 しまり・粘性強 灰褐色粘土土  
 10 10YR3/3にふい黄褐色土 ローム粒少 炭化物φ1~2mm少 しまり・粘性強 灰褐色粘土土  
 11 10YR3/3暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~20mm多 粘土粒φ1~2mm少 炭化物φ1~4mm少 灰褐色粘土土 しまり・粘性強



CIT5 26号住居カマド 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~5mm少 炭化物φ1~2mm中 炭化物φ10mm微量 黄褐色粘土粒・ブロックφ1~40mm中 しまり・粘性強  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒・ブロックφ1~10mm少 炭化物φ1~3mm少 黄褐色粘土粒φ1~5mm多 しまり・粘性強  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 粘土粒・ブロックφ1~10mm少 炭化物φ1~5mm少 黄褐色粘土粒・ブロックφ1~10mm多 しまり・粘性強  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~5mm少 粘土粒・ブロックφ1~15mm多 炭化物φ1~3mm少 黄褐色粘土粒少 しまり・粘性強

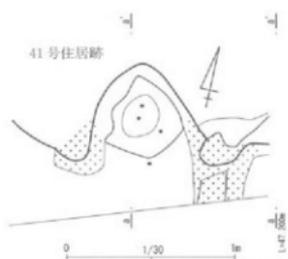


CIT5 27号住居カマド 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 粘土粒φ1~2mm微量 炭化物粒・粘土粒微量 しまり強 粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm多 炭化物φ1~2mm中 粘土粒少 しまり強 粘性中  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 粘土粒φ1~5mm少 炭化物φ1~3mm少 粘土土粒 しまり強 粘性中  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~2mm中 炭化物φ1~3mm少 粘土粒少 しまり強 粘性中  
 5 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 炭化物粒・粘土粒微量 しまり強 粘性中  
 6 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 粘土粒φ1~5mm中 炭化物φ1~2mm少 粘土粒φ1~5mm多 しまり強 粘性中  
 7 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 粘土粒φ1~2mm少 炭化物φ1~2mm少 粘土粒少 しまり強 粘性中  
 8 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~4mm多 粘土粒φ1~2mm少 炭化物φ1~2mm少 粘土粒φ1~3mm少 しまり・粘性強



CIT5 28号住居カマド 土層説明  
 1 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~10mm微量 粘土粒φ1~2mm少 炭化物φ1~10mm微量 黄褐色粘土粒少 しまり・粘性中  
 2 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 粘土粒・ブロックφ1~10mm中 炭化物φ1~10mm少 黄褐色粘土粒・ブロックφ1~10mm多 しまり中 粘性強  
 3 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒・ブロックφ1~40mm少 炭化物φ1~3mm微量 しまり中 粘性中  
 4 10YR3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm少 粘土粒・ブロックφ1~30mm中 炭化物φ1~8mm少 黄褐色粘土粒少 しまり・粘性中

第117図 25・26・27・28・41・43号住居跡(3)



第118図 25・26・27・28・41・43号住居跡 (4)

CUTS 41号住居カマド 土層説明

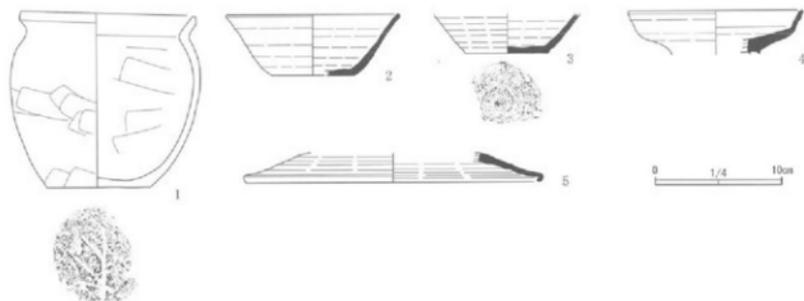
- 1 10Y3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm少 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~5mm微量 粘土粒微量 しまり・粘性中
- 2 10Y3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 ロームブロックφ3~12mm少 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~3mm少 粘土粒φ1~2mm微量 しまり・粘性強
- 3 10Y3/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm微量 焼土粒φ1~3mm中 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒φ1~2mm少 しまり・粘性中
- 4 10Y3/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm中 焼土粒・ブロックφ1~20mm多 炭化粒φ1~4mm中 粘土粒φ1~5mm中 しまり強 粘性中
- 5 10Y3/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 焼土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~2mm少 粘土粒微量 しまり中 粘性強

25号住居跡 (第115・116・117・119図, 図版50・100)

本遺構はD3-16グリッドにおいて検出された。27号住居跡・P297・298に切られ、26号住居跡を切る。平面形は方形で長軸4.68m、短軸4.50m、主軸方位N 31° Wである。縦断面からの深さは60cmで、覆土は6層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設され、袖の基部が遺存し、内部からは遺物が出土している。ピットは5基検出されたが、径が大きく浅いため柱穴とは考えにくい。周溝はカマドを除きほぼ全周する。

遺物は土師器甕、須恵器蓋・坏が出土した。遺物から遺構の時期は9世紀前半と判断される。



第119図 25号住居跡出土遺物

表 57 25号住居跡遺物観察表

番号	図記	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	形状の特徴	形状の特徴	破損	色調	粘土	焼存	備考
1	56.6	土師器 甕	深	14.7	14.2	8.9	471.4	底面は平底。胴部は最大径を上段に付つもので張り出し部。口縁は広くくしりの字に内反し口縁は縁から上げられる。口縁ははみどが有る。	口縁の内外面共に敷子。胴部外面はラタボ。内面はナメ細粒。底面は平底。	良好	内面 2.0Y3/3 外面 2.0Y3/3 底面 2.0Y3/3	粘土質	良好	口縁に灰土遺存多し。口縁部 1/3に割
2	56.1	須恵器 片	片	(13.5)	5.0	(8.5)	34.5	底面は平底。体部は直線的に狭く。	ロタコ製。底面は張り出し部で縁部はナメ細粒。ナメ細粒を打っている。	一部破損 良好	内面 2.0Y3/3 外面 2.0Y3/3 底面 2.0Y3/3	粘土質	良好	口縁に灰土遺存多し。口縁部 1/3に割
3	57-27	須恵器 片	片	—	(3.2)	(6.4)	(6.5)	底面は平底。体部は直線的に狭く。	ロタコ製。底面は張り出し部で縁部はナメ細粒。	一部破損 良好	内面 2.0Y3/3 外面 2.0Y3/3 底面 2.0Y3/3	粘土質	良好	口縁に灰土遺存多し。口縁部 1/3に割
4	56.3	須恵器 高台付	高台付	(13.0)	(3.0)	—	(6.8)	体部が平で外面内に大きく開いた張り出し口縁に有る。口縁部ナメ細粒の粒の粗度減される。	ロタコ製。	一部破損 良好	内面 2.0Y3/3 外面 2.0Y3/3 底面 2.0Y3/3	粘土質	良好	口縁に灰土遺存多し。口縁部 1/3に割
5	57.4 58.1	須恵器 蓋	蓋	(23.0)	(2.0)	—	31.5	大形のもので、胴部は縦向きに角反し縁部は縁に張り出し。縁ははみど。	ロタコ製。天面は張り出し部でラタボが確認される。	良好	内面 2.0Y3/3 外面 2.0Y3/3 底面 2.0Y3/3	粘土質	良好	口縁に灰土遺存多し。口縁部 1/3に割

26号住居跡 (第115・116・117・120図, 図版50・51・100)

本遺構はD3-16グリッドにおいて検出された。25号住居跡に切られ、42号住居跡を切る。西半が25号住居跡と重複するため、全容は不明だが、平面形は方形と見られ、長軸3.36m、短軸(2.16)m、主軸方位N13°Wである。確認面からの深さは30cmで、覆土は4層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設され、右袖が確認された。ピットは検出されず、周溝は南東隅に検出された。硬化面が東部に分布する。

遺物は土師器甕を掲載した。遺構は重複する25号住居跡の9世紀前半の時期を下限とする古代である。



第120図 26号住居跡出土遺物

表58 26号住居跡遺物観察表

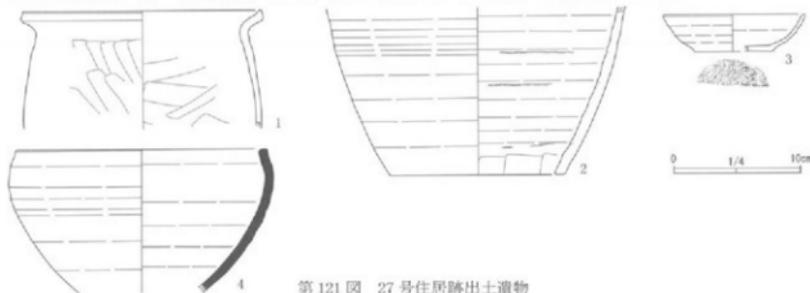
報告番号	位置	種類	器種	口径	底径	高さ	重量	器底の形状	器形の特徴	焼成	色澤	胎土	焼付	備考
1	No. 1	土師器	甕	(18.0)	(8.5)	—	30.2	胴底は平ら、口縁は「E」の字に張り出し口唇の縁のみ上げは不明。	口縁は内外面共に直下平、胴底は内面直下平、胴底の外縁直下平。	高焼 二次焼	内面 10000/42 外面 10000/42 口内面 口外縁	白灰砂子・黄 白灰土	口縁→灰 焼付	自然堆積

27号住居跡 (第115・116・117・121図, 図版51・100)

本遺構はD3-16グリッドにおいて検出された。25号住居跡を切る。平面形は方形で長軸2.82m、短軸2.94m、主軸方位N10°Wである。確認面からの深さは27cmで、覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設されている。ピットは4基確認された。周溝は北壁を除きほぼ全周する。硬化面は確認されなかった。

遺物は土師器甕・瓶・坏、須恵器仏鉢が出土した。遺物から9世紀後半の遺構と判断される。



第121図 27号住居跡出土遺物

表59 27号住居跡遺物観察表

報告番号	位置	種類	器種	口径	底径	高さ	重量	器底の形状	器形の特徴	焼成	色澤	胎土	焼付	備考
1	No. 1	土師器	甕	(18.0)	(8.0)	—	37.8	胴底の裏りは平ら、口縁は「E」の字に張り出し口唇の縁も上げは不明。	口縁は内外面共に直下平、胴底は内面直下平、胴底の外縁直下平。	高焼	内面 7,000/38 外面 10000/40 口内面	白灰砂子・黄 白灰土・黄 白灰	口縁→灰 焼付	自然堆積
2	No. 3	土師器	甕	—	(13.5)	(14.0)	205.8	ハタツ形を呈する。胴底は胴中に内湾するもの。胴底内縁に上げは不明。	胴底は平ら。胴底内縁に輪縁あり。胴底内縁に輪縁あり。胴底にハタツ形が確認される。	高焼	内面 2,000/24 外面 10000/42 口内面 口外縁	白灰砂子・黄 白灰土・黄 白灰	口縁→灰 焼付	自然堆積
3	No. 5	土師器	甕	(11.0)	3.0	16.0	30.5	胴底は平らで保土に突出する。胴底は胴中に内湾するもの。	胴底は平ら。胴底内縁に輪縁あり。胴底にハタツ形が確認される。	高焼	内外面 10000/42 口内面 口外縁	白灰砂子・黄 白灰土・黄 白灰	口縁→灰 焼付	自然堆積
4	No. 1	須恵器	鉢	(10.0)	(11.0)	—	160.0	胴底は平ら、胴底の裏りに内湾して保土に突出する。胴底の内縁に上げは不明。	胴底は平ら。胴底内縁に輪縁あり。胴底にハタツ形が確認される。	高焼	内面 500/20 外面 500/20	白灰砂子・黄 白灰土・黄 白灰	口縁→灰 焼付	自然堆積

28号住居跡 (第115・116・117・122図, 図版52・101)

本遺構はD3-16・17グリッドにおいて検出された。41・43号住居跡に切られ、42号住居跡を切る。北部が調査区外となるが、平面形は方形と見られ、長軸4.32m、短軸4.38m、主軸方位N39.5°Wである。確認面からの深さは60



41号住居跡 (第115・116・118・123図, 図版58・59・103)

本遺構はD3-16・17グリッドにおいて検出された。28号住居跡を切る。大半が調査区外となるが、残存長軸(0.42)m、短軸3.42m、主軸方位N25°Wである。確認面からの深さは54cmで、覆土は3層に分層され、自然堆積の様相を呈する。カマドは北壁に付設され、両袖が遺存する。

遺物は土師器甕1点を掲載した。重複する遺構の時期から8世紀後半を上限とする遺構と推測される。



第123図 41号住居跡出土遺物

表61 41号住居跡遺物観察表

検出 番号	法定 単位	種類	形状	寸法	重量	重量	図影の位置	図影の形状	検出 地点	色澤	胎土	作年	備考
1	91*	土師器	甕	25.45 ×8.80	—	22.3	確認面直上、D17E27、D17F 27外反しは9号の竈の壁は25	D17E27内西面直上(覆土下)、D17 D17F27内西面直上(覆土下)	表層 赤褐色 内面 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	8世紀後半	9号の竈の壁に付設

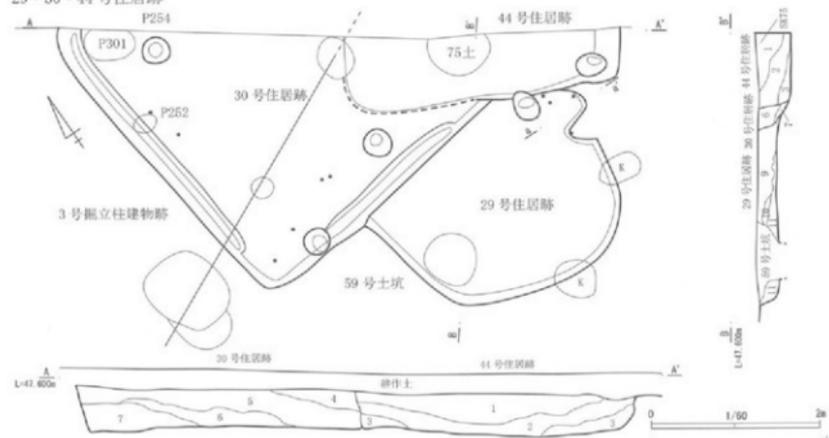
43号住居跡 (第115・116図, 図版60)

本遺構はD3-16グリッドにおいて検出された。28・42号住居跡を切る。北半が調査区外となるが、残存長軸(1.92)m、短軸(1.92)m、確認面からの深さは24cmで、覆土は3層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されていない。

遺物は弥生土器・土師器・須恵器の小片で時期を特定出来ないが、重複する遺構の時期から8世紀後半を上限とする遺構と推測される。

29・30・44号住居跡



CUTS 29・30・44号住居跡 土層説明

- 1 10YR3/4暗褐色土 コーム粒φ1~3mm中 しまり・粘性中 (5X75)
- 2 10YR3/4暗褐色土 コーム粒φ1~3mm多 炭化粒φ1~2mm少量 炭化粒φ1~3mm少量 しまり・粘性中
- 3 10YR3/4暗褐色土 コーム粒φ1~2mm多 炭化粒φ1~2mm少量 しまり・粘性中
- 4 10YR3/4暗褐色土 コーム粒・ブロックφ1~10mm中 炭土粒φ1~2mm少量 しまり・粘性中
- 5 10YR3/4暗褐色土 コーム粒・ブロックφ1~10mm多 炭土粒φ1~2mm少量 しまり・粘性中
- 6 10YR3/3暗褐色土 コーム粒φ1~2mm多 炭土粒φ1~2mm少量 炭化粒φ1~3mm少量 しまり強 粘性中
- 7 10YR3/4暗褐色土 コーム粒φ1~5mm多 しまり・粘性中
- 8 10YR3/4暗褐色土 コーム粒φ1~2mm多 しまり・粘性中
- 9 10YR3/4暗褐色土 コーム粒多 しまり・粘性中
- 10 10YR3/4暗褐色土 コーム粒φ1~3mm多 コームブロックφ4~20mm少 しまり・粘性中

CUTS 28号住居跡カマド 土層説明

- 1 10YR3/4暗褐色土 コーム粒少量 炭土粒φ1~3mm少 炭化粒φ1~3mm少 しまり・粘性中
- 2 10YR3/4暗褐色土 コーム粒φ1~3mm中 炭土粒φ1~2mm少 炭化粒φ1~10mm少 しまり・粘性中

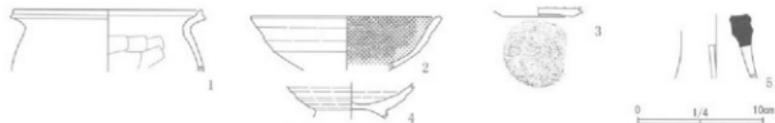
第124図 29・30・44号住居跡

29号住居跡（第124・125図、図版53・101）

本遺構はC3-15グリッドにおいて検出された。59号土坑、30・44号住居跡に切られる。検出された範囲からは平面形が隅丸方形になると推測される。長軸2.76m、短軸(2.22)m、主軸方位N85°E。確認面からの深さは24cmで、覆土は3層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは東壁に設けられる。

遺物は土師器甕・杯類、須恵器高杯が出土した。内面黒色処理杯(2)は9世紀後半の特徴を有するため、遺構外遺物と推測される。重複する遺構の時期の9世紀前半を下限とする古代の遺構と推測される。



第125図 29号住居跡出土遺物

表62 29号住居跡遺物観察表

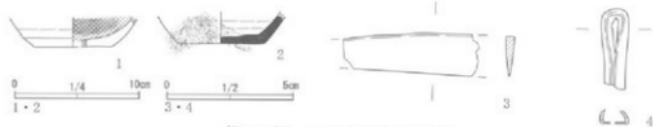
項目番号	材質	種類	口径	底径	高さ	重量	形状の特徴	形状の特徴	産地	色調	胎土	焼色	備考	
1	黄土	土師器	甕	(14.8)	(6.8)	—	61.2	断面は平ら。口縁は直線的で、胴下に外反しはほぼ無しの。内面は黒色で塗られている。	ロゾク製。断面は直線的で、胴下に外反しはほぼ無しの。内面は黒色で塗られている。	真珠貝・赤土・外周 2.3x3.5cm 口縁 1.0cm	内面 112/135 外周 100/110	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理
2	黄土	土師器	杯	14.7	(4.35)	—	86.5	断面は口の中の内側に黒色の内面を有する。	ロゾク製。断面は直線的で、胴下に外反しはほぼ無しの。内面は黒色で塗られている。	真珠貝	内面 7.5x2.7cm 外周 100/110	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理
3	黄土	土師器	杯	—	(8.8)	5.7	32.5	断面は口の中の内側に黒色の内面を有する。	ロゾク製。断面は直線的で、胴下に外反しはほぼ無しの。内面は黒色で塗られている。	真珠貝	内面 100/110 外周 2.3x3.5cm	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理
4	黄土	土師器	白土付杯	—	(3.8)	—	45.9	断面は口の中の内側に、白土が塗られている。口径・底径が不明。	ロゾク製。	真珠貝	内面 100/110 外周 2.3x3.5cm	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理
5	黄土	須恵器	高杯	—	(3.2)	—	34.1	断面は口の外反しは不明。	ロゾク製。4方筒状。	真珠貝	内面 2.3x3.5cm 外周 100/110	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理

30号住居跡（第124・126図、図版53・101）

本遺構はC3-15グリッドにおいて検出された。29号住居跡を切り、P252・254・301・44号住居跡に切られる。北部は調査区外となるが、平面形は方形となると推測される。残存長軸(4.20)m、短軸(3.60)m主軸方位N7°Wである。確認面からの深さは48cmで、覆土は4層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されていない。ピットは3基検出されたが、柱穴となるかは不明である。周溝は南西隅を除き調査区内では全周する。硬化面は検出されていない。

遺物は土師器杯、須恵器杯、鉄製品が出土した。遺物から遺構は9世紀前半と判断される。



第126図 30号住居跡出土遺物

表63 30号住居跡遺物観察表

項目番号	材質	種類	口径	底径	高さ	重量	形状の特徴	形状の特徴	産地	色調	胎土	焼色	備考	
1	黄土	土師器	杯	—	(3.6)	16.20	31.9	断面は平ら。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	ロゾク製。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	真珠貝	内面 112/135 外周 100/110	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理
2	黄土	須恵器	杯	—	(3.6)	16.43	44.3	断面は平ら。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	ロゾク製。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	真珠貝	内面 2.3x3.5cm 外周 100/110	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理
3	黄土	須恵器	杯	15.5	(3.6)	17.9	44.1	断面は平ら。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	ロゾク製。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	真珠貝	内面 2.3x3.5cm 外周 100/110	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理
4	黄土	須恵器	高杯	15.5	(3.6)	17.9	44.1	断面は平ら。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	ロゾク製。断面は直線的で、胴下に外反しは不明。	真珠貝	内面 2.3x3.5cm 外周 100/110	自然堆積物 灰白・黄褐色	11層~12層	内面黒色処理

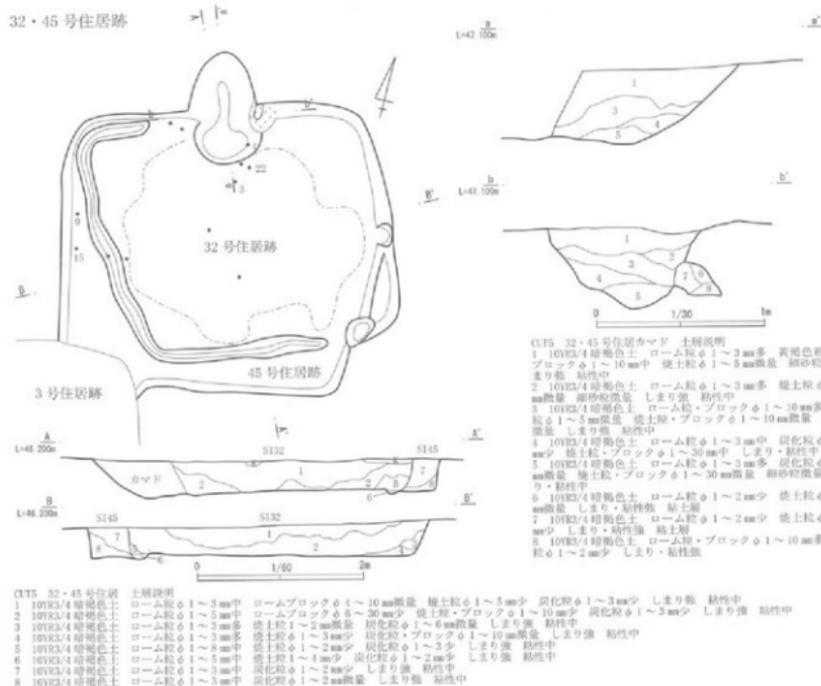
44号住居跡 (第124図, 図版53)

本遺構はC3-15グリッドにおいて検出された。29・30号住居跡を切り、3号欄立柱建物跡・75号土坑に切られる。大半が調査区外となるが、平面形は方形となると推測される。残存長軸(3.30)m、短軸(0.78)m、主軸方位不明である。確認面からの深さは48cmで、覆土は3層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されていない。ピットは検出されなかった。周溝・硬化面は検出されていない。

遺物は出土していないが、重複する遺構の時期から上限は9世紀前半と判断される。

32・45号住居跡



第127図 32・45号住居跡

32号住居跡 (第127・128図, 図版54・55・101)

本遺構はC3-24グリッドにおいて検出された。45号住居跡を切る。平面形はやや菱形となる方形で長軸3.12m、短軸3.42m、主軸方位N20°Wである。確認面からの深さは36cmで、覆土は6層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設されるが、右軸が僅かに残るのみである。ピットは検出されず、周溝は西半にしか確認されなかった。硬化面は住居中央に広く分布する。

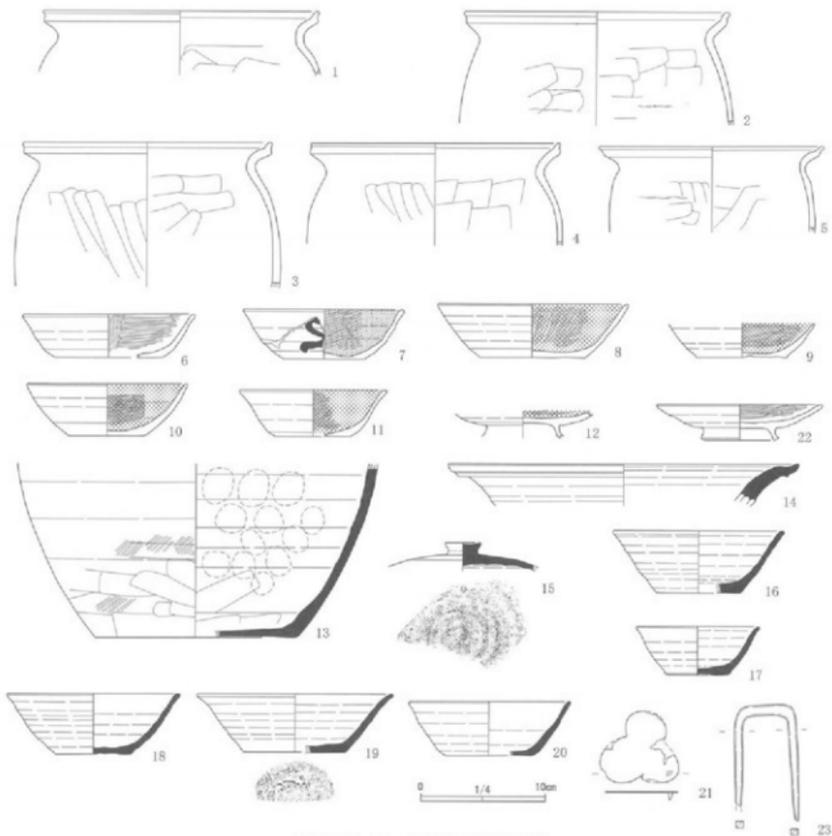
遺物は土師器甕・坏、須恵器甕・壺・坏類・鉄製品が出土した。45号住居との重複のため、遺物を一括掲載した。このうち掘方より出土した土師器甕(1・5)、須恵器坏(19)、覆土出土の土師器坏(6)については45号住居跡の遺物で、9世紀前半の特徴を有する。その他の遺物は9世紀中~後半の時期と考えられ、遺構の時期も同様と判断される。

45号住居跡（第127・128図，図版54・55・101）

本遺構はC3-24グリッドにおいて検出された。32号住居跡に切られる。平面形は東壁が膨らむ不整形形で長軸3.36m、短軸3.78m、主軸方位N5° Wである。確認面からの深さは36cmで、覆土は2層に分層される。

カマドは検出されておらず、32号住居跡のカマドにより削平された可能性も考えられる。ピット・周溝・硬化面は検出されなかった。

遺物は土師器甕・坏、須恵器坏が出土した。32号住居との重複のため、遺物を一括掲載した。このうち掘方より出土した土師器甕（1・5）、須恵器坏（19）、覆土出土の土師器坏（6）については45号住居跡の遺物である。遺物から9世紀前半の遺構と判断される。



第128図 32・45号住居跡出土遺物

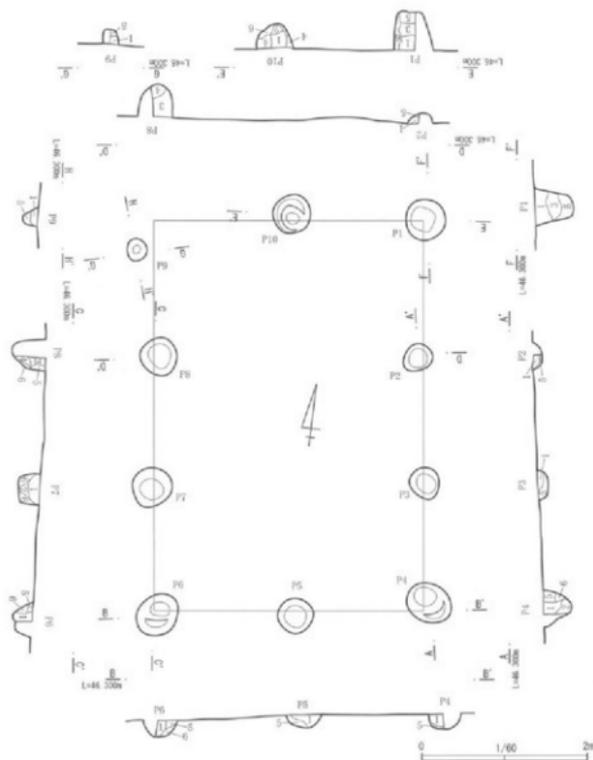


第2項 掘立柱建物跡 (第129図, 図版61・62・63)

1号掘立柱建物跡

本遺構はC4-8グリッドにおいて検出された。主軸方位 $N6.5^{\circ}W$ である。南北棟の $3 \times 2$ の側柱建物で、桁行の柱間は $1.38 \sim 1.68m$ 、梁行の柱間は $1.68 \sim 1.98m$ である。柱穴の平面形は円形または楕円形で、規模は長径 $27 \sim 54cm$ 、深さ $18 \sim 48cm$ である。P1・6は柱痕が確認された。

遺物は土師器・須恵器・弥生土器の小片が出土した。



CRTS 1号掘立 土層説明

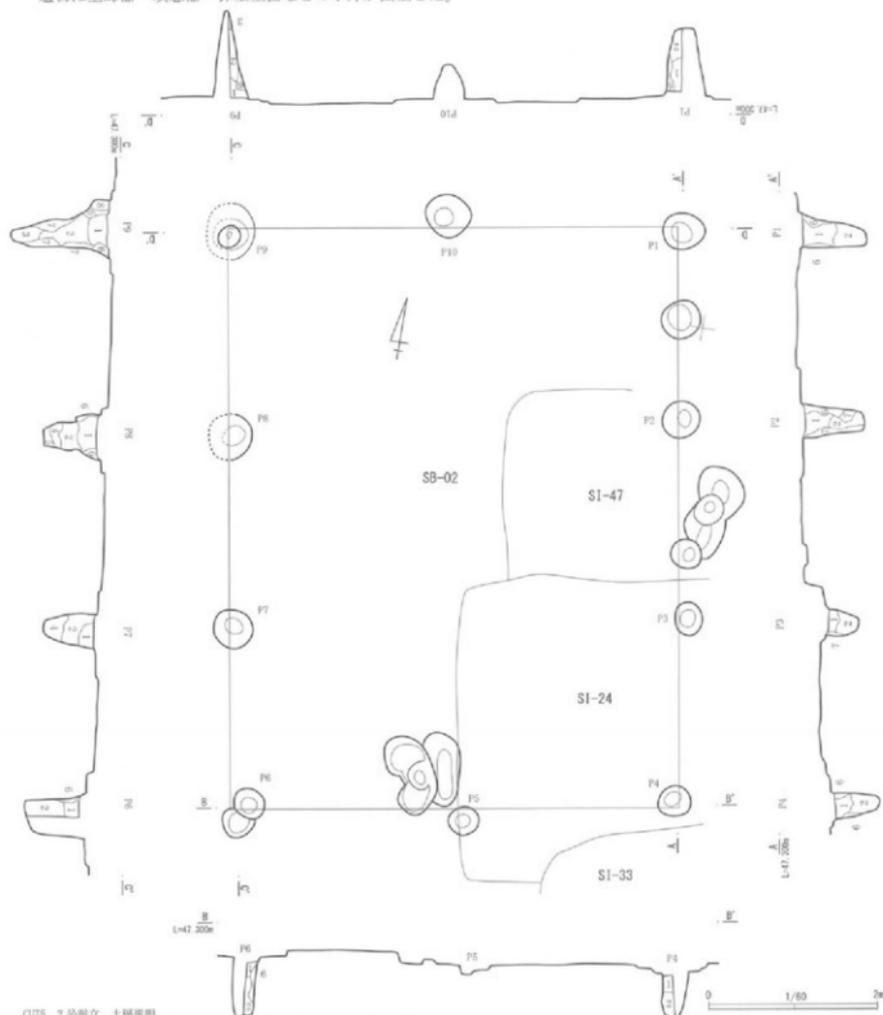
- |   |            |      |                 |                     |
|---|------------|------|-----------------|---------------------|
| 1 | 10TK/3暗褐色土 | ローム状 | ロームブロックφ1~5mm多  | しまり・粘液中             |
| 2 | 10TK/3暗褐色土 | ローム状 | ロームブロックφ1~10mm多 | しまり・粘液中             |
| 3 | 10TK/3暗褐色土 | ローム状 | ロームブロックφ1~2mm中  | しまり・粘液中             |
| 4 | 10TK/3暗褐色土 | ローム状 | ロームブロックφ1~3mm多  | しまり・粘液中             |
| 5 | 10TK/3暗褐色土 | ローム状 | ロームブロックφ1~30mm多 | しまり・粘液中             |
| 6 | 10TK/3暗褐色土 | ローム状 | ロームブロックφ1~5mm極多 | φ5~30mm中<br>しまり・粘液中 |

第129図 1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡 (第130図, 図版63・64)

本遺構はC3-20・25、D3-21グリッドにおいて検出された。主軸方位N9.5°Wである。南北棟の3×2の掘立柱建物で、桁行の柱間は2.28～2.52m、梁行の柱間は2.52～2.70mである。柱穴の平面形は円形または楕円形で、規模は長径48～60cm、深さ12～108cmである。柱痕は確認されなかった。

遺物は土師器・須恵器・弥生土器などの小片が出土した。



CUTS 2号掘立 土層説明

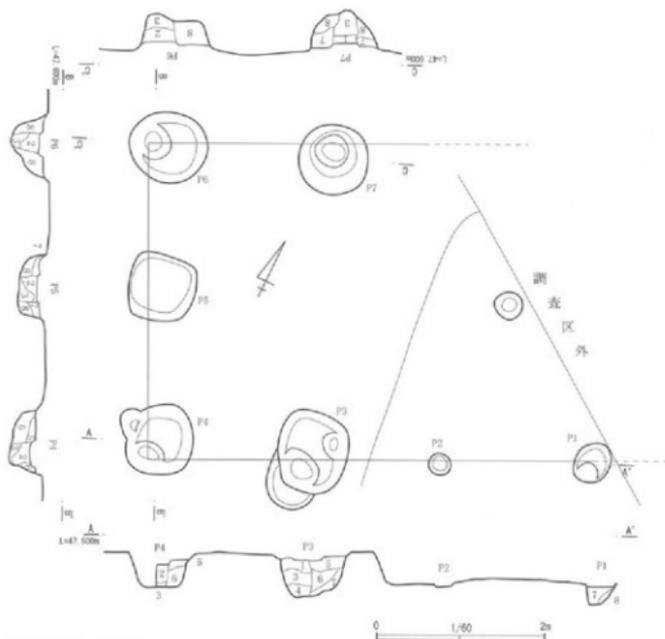
- 1 10VR2/3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～3mm中 しまり・粘性中
- 2 10VR2/3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～5mm散在 しまり・粘性中
- 3 10VR2/3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～5mm散 しまり・粘性中
- 4 10VR2/3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～3mm多 しまり・粘性中
- 5 10VR2/3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～10mm散多 しまり・粘性中
- 6 10VR2/3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～30mm散多 しまり・粘性中
- 7 10VR2/3 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～3mm散多 φ3～5mm多 しまり・粘性中
- 8 10VR4/6 褐色土 ローム粒・ロームブロックφ1～5mm多 しまり・粘性中

第130図 2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡 (第131図, 図版65・67)

本遺構はC3-15グリッドにおいて検出された。主軸方位N65°Eである。30・44号住居跡を切る。東西棟の3間以上×2の間柱建物で、桁行の柱間は1.62～1.80m、梁行の柱間は1.92mである。柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、規模は長径54～96cm、深さ6～54cmである。P4～7に柱痕が確認された。

遺物は土師器・弥生土器などの小片が出土した。

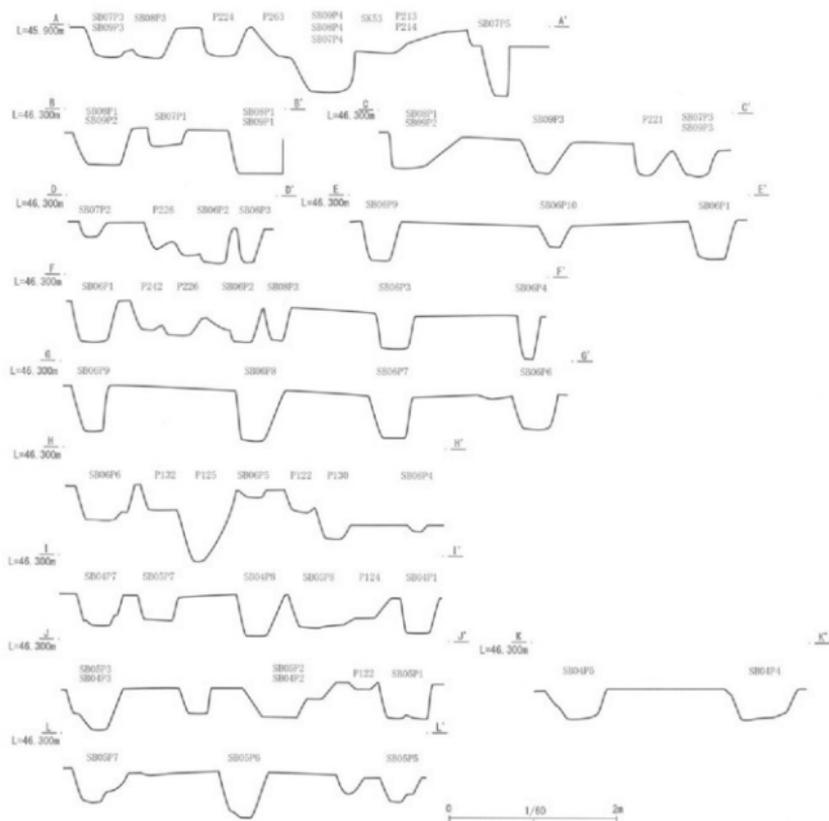


CUTS 3号掘立 土層説明

- |   |              |                   |                 |         |
|---|--------------|-------------------|-----------------|---------|
| 1 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒φ1～5mm多       | ロームブロックφ5～10mm中 | しまり・粘性强 |
| 2 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒φ1～3mm多       | しまり             | 粘性强     |
| 3 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒・ブロックφ1～10mm少 | しまり             | 粘性强     |
| 4 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒・ブロックφ1～20mm多 | しまり             | 粘性强     |
| 5 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒φ1～3mm中       | しまり             | 粘性强     |
| 6 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒・ブロックφ1～20mm中 | しまり             | 粘性强     |
| 7 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒φ1～5mm多       | しまり             | 粘性强     |
| 8 | 10YR2/3 暗褐色土 | ローム粒・ブロックφ1～30mm多 | しまり             | 粘性强     |

第131図 3号掘立柱建物跡





第133図 4・5・6・7・8・9号掘立柱建物跡 (2)

4号掘立柱建物跡 (第132・133図, 図版65)

本遺構はC4-10、D4-6グリッドにおいて検出された。主軸方位 $N15^{\circ}W$ である。 $2 \times 2$ の側柱建物で、柱間は $1.92 \sim 2.10m$ である。柱穴の平面形は円形または不整楕円形で、規模は長径 $66 \sim 90cm$ 、深さ $30 \sim 54cm$ である。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

5号掘立柱建物跡 (第132・133図, 図版65)

本遺構はC4-10、D4-6グリッドにおいて検出された。主軸方位 $N11^{\circ}W$ である。 $2 \times 2$ の側柱建物で、柱間は $1.92 \sim 2.10m$ である。柱穴の平面形は円形または不整楕円形で、規模は長径 $66 \sim 90cm$ 、深さ $30 \sim 54cm$ である。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

6号掘立柱建物跡 (第132・133図, 図版66)

本遺構はC4-10、D4-6グリッドにおいて検出された。主軸方位 $N7^{\circ}W$ である。南北棟の $3 \times 2$ の側柱建物で、柱間は $1.62 \sim 1.92m$ である。柱穴の平面形は円形または楕円形で、規模は長径 $30 \sim 78cm$ 、深さ $12 \sim 60cm$ である。

柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

#### 7号掘立柱建物跡 (第132・133図, 図版66)

本遺構はC4-10、D4-6グリッドにおいて検出された。主軸方位N11°Wである。東西棟で2間以上×2の側柱建物で、柱間は1.62～2.40mである。柱穴の平面形は円形または不整形円形で、規模は長径36～90cm、深さ18～60cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

#### 8号掘立柱建物跡 (第132・133図, 図版66)

本遺構はC4-10、D4-6グリッドにおいて検出された。主軸方位N18°Wである。東西棟で2間以上×2の側柱建物で、柱間は1.92～2.10mである。柱穴の平面形は円形または不整形円形で、規模は長径48～90cm、深さ48～102cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

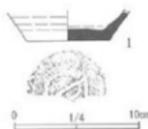
#### 9号掘立柱建物跡 (第132・133図, 図版66)

本遺構はC4-10、D4-6グリッドにおいて検出された。主軸方位N23°Wである。東西棟で2間以上×2の側柱建物で、柱間は1.80～2.40mである。柱穴の平面形は円形または不整形円形で、規模は長径48～90cm、深さ36～102cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

#### 第3項 土坑 (第134・135・136図, 図版67・68・69・103)

SK01・02はD4-11グリッドに位置し、重複しているが新旧関係は不明である。SK09はC3-19グリッド、SK19はC3-25に位置する。

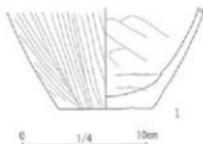
遺物はいずれも奈良・平安時代に属する。



第134図 1・2号土坑出土遺物

表65 1・2号土坑遺物観察表

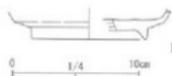
調査 番号	位置	種類	形状	寸法	材質	用途	出土 状況	保存 状況	備考
1	SK01	土坑	円形	直径 1.4m	土	土坑	SK01・02はD4-11グリッドに位置し、重複しているが新旧関係は不明である。	SK09はC3-19グリッド、SK19はC3-25に位置する。	遺物はいずれも奈良・平安時代に属する。



第135図 9号土坑出土遺物

表 66 9号土坑遺物観察表

発出 層位	位置	種類	器種	口径	底径	高さ	重量	器形の特徴	器形の考査	焼成	色調	胎土	保存	備考
1	No.1	土師器	罐	—	18.2	7.5	118.1	底径以下が、頸部を下へはほぼ直線的に開く。	底径以下が直線的に開く。頸部は底径より若干、内径は若干、外径は若干。	長径二重線、短径一重線	内面、外縁に4角～半角の凹み、中央に、雲母片を施す。	—	破損あり	出土層位不明



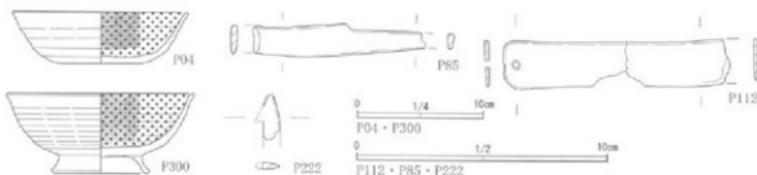
第 136 図 19号土坑出土遺物

表 67 19号土坑遺物観察表

発出 層位	位置	種類	器種	口径	底径	高さ	重量	器形の特徴	器形の考査	焼成	色調	胎土	保存	備考
1		土師器	高台付杯	—	12.4	18.4	83.2	底径以下が、口徑に付する。底径は若干で頸部以下で緩急する。	口径の縁部、底径はほぼ同一サイズ。	高台付	内面、外縁に4角～半角の凹み、中央に、雲母片を施す。	—	破損あり	出土層位不明

## 第4項 ビット (第137図, 図版69・70・71・103)

P04・85・112・222・300からは遺物が出土した。詳細は観察表に記した。



第 137 図 ビット出土遺物

表 68 ビット遺物観察表

位置 層位	位置	種類	器種	口径	底径	高さ	重量	器形の特徴	器形の考査	焼成	色調	胎土	保存	備考
P-4	1	P4	土師器	斧	13.8	4.2	6.8	106.6	底径以下で底径より若干、口徑に付する。底径は若干で頸部以下で緩急する。	口径の縁部、底径はほぼ同一サイズ。	長径二重線、短径一重線	内面、外縁に4角～半角の凹み、中央に、雲母片を施す。	—	破損あり
P-45	1	土師器	刀	幅12.5	幅12.5	厚0.15	重12.9	両先尖鋭部は折損している。両側面に溝が浅く付している。両面に付いている。本末付面は若干である。	口径の縁部、底径はほぼ同一サイズ。	長径二重線、短径一重線	内面、外縁に4角～半角の凹み、中央に、雲母片を施す。	—	破損あり	
P-112	1	土師器	短刀	幅12.5	幅12.5	厚0.15	重12.9	両先尖鋭部は折損している。両側面に溝が浅く付している。両面に付いている。本末付面は若干である。	口径の縁部、底径はほぼ同一サイズ。	長径二重線、短径一重線	内面、外縁に4角～半角の凹み、中央に、雲母片を施す。	—	破損あり	
P-222	1	土師器	短刀	幅12.5	幅12.5	厚0.15	重12.9	両先尖鋭部は折損している。両側面に溝が浅く付している。両面に付いている。本末付面は若干である。	口径の縁部、底径はほぼ同一サイズ。	長径二重線、短径一重線	内面、外縁に4角～半角の凹み、中央に、雲母片を施す。	—	破損あり	
P-300	1	土師器	短刀	幅12.5	幅12.5	厚0.15	重12.9	両先尖鋭部は折損している。両側面に溝が浅く付している。両面に付いている。本末付面は若干である。	口径の縁部、底径はほぼ同一サイズ。	長径二重線、短径一重線	内面、外縁に4角～半角の凹み、中央に、雲母片を施す。	—	破損あり	

## 第5項 遺構外出土遺物 (第138図, 図版103)

遺構外の遺物は須恵器甕・高台付杯を掲載した。8世紀後半～9世紀前半のものと見られる。

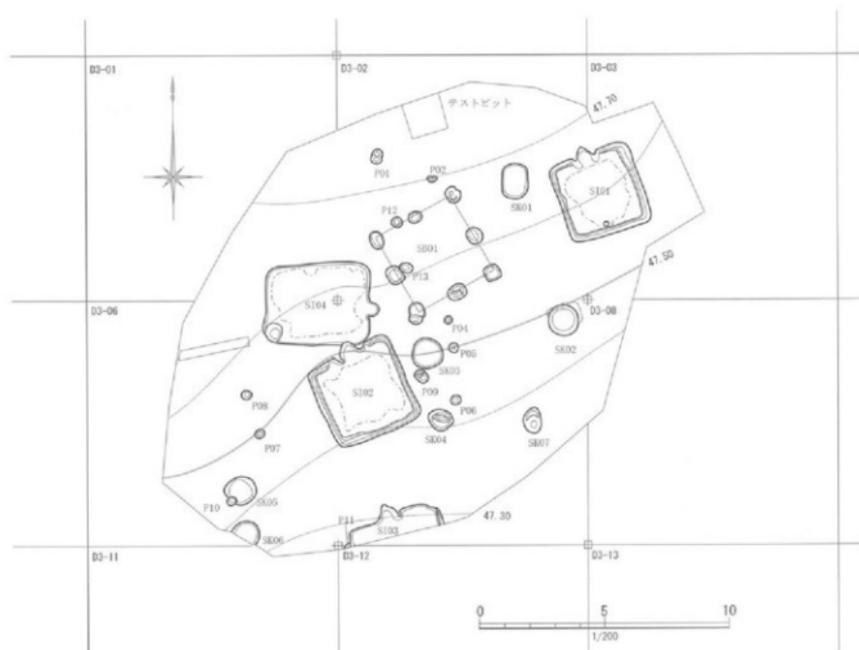


第 138 図 遺構外出土遺物



表 70 CUT5 土坑・ピット計測表

地味名	位置	大 小 長×幅×深さ (m)	備考	測 定 日	位 置	測 定 値		測 定 日	位 置	測 定 値		備 考
						長×幅×深さ (m)	備 考			長×幅×深さ (m)	備 考	
S601	04-11	126.8×100.8×90		25136	P269	C3-25	46.8×44.7×21		P274	04-15	44.3×38.5×274	
S602	04-11	116×160×24			P230	05-8	31.6×25.8×51		P275	04-15	41.7×36.6×22	
S602	04-11	307.0(2)×30			P24	C1-2	96.7×85.5×47		P276	04-15	28.2×22.6×16	
S606	04-11	74.4×200.9×41	51.99		P256	C1-5	19.4×26.8×31		P277	04-15	32.1×31.8×21	
S607	04-11	98.9×48.0×13	25109		P26	C4-5	50.1×36.0×49		P278	04-15	28.2×21.2×21	
S608	04-11	84.6×78.1×21	25108		P37	C3-20	47.7×37.7×22		P279	04-15	54.7×33.8×17	
S609	C2-11	116.6×113.2×29			P49	04-6	47.6×41.8×21		P280	04-11	39.3×39.3×15	
S610	C2-11	108.3×96.9×30			P61	04-6	110.8×65.9×41		P281	04-8	33a.2×30.1×19	
S611	C2-20	102.6×16.1×30			P54	C1-11	73.1×33.1×30		P282	04-8	58.7×52.9×33	
S612	C3-20	47.6×48.3×24			P55	C1-4	86.5×50.7×64		P283	04-8	138.30×43.1×13	
S615	03-20	116.4×114.1×21			P59	04-10	29.7×35.0×26		P285	01-8	62.1×24.1×13	
S616	03-20	112.6×104.9×32			P64	04-10	166.8×70.5×14		P286	C4-8	32.4×26.3×12	
S619	C2-25	114.7×104.7×11			P65	04-10	47.7×30.2×20		P287	C4-8	71.7×46.4×37	
S620	00-6	109.4×98.8×23	25127		P60	04-10	56.1×25.4×30		P288	04-8	41.6×34.8×24	
S621	04-10	114.1×100.2×26			P57	05-10	35.0×21.2×30		P289	C4-9	45.7×41.6×11	
S625	C3-15	74.1×78.5×10			P69	C4-10	63.6×35.0×34		P290	C1-9	42.7×40.0×23	
S626	C3-20	79.8×62.6×10			P70	C4-10	66.0×38.3×33		P291	C4-9	23.3×23.2×23	
S627	C3-20	68.8×58.5×11			P73	04-10	67.004×5×13		P292	C4-9	29.1×28.2×12	
S630	C3-19	116.1×111.7×10			P74	04-10	66.5×36.3×15		P293	C4-9	29.4×28.2×16	
S631	C1-9	102.2×92.5×11			P79	04-10	67.2×26.6×10		P294	04-9	26.4×26.2×19	
S632	04-9	113.8×116.2×17			P83	02-25	62.7×46.1×29		P295	04-8	27.8×21.7×30	
S635	04-9	78.7×77.0×20			P81	C1-5	62.2×44.5×28		P296	C4-8	26.2×23.4×15	
S636	04-10	69.2×64.5×20			P89	C1-5	64.6×31.7×17		P297	00-5	15.2×12.1×28	25125
S640	04-15	92.2×72.7×22			P90	04-15	81.3×31.8×18	251	P298	20-16	54.7×56.5×10	25125
S641	C1-14	81.8×67.8×35			P61	04-10	60.8×48.7×21		P301	C3-15	68.8×36.2×13	25130
S642	04-15	84.4×81.0×30			P60	04-10	82.2×72.6×21		P302	03-16	30.2×27.7×28	
S643	04-11	110.6×64.2×25			P85	05-10	56.7×46.5×17		P306	00-16	37.5×27.5×17	
S645	04-11	114×111×34			P96	C1-15	31.5×30.1×19		P309	00-16	32.9×26.6×15	
S649	C3-16	80.0×69.1×20	25129		P49	04-15	42.8×38.1×10		P310	03-16	34.7×26.5×12	
S661	C1-15	36.2×155.8×23	25145, 25146		P100	04-10	44.9×30.0×17		P311	04-10	57.8×37.7×30	
S663	04-9	100.6×69.1×20			P101	04-15	36.3×31.8×10		P313	C3-2	38.9×32.4×20	25123
S664	04-9	108.8×48.2×11			P102	04-15	34.4×31.7×10		P314	C2-20	49.0×25.8×20	25121
S665	04-9	72.8×62.3×25			P104	04-15	80.0×39.2×24		P315	C1-4	63.6×30.6×20	
S666	04-11	73.4×61.8×21	25165		P118	04-15	78.1×56.0×32		P316	04-4	68.3×56.5×25	
S667	04-8	84.4×30.0×10			P123	C1-15	42.3×38.8×25		P320	C2-11	28.9×26.9×28	
S668	04-8	68.6×30.0×10			P133	C4-15	76.1×66.4×15		P322	C1-5	66.1×52.7×10	
S669	04-9	69.1×57.2×21			P149	04-15	69.4×27.4×28		P323	C1-5	56.0×35.8×14	
S671	C1-3	75.7×50.6×20			P141	04-15	39.6×22.0×17		P324	C1-5	90.7×41.0×14	
S672	C1-3	90.7×83.8×26			P149	C1-5	47.2×28.5×14		P325	04-5	46.7×34.9×10	
S673	C4-4	102.7×100.3×24			P150	C1-11	17.9×37.5×22		P326	C3-25	83.6×44.9×15	25121
S674	04-9	43.6×116.4×14			P151	C1-15	20.1×28.5×16		P329	C3-28	16.9×14.1×17	
S676	C3-2	74.1×105.8×16	25151		P165	C4-15	44.4×26.1×18		P331	C1-26	32.1×22.1×35	25121
S677	02-21	70.8×52.6×18	25124		P156	04-15	37.5×28.0×10		P332	05-20	33.6×30.7×29	25121
S678	C1-4	111.1×94.5×25	25166		P161	04-15	19.1×30.9×37		P333	C3-25	31.6×20.6×25	
S679	C1-14	90.2×94.6×24	25100		P158	C3-15	37.3×11.8×28		P334	00-18	48.2×15.8×25	
S680	C4-14	101.4×77.6×21			P159	C4-15	38.8×34.5×18		P335	02-11	20.2×24.0×12	
S681	C3-10	81.9×59.7×11	25121		P170	04-11	34.9×31.5×19		P336	C2-25	46.3×45.8×11	
S682	02-16	104.8×58.6×21	25122		P174	04-10	46.7×44.2×20		P340	C4-9	26.2×24.8×26	
S683	C3-19	147.5×87.6×60.6	25118		P166	04-11	48.8×37.6×66		P370	04-7	10.1×17.0×16	
T04	C2-15	66.3×55.6×6			P205	02-11	15.8×25.7×28		P31	04-13	31.0×21.1×28	
T08	C3-25	90.1×83.5×30			P207	D1-11	69.6×48.4×29		P383	05-12	36.1×36.5×14	
T09	04-10	61.6×71.6×14			P219	D4-11	63.9×26.4×28		P364	01-9	38.1×32.2×25	
T10	C1-10	26.4×26.4×28			P21	04-11	26.6×25.2×29					
T18	C3-20	55.6×32.1×22			P217	04-6	42.2×35.2×24					
T16	C1-25	77.3×44.3×16			P215	05-11	39.3×36.8×27	25111				
T11	C1-15	49.3×46.3×26			P216	D1-11	10.0×58.2×61					
T12	C3-20	60.0×57.4×12			P218	C4-15	37.6×30.3×28					
T13	C2-20	45.6×32.4×26			P250	C3-20	40.1×29.6×20					
T14	C2-20	67.7×62.7×18			P51	C3-20	40.6×38.0×24					
T15	C2-25	57.1×46.2×15			P262	C3-15	15.1×21.2×10	25130				
T18	C2-25	54.3×34.3×21			P264	C2-15	30.6×29.4×12	25130				
T17	C2-25	71.1×69.0×29			T04	C4-10	47.6×38.0×23					
T18	C2-29	51.3×48.8×30			P265	04-11	23.3×27.3×23					
T19	C2-25	59.5×45.7×20			P668	04-20	29.8×27.3×13					
T21	C2-25	41.1×37.6×19			P269	04-15	36.7×24.0×28					
T22	C2-24	39.4×33.3×22			P272	C1-15	66.5×4.3×25					
T23	C3-24	36.1×33.1×20			P273	C1-15	50.2×43.3×12					



第139図 CUT6 全体図

## V CUT6

### 第1章 遺跡の概要

本調査区はCUT5区の北東、D3グリッドに位置する。調査区の標高は中央付近で47.5mを測り、北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の尾根部に当たる。検出された遺構は掘立柱建物跡1棟、竪穴住居跡4軒、土坑7基、ビット12基である。

### 第2章 検出された遺構・遺物

#### 第1節 奈良・平安時代の遺構と遺物

##### 第1項 住居跡

##### 1号住居跡 (第140・141図, 図版74・104)

本遺構はD3-2・3グリッドに於いて検出された。規模は長軸3.42m、短軸3.35m、主軸方位はN 20.8° Wを指す。確認面からの深さは37cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は20層に分層される。

カマドは北壁中央に設置され、袖がやや内湾するように残存し、煙道も検出された。袖の端部には17cm前後の大きな礎が基礎にされている。柱穴は検出されなかった。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。

遺物は土師器甕、須恵器甕・高台付坏が出土した。遺物から9世紀前半に属する遺構と判断される。

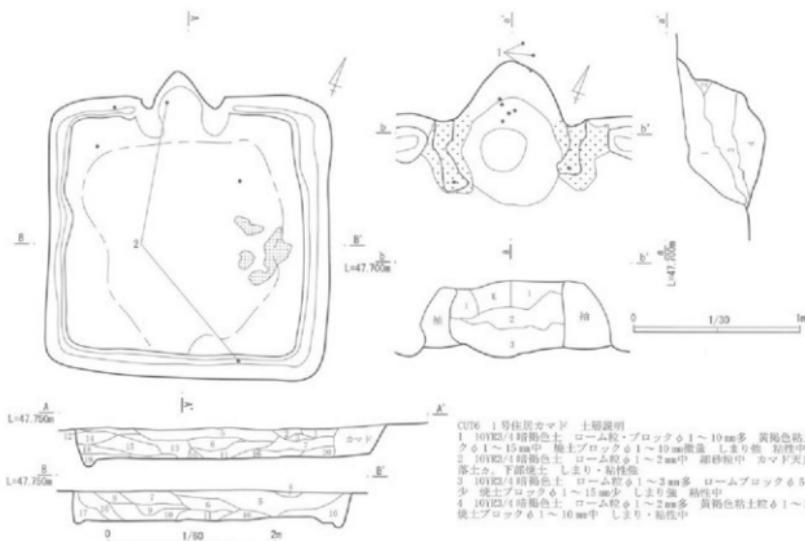


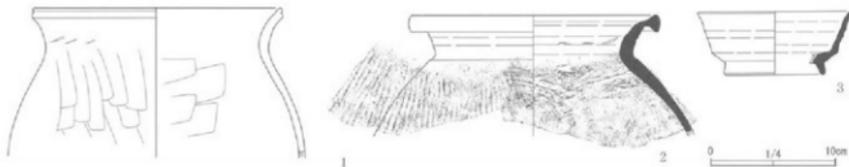
FIG. 140 1号住居カマド 土層説明

- 1 101K2/4暗褐色土 ローム粒・ブロックφ1~10mm多 黄褐色粘土ブロックφ1~15mm中 焼土ブロックφ1~10mm微量 しまり強 粘付中
- 2 101K2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm中 細砂粒中 カマド天井部の崩落土。下部粘土 しまり・粘性强
- 3 101K2/4暗褐色土 ローム粒φ1~3mm多 ロームブロックφ5~15mm少 焼土ブロックφ1~15mm少 しまり強 粘付中
- 4 101K2/4暗褐色土 ローム粒φ1~2mm多 黄褐色粘土粒φ1~3mm多 焼土ブロックφ1~10mm中 しまり・粘付中

FIG. 140 1号住居 土層説明

- 1 101K1/2灰黄褐色土 ローム粒φ2~5mm多 粘土微量 人為堆積
- 2 101K1/2灰黄褐色土 ローム粒φ2~5mm多 炭化物微量 人為堆積
- 3 101K1/2灰黄褐色土 ローム粒φ2~3mm少 粘土微量 人為堆積
- 4 101K1/2灰黄褐色土 黄褐色土混入 ローム粒微量 人為堆積
- 5 101K1/2灰黄褐色土 黄褐色土混入 ローム粒・ブロックφ2~30mm多 焼土粒・炭化物微量 人為堆積
- 6 101K2/2黒褐色土 灰黄褐色土混入 ローム粒・ブロック微量 人為堆積
- 7 101K2/2黒褐色土 黄褐色土混入 ローム粒・ブロックφ2~8mm多 人為堆積
- 8 2.515/3黄褐色土 ローム粒・ブロック少
- 9 101K1/2灰黄褐色土・101K2/4に赤い黄褐色土混入 ローム粒多 炭化物微量 人為堆積
- 10 101K2/3黄褐色土・101K5/3に赤い黄褐色土混入 ローム粒多 ロームブロック多 焼土粒微量 人為堆積
- 11 2.517/6明黄褐色土・101K4/2に赤い黄褐色土混入 ロームブロックφ10~15mm 淡黄色灰 炭化物微量 人為堆積
- 12 101K1/2灰黄褐色土 黄褐色土微量 淡黄色灰少 人為堆積
- 13 101K1/1黒褐色土・ブロックφ10~30mmに赤い黄褐色土 黄褐色土混入 ロームブロックφ5~30mm 人為堆積
- 14 101K5/3に赤い黄褐色土 ローム粒多 ロームブロック微量 人為堆積
- 15 101K5/3に赤い黄褐色土 2.515/3黄褐色土混入 ロームブロックφ5~25mm多 単粒粘土ブロックφ5~15mm少 人為堆積
- 16 101K1/2に赤い黄褐色土 ローム粒・ブロックφ3~10mm少 灰黄褐色土微量 炭化物微量
- 17 101K1/2に赤い黄褐色土 2.515/3黄褐色土混入 ローム粒少 ロームブロック少量 炭化物微量 人為堆積
- 18 2.515/3縦状赤褐色土 101K5/3黄褐色土混入 淡黄色灰少 ローム粒・ブロック少量 人為堆積
- 19 2.515/2縦状赤褐色土 淡黄色灰 ローム粒・ブロック微量 人為堆積
- 20 2.514/3褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物微量 人為堆積

第140図 1号住居跡



第141図 1号住居跡出土遺物

表71 1号住居跡遺物観察表

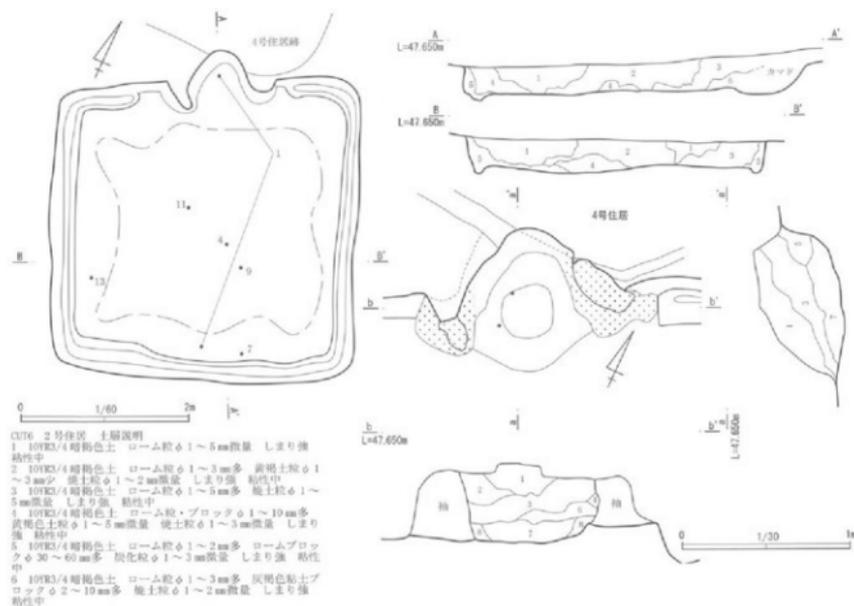
遺物番号	品名	種類	図録	口径	底径	高さ	重量	窯形の特徴	窯形の位置	焼成	色調	胎土	粘付	備考
1	101K1/2 101K1/2 No.1 5	土師器	図	19.8	—	(11.0)	436.1	胴部は中平直。口縁は「C」の口縁部中央部及び口縁部には凹みがある。	口縁の内側に横すじ、胴部内側に縦すじあり。	良好 二次焼成	内面 1.51K2/4に赤い黄褐色土混入	灰赤・黄褐色土混入	口縁~胴部1/4	粘付強
2	No.5 101K1/2 No.1	煎茶器	図	19.2	—	(9.0)	320.3	胴部は中平直。口縁は「C」の口縁部中央部及び口縁部には凹みがある。	口縁の内側に横すじ、胴部内側に縦すじあり。口縁部には凹みがある。	良好	内面 2.515/3に赤い黄褐色土混入	中平直(口縁部)に赤い黄褐色土混入	口縁~胴部1/4	粘付中
3	No.3	土師器	図	17	8	5.1	32.1	胴部は「C」の口縁部中央部及び口縁部には凹みがある。	口縁部は凹み、胴部は凹みあり。	良好	内面 2.515/3に赤い黄褐色土混入	白色粘土・灰赤土混入	口縁1/4 胴部1/4	粘付中

本遺構はD3-6・7グリッドに於いて検出された。

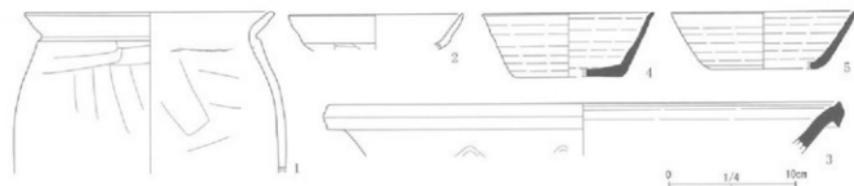
カマドの一部が4号住居跡に切られる。規模は長軸3.70m、短軸3.69m、主軸方位はN 24.3° Wを指す。確認面からの深さは30cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は6層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央部分に設置されるが、軸は僅かしか残存しない。柱穴は検出されなかった。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。周溝はカマドの部分を除きほぼ全周する。

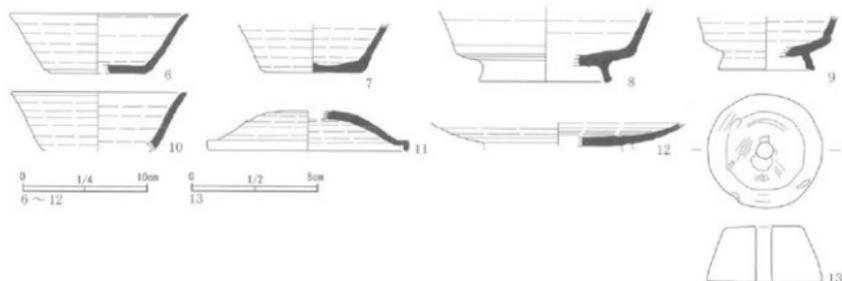
遺物は土師器甕・坏、須志器甕・蓋・坏類、石製紡錘車が出土した。遺物から9世紀前半に属すると判断される。



第142図 2号住居跡



第143図 2号住居跡出土遺物 (I)



第144図 2号住居跡出土遺物(2)

表72 2号住居跡遺物観察表

調査 番号	品名	種類	形状	口径	底径	高さ	重量	器底の形状	器内の形状	出土 状況	色調	取上	図号	備考
1	No.1 No.1	土師器	甕	19.8	—	12.0	183.3	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁は内外両方に鋭く折れ、器内外面が平滑。	良好	内面 119(1)・13 外面 119(1)・13 119(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
2	No.2	土師器	甕	13.9	—	12.0	12.0	胴部は下部で斜めに内湾し、中央に鋭い稜を有した内湾部に受け口は存在しない。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 7.19(1)・13 外面 7.19(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14	
3	No.3	土師器	甕	18.8	—	14.0	124.8	口縁は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	遺失 良好	内面 134(1)・13 外面 2.19(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14	
4	No.4	土師器	甕	18.5	—	6.5	77.1	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 147(1)・13 外面 2.19(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
5	No.5	土師器	甕	14.1	—	8.0	42.2	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 126(1)・13 外面 126(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	底面直
6	No.6	土師器	甕	14.5	—	8.0	66.5	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	遺失 良好	内面 149(1)・13 外面 149(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
7	No.7	土師器	甕	—	—	5.5	33.0	胴部はやや上縁が直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 136(1)・13 外面 136(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
8	No.8	土師器	高台付 甕	—	—	11	64.3	高台は「へ」の字に好まれる。胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 170(1)・13 外面 170(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
9	No.9	土師器	高台付 甕	—	—	6.0	33.1	高台は「へ」の字に好まれる。胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 181(1)・13 外面 181(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
10	No.10	土師器	甕	12.7	—	4.0	34.9	胴部は下部で斜めに内湾した直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 136(1)・13 外面 136(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
11	No.11	土師器	甕	15.8	—	12.0	66.5	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	良好	内面 148(1)・13 外面 148(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
12	No.12	土師器	甕	—	—	11.0	80.4	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	一部遺失 良好	内面 175(1)・13 外面 175(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	
13	No.13	土師器	高台付 甕	12.0	—	4.0	11.6	胴部は直線的で、口縁は「く」の字に屈曲し、中央で膨らみの上縁が鋭く出ている。	口縁外面は下部で折れ、器内外面は平滑。	遺失	内面 175(1)・13 外面 175(1)・13	黒色砂子・白色砂子・黒色砂子・黒色砂子	119→14 149→14	

3号住居跡 (第145・146図, 図版76・104)

本遺構はD3-7グリッドに於いて検出された。大半が調査区外となり、カマドの付設された北壁のみの検出となった。P11を切っている。規模は残存長軸(1.02)m、短軸3.78m、主軸方位はN 81.1° Wを指す。確認面からの深さは50cmを測り、掘り込みが深い。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央部分に設置されるが、軸は僅かしか残存しない。柱穴・周溝・硬化面は検出されなかった。

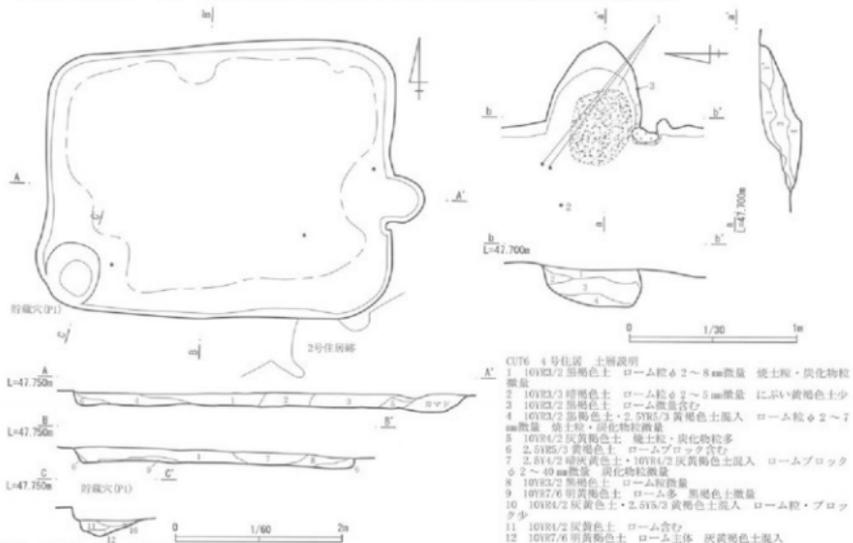
遺物は土師器類、内面黒色処理の甕が出土した。墨書土器2点が出土したが、釈読出来なかった。遺物から9世紀後半に属すると判断される。



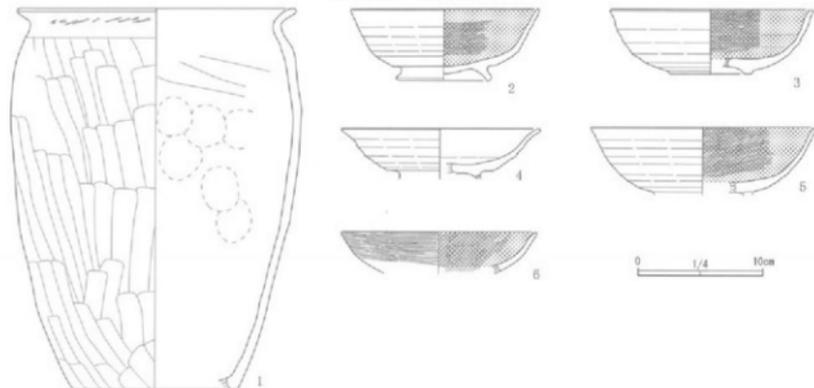
本遺構はD3-1・2・6・7グリッドに於いて検出された。南接する2号住居跡のカマドを切っている。平面形は主軸方位の長い長方形で、規模は長軸4.15m、短軸3.35m、主軸方位はN 90° Eを指す。確認面からの深さは17.2cmを測り、掘り込みはやや浅い。覆土は9層に分层され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは東壁中央部分に設置され、右袖が僅かに残存する。火床面も検出された。柱穴・周溝は検出されなかったが、南西隅に貯蔵穴と見られるP1が確認され、長径74.6cm、短径66.7cm、深さ19.4cmである。

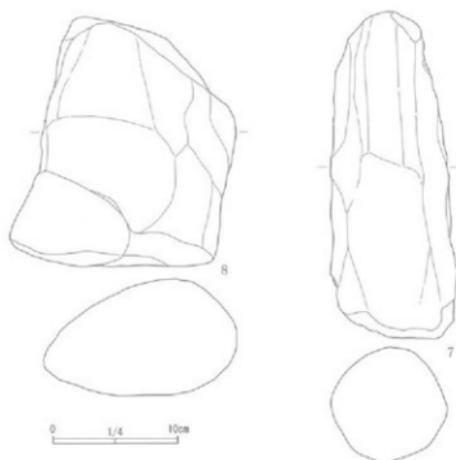
遺物は土師器甕・坏類・石製支脚が出土した。遺物から9世紀後半に属すると判断される。



第147図 4号住居跡



第148図 4号住居跡出土遺物(1)



第149図 4号住居跡出土遺物(2)

表74 4号住居跡遺物観察表

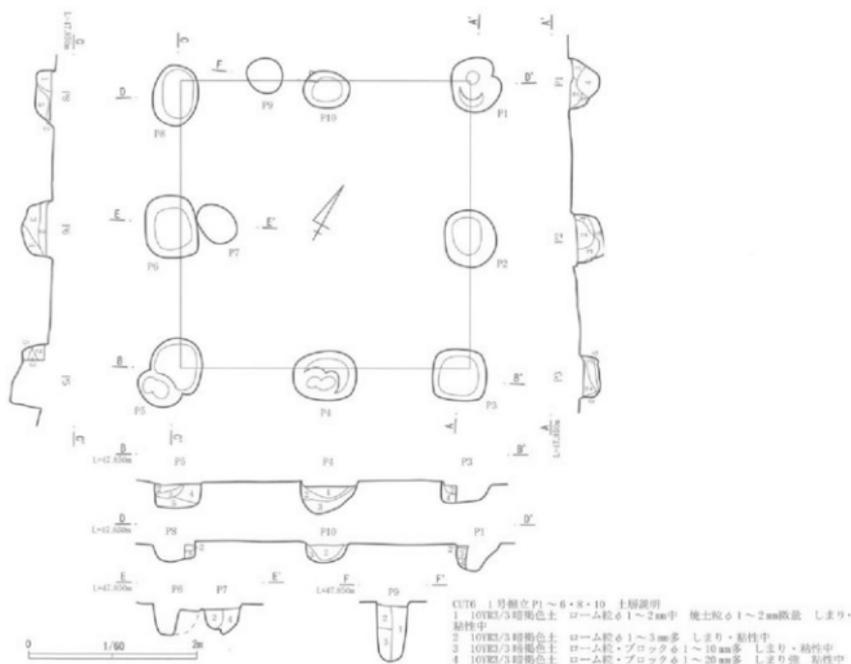
発掘 番号	注記	種類	形状	寸法	底径	高さ	重量	器形の名称	器形の名称	構成	土質	胎土	現存	備考
1	No. 1 L. 110 <sup>2</sup> No. 2 111 <sup>2</sup>	土師器	壺	22.9	-13.1	30.2	1,660.0	胴口は拡大図を参照し有蓋の蓋が 蓋にはよく似た形。口縁は 短く、口字に突起する。口 縁及び底縁は直多角形。	口は内外縁共に直アゴ。胴 部は直アゴアゴ。内面には 当て具痕あり。底基本直縁。	高脚	内面 11000/41 外側 10000/38 -直縁	赤色粘土・白 色粘土の中多 い。白色鉄 物質少量。	118-18 10000/41 10-15	11-13-1 10000/41 10-15
2	No. 3 111 <sup>2</sup> No. 3 111 <sup>2</sup>	土師器	高台付 杯	-11.8	7.4	8.7	99.3	胴口は「ハ」の字に打るあ る。内縁直縁。胴部は下で中 部中心に内傾した唇状縁部に 突く。	口字の唇状。胴部下縁は1000 ヘラアゴ。底縁は1000ヘラ アゴ。内面は直アゴ。 底平縁アゴ。内面は直アゴ。	高脚 二足脚 高脚	内面 2100/20 外側 2100/20 直縁	赤色粘土・白 色粘土・赤 色粘土の中 多。白色鉄 物質少量。	118-18 10000/41 10-15	11-13-1 10000/41 10-15
3	111 <sup>2</sup> No. 1	土師器	高台付 杯	-13.9	-8.4	8.1	71.9	胴口は傾斜してあり、唇直 角として突起。底縁は1000中 に傾斜した唇状縁部で突起 する。	口字の唇状。胴部下縁は1000 ヘラアゴ。底縁は1000ヘラ アゴ。内面は直アゴ。 底平縁アゴ。内面は直アゴ。	高脚 二足脚 高脚	内面 2100/20 外側 2100/20 直縁	赤色粘土・白 色粘土・赤 色粘土の中 多。白色鉄 物質少量。	118-18 10000/41 10-15	11-13-1 10000/41 10-15
4	111 <sup>2</sup>	土師器	高台付 杯	-13.7	-	14.0	98.1	胴口は傾斜してあり、唇直 角として突起。底縁は1000中 に傾斜した唇状縁部で突起 する。	口字の唇状。胴部下縁は1000 ヘラアゴ。底縁は1000ヘラ アゴ。内面は直アゴ。 底平縁アゴ。内面は直アゴ。	高脚 二足脚 高脚	内面 2100/20 外側 2100/20 直縁	赤色粘土・白 色粘土・赤 色粘土の中 多。白色鉄 物質少量。	118-18 10000/41 10-15	11-13-1 10000/41 10-15
5	遺土	土師器	高台付 杯	-12.4	-	13.4	37.4	胴口は傾斜してあり、唇直 角として突起。底縁は1000中 に傾斜した唇状縁部で突起 する。太縁りな杯である。	口字の唇状。胴部下縁は1000 ヘラアゴ。内面は直アゴ。 底平縁アゴ。内面は直アゴ。	高脚	内面 2100/20 外側 2100/20 直縁	赤色粘土・白 色粘土・赤 色粘土の中 多。白色鉄 物質少量。	118-18 10000/41 10-15	11-13-1 10000/41 10-15
6	遺土	土師器	杯	-13.4	-	13.4	46.4	胴口は傾斜してあり、唇直 角として突起。底縁は1000中 に傾斜した唇状縁部で突起 する。	口字の唇状。胴部下縁は1000 ヘラアゴ。内面は直アゴ。 底平縁アゴ。内面は直アゴ。	高脚	内面 2100/20 外側 2100/20 直縁	赤色粘土・白 色粘土・赤 色粘土の中 多。白色鉄 物質少量。	118-18 10000/41 10-15	11-13-1 10000/41 10-15
7	石製品	土師	高台付 杯	100.7	厚 35.2	2,403.0		器口の縁を削り直して突起。口縁直縁を有する。						器口の縁を削り直して突起。口縁直縁を有する。
8	石製品	土師	高台付 杯	101.2	厚 35.2	2,525.0		器口の縁を削り直して突起。口縁直縁を有する。						器口の縁を削り直して突起。口縁直縁を有する。

## 第2項 掘立柱建物跡

### 1号掘立柱建物跡 (第150図、図版77)

本遺構はD3・2・7グリッドにおいて検出された。主軸方位はN29.1° Wである。2×2の側柱建物で、1.52～1.73 mである。柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、規模は長径57.9～78.4 cm、深さ22.6～41.5 cmである。柱痕は確認されなかった。

遺物が出土していないため、時期が不明である。



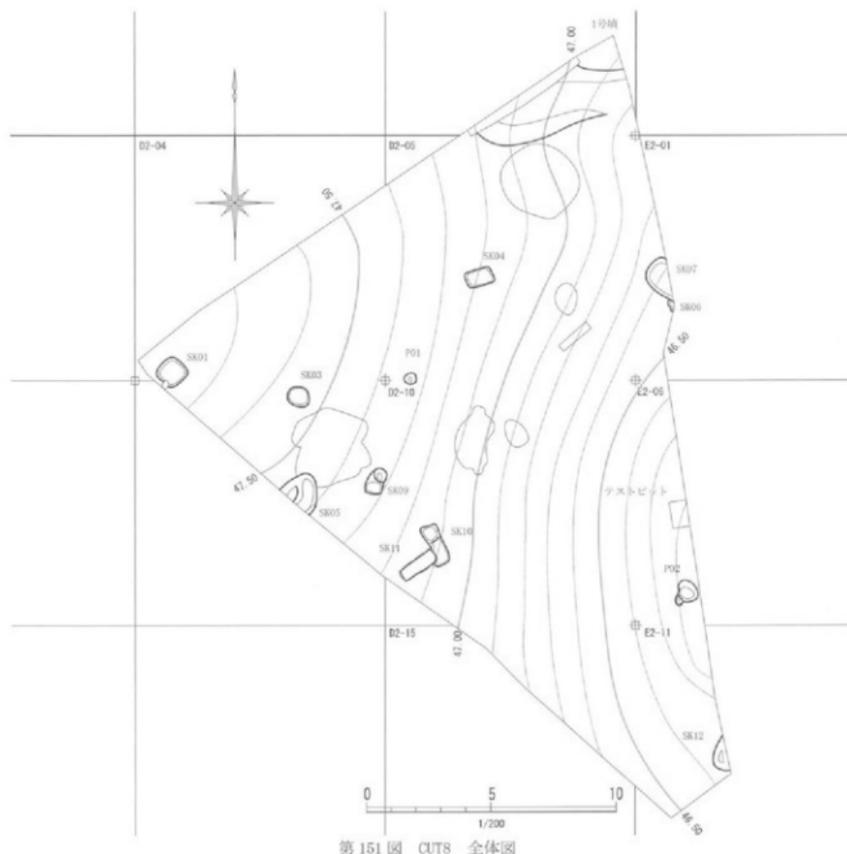
第150図 1号掘立柱建物跡

表75 CUT6 土坑・ピット計測表

遺跡名	位置	規模		備考	遺跡名	位置	規模		備考
		長径×短径×深さ (cm)					長径×短径×深さ (cm)		
SK01	D3-02	122.2×118.2×30			P04	D3-07	31.8×28.4×15		
SK02	D3-07	129.2×119.4×50			P05	D3-07	10×38.9×50		
SK03	D3-07	124.6×122.4×22			P06	D3-07	42.6×40.9×52		
SK04	D3-07	107.2×85×16			P07	D3-06	42.5×33.3×30		
SK05	D3-06	127.1×114×12	>P10		P08	D3-06	44.9×42.5×32		
SK06	D3-06	114.8×(81.1)×42			P09	D3-07	63.3×48.8×50		
SK07	D3-07	105.8×72.9×29			P10	D3-06	40.7×39×40	(SK05)	
P01	D3-02	62.7×41.3×54			P11	D3-12	(27.5)×(14.1)×82	(SK03)	
P02	D3-02	30.5×25.3×34			P12	D3-02	45.4×43.7×72	S80/P09から変更	
P03	—	—	女帝		P13	D3-02	55.2×38.9×30	S80/P06から変更	

### 第3章 まとめ

1・2号住居跡は9世紀前半、3・4号住居跡は9世紀後半の遺構である。1号掘立柱建物跡は時期が不明である。奈良・平安時代の集落の本体と推測されるCUT5に近接する調査区であるため、集落の続きと考えられる。



## VI CUT8

### 第1章 遺跡の概要

本調査区はCUT2の北西に位置し、概ね南東方向に長三角形の調査範囲である。調査区の標高は中央付近で47.00mを測り、西から南東に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の尾根部に当たる。検出された遺構は古墳1基、土坑11基、火葬墓1基、ピット2基である。

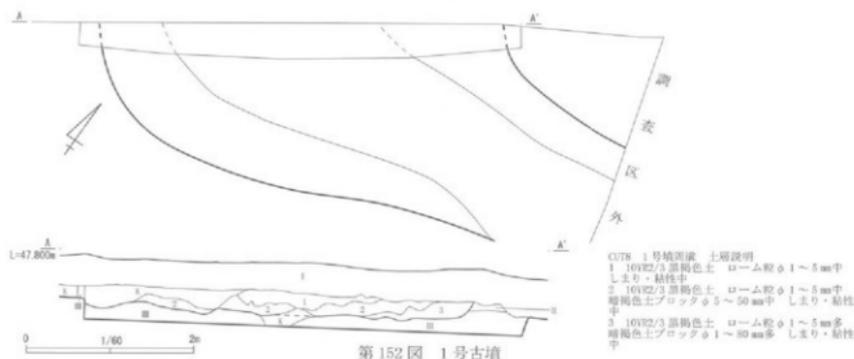
### 第2章 検出された遺構・遺物

#### 第1節 古墳時代の遺構と遺物

##### 第1項 古墳

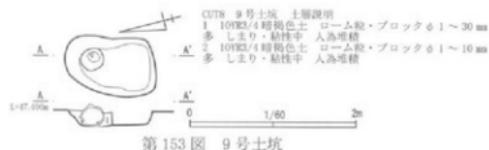
1号古墳 (第152図, 図版81)

調査区北隅に周溝のみ検出された。墳丘が調査区外に存在する喜平塚古墳の一部と見られる。古墳の墳丘部は現況で標高約50.6mを測る円墳である。



## 第2節 奈良・平安時代の遺構と遺物

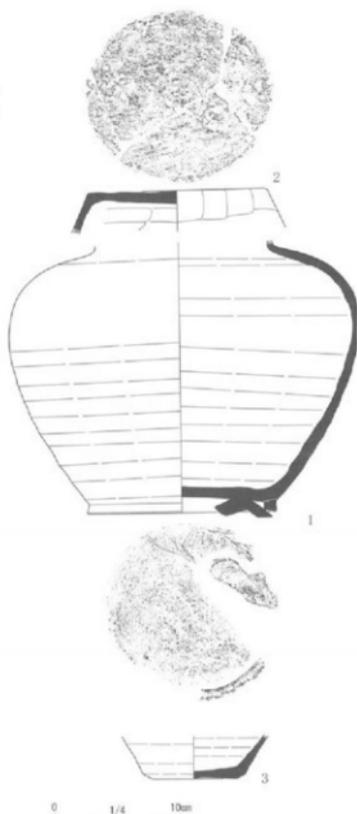
### 9号土坑 (第153・154図, 図版83・84・105)



長径105cm、短径72.6cmで南北に長い楕円形である。深さは19cmであるが、骨蔵器が土坑上端よりも高いため本来の土坑は深いとみられる。土坑の北隅に倒位で骨蔵器を埋納している。内部からは人骨が発見された。火葬骨のため性別・年齢等は不明である。骨蔵器は東海系の灰軸陶器壺で、口縁部を意図的に打ち壊している。蓋は新治産の甕底部を転用したものである。いずれも9世紀前半と見られる。

吉沢悟氏によれば、茨城県は全国的にも骨蔵器の出土例が多く、約200点となっている。主な骨蔵器として高級な銅製容器・奈良三彩・灰軸陶器・須恵器の壺があり、日用品として土師器・須恵器の甕が利用される。骨蔵器の外容器としては石櫃・木櫃が見られる。骨蔵器の埋納方法は土浦市・石岡市を中心とする霞ヶ浦沿岸では正位、国府が所在した水戸市を中心とした那珂川流域は倒位が多く見られる。火葬墓の立地については単独・墓群のどちらもあるが、卓越した古墳群や官衙・寺院の近隣など地域の拠点的立地が選択される傾向が顕著である(吉沢悟1995)。

本遺跡周辺には古墳群が多く、調査区にかかる喜平塚古墳との関連の可能性も考えられる。火葬の受容については全国的に見て畿内・九州・関東が抜きんでており、関東では千葉県を筆頭として茨城県・群馬県・神奈川県が積極的であると見られる。火葬に



限らず、寺院や仏教系遺物の出土が非常に多く、仏教の受容に積極的であったとも言える。受容層としては寺院建立などを積極的に行っていた郡司や在地有力者層を想定できる。

表 76 9号土坑遺物観察表

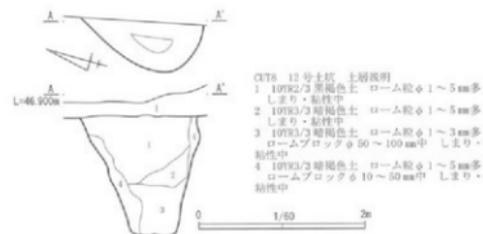
遺物番号	位置	種類	器種	口径	高さ	重量	器形の特徴	器形の構成	出土	色澤	胎土	発見	備考
1	No.1	瓦葺陶器	壺 (短身型)	—	14.8	<21.4>	274.0	胎土は粘土質で赤褐色。器底は土に付着。器口は口縁部で厚く、口縁は丸みを帯びている。外縁部は、器底部に近い部分に(1)が認められる。	コテで成形。器底は器底に付着。内面は平滑で、外縁部はヘラで仕上げられている。	赤褐色	赤褐色	—	器底に(1)が認められる。器底は土に付着している。
2	No.2	瓦葺陶器	壺 (短身型)	—	14.6	<5.2>	208.9	胎土はやや中上層土質の赤褐色。器底は土に付着。器口は口縁部で厚く、口縁は丸みを帯びている。外縁部は、器底部に近い部分に(1)が認められる。	コテで成形。器底は器底に付着。内面は平滑で、外縁部はヘラで仕上げられている。	赤褐色	赤褐色	—	器底に(1)が認められる。器底は土に付着している。
3	No.3	瓦葺陶器	壺	—	6.8	<3.4>	22.1	胎土は中上層土質の赤褐色。器底は土に付着。器口は口縁部で厚く、口縁は丸みを帯びている。外縁部は、器底部に近い部分に(1)が認められる。	コテで成形。器底は器底に付着。内面は平滑で、外縁部はヘラで仕上げられている。	赤褐色	赤褐色	—	器底に(1)が認められる。器底は土に付着している。

### 第3節 その他の遺構

#### 第1項 土坑

##### 12号土坑 (第155図, 図版85)

本遺構はE2-11グリッドにおいて検出した。調査区南端にあり、殆どが調査区外であるが、深さは144cmあり、上端の幅が150cmなのに対し、下端が50cmと窄まる形態を採る。縄文時代の陥し穴の可能性が考えられる。



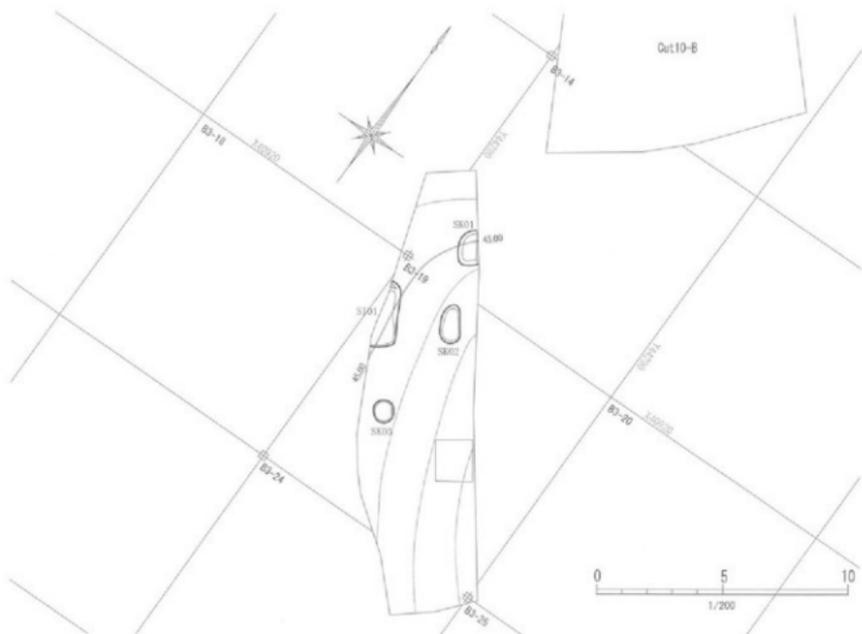
第155図 12号土坑

表 77 CUTs 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	規模		備考
		長径×短径×深さ(m)		
S801	02-04	113.6×113.1×21		
S802	—	—		欠番
S803	02-09	153.7×127.7×36		
S804	02-05	108.6×74.7×12		
S805	02-09	87.8×80.7×10	>P10	
S806	E2-01	(47.7)×(16.2)×29	>S807	
S807	E2-01	(94.2)×(81.3)×22	>S806	
S808	—	—		欠番
S809	02-09	116.4×88.6×31	穴葬	
S810	02-10	168.7×98.6×23	>S811	
S811	02-10	127.6×92.6×30	>S810	
S812	E2-11	126.4×(55.4)×112		
P91	02-05	47.6×33.4×20		
P92	E2-06	103.2×90.8×36		
P93	—	—		欠番
P94	—	—		欠番

### 第3章 まとめ

喜平塚古墳に関しては周溝のみの調査に留まったため、詳細は不明である。しかし火葬墓(9号土坑)に関して、他の火葬墓の埋葬傾向から考えて、集落の外れの、喜平塚古墳に近接する立地を意識して選択している可能性が高い。9世紀後半と見られるCUT5の27号住居跡からは仏鉢が出土しており、この集落が仏教の受容に積極的であったことを示唆するものと考えられる。縄文時代の陥し穴については、本調査区では縄文土器は出土していないが、他の調査区で出土していることから、当該期の遺構が存在したことは十分に想定される。



第156図 CUT9 全体図

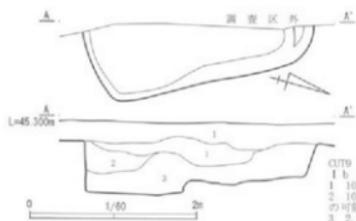
## VII CUT9

### 第1章 遺跡の概要

本調査区はCUT10Bの南に位置し、概ね南西方向に長三角形の調査範囲である。調査区の標高は中央付近で45.00mを測り、東から北西に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の端部に当たる。検出された遺構は竪穴住居跡1軒、土坑3基である。

### 第2章 検出された遺構・遺物

#### 第1節 住居跡



第157図 1号住居跡

#### 1号住居跡 (第157図)

調査区中央調査区壁に一部がかかる状態で検出された。残存長軸(2.70)m、短軸(0.96)m、主軸方位N 28.5° W、確認面からの深さは66cmである。カマド・周溝・硬化面は検出されなかった。遺物は出土していない。

CUT9 1号住居跡 土層説明

1 b 灰土 移作土

1 101R4/3に多い黄褐色土・101R6/4に多い黄褐色土混入 ローム土少 焼土粒子微量

2 101R4/3に多い黄褐色土・101R6/4に多い黄褐色土混入 ローム土中 焼酎土ブロック中 人為堆積の可能性あり

3 2.077/4浅黄褐色土 ローム土含む 面質土粒・ブロックφ5~30mm多 人為堆積

## 第2節 その他の遺構と遺物

### 1号土坑 (第158図, 図版87)

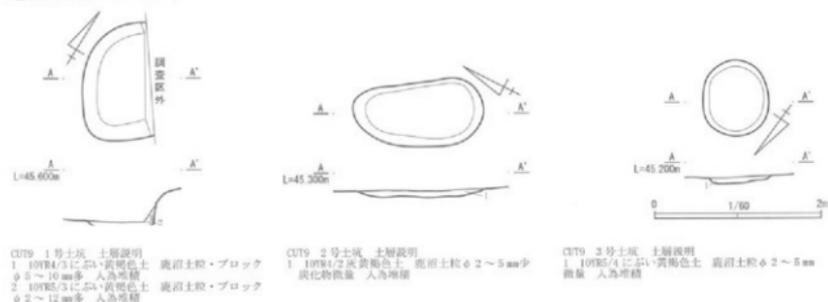
本遺構はB3-14グリッド, 調査区東壁にかかる形で検出した。残存長径140cm, 短径(100)cmで長方形と推測される。深さは8.5cmと浅く, 性格は不明である。遺物は出土していない。

### 2号土坑 (第158図, 図版87)

本遺構はB3-19グリッドにおいて検出した。長径160cm, 短径80cmで, 深さは7.3cmと浅い楕円形であるが, 性格は不明である。遺物は出土していない。

### 3号土坑 (第158図)

本遺構はB3-19グリッドにおいて検出した。径80cmで, 深さは9.9cmと浅い円形となるが, 性格は不明である。遺物は出土していない。



第158図 1・2・3号土坑

## 第3節 遺構外出土遺物 (第159図)

表土中からは遺物が出土した。詳細は観察表に記した。

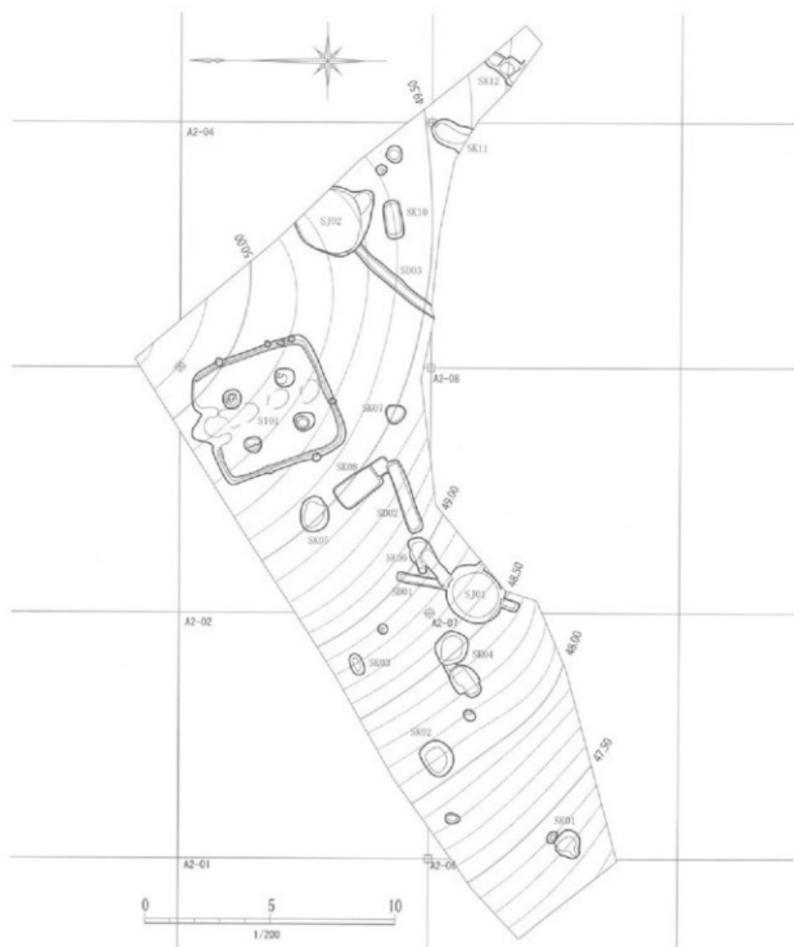


表78 CUT9 遺構外出土遺物観察表

調査 番号	位置	種類	形状	寸法	方位	層位	発見 状況	器物の種類	器物の表裏	調査 方法	記録 方法	出土 状況	保存 状況	備考
1	B3-14	土坑	楕円形	長径140 短径100	東壁	B3-14	掘削							

## 第3章 まとめ

調査区の地形と隣接する調査区の遺構密度などを鑑みるに, 本調査区は集落の外れか, 空閑地に当たると考えられる。本調査区の調査によって集落の範囲を確認することが出来た。



第160図 CUT10A 全体図

## VIII CUT10A

### 第1章 遺跡の概要

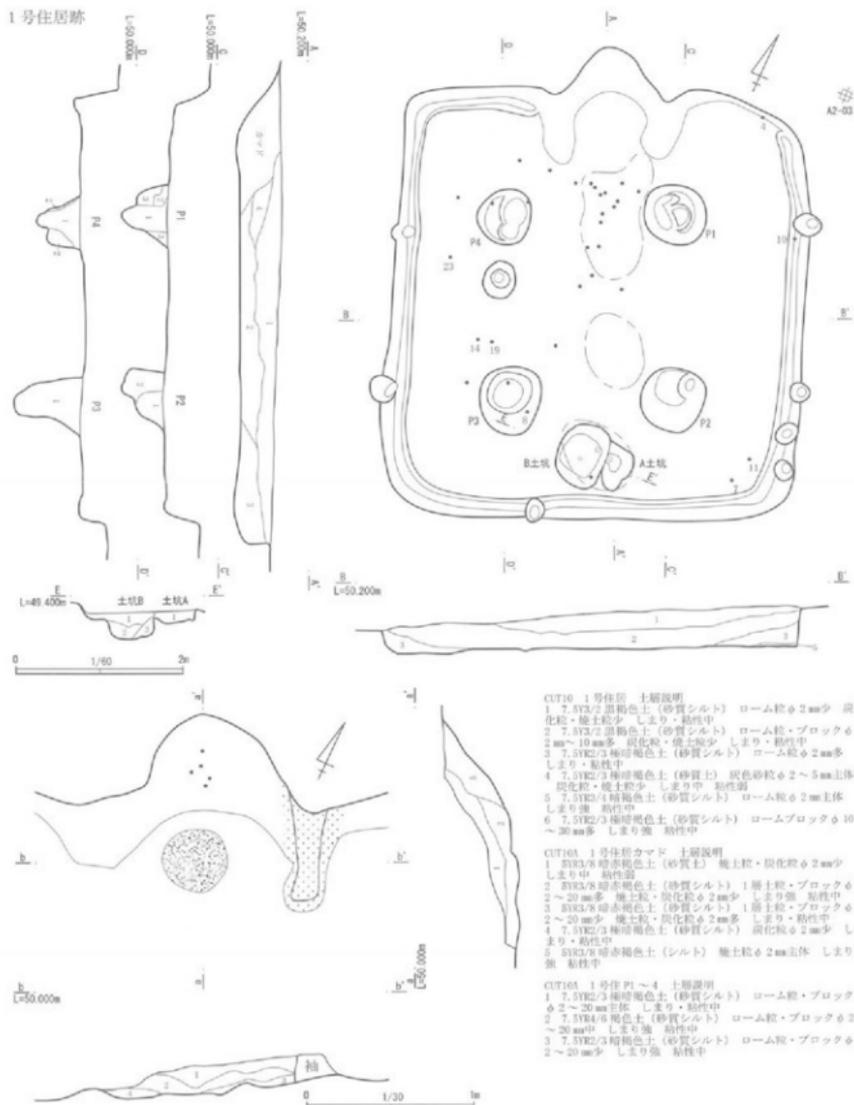
本調査区は遺跡の西端にあり、調査区の北端の標高は52.00mを測り、南端では47.50mとなる傾斜のある地区である。検出された遺構は竪穴住居跡1軒、地下式坑2基、溝3条、土坑11基である。

## 第2章 検出された遺構・遺物

### 第1節 奈良・平安時代の遺構と遺物

#### 第1項 住居跡

##### 1号住居跡



#### CUT16 1号住居 土層説明

- 1 7.5Y2/2 黒褐色土 (砂質シルト) ローム粒φ 2mm少 炭化粒・焼土粒少 しまり・粘り中
- 2 7.5Y2/2 黒褐色土 (砂質シルト) ローム粒・ブロックφ 2mm~10mm多 炭化粒・焼土粒少 しまり・粘り中
- 3 7.5Y2/3 暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒φ 2mm多 しまり・粘り中
- 4 7.5Y2/3 暗褐色土 (砂質土) 灰色砂粒φ 2~3mm主体 炭化粒・焼土粒少 しまり中 粘り弱
- 5 7.5Y2/4 暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒φ 2mm主体 しまり強 粘り中
- 6 7.5Y2/2 暗褐色土 (砂質シルト) ロームブロックφ 10~20mm多 しまり強 粘り中

#### CUT16A 1号住居カマド 土層説明

- 1 5YR3/8 暗赤褐色土 (砂質土) 焼土粒・炭化粒φ 2mm少 しまり中 粘り強
- 2 5YR3/8 暗赤褐色土 (砂質シルト) 1層土粒・ブロックφ 2~20mm多 焼土粒・炭化粒φ 2mm少 しまり強 粘り中
- 3 5YR3/8 暗赤褐色土 (砂質シルト) 1層土粒・ブロックφ 2~20mm少 焼土粒・炭化粒φ 2mm多 しまり・粘り中
- 4 7.5Y2/2 暗褐色土 (砂質シルト) 炭化粒φ 2mm少 しまり・粘り中
- 5 5YR3/8 暗赤褐色土 (シルト) 焼土粒φ 2mm主体 しまり強 粘り中

#### CUT16A 1号住居P1~4 土層説明

- 1 7.5Y2/2 暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒・ブロックφ 2~20mm少 しまり強 粘り中
- 2 7.5YR4/6 褐色土 (砂質シルト) ローム粒・ブロックφ 2~20mm中 しまり強 粘り中
- 3 7.5Y2/2 暗褐色土 (砂質シルト) ローム粒・ブロックφ 2~20mm少 しまり強 粘り中

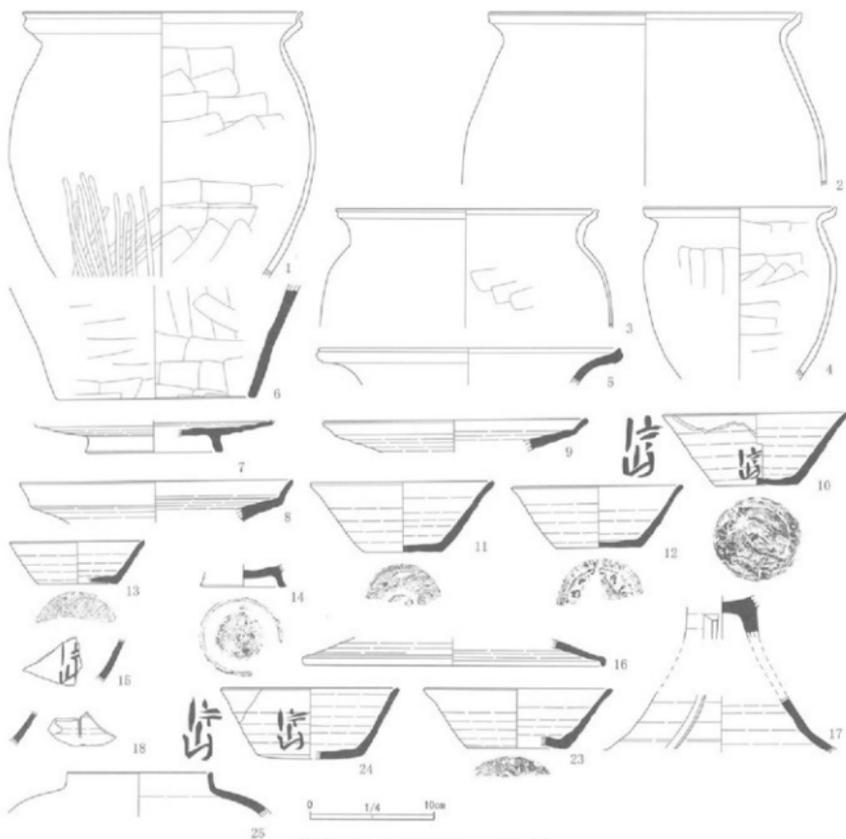
第161図 1号住居跡

1号住居跡 (第161・162・163図, 図版88・105・106)

本遺構はA2-3グリッドに於いて検出された。規模は長軸5.25m、短軸5.02m、主軸方位はN 22° Wを指す。確認面からの深さは48cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され、右袖が内湾するように残存し、柱穴は4基が対称に配される。硬化面は住居中央に部分的に検出された。周溝はカマドを除いてほぼ全周する。周溝には30cm前後の径のピットが東壁に4基、西壁に2基、南壁に1基確認された。

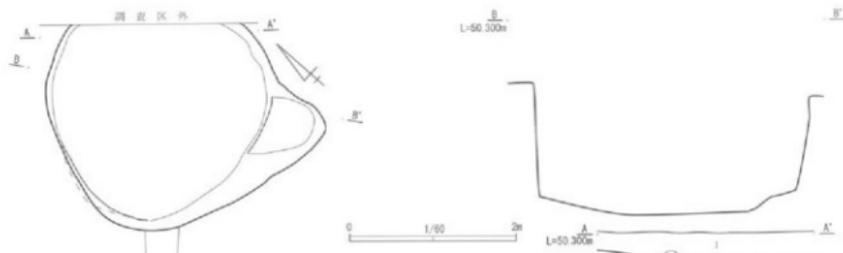
遺物は土師器甕とともに、須恵器甕・瓶・高台付盤・蓋・坏など須恵器の占める率が比較的高い。遺物から9世紀前半に属する遺構と判断される。墨書土器では「片山」が3点出土した。いずれも須恵器坏体部外面に正位に墨書しており、字形には共通性があるため、同時に墨書された可能性も考えられる。



第162図 1号住居跡出土遺物(1)







CHINA 2号地下式 土層説明

- 1 2.5Y2/2 黒褐色土 ローム状・ブロック多 2~10mm中 炭化粒多 2mm中 しまり弱 粘性中
- 2 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm中 炭化粒多 2mm中 しまり弱 粘性中
- 3 2.5Y2/2 黒褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm少 炭化粒多 2mm少 しまり弱 粘性中
- 4 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm中 炭化粒多 2mm中 しまり弱 粘性中
- 5 2.5Y2/4 褐色土 ローム状・ブロック多 2~10mm主体 炭化粒多 2mm中 しまり・粘性中
- 6 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm多 炭化粒多 2mm中 しまり・粘性中
- 7 2.5Y2/2 褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm中 炭化粒多 2mm少 しまり・粘性中
- 8 2.5Y2/2 褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm少 炭化粒多 2mm少 しまり・粘性中
- 9 2.5Y2/2 褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm多 炭質土ブロック多 10~50mm中 しまり強 粘性なし
- 10 2.5Y2/2 褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm少 しまり強 粘性中
- 11 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm少 しまり強 粘性中
- 12 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm中 しまり強 粘性中
- 13 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm少 炭化粒多 2mm中 しまり強 粘性中
- 14 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm少 炭質土ブロック多 10~50mm中 しまり強 粘性中
- 15 2.5Y2/2 褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm多 炭質土ブロック多 10~50mm主体 しまり強 粘性なし
- 16 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm少 炭化粒多 2mm中 しまり・粘性中
- 17 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm多 炭質土ブロック多 10~50mm主体 しまり強 粘性なし
- 18 2.5Y2/2 緑褐色土 (砂質シルト) ローム状・ブロック多 2~10mm多 炭質土ブロック多 10~50mm主体 しまり強 粘性なし

第166図 2号地下式坑

第2項 その他の遺構と遺物 (第167・168・169・170・171・172図, 図版106)

その他の遺構としては土坑が12基、溝が3条検出された。1号土坑からは鉄物の土瓶、9号土坑からは肥前系の白磁の輪花皿、1号溝からは肥前系の染付の小杯が出土した。また須置器蓋が出土しているが、時期は明確ではない。陶磁器はいずれも近世の遺物と考えられる。5号土坑からは須置器壺・坏が出土しており、8世紀の遺物と見られる。



第167図 1号土坑出土遺物

表82 1号土坑遺物観察表

観測番号	位置	種類	形状	口径	底径	器高	重量	器底の形状	器口の形状	焼成	色面	胎土	保存	備考
1	溝土	陶器	土瓶	—	無底	<1.5>	28.1	底面は中干しで底面が凹み、中央に浅い凹みがある。底面は凹みがある。	口縁は直線的、縁部は直線的に凹み、底面は凹みがある。	灰青	内面黄 外側黒	白磁土・白磁土・鉄物土	2/2	肥前系



第168図 5号土坑出土遺物

表83 5号土坑遺物観察表

観測番号	位置	種類	形状	口径	底径	器高	重量	器底の形状	器口の形状	焼成	色面	胎土	保存	備考
1	溝土	陶器	土瓶	—	無底	<1.5>	28.1	底面は中干しで底面が凹み、中央に浅い凹みがある。底面は凹みがある。	口縁は直線的、縁部は直線的に凹み、底面は凹みがある。	灰青	内面黄 外側黒	白磁土・白磁土・鉄物土	2/2	肥前系
2	溝土	陶器	土瓶	—	無底	<1.5>	28.1	底面は中干しで底面が凹み、中央に浅い凹みがある。底面は凹みがある。	口縁は直線的、縁部は直線的に凹み、底面は凹みがある。	灰青	内面黄 外側黒	白磁土・白磁土・鉄物土	2/2	肥前系

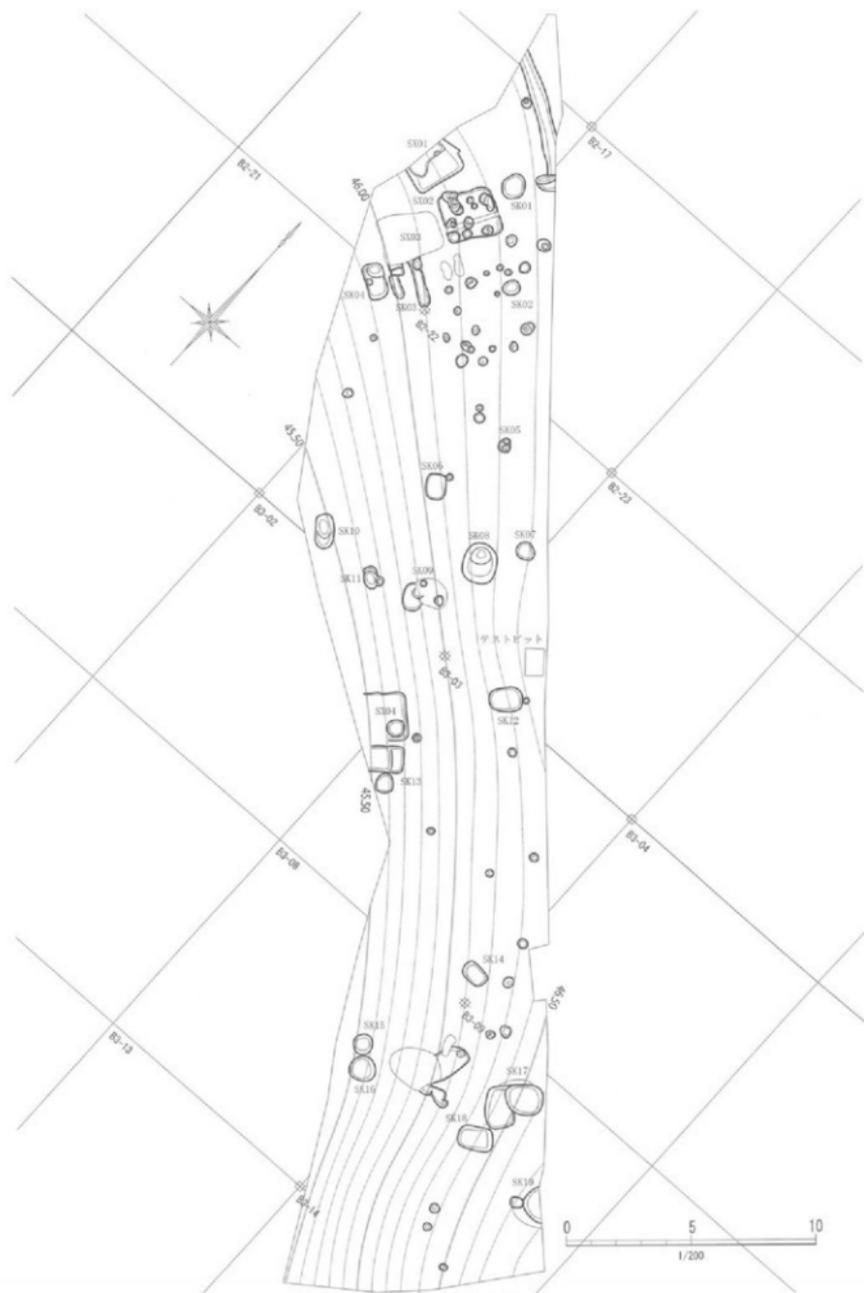


第169図 9号土坑出土遺物

表84 9号土坑遺物観察表

観測番号	位置	種類	形状	口径	底径	器高	重量	器底の形状	器口の形状	焼成	色面	胎土	保存	備考
1	土	白磁	輪花皿	(11.8)	—	<1.7>	22.4	底面は中干しで底面が凹み、中央に浅い凹みがある。底面は凹みがある。	口縁は直線的、縁部は直線的に凹み、底面は凹みがある。	灰青	内面黄 外側黒	白磁土・白磁土・鉄物土	2/2	肥前系





第173圖 CUT10B 全体圖

# IX CUT10B

## 第1章 遺跡の概要

本調査区はCUT10Aの南東CUT9の北西に位置する。北西から南東に細長い調査区で、北東から南西にかけて傾斜する台地端部である。検出された遺構は性格不明遺構4基、土坑19基である。

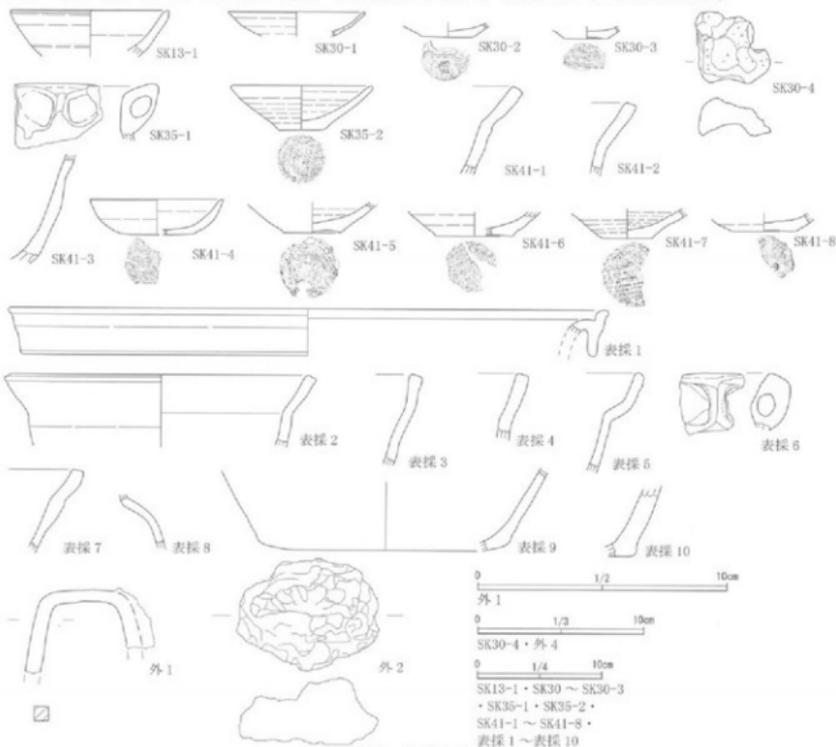
## 第2章 検出された遺構・遺物

### 第1節 検出された遺構

各遺構の詳細については、表90に示した。性格不明遺構については平面が方形であるという共通性があるという点が指摘される。13・30・35・41号土坑については内耳鏡・かわらけが出土しており、中世後期の遺構と考えられる。その他の遺構については遺物が出土していないが、遺構外遺物も中世後期であることから、中世後期以降に属する可能性が高い。

### 第2節 遺構外出土遺物 (第174図, 図版106)

土師質の内耳鏡片、土師質のかわらけ、常滑甕片、鉄製品、鉄滓が出土している。土器類についてはいずれも中世後期の時期に属しており、本調査区の遺構が中世後期以降に属する可能性を示すものと推測される。



第174図 遺構外出土遺物



## 第3章 まとめ

古地傾斜部分という立地からか、中世以前の遺構は検出されなかった。遺物の時期から遺構は中世後期以降に属すると推測される。

表 90 CUT10B 土坑・不明遺構計測表

遺構名	位 置	尺 規		遺構名	位 置	尺 規	
		長さ×幅×高さ(㎝)	傾斜			長さ×幅×高さ(㎝)	傾斜
S301	B2-16	105.0×103.71×42	S309	B2-22	111.2×95.9×56		
S302	B2-16	225.0×189.37×22	S310	B2-22	137.6×77.8×21		
S303	B2-16	333.6×174.8×25	S311	B2-22	62.4×53.2×50		
S304	B3-3・5	196.4×150.77×28	S312	B5-25	124.1×107.1×23		
S305	B5-10	194.6×94.3×13	S313	B3-3	19.12×69.4×11.7		
S302	B2-17	72.1×58.0×13	S314	B3-3・4	109.7×69.1×11.9		
S302	B2-21	103.7×34.6×16	S315	B2-8	82.3×77.0×19.6		
S301	B2-21	146.12×77.27×30	S316	B2-8	105.77×101.17×18.8		
S305	B2-22	66.9×56.7×7.9	S317	B3-9	220.7×166.0×41		
S300	B2-27	408.12×89.97×18	S318	B3-9	121.9×99.77×41		
S307	B3-02	78.9×71.5×16	S319	B3-9	148.5×(61.0)×13		
S308	B3-02	181.7×132.3×33					

## X 考察

### 第1章 長峰西遺跡の石器

#### 1 整理の方法

##### (ア) 石器の選別と実測図の有無

予め選別された石器について全点観察表を作成し、実測図に必要な石器とそうでない石器を選別した。実測図のない石器はCUT6の剥片で、これはメノウの小剥片である。全体が水による摩耗を受けており、剥離面観察が難しいため、図にすることを控えた。残りの石器は全点図化した。

##### (イ) 観察表

観察表は、器種・石材・法量の他に、石器の観察所見を文系で、成形加工・刃部属性などを記号で表現した。

#### ① 器種

器種は慣習にもとづいた石器の名称である。製作者の意図を有る程度反映するが、同じ器種の中には複数の「石器の種類」(製作者が作り分けた石器)が含まれる場合がある。

ナイフ形石器: 旧石器時代の標準石器。本遺跡のナイフ形石器は石片素材の杉久保系のナイフ形石器。

尖頭器: 平坦剥離で形態形成され、先端を加工で尖らせる石器。本遺跡の尖頭器は縄文時代のもと考えられる。

掻器: 剥片の先端に急角度の剥離で刃部を形成した石器。本遺跡の掻器は、剥片の縁辺を利用した掻器で、刃部は加工でなく、刃こぼれ痕である。

石鏃: 押圧剥離で形成された脚部をもつ三角形の石器。本遺跡では凹基鏃が主体である。凹基鏃の未製品は、一對の脚部を形成するために、基部が直線状となる三角形鏃となる。本遺跡にはこれらの凹基鏃未製品も出土している。局部磨製石鏃は、石鏃の基部を研磨したもので、縄文早期から晩期にわたる広い時期にみられる。ひとつの遺跡に数点程度が出土する。

石鏃: 剥片の縁辺に急角度の押圧剥離で尖った刃部を形成する石器である。

楔形石器: 打ち撃ちされた石器の総称。前期旧石器から新石器時代まで、いずれの石器文化にも存在する。石器文化の個性によって楔形石器の役割は決まる。本遺跡の楔形石器は、石鏃のブランク(予め加工された素材)と考えられる。

敲石と叩石: 敲石は円環に小さな敲打痕の集合で窪みが形成される石器。通常は2箇所の窪みが形成される。叩石はハンマー・ストーンのこと。棒状鏃が多く、先端もしくは側面の一端に敲打痕が残される。

磨製石斧: 本遺跡の磨製石斧は基部断片であるが、鉋切技法がみられるのが特徴である。鉋切技法は縄文早期から前期にかけて東北・北海道に分布が広い。

剥片と石核: 母岩(石核)から打ち割られた石片が剥片。打面形態と剥離の開始部によって打撃の種類が有る程度判別できる。使用済剥片は、剥片にマイクロブレイキングがみられているもの。二次加工剥片は、刃部が不明もしくは

未加工で、加工の役割（形態形成であるのか、刃部形成なのか）が不明なものに用いる器種名称。

土器磨石：ほぼ全面摩耗の円礫が通常である。本遺跡の石器は、棒状の礫を両端からおりとって、その折れ面に摩耗面が残るものである。

スタンジ形石器・三角錐形石器：縄文早期中葉から末にかけて主に西関東で出土する石器。円礫を叩折で半裁して、その叩折面を機能部とする。北関東では円礫の側面に急角度の加工で成形し、三角錐形石器と呼称される。

## ② 打面の形態

打面は自然面打面、平坦打面、切り打面、調整打面、小打面の5種類ある。小打面は、石核の縁をこするようにして生ずる剥片の打面で、線状・点状・無打面の3種類がある。これは剥離技術と関連する。一方、自然面打面、平坦打面、切り打面、調整打面は、剥離技術とともに剥片剥離技法とも強い関連をもつ。

本遺跡の縄文時代の剥片の打面は、線状打面や平坦打面が多く、石核を調整しないでそのままハンマーを振り下ろす直接打撃が主体を占める。切り打面の場合は、打面に複数の剥離面があり、その縁線上を加撃するが、本遺跡の場合は縁線が潰れていないのでソフトハンマーの可能性が高い。

## ③ 成形加工・刃部属性

HD：ハードハンマーの直接打撃。一般的な剥離技術。

S<sup>+</sup>D：圧縮力の高いソフトハンマーの直接打撃。一般的な剥離技術。

HDV：ハードハンマーの垂直打撃。一般的な剥離技術。

S<sup>+</sup>P：圧縮力の高いソフトハンマーの押圧剥離。主に縄文時代以降の石核の押圧剥離にみられる。

H/刃潰し：ハードハンマーの押圧剥離の刃潰し。主に旧石器時代のナイフ形石器の成形加工にみられる。

MF：マイクロフレイキング。いわゆる刃こぼれ痕である。使用痕剥片の刃部縁辺にみられる不整剥離の総称。刃部に損傷ない部分とマイクロフレイキングの付いている部分がある場合は「素刃・MF」と記載してある。

研磨痕・敲打痕・磨痕：研磨痕は石材を磨いた痕跡で、本遺跡では局部磨製石核と磨製石斧にみられる。敲打痕は垂直打撃などによって石器の表面に形成された「潰れた割れ円錐の集合」である。これらは敲石の刃部に生ずる使用痕である。磨痕は磨りによって生じた摩耗痕もしくは研磨痕であり、その判別が難しいが、磨っている属性のことである。明らかに摩耗している場合は、「摩耗」と表記した。

穿孔：ドリルで開けた穿孔痕のことである。本遺跡では砂岩製の2点の石器に円形穿孔痕が観察される。

叩折と折れ：叩折は、石器を持ってハンマーの代わりになる台石などに叩きつける場合、ハンマーの垂直打撃によって切り立った剥離面が生ずる場合を言う。いずれも剥離の開始部にコーンが生ずる。折れは引っ張り応力によって「曲げタイプの剥離の開始部」が生じ、コーンのない剥離面である。

## ④ 剥離の開始部

剥離の開始部はコーン型、曲げ型、くさび型の3種類ある。本遺跡は平坦打面、切り打面にコーン型がみられる。曲げ型の剥片は切り打面のチャートの小形剥片にもみられる。これは打面を立てて、ハンマーを寝かせる状態で剥離しているからである。剥離の開始部からは、本遺跡について数種類の剥離技術がみられる。

## 2 出土石器の特徴

### (ア) CLT10A

旧石器時代のナイフ形石器と打面の折れた剥片が出土している。ナイフ形石器の先端は加工で切り取られるように成形されており、先端は折れてはいない。

その他に縄文時代の叩石が：点出ししている。

(イ) CUT1

石鏃・剥片・石核・石鏃は規則正しい丁寧な回基盤で完形品。剥片は石核調整の痕跡が左側辺にあるやや中形の剥片。石核は節理面が多く、硬いめのうの石核。剥片剥離はほとんど行われていない。叩石は、側辺と末端に敲打痕が残る。

(ウ) CUT2

敲石の出土である。表裏に敲打痕が残る。

(エ) CUT5

木遺跡の中で最も山上量が多い地点である。小形の剥片類・石鏃・局部磨製石鏃・石鏃・搔器はチャートを主体とする。石鏃は小形で、剥片類も石鏃の素材剥離の残りであろうと推定される。従ってこの地点では石鏃の製作が行われていたのであろう。石鏃は無打面の剥片の側辺裏面に押圧剥離で刃部を形成している。8の搔器は縦折の剥片が素材。打面近辺に一枚のノッチがあり、左側辺は叩き折られている加工である。刃部は末端辺の燻舌剥離を利用し、そこにマイクロフレイキングが付いている。素刃の搔器とでもいえようか。

7の尖頭器はめこの製で半両面加工。

11は削器。刃部は左側辺で素刃。マイクロフレイキングが付いている。加工は右側辺向こう。表裏にハードハンマーで縁辺をおしつけて不規則剥離となっている。

12は珪質頁岩の使用痕剥片。刃部は正面左側辺手前。右側辺は縦折。

30は磨製石斧。右側辺に擦切技法の痕跡が残っている。

33と34は不閉石製品。柔らかい砂岩（もしくは凝灰岩）の襷に回転穿孔痕が付いている石製品である。詳細は不明である。

(オ) CUT5の弥生時代の石器

25号住居址と32号住居址から燻端片（円礫から最初に剥離される剥片）の断片が出した。弥生時代の大型直縁月石器との可能性があったので、高倍率の顕微鏡を用いて縁辺を精査した。結果は使用痕なしであったので、器縁を剥片とした。

(カ) CUT5グリッド・確認面・表採の石器

40は中形のガラス質安山岩の剥片。41は土器磨石とした。通常は円礫であるが、この石器は棒状礫を叩折し、その折れ面に磨耗がある。折れ面はニドとも磨耗が観察される。磨耗面以外の側辺は細かい敲打痕が観察される。詳細は不明である。

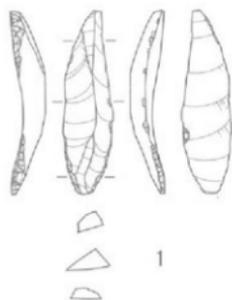
46は表採確認面出土の石器である。スタンプ型石器の北関東型式である三角錐型石器であろう。この石器は縄文早期中葉から末までの示準石器である。

3 石器群のまとめ

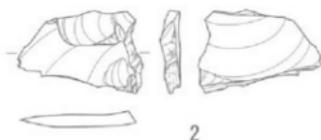
本遺跡の石器群は地点ごとに旧石器時代、縄文時代、縄文・弥生時代とわかる。旧石器時代のナイフ形石器は、胎良丹沢火山灰降灰以後の時期であろう。珪質頁岩を用いている点や杉久保系の形態などは、東北日本との関連を伺わせる興味深い資料である。

縄文時代については、CUT1については时期的な様相など、ほとんどわからない。有茎鏃がないので、後期中葉以前の石器であろうと推定される。

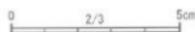
CUT5の縄文時代は、石鏃の製作、尖頭器の伴出、三角錐型石器の出十などから、主に縄文早期末から前期の初頭までの石器群と推定される。



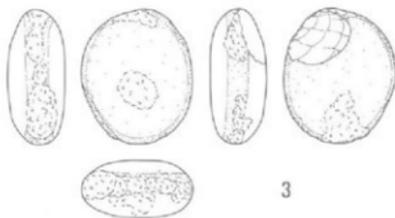
1



2



旧石器時代

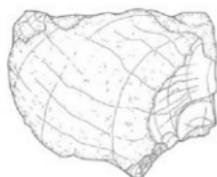
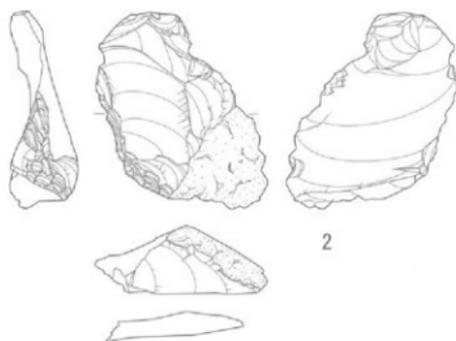
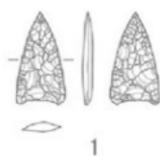


3

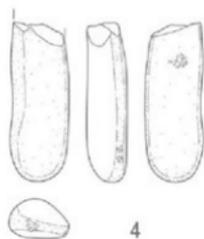


長峰西遺跡 CUT10A

1

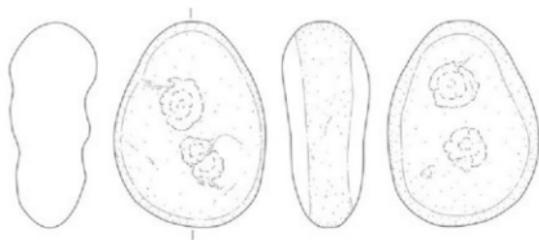


3

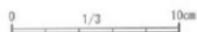


長峰西遺跡 CUT1

2

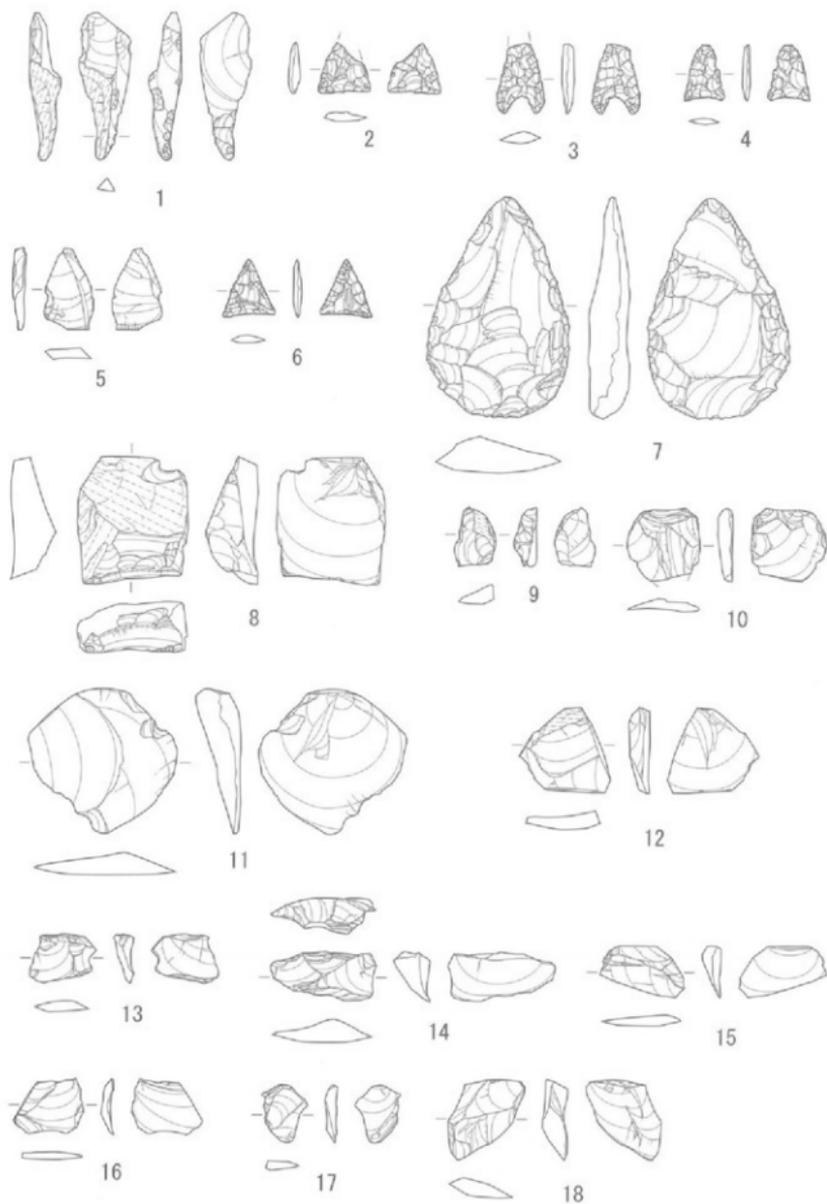


1



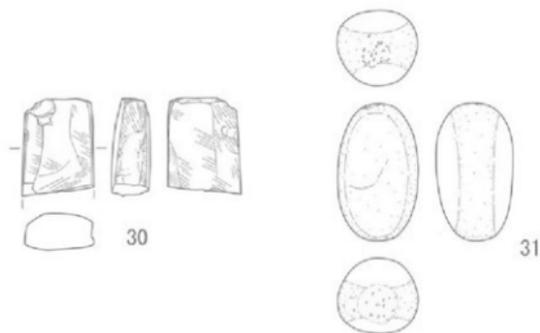
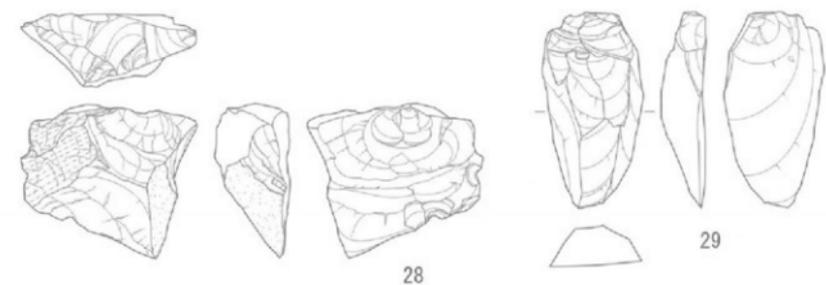
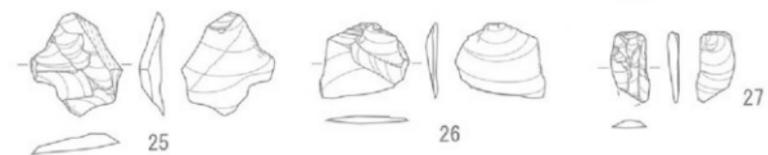
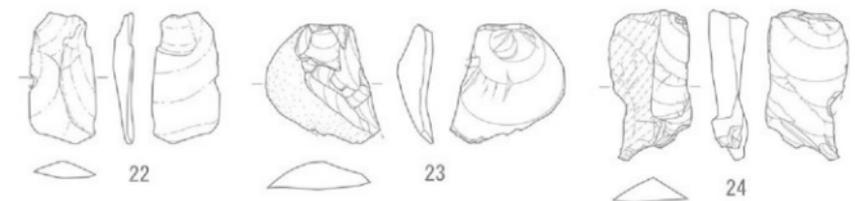
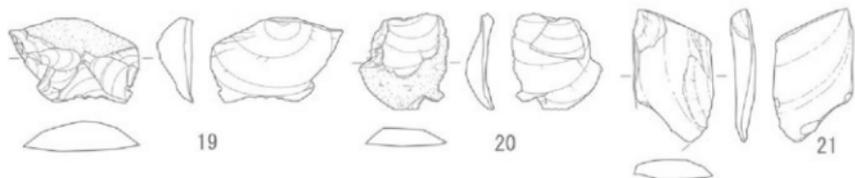
長峰西遺跡 CUT2

3



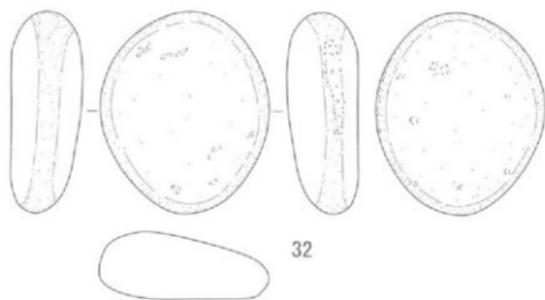
長峰西遺跡 CUT5 -1

4



長峰西遺跡 CUT5 -2

5



32



被胎資料

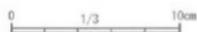


33

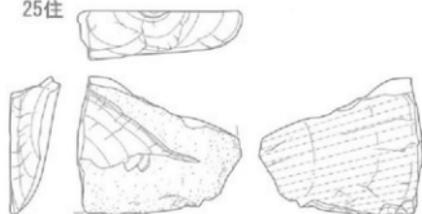


34

被胎資料

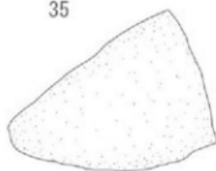


25住



32住

35



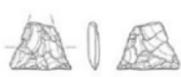
36

弥生時代



長峰西遺跡 CUT5 -3

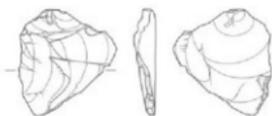
6



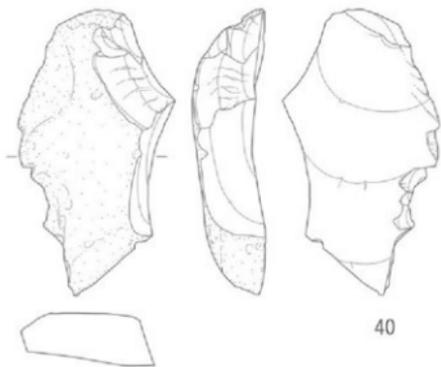
37



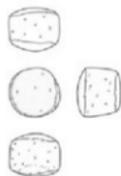
38



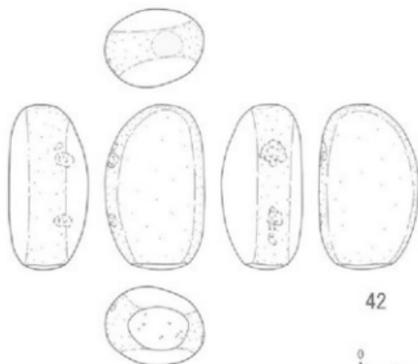
39



40



41

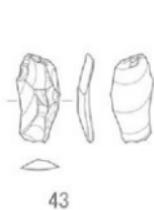


42

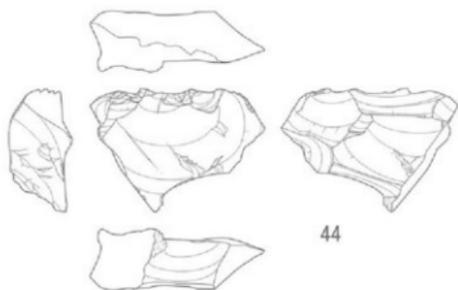


長峰西遺跡 CUT5 -4 グリッド

7

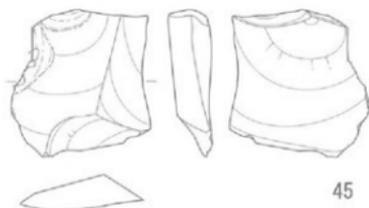


43



44

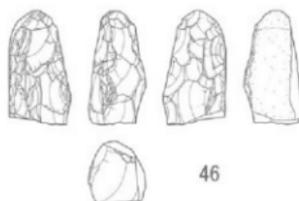
確認面



45



表採



46



表採確認面

長峰西遺跡 CUT5 -5 確認面、表採

8

OUT	品名	規格 品名	用途	新橋	石材	取組方法	天部構造(石 法付金網)	注 意	寸 法 (mm)				備考	
									現	積	厚さ	重量		
OUT-06	S01	1	1	和石造	アノボ新石	併置貫石	削り付直し	メタ	石万葉内の耐久標準のメソソ新石造。	55.6	15.9	16.3	6.7	
OUT-06	S01	1	2	和石造	兼片	併置貫石	なし	なし	打面の削れた兼片。本造りはほぼ 次本造。	25.3	37	6.3	6.7	
OUT-06	S05	1	3	和石造	兼片	併置貫石	なし	兼打直	本造と併置に兼打直のある兼片。 右側部の兼打直は目的にあってお り、右側部のハンテドされた 可能性がある。	51.9	36.2	24.8	27.2	
OUT-1	S18	2	1	和文	和石	チャート	SP	SP	基部を深くつくりだす。和石造 造りの和石。	78.2	14.7	3.1	1.2	
OUT-1	S75	2	2	和文	和石	併置貫石	なし	なし	兼打直(兼打直と兼打直)が成 る。右側部を削りだす。和石 造りの和石。	39.9	51.2	20.7	27.9	
OUT-1	S101	3	3	和文	和石	メノウ	なし	和	兼打直を兼打直にした方法。兼打直 は小さく、和石造り上で放棄されて いる和石。	46.8	62.3	51.1	162.5	1/2
OUT-1	S111 S19	2	3	和文	和石	砂岩	なし	兼打直	兼打直の砂岩。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	96.9	26.9	34.3	126.5	1/2
OUT-2	S16 No.9	12	1	和文	和石	チャート	なし	兼打直	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	123.8	51.9	51.3	109.3	
OUT-5	S260	3	1	和文	和石	チャート	なし	SP	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	43.5	14.9	9.5	3.9	
OUT-5	S403	3	2	和文	和石	チャート	SP	SP	兼打直を深くつくりだす。兼打直 と兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	15.1	15.4	3.5	0.7	
OUT-5	S119	3	3	和文	和石	チャート	SP	SP	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	20.9	13.9	3.8	1	1/2
OUT-7	S124	3	4	和文	和石	チャート	SP	SP	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	16.7	11.9	2.4	0.5	
OUT-5	S110	3	5	和文	和石	チャート	SP	兼打直	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	54.3	14.0	4.1	1.1	
OUT-5	S115 77.1	3	6	和文	和石	チャート	SP+兼打直	SP	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	17.3	13.3	2.7	0.6	
OUT-5	S118	3	7	和文	和石	チャート	SP	SP	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	65.1	41.1	12.2	25.0	和石
OUT-5	S119	3	8	和文	和石	チャート	SP	兼打直	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	37.7	51.9	15.2	20.2	1/2
OUT-5	S104	3	9	和文	和石	チャート	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	13.7	17.8	7.3	1.2	1/2
OUT-5	S118	3	10	和文	和石	チャート	SP	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	21.6	21.6	4.0	2.0	
OUT-5	S110	3	11	和文	和石	兼打直	PP	SP	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	42.7	43.1	13.4	16.7	
OUT-5	S106 S139	3	12	和文	和石	兼打直	なし	兼	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	25.1	25.6	5.4	3.7	和石
OUT-5	S103	3	13	和文	和石	チャート	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	14.7	19.4	0	1.3	
OUT-5	S104	3	14	和文	和石	チャート	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	16.7	20.9	10.7	3.7	1/2
OUT-5	S101	3	15	和文	和石	チャート	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	19.2	24.7	9.6	1.4	1/2
OUT-5	S104	3	16	和文	和石	チャート	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	15.4	23.6	3.6	0.8	1/2
OUT-5	S104	3	17	和文	和石	チャート	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	17.1	13.4	3.8	0.6	1/2
OUT-5	S1.3	3	18	和文	和石	チャート	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	23.7	22.1	7.5	2.6	
OUT-5	S109	3	19	和文	和石	兼打直	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	25.7	38.8	10.6	8.5	和石
OUT-5	S107	3	20	和文	和石	兼打直	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	29	26.4	9.3	4.4	和石
OUT-5	S107	3	21	和文	和石	兼打直	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	10	23.8	7.7	7	和石
OUT-5	S.307	3	22	和文	和石	兼打直	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	60.6	33	6.2	3.9	和石
OUT-5	S.110	3	23	和文	和石	兼打直	なし	なし	兼打直の和石。兼打直と兼打直 により兼打直が成る。兼打直 は和石。	38	33.8	10.7	9.8	

CUT	序記	通 区 別	男 演 者	時期	巻種	内容	撮影加工	天沼原主(石 橋作楽)	法 定 (cm・s)				備考		
									原	底	加工	巻長			
DL7	S117	2	21	脚文	劇片	チャート	なし	なし	原打直、ハドハンマーの最終 打撃。	46.2	24.4	11.7	9.9	177	
DL7	S118	3	26	脚文	劇片	チャート	なし	なし	原打直、両端加工体製作のときに できる限り。	31.1	27.1	7.4	3.8	177	
DL7	S119	3	26	脚文	3部	チャート	なし	なし	原打直、打直時0.4m、両端加 工体製作のときにできる限り。	23.7	36.0	3.9	1.5	177	
DL7	S119	3	27	脚文	2部片	チャート	なし	なし	原打直、打直時2m、ソフト ハンマーの最後打撃。	21.3	11.6	3.5	0.9	177	
DL7	S120	3	28	脚文	劇片	チャート	なし	なし	原打直、ハドハンマーの最終 打撃、両端の端部に急角度割傷が 収められず未撮影であろう。	46.2	32.2	22.3	45.5		
DL7	S121	3	28	脚文	教育	ガラス製山 岳	なし	なし	原打直、打直時0.5m、ハド ハンマーの最後打撃。	58.9	39	13.2	21		
DL7	S122	3	26	脚文	必殺石巻	巻頭	破損	欠損	巻頭巻頭の巻長石巻、右側面に傷 り切り痕が録音に顕著される。	20.2	33.8	13.5	14.1	巻頭巻頭 不全	
DL7	S124 21	3	21	脚文	原打・原打	安山岩	なし	原打直・巻頭	下部に原打と録音、上部に録音 直。	82.5	48.2	45.5	270.1		
DL7	S122 No.2	3	32	脚文	原打・原打	安山岩	なし	原打直・巻頭	石巻を上部に巻頭、巻頭直打 直。	123.2	101.2	43.1	767		
DL7	S124 No.21	3	33	脚文	不明	原山岳	原山岳	なし	巻頭から編成用記録機乳直が計 り加へる。	150.8	31.5	112.9	111.6		
DL7	S125	3	31	脚文	不明	原山岳	原山岳	なし	巻頭から編成用記録機乳直が計 り加へる。	103.6	80.3	55.2	413.4		
DL7	S125	3	33	脚文	原山岳	原山岳	なし	なし	巻頭直が計る。	52.1	49.1	15	128.3		
DL7	S124 45	3	26	脚文	原山岳	原山岳	なし	なし	巻頭直の原片。	48.2	62.6	13.4	30		
DL7	CS	3	37	脚文	石巻	SP	SP	SP	巻頭直欠損、巻頭未形成。	13.6	18.3	2.3	6.9		
DL7	CS	3	38	脚文	原片	チャート	なし	なし	原打直、両端加工体製作のときに できる限り。	23.2	31.3	3.9	2		
DL7	CS	3	39	脚文	原片	チャート	なし	なし	原打直、打直時2.5m、ソフト ハンマーの最後打撃。	32.4	24.1	6.8	3.8		
DL7	CS	3	40	脚文	原片	ガラス製山 岳	なし	なし	原打直、打直時0.7m、ソフト ハンマーの最後打撃。	66.7	46.8	41.7	73		
DL7	CS	3	41	脚文	上巻巻頭	安山岩	原山岳?	巻頭	巻頭巻頭巻頭巻頭、巻頭の巻 長を測定したと推定される。巻頭に 録音直もみられる。	23.8	39.0	39.2	28.4		
DL7	CS	3	42	脚文	原打・原打	原山岳	なし	原打直・巻頭	巻頭直原直、下部は巻頭から対 巻頭を測定した原直は、巻頭にも 録音直が計る。	100.1	59.1	47.9	425.5		
DL7	CS	3	43	脚文	原片	チャート	なし	なし	巻頭の巻長を測ったときに巻頭 直が計る。	27	12.9	4.9	1.2		
DL7	CS	3	44	脚文	石巻	原山岳	なし	原	原片巻頭の巻長。	37.4	52.2	18.7	35.8		
DL7	S126 1	3	16	脚文	原片	原山岳	なし	なし	原打直、ソフトハンマーの巻頭 直、巻頭が計る記録機乳直。	44.8	41.7	33.3	100.2		
DL7	S126 2	3	16	脚文	原片	原山岳	原	原山岳	巻頭巻頭巻頭と巻頭巻頭。	60.8	34.5	27.8	112.1		
DL7	S126 3	3	16	脚文	原片	原山岳	なし	なし	巻頭巻頭原片・巻頭巻頭					1.3	177

## 長峰西遺跡の石器の使用痕分析

はじめに

長峰西遺跡の石器から、ナイフ形石器、弥生時代の剥片 2 点、礫石器類 4 点を分析した。

### 観察方法

キーエンス社のデジタル 3D マイクロスコープ (VH-7000) による高倍率ズームレンズ (VH Z450) を用いて使用痕観察をおこなった。観察倍率は、200 倍～450 倍である。観察面は、適宜アルコールを浸したキムワイプで軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕分類は京北大学使用痕研究チームにより設定された分類基準などによっている (阿子島 1981, 1989, 阿子島・梶原 1984, 梶原・阿子島 1987、芹沢ほか 1982)。礫石器の使用基準については、池谷の二連の実験などを参照とした (池谷 2003ab など)。

石器刃部にみられる摩擦・剝離面などの特徴を観察するため、低倍率ズームレンズ (10～40 倍) を併用した。

### 観察結果

#### ナイフ形石器 (顕微鏡図版-1)

ナイフ形石器は石刃素材の杉久保系のナイフ形石器。

ナイフ形石器の先端側は 80 前後の急角度に左側面のみ二次加工がみられる (写真 1)。先端の右辺側には微少剥離痕がみられる。ハードハンマーの押し剥離による刃つぼし加工と思われる。先端は折れてはいない。

素材木型側を基部とし、基部側は両側面に 80 前後の急角度に二次加工がみられる (写真 2、3)。

高倍率顕微鏡で検査したところ、石器表面に鈍い光沢が全面に確認できた (写真 8、9)。この光沢は石器縁辺にまでひろがる (写真 4 から 7) で、いわゆる使用痕光沢の検出はできなかった。また線状痕など他の種類の使用痕も確認できなかったので、具体的な用途は不明である。

#### 弥生時代の剥片 (顕微鏡図版-2)

25 号住居址と 32 号住居址から線装片が出土した。弥生時代の人型直線刃石器との可能性があったので、高倍率の顕微鏡を用いて縁辺を観察したが、使用痕光沢は確認できなかった (写真 1)。なお、写真中央で白く輝いているのは岩石内部の鉱物であり、使用痕光沢ではない。

#### 不明石製品 (顕微鏡図版-2)

柔らかい砂岩 (もしくは凝灰岩) の縁に回転穿孔痕が付いている石製品である。直径 7 から 8mm であり、深さ 10mm 強の円筒形の孔であり、底は丸みを帯びている (写真 2)。

表面がボロボロの石材であり、かりに対になる石筆などがあれば、その石器の縁辺には強度の摩擦が形成されると推定される。しかし、この遺跡の資料を観察する限り、そのような石器は確認されていない。

#### 土器磨石 (顕微鏡図版-2)

図面表裏に摩擦がある (写真 4)。摩擦以外の側面は細かい敲打痕が観察される (写真 3)。詳細は不明である。

#### 敲石と叩石 (顕微鏡図版-3、4)

敲石は円礫に小さな敲打痕の集合で窪みが形成される石器。通常は 2 箇所以上の窪みが形成される。棒状様が多く、先端もしくは側面の一端に敲打痕が残される。

顕微鏡図版 3 の方の資料は、上面に磨面、下面に敲打面、両側面に敲打がみられる。両側面の敲打は小さい孔の集合で形成（写真3）されている。上面の磨面は平滑な面が形成され（写真1）、下面は中央はザラザラしており（写真2）、周辺ほど敲打痕が顕著になる（写真2の拡大）。なお石器の大きさのため高倍率では検鏡できなかった。

顕微鏡図版 4 の方の資料は、上面は敲打によるもので（写真1）、小さな孔の集合であり、高倍率顕微鏡では凹凸が激しく、ピントの合う範囲が狭く、ぼけた写真になった（写真2）。下面は黒ずんでおり、かつ平滑面が形成されている（写真4）。肉眼でも光沢がみられる。高倍率で検鏡した所、光沢が確認できた（写真5）。粗く鈍い光沢であり、類似光沢は下宅部遺跡で確認されている（池谷 2006）。

そのため上下面とは明らかに異なる要因で形成されたのであろう。

#### 参考文献

- 阿子島香 1981 「マイクロフレイキングの実験的研究（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その1）」『考古学雑誌』66-4 pp. 1-27
- 1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニュー・サイエンス社
- 池谷裕典 2003a 「磨石・敲石・石皿の実験考古学的研究」『アルカ研究論集』1 pp. 45-53
- 2003b 「礫石器の使用痕研究—磨石類を中心として」『古代』113 pp. 97-114
- 2006 「下宅部遺跡出土礫石器の使用痕分析」『下宅部遺跡Ⅰ』下宅部遺跡調査団 報告書添付 CD-ROM に所収
- 標原洋・阿子島香 1981 「頁岩製石器の実験使用痕研究—ポリッシュを中心とした機能推定の試み—（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その2）」『考古学雑誌』67-1 pp. i 35
- 芹沢長介他 1982 「実験使用痕研究とその可能性（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その4）」『考古学と自然科学』14 pp. 67-87
- 高橋哲 2003b 「使用痕実験報告と使用痕研究の課題」『アルカ研究論集』1 pp. 54-59
- 2008a 「使用痕分析からみた縄文石器の機能についての考察」『アルカ研究論集』3 株式会社アルカ pp. 1-25  
(文責 高橋 哲)

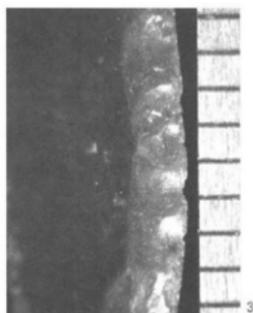
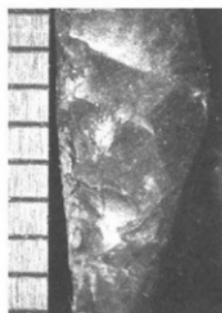
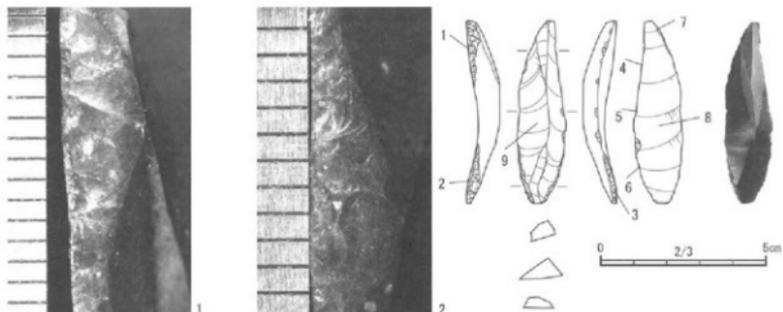
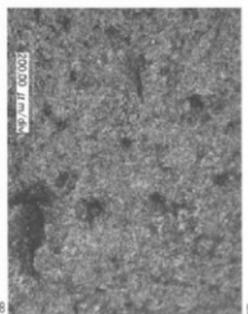
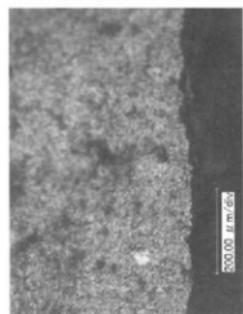
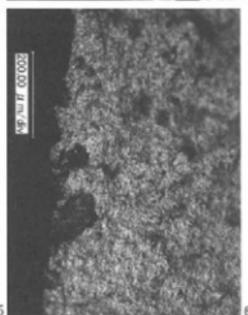
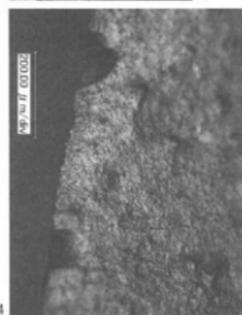
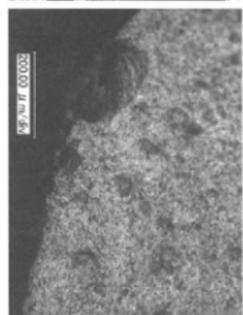
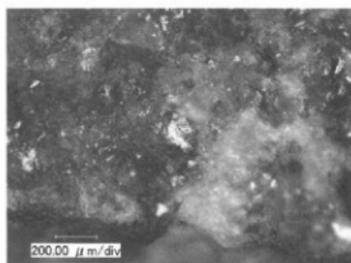


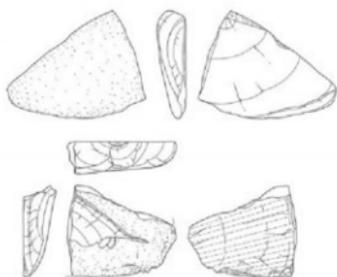
写真1の拡大

写真2の拡大

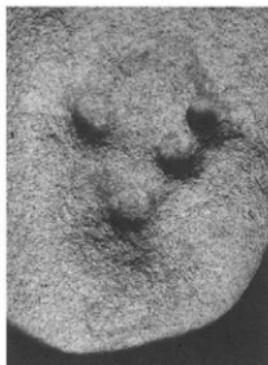




1



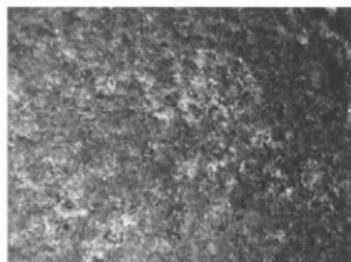
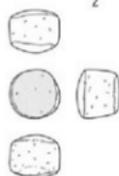
被熱資料



2



3



4

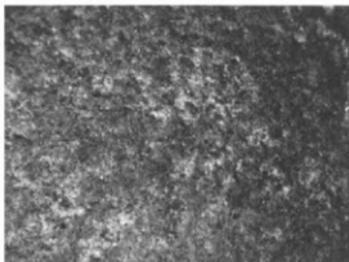
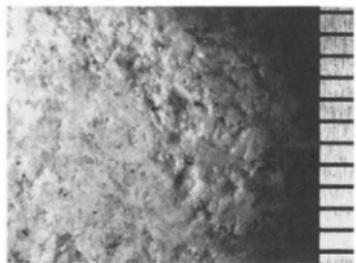
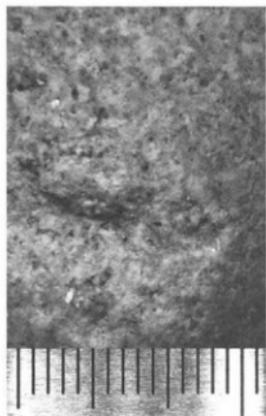


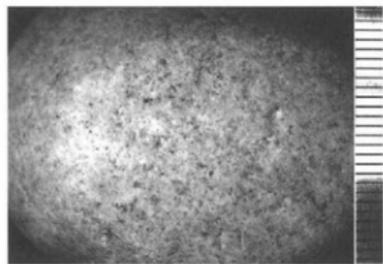
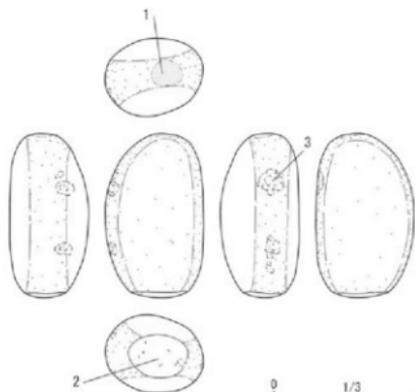
写真4の拡大



1



3



2

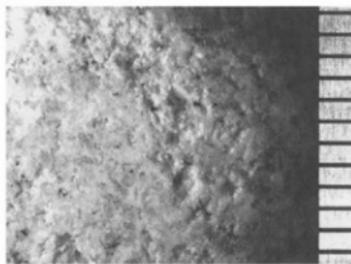
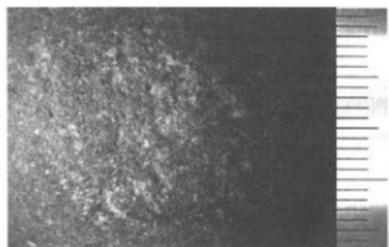


写真2の拡大



1

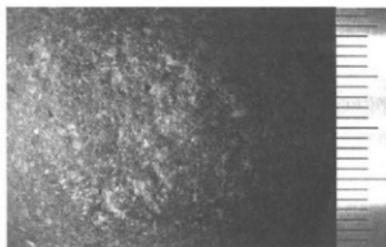
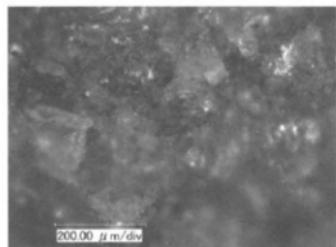
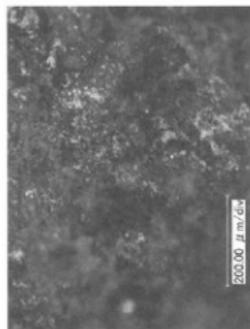
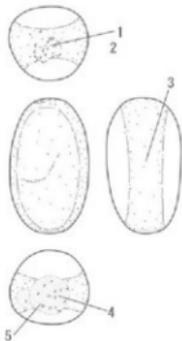


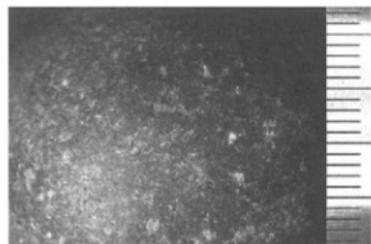
写真1の拡大



2



3



4

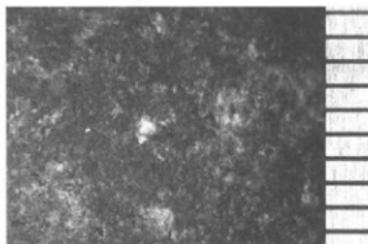
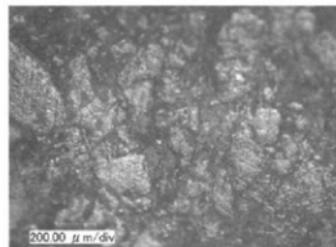


写真4の拡大



5

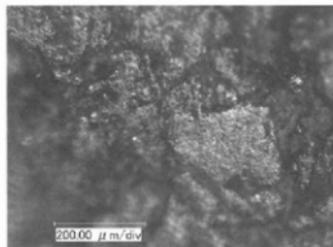


写真5の拡大

## 第2章 縄文土器 (第175図, 図版112)

検出された縄文土器は長峰西遺跡全体で420.4gで極めて少量である。CUT別にみればCUT1で99.1g、CUT5で321.3gで他の地域からの出土は無い。掲載した縄文土器は出土資料のほぼ全量である。

### 第1群土器

1～6は丸棒状の口縁で無文。胎土中に石英や長石の白色粒子を多量に混入するものである。その特徴から、縄文早期無文系の土器群と判断される。

7は1～6同様の胎土焼成で、1条の原体圧痕が横走る。1～6とほぼ並行の土器と判断した。

### 第2群土器

8～16は胎土中に繊維を混入する一群である。単節縄文を施文するもので、11・14には末端ループ紋が見られる。

### 第3群土器

17は胴部下半に磨消懸垂文が観察される。縄文は単節RL。

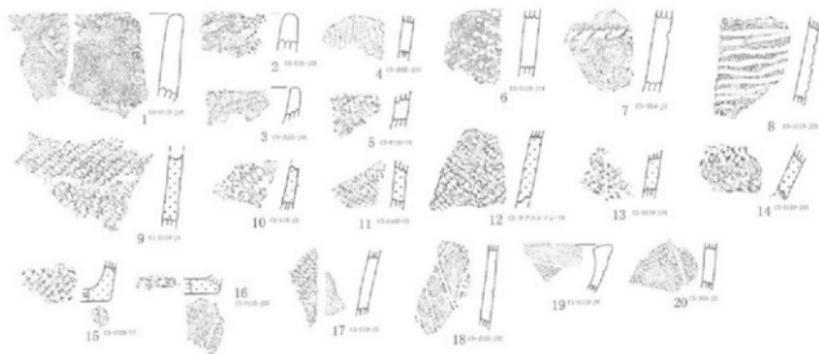
### 第4群土器 第1類土器

18は沈線による幾何学文様が描かれる。

### 第2類土器

19は内面が磨かれる浅鉢の口縁部破片である。20は同様の胴部破片である。

第1群は縄文早期平板段階と考えている。撫糸文土器の末期に位置するものであろう。7の土器は稲荷原段階の可能性も想定される。第2群は縄文前期中葉の土器群と判断した。細片の為に明瞭ではないが、ループ紋が施文される点などから、関山式の可能性が高い。第3群土器は中期後半加曾利E式土器である。懸垂文の幅がやや広くなることからE3段階遺構と判断される。第4群土器は縄文後期をまとめた。第1類は幾何学的な文様が描かれるもので、堀之内2段階と判断した。第2類は内面に磨きが施される縄文後期中葉段階加曾利B式土器と判断した。



第175図 出土縄文土器

### 第3章 十王台式土器と古墳時代前期古式土師器の共存について

#### 第1節 十王台式期の住居

本遺跡における弥生時代の遺構と判断されたものは、CUT1では2号住居跡及び5号・10・13号の4軒である。また、CUT2では2・3号住居跡、CUT5では42号住居跡が検出されており、遺跡全体では7軒を数える。これらの住居跡から出土した弥生式土器は十王台式の範疇に含まれるもので、弥生時代後期の集落であることが判明している。近接する長峰東遺跡では大規模な弥生時代の集落が検出されており、その報告がなされたところである。

ここでは、本遺跡で出土した十王台式土器について、若干の考察を加えるものである。

十王台式土器は茨城県北部の十王町出土の上器を標識にするものであるが、山内清男『先史土器図譜』への掲載以来早くからその存在については知られていたものの、その細分については管見に触れたものでは、平成5年茨城県教育財団の『研究ノート』3号に「茨城県後期弥生式土器編年の検討(Ⅲ) 十王台式土器について」で試みられている。第176図によれば、1・2式の2段階に大分され、さらに1式は古段階と新段階の2段階に分類されている。

この分類に沿って本遺跡CUT1の5号住居跡、CUT2の3号住居跡、CUT5の42号住居跡の十王台式土器を分類すると、第1図に示すように1式新段階の遺物を主体にすることがわかる。東中根遺跡の遺物または上稻吉遺跡の遺物の混在は見られない。

#### 第2節 十王台式土器と五領式土器を共存する住居(第177図)

一方で第2図に示した資料は、五領式土器と十王台式土器が共存した資料を提示したものである。CUT1の10号住居跡出土資料は、十王台式土器と五領式土器のセットが明確に捉えられたものである。

CUT1の10号住居跡出土遺物の6はほぼ完形の土器である。全体に器高に対して胴部の径が広くなり、ずんぐりした形状となる。また文様の構成は胴部の中央より下位にまで楕圓文が描かれる。楕圓の単位は施文が不鮮明であるが3～5本を数える。また、7～9に示した壺形土器の口縁部は、指頭により押し潰した降帯状の貼り付け文の上位に付加条第1横の縄文が細かに施文される。CUT1の5号住居跡出土遺物は十王台式としたものであるが、これらの遺物の口縁部には頸部微降帯の上位にまで楕圓文が描かれるものの、2式としたCUT1の10号住居跡では口縁部の楕圓文が消失する傾向がみられる。

共存する五領式土器は複合口縁の壺1、頸部が広く開く埴形土器(2)、折り返し部分に縦方向のハケ彫形を行う鉢(3)、及び台付壺(4)、底部に穿孔のある小型の壺(瓶カ)(5)などの土器があり、遺物の総量では19,147gの弥生土器、17,866gの土師器が出土しており、量的にもほぼ同量である。

『研究ノート』第3号では五領式土器との共存関係について日立市久慈吹上遺跡第2・3号住居跡出土遺物、東海村石橋向B遺跡第1号住居跡出土遺物、ひたちなか市部田青山崎遺跡第3・6・8・18号住居跡出土遺物、葛島遺跡5・7号住居跡、水戸市大塚新地遺跡、大館町遺跡第36号住居跡出土遺物、ひたちなか市武田遺跡18号住居跡の類例が提示されている。同書においてはこれだけの資料を提示しながらも、十王台式土器を主体に出土する住居跡から、客体的に古式土師器の出土する例がなく、逆に古式土師器の住居跡に客体的に十王台式土器が混在するとされ、十王台式と古式土師器の共存関係は明確ではないとしている。

確かに十王台式土器に比較して五領式土器は小形の器形が多く、遺物的に判断すれば個体数が少ない十王台式土器の数が目立つ傾向にあるが、水戸市大塚新地遺跡で井上義安氏がハケ目を有する十王台式の文様構成をモチーフとする土器について、折衷様式として大瀬式を提唱している。この点からも、五領式土器と十王台式土器の共存は明確であり、時間差は考えられない。武田遺跡、石橋向B遺跡の類例は主体または客体的な問題として捉えられているが、考古学的手法から共存する土器(セット)として捉えるならば、十王台式土器は五領式土器に共存するとの傾向

当であろう。

では十王台式土器のどの段階が五領式土器と共存するのか、前述の『研究ノート』3号では新しい時期のものであると推測するとどまっており、実際に各遺物の内容にまで論及をしていない。十王台式土器の細分論に戻らなければならないが、石橋向B遺跡：号住居跡17の遺物はスリット状区画の下端に弧状の文様を施文するもので、1式の特徴とされる。また同じく14の遺物は胴部文様帯の帯から見ても2式に含まれるものである。このようなことから、共存する五領式土器の型式をもって十王台式後半の編年の再検討を行う必要があるのではなかろうか。

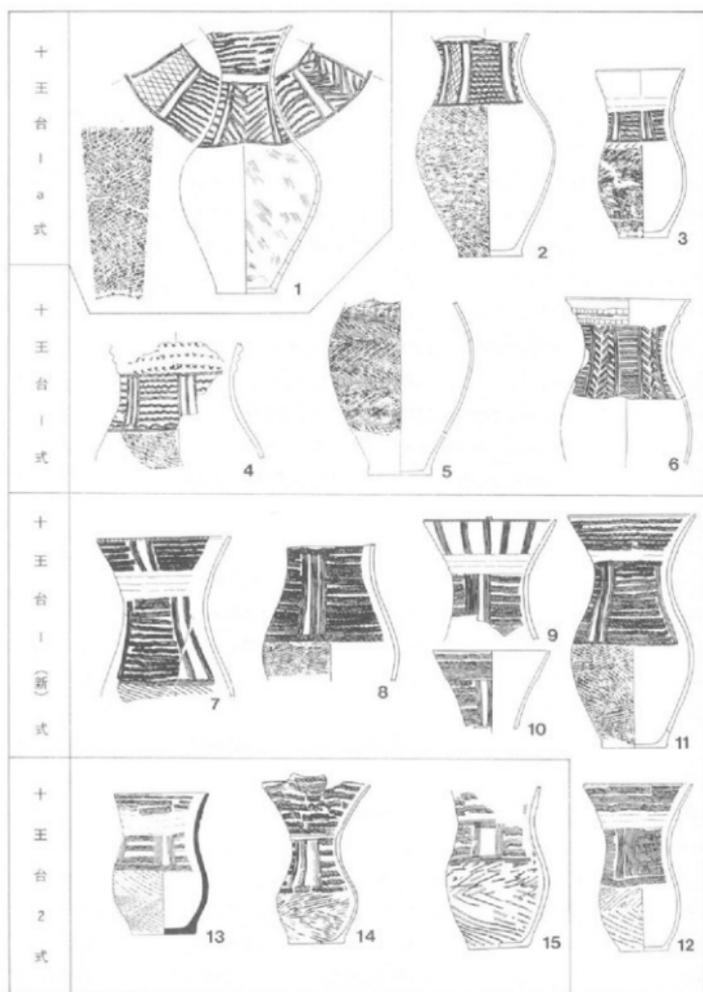
### 第3節 五領式土器を出土する住居跡（第178図）

五領式土器は複合口縁を出土したCUT1-10号住居跡1、及び13号住居跡1・2で4世紀前半～中葉に想定される。また、CUT1-10号住居跡2、CUT5-18号住居跡2、向21号住居跡3の埴形土器は比較的安定した平底で、胴部がやや扁平で、頸部が広く口縁部が大きくラップ状に開くものである。同様の器形の遺物を出土する住居跡でありながら、十王台式土器を共存した前者3軒と、共存が見られない後者2軒が検出されている。このことから、五領式の土器を細分するならば十王台式を共存する段階と、共存しない段階で時期差が想定される。

本遺跡では明確にできなかったが、高杯にその分類の鍵があるように思われる。CUT1-13号住居跡6の高杯は胴部に向かい緩やかに開くタイプで、CUT5-18号住居跡3の遺物は脚部が柱状またはエンタシス状になるものと予想される。

また一方では古式1師器の編年については「茨城のS字状台付甕について」（1～3）が『研究ノート』3号から7号で発表されている。五領式土器の地域性について比較検討の指標として、S字状台付甕が注目されている。S字台付甕の中心的な地域である関東地方北部、特に群馬県においてその細分が示されている。本遺跡でも、CUT1-10号住居跡4、CUT2-2号住居跡4に台付甕でハケ靴形を行う遺物の出土が見られたが、口縁部を確認できず、S字状台付甕と判断できるものは無かった。これらがS字口縁であるならば、S字状台付甕の出現期には十王台2段階の遺物が共存することが推察できる。

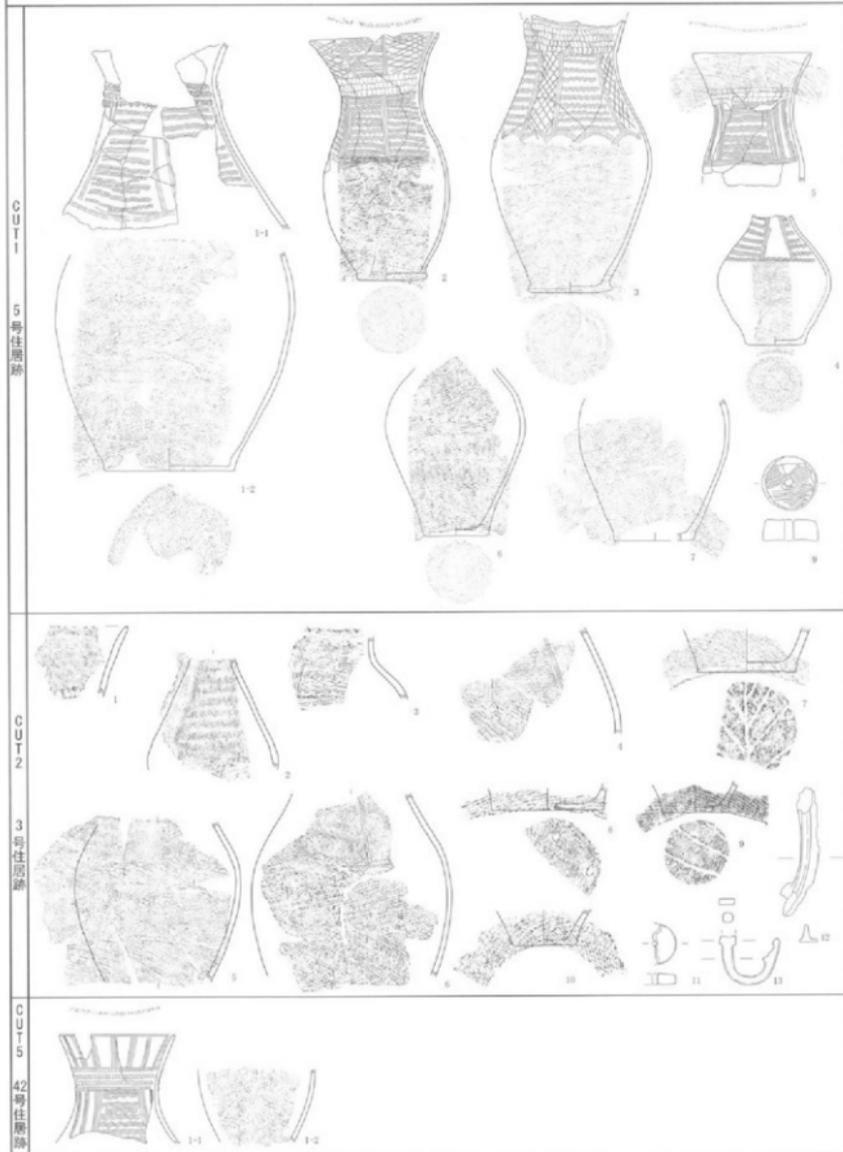
尚、CUT5-36号住居跡では、ハケ甕（1・3）に伴う埴（4）は頸部が細く胴部が球形となるもので、時期的には5世紀代和泉類に近い遺物と判断される。



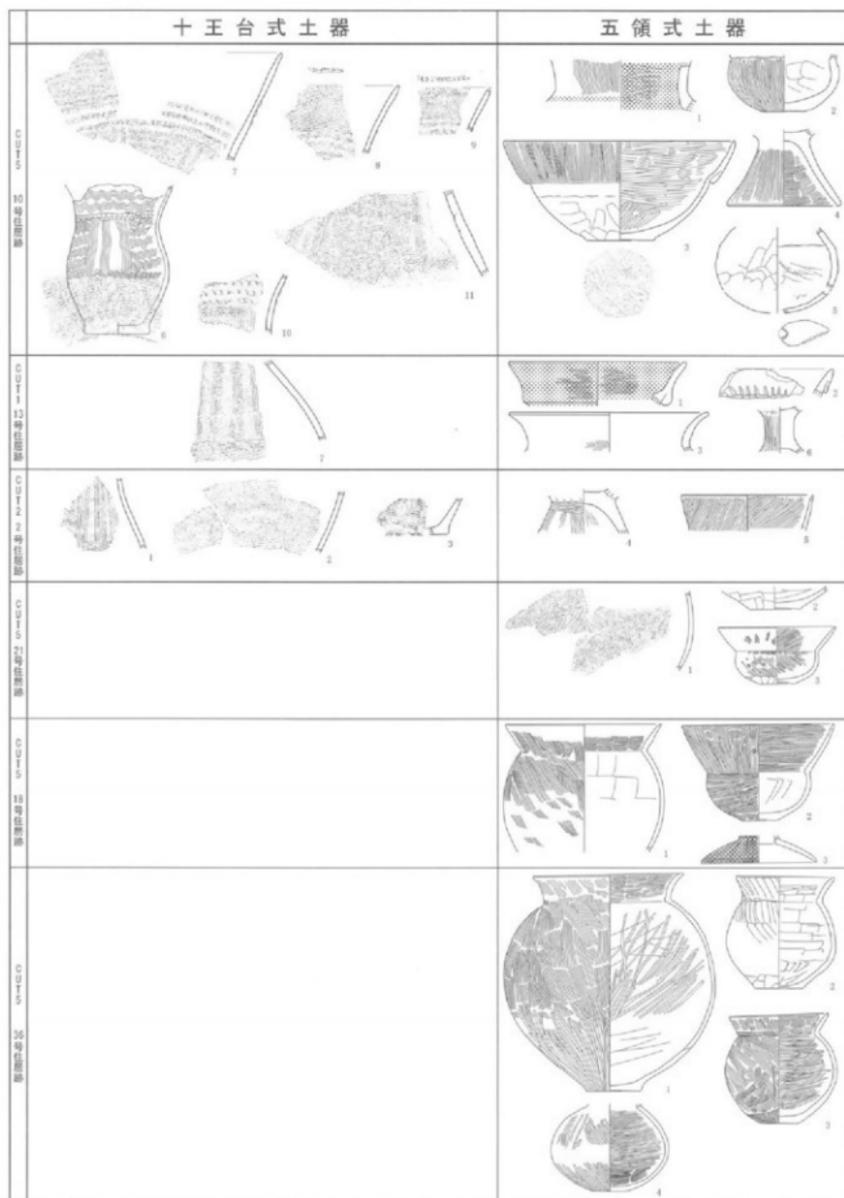
第 176 図 十王台式土器編年 (1)

「茨城県後期弥生式土器編年の検討 (III) 十王台式土器について」『研究ノート』第 3 号より引用

十 王 台 式 土 器



第 177 图 十王台式土器編年 (2)



第 178 图 十王台式土器编年 (3)

## 第4章 長峯西遺跡で検出された初源期カマドについて

関東でカマドが出現するのは、古墳時代中期とされている。初源期カマドの様子は、次のような点があげられる。

第1にカマドは、煙道のために壁を切りこまず、袖構材の切り込みに対する侵入の割合は10%未満となる。第2に煙道部の上昇角度は、下部で60°～90°、上部で80°～90°となる。第3に火床の位置は、切り込みが設けられる以前に木末壁があったと推定される線から、カマド全長の80%離れたあたりにある。第4にカマドの長い両袖部の平面形状は、平行もしくは「ハ」の字に開いている。第5に土製支脚ではなく「転用支脚」が用いられ、主として倒立させた甕が用いられる。以上の5項目が特徴である。(※1)

CUT1には、古墳時代中期で、初源期のカマドが付設された堅穴住居跡であるST04とST08の2軒が存在している。2軒を前述5項目と照合したい。

ST04はプラン検出時の状態は悪く南壁は消失していたものの、4基の土柱穴と南西コーナーに貯蔵穴、北西壁中央にカマドが付設されている。またプラン中央部からやや北壁に寄った位置に地床坪が存在する点が特徴的である。

カマドの様子は全長97cm、巾は奥で102cm、手前で125cmとなる。第1に壁の切り込みはなく、壁の手前で袖部を構築している。第2に下部から上部にかけての立ち上がりは50°である。第3に火床の位置は全長97cmに対して壁から35cm離れた存在する34%の位置に存在する。第4に両袖部の平面形状はわずかに手前で開くがほぼ平行となる。第5に土製支脚が出土している。

ST04地床の存在は、カマドを増設した可能性と過渡的な様相を示しているのだが、第3・第4の項目とは合致しない。

遺物は、土師器坏と須志器高坏が出土した。須志器高坏脚部は1段の透かしを有し、端部が折り返すもので、TK208段階と判断される。

つぎにST08である。ST08はローム層を掘り込んで構築された堅穴式住居跡で、覆土上面にローム、下層にいくにしたがっておびたがしい焼土・炭化物が検出されており、焼失家屋と推定される。周溝を巡らした方形プランの四隅を結んだ対角線上に柱穴四本を配し、南西角に平面長方形をした炭の痕跡と考えられる浅い掘りこみを有し、その中央に平面円形をした深い貯蔵穴が穿たれている。カマドはその北西壁中央に寄って構築されている。

カマドは、全長117cm、袖部の巾は、壁に近い奥で81cm、支脚のあたりで92cmとなっている。ロームに多量の砂を混入させた両袖部は、火災のためか異様なまでに全体が被熱していた。第1に壁の切り込みがなく、袖の構材は壁の手前に付設している。第2に下部から上部にかけて60°で立ち上がる。第3に火床の位置は全長117cmに対して96cm離れた、壁から80%弱の位置に存在する。第4に両袖部の平面形状は手前でわずかに開くが外観はほぼ平行をなしている。第5に出土した「転用支脚」は伏倒立した土師器甕である。

5項目のうち第5に示した点以外は、差異はないということがわかる。

遺物は、土師器甕・埴・坏、須志器坏、磁石、鉄製鎌が出土している。須志器坏口縁部は端部がシャープで扁平になる。TK208前後の時期が想定できる。

以上のことからST04とST08とを比較したとき、両者の形態は、カマドの様相を除いて一致しており、出土遺物も古墳時代中期の様相を呈している。出土した須志器は、5世紀中葉から後半の所産とされるTK208出土須志器であり、当該地域における初源期のカマドとして貴重な資料となった。

※1 第1～4項目は、下記の(谷村1982年)からの引用、第5項目は(佐藤克己1974年)からの引用である。

## 第5章 長峯西遺跡出土の墨書土器について (図版113・114)

墨書土器はCUT5の7・10・13・14・16・19・22・32号住居跡、CUT6の3号住居跡CUT10Aの1号住居跡から合計

16点が出土した。10・14号住居跡は8世紀後半であるが、その他は9世紀後半を中心とした9世紀前半～10世紀前半の遺構である。小片での出土がほとんどのため、墨書内容が不明のものが多く、ここでは釈読できた資料について述べる。

「方」CU75-22号住居跡。9世紀後半の住居から出土。人名とすれば「万石」という人名と解釈できる。もしくは集団の標章として選択された可能性も考えられる。出土状況などからは祭祀の様相は窺えないため、吉祥句として解釈することは難しい。従って日常的な使用に供されたものと考えられる。

「大伴」CU75-14号住居跡。8世紀後半の住居から出土した。氏族名であり、全国で出土例が多く、関東では千葉県八千代市権現後遺跡で「大伴口(部)」、東京都北区御殿前遺跡で「大伴」の墨書土器が出土している。

「片山」CU75-0A-1号住居跡。遺跡内で最も標高が高い位置になるが、周辺が後世削平されていることから、遺構の東側、台地上にも本来集落が展開していたと推測される。よって他の墨書土器と同じ集落で使用されたものと考えられる。「片山」は3点出土したが、墨書位置や字形に共通性が見られ、3点が同一時期に使用された可能性が高い。出土状況に特殊性はなく、日常什器として使用されたと推測される。文字内容は集団の標章かあるいは人名と考えられるが、管見の限り他での出土例が見られないため現時点では可能性を指摘するに留めたい。

## 第6章 遺跡全体の総括

本遺跡においては、弥生時代後期の土台式の良好な資料群が出土し、特に終末期の五領式土器との共存関係が確認されたことが重要である。また初期カマドの形態や炉とカマドの関係についても様々な所見を得られたと考える。

長崎西遺跡は舌状台地上に展開された遺跡だが、時期によって集落の位置は異なっていると考えられる。すなわち弥生時代後期～古墳時代中期にかけての集落はCU1・2で検出されることから、台地の低位に展開していると想定される。

一方、奈良・平安時代の集落はそれよりやや高い位置であるCU75で密度が高く、後世の削平を受けた台地中央にかけて集落が展開していたと考えられる。また、おそらく遺物のみ出土した縄文時代の遺構も存在したと推測される。遺跡周辺には古墳群が密集しており、古くからの集落が営まれていた立地と想定され、本遺跡も移住を行う住居跡が多く見られることから、古代において8世紀後半～10世紀前半までの長期的な拠点集落と評価することができる。また遺跡には6世紀～8世紀中葉の空白期があるが、隣接する台地に展開する長峰東遺跡など、周辺の遺跡との関連の中で考えていく必要があろう。

中近世の遺物・遺構については不明な点が多いが、今後の周辺の調査に期待したい。

### 引用・参考文献

- 茨城県立歴史館 1991 『茨城県史料考古資料編 弥生時代』
- 茨城県立歴史館 1994 『東国の古代仏教-寺と仏の世界-』特別展図録
- 上高津良塚ふるさと歴史の広場 2006 『火葬と古代の社会-死をめぐる文化の受容』第11回特別展
- 栃木県立博物館 1995 『京国火葬事始-古代人の生と死-』第53回企画展図録
- 谷旬 1982年『古代東国のカマド』『研究紀要7』(財団法人千葉県文化財センター)
- 佐藤克己 1974年『千葉ニュー・タウン埋蔵文化財調査報告書1 小塚』(房総考古資料刊行会)第3巻第2節
- 鈴木道之助 1974年『前掲書』第3節
- 大賀健 2008年『「茨城県柏市呼塚遺跡8次調査報告書」(有限会社 勾玉工房Mogi)第4巻第2節
- 白石大一郎 2006年『年代のものさし 阿武隈の須恵器』(大阪府立近つ飛鳥博物館)
- (財)茨城県教育財団 1994年『研究ノート』3号～7号
- 古瀬権 1995年『茨城県における古代火葬墓地属性』『土浦市立博物館紀要』第6号

遺 構 写 真 図 版



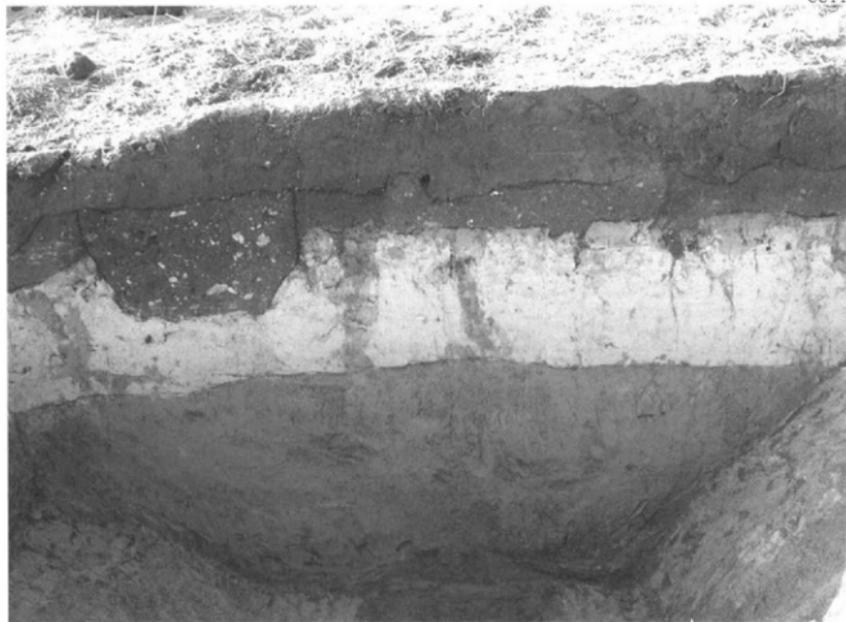
1 航空写真全景1(遺構配置)



2 航空写真全景2



1 CUT1 航空写真



1 標準堆積土層

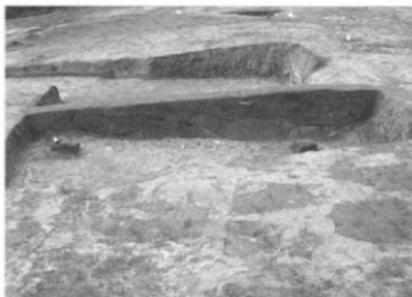


2 遺構確認全景

CUT1



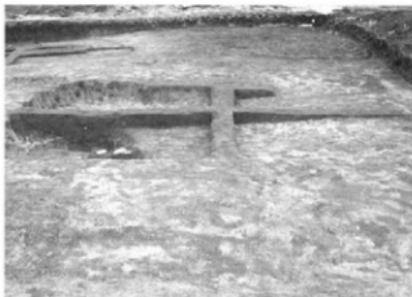
1 1号住居跡全景



2 同 セクション



3 同 カマド



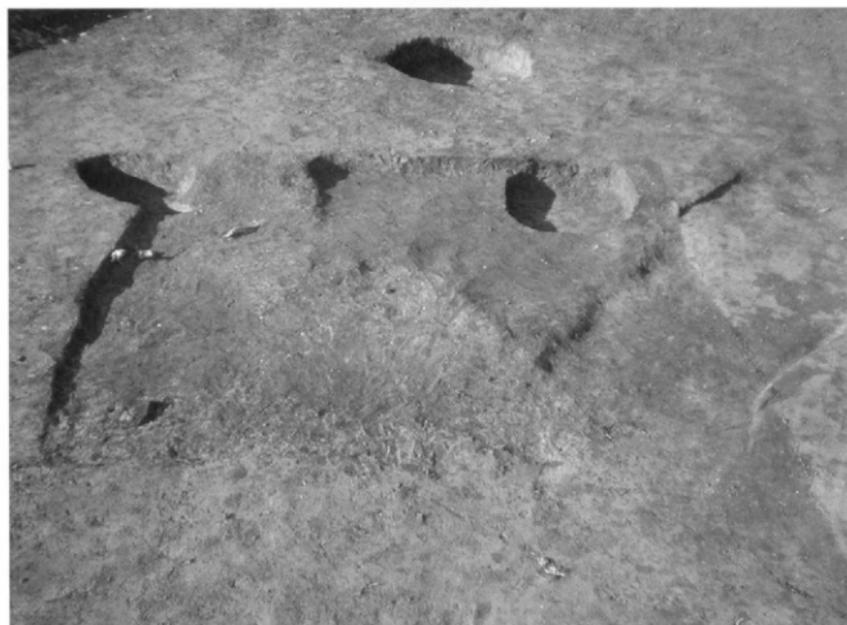
4 2号住居跡セクション



5 同 カマドセクション



1 2号住居跡全景



2 3号住居跡全景

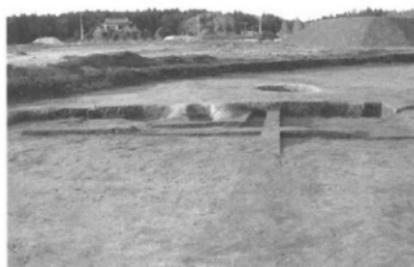
CUT1



1 3号住居跡セクション



2 同 カマド



3 4号住居跡セクション



4 同 カマドセクション



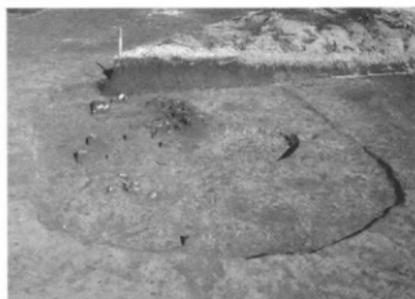
5 同 全景



1 5号住居跡全景



2 同 セクション



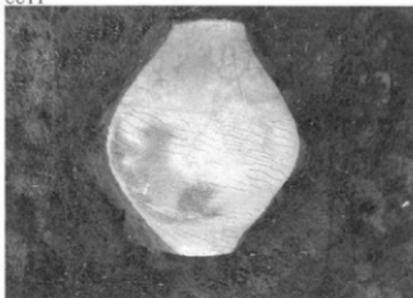
3 同 遺物出土状況



4 同 遺物近景1



5 同 遺物近景2



1 5号住居跡 遺物近景3



2 同 遺物近景4



3 同 遺物近景5



4 同 切セクション



5 6号住居跡全景



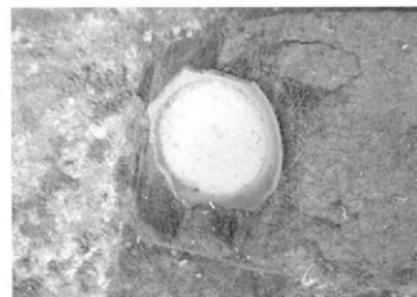
1 6号住居跡遺物出土状況



2 同 カマド



3 7号住居跡全景



4 同 遺物出土状況

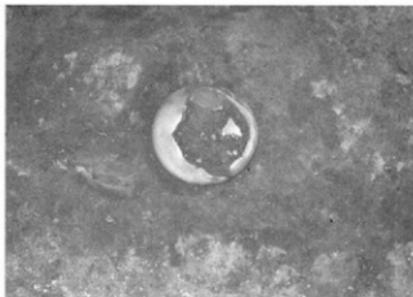


5 8号住居跡焼土分布状況

CUT1



1 8号住居跡全景



2 同 遺物出土近景 1



3 同 遺物出土近景 2



4 同 遺物出土近景 3



5 同 遺物出土近景 4



1 8号住居跡遺物出土近景



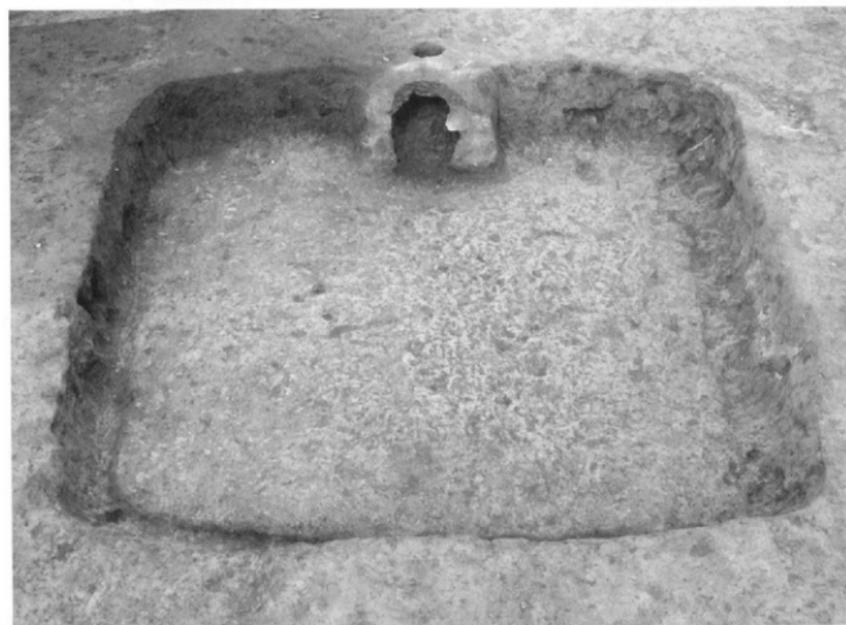
2 同 カマド



3 同 貯蔵穴セクション



4 同 貯蔵穴完壘状況



5 9号住居跡全景

CUT1



1 9号住居跡セクション



2 同 カマドセクション



3 同 カマド



4 10号住居跡セクション



5 同 全景



1 10号住居跡セクション



2 同 遺物出土状況 1



3 同 遺物出土状況 2



4 同 炉セクション



5 11号住居跡全景



1 11号住居跡セクション



2 同 遺物出土状況



3 同 カマドセクション



4 同 カマド全景



5 12号住居跡全景



1 12号住居跡セクション



2 同 炉



3 同 セクション

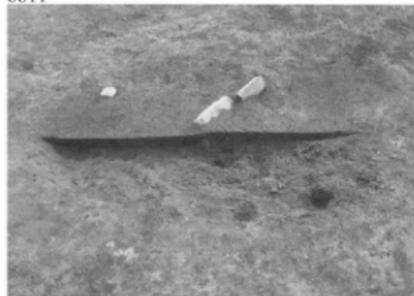


4 13号住居跡炉



5 同 全景

CUT1



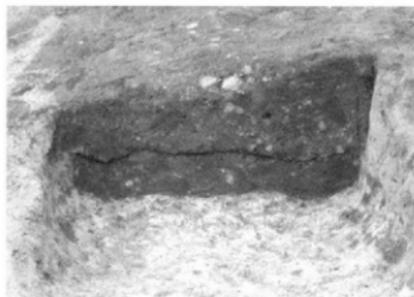
1 13号住居跡炉



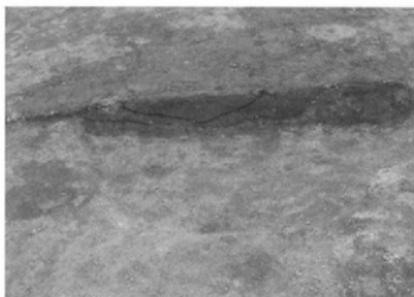
2 14号住居跡セクション



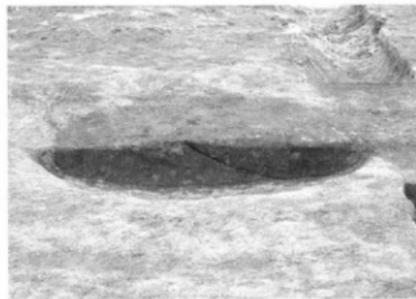
3 同 全景



4 1号土坑セクション



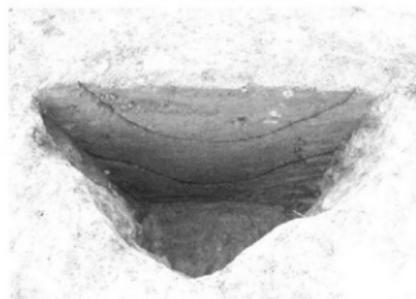
5 2号土坑セクション



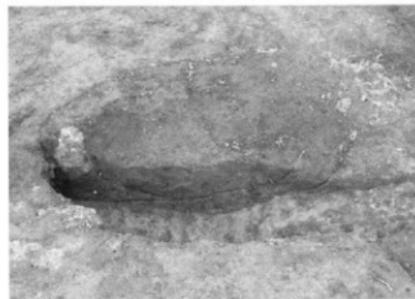
1 3号土坑セクション



2 4・5号土坑セクション



3 7号土坑セクション



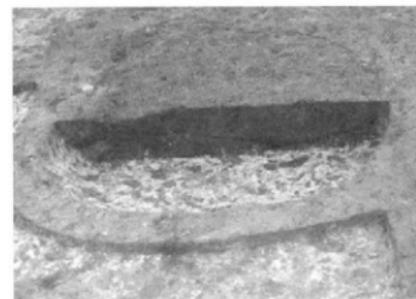
4 8号土坑セクション



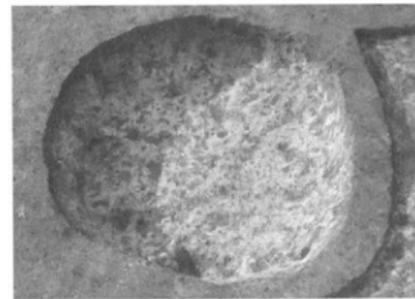
5 9号土坑セクション



6 11号土坑セクション



7 12号土坑セクション

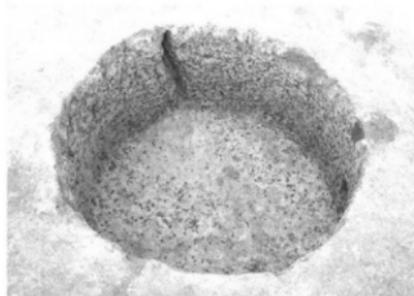


8 同 完掘状況

CUT1



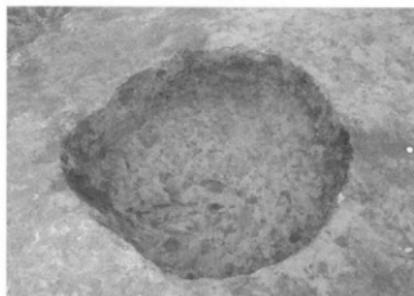
1 13号土坑セクション



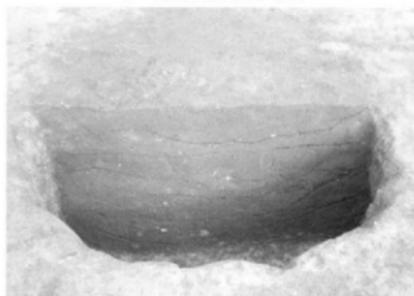
2 同 完掘状況



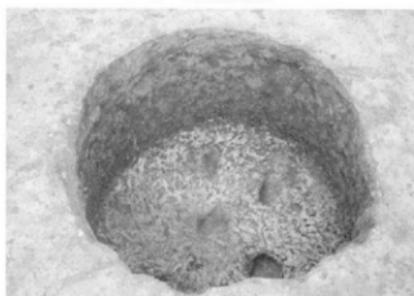
3 14号土坑セクション



4 同 完掘状況



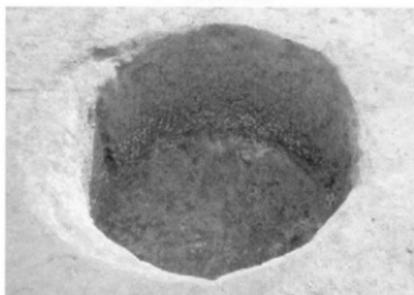
5 15号土坑セクション



6 同 完掘状況



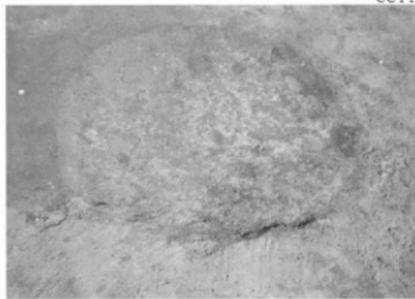
7 16号土坑セクション



8 同 完掘状況



1 18号土坑セクション



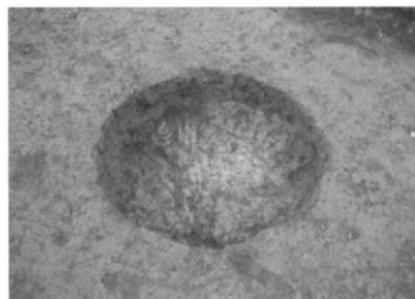
2 同 完掘状況



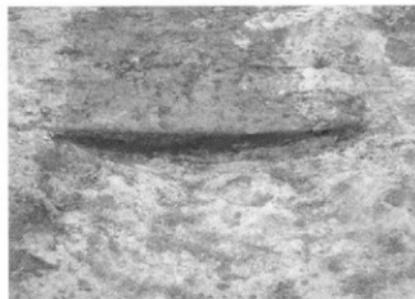
3 19号土坑完掘状況



4 20号土坑セクション



5 同 完掘状況



6 1号溝セクション



7 2号溝セクション



8 3号溝セクション

CUT1



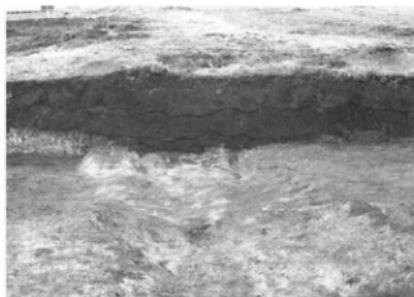
1 4号溝セクション1



2 同 セクション2



3 同 出土遺物状況 (近世磁器)



4 5号溝セクション



1 CUT2 航空写真

CUT2



1 標準堆積土層 1



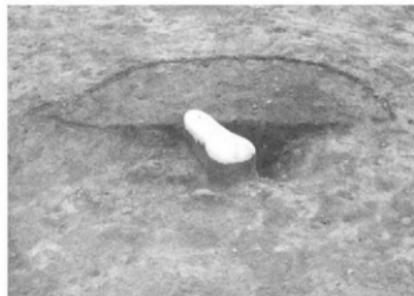
2 標準堆積土層 2



3 1号住居跡全景



4 同 住居跡セクション



5 同 炉セクション



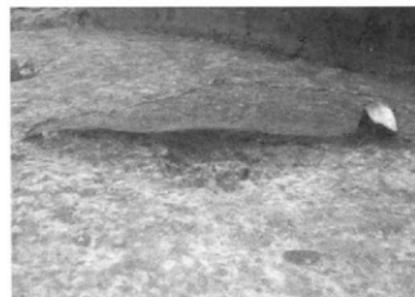
1 1号住居跡炉完掘



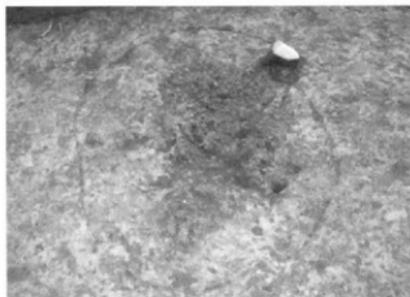
2 2号住居跡セクション



3 同 完掘状況



4 同 炉セクション



5 同 炉完掘状況



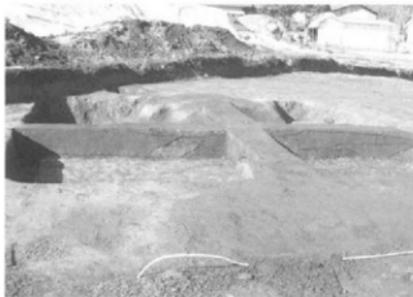
1 3号住居跡全景



2 同 セクション



3 同 遺物出土状況



4 4号住居跡セクション



5 同 遺物出土状況



1 4号住居跡完掘全景



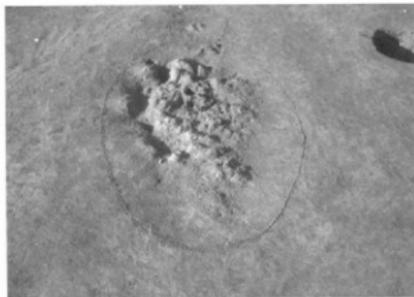
2 5号住居跡セクション



3 同 遺物出土状況



4 同 炉セクション



5 同 炉完掘状況



1 5号住居跡全景



2 6号住居跡セクション



3 1号溝セクション



4 調査風景



1 CUT5 航空写真

CUT5



1 調査前状況



2 遺構確認状況



1 標準堆積土層



2 調査風景1



3 同2



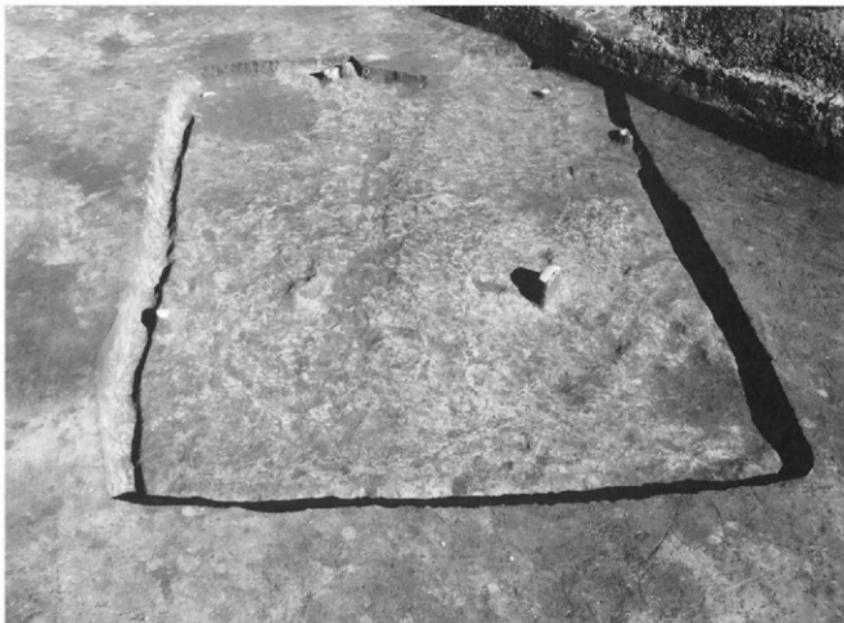
4 遺構確認東側



5 遺構確認西側



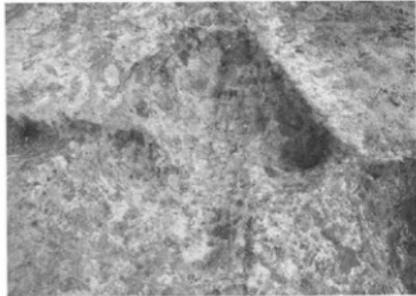
1 1号住居跡全景



2 2号住居跡全景



1 2号住居跡カマドセクション



2 同 カマド遺物出土状況



3 3号住居跡セクション



4 4号住居跡カマドセクション



5 同 カマド全景



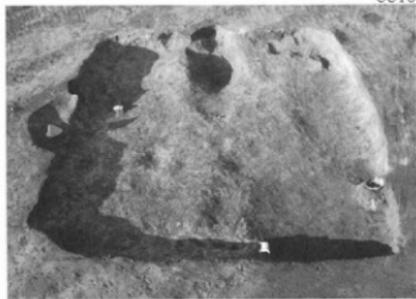
1 4号住居跡全景



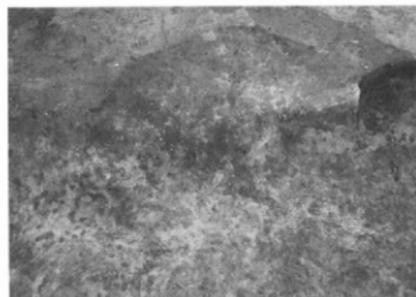
2 5・40号住居跡全景



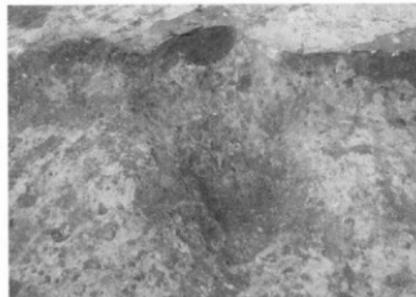
1 5号住居跡セクション



2 同 遺物出土全景



3 同 カマドセクション



4 同 カマド完掘



5 5号住居跡遺物出土状況

CUT5



1 6号住居跡Aセクション



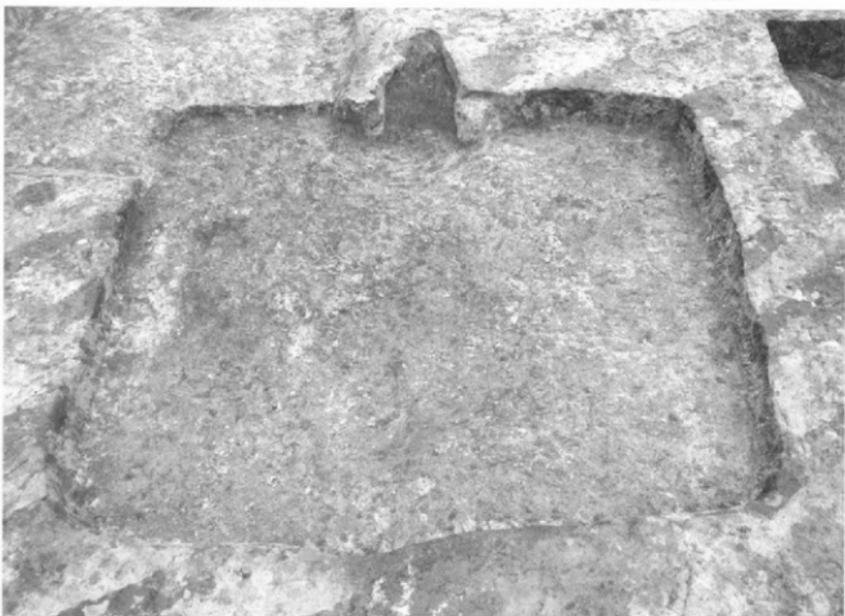
2 同Bセクション



3 同カマドセクション



4 同カマド遺物出土状況



5 同完掘状況



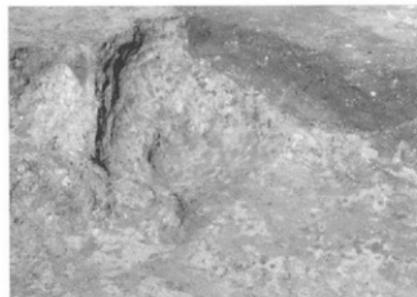
1 7号住居完掘状況



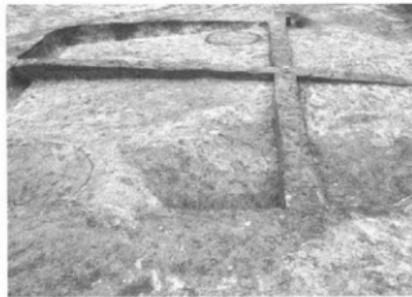
2 同 カマド遺物出土状況



3 同 カマドセクション



4 同 カマド完掘状況



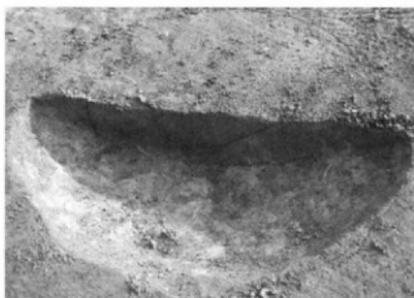
5 9号住居跡セクション



1 9号住居跡セクション



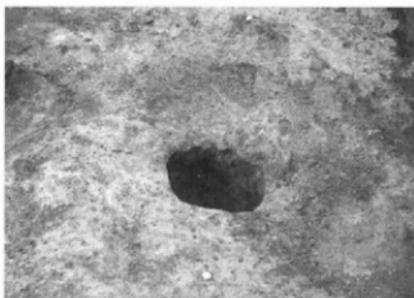
2 同 1号ピット



3 同 2号ピット



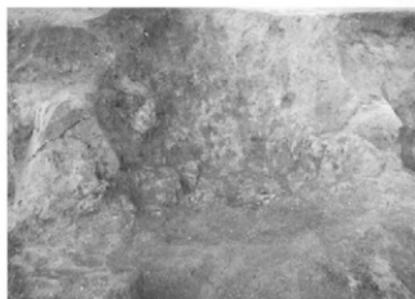
4 同 カマドセクション



5 同 カマド完掘状況



1 10号住居跡完掘状況



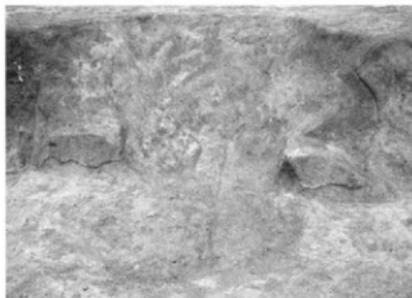
2 同 カマド袖



3 同 カマド掘方



4 11号住居跡カマド完掘状況



5 同 カマド袖



1 11号住居跡掘方



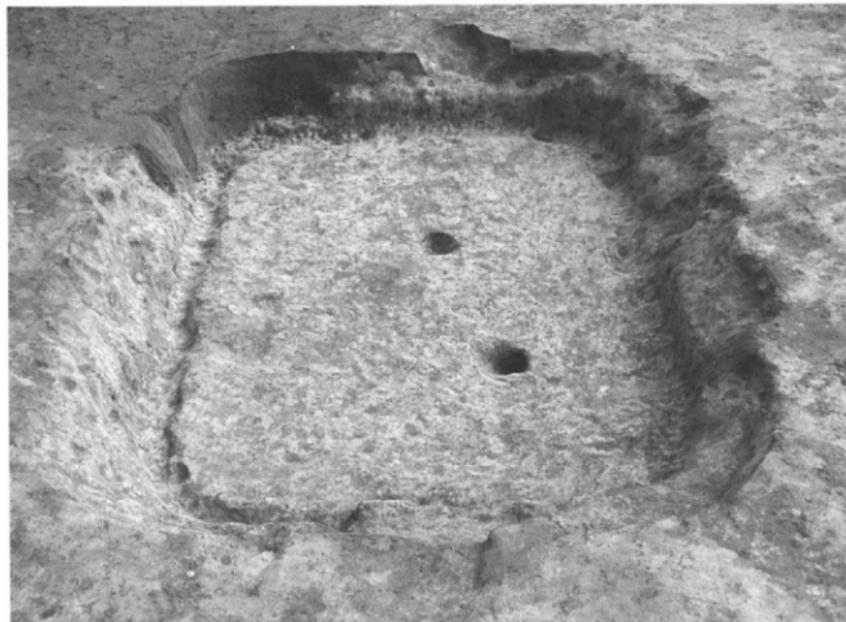
2 12号住居跡完備状況



1 12号住居跡カマド遺物出土状況



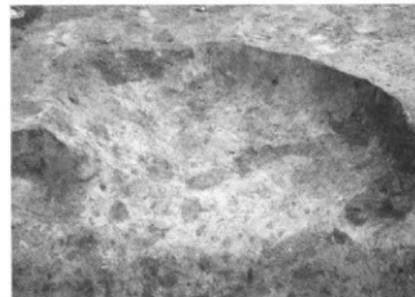
2 同 カマド完掘状況



3 13・39号住居跡完掘状況



4 13号住居カマドセクション



5 同 カマド完掘状況



1 14号住居跡遺物出土状況



2 同 セクション



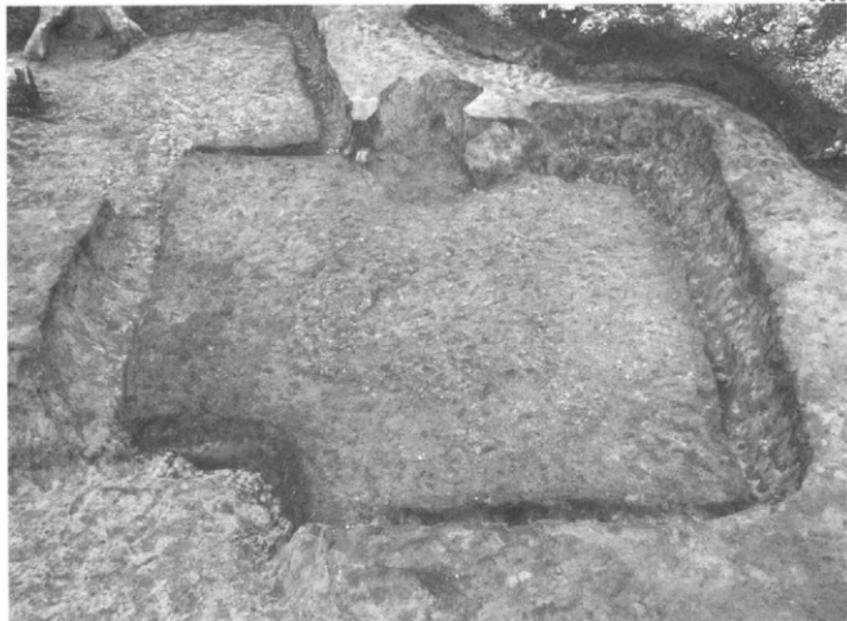
3 同 カマドセクション



4 同 カマド遺物出土状況



5 同 カマド完掘状況



1 14号住居跡完掘状況



2 15号住居跡Aセクション



3 同 Bセクション



4 同 カマドセクション



5 同 カマド完掘状況



1 15号住居完掘状况



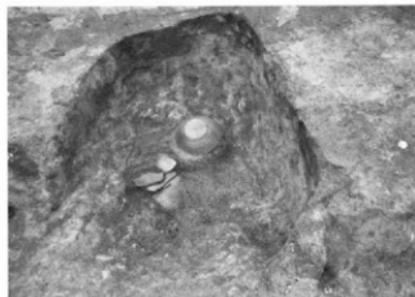
2 16号住居跡完掘状况



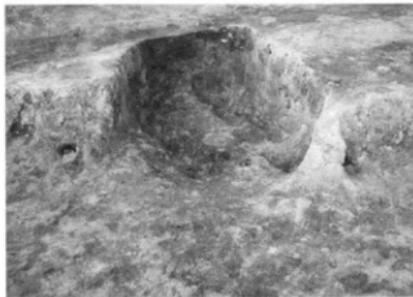
1 16号住居跡カマドセクション



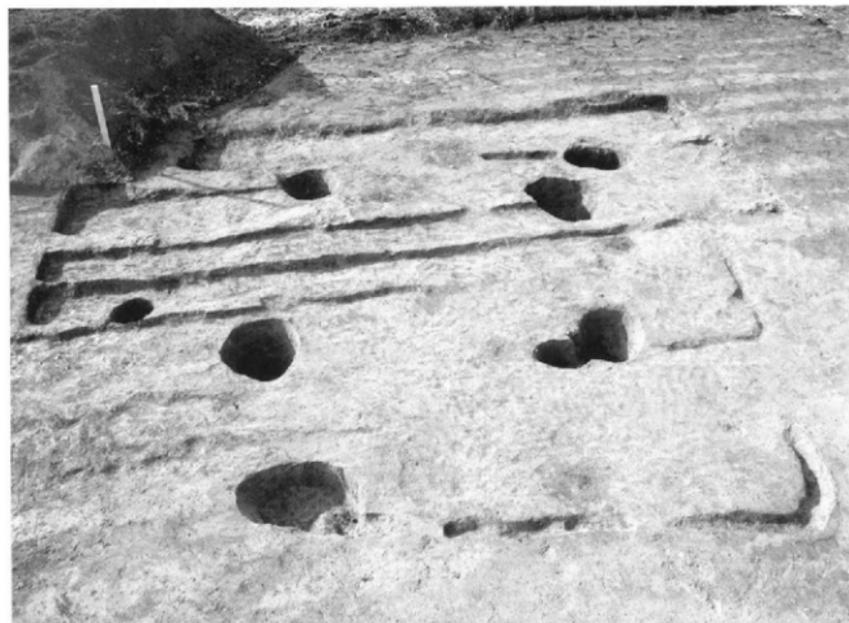
2 同 カマド遺物出土状況1



3 同 カマド遺物出土状況2



4 同 カマド完掘状況



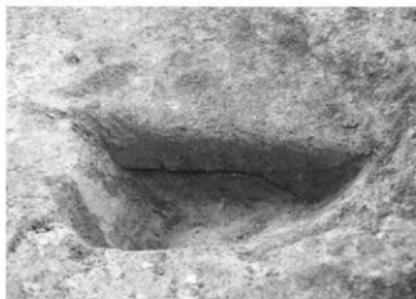
5 17号住居跡完掘状況



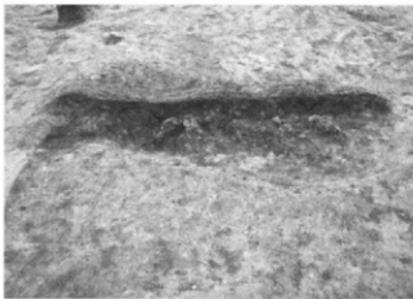
1 18号住居跡完掘状況



2 同 セクション



3 同 ビット5セクション



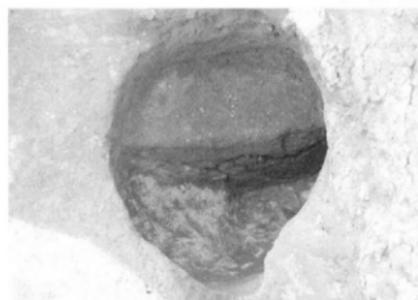
4 同 炉セクション



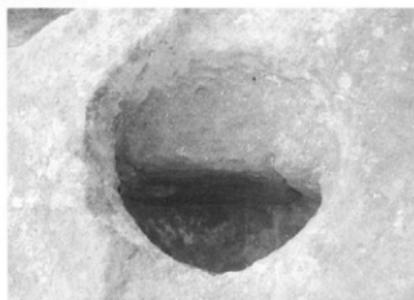
5 同 炉完掘状況



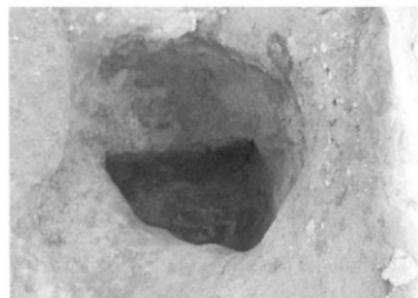
1 19・20号住居跡全景



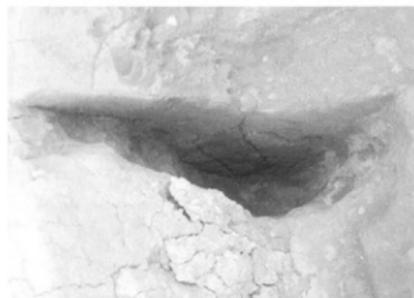
2 同 ビット1セクション



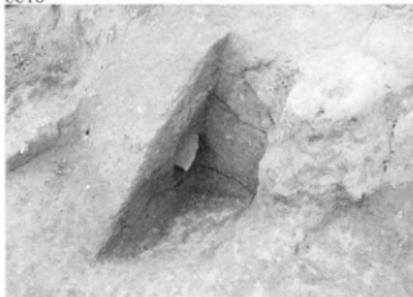
3 同 ビット2セクション



4 同 ビット3セクション



5 同 ビット4セクション



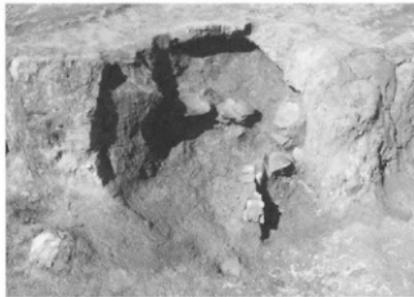
1 19号住居跡カマドセクション1



2 同 カマドセクション2



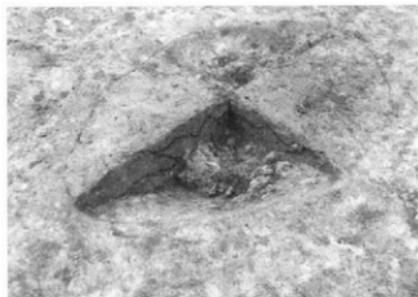
3 同 カマド遺物出土状況1



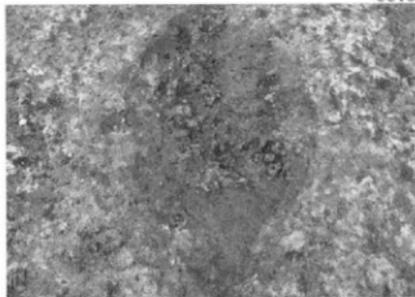
4 同 カマド遺物出土状況2



5 21号住居跡全景



1 21号住居跡がセクション



2 同 炉完掘状況



3 22・35号住居跡遺物出土状況

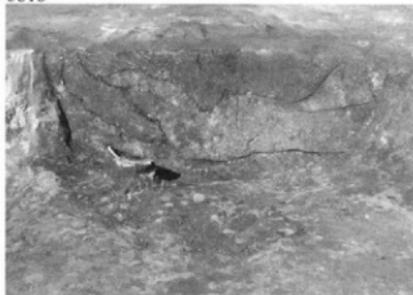


4 同 住居跡セクション



5 同 カマドセクション

CUT5



1 22号住居跡カマドセクション1



2 同 カマドセクション2



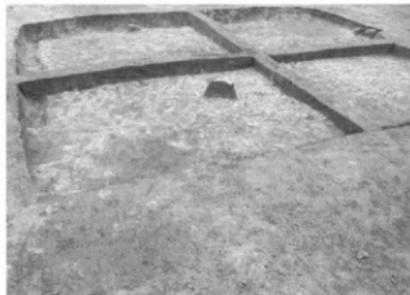
3 同 カマド完掘状況



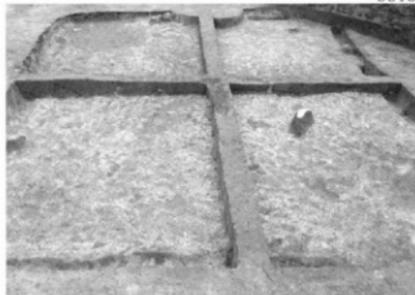
4 23号住居跡カマドセクション



5 24号住居跡全景



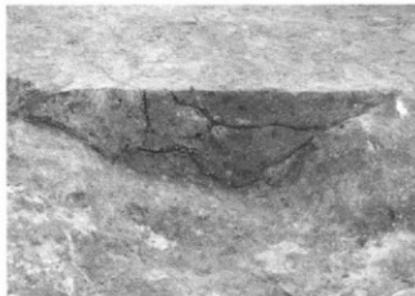
1 24号住居Aセクション



2 同 Bセクション



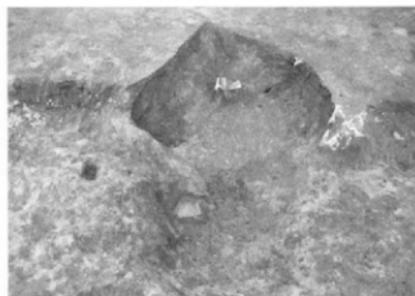
3 同 カマドAセクション



4 同 カマドBセクション



5 同 カマドセクション



6 同 カマド完掘状況

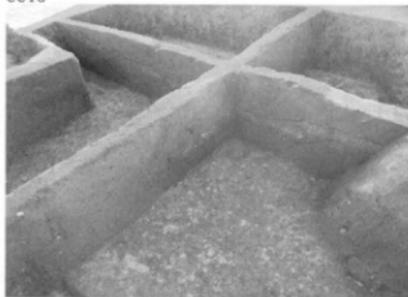


7 同 貯蔵穴セクション



8 同 貯蔵穴遺物出土状況

CUT5



1 25号住居跡Aセクション



2 同Bセクション



3 同カマドAセクション



4 同カマドBセクション



5 26号住居跡遺物出土状況



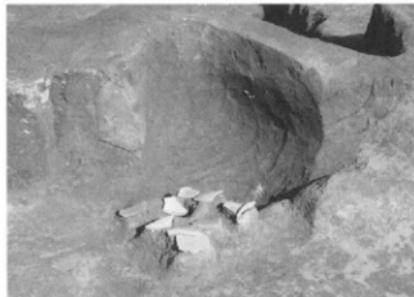
1 26号住居跡カマドセクション



2 27号住居跡Aセクション



3 同 Bセクション



4 同 カマド遺物出土状況



5 同 全景

CUT5



1 28号住居跡Aセクション



2 同 Bセクション



3 同 全景



4 同 セクション



5 同 カマドセクション



1 29号住居カマドセクション



2 29・44号住居跡セクション



3 30・44号住居跡遺物出土状況



4 同セクション



5 32・45号住居跡セクション



1 31号住居跡完掘状況

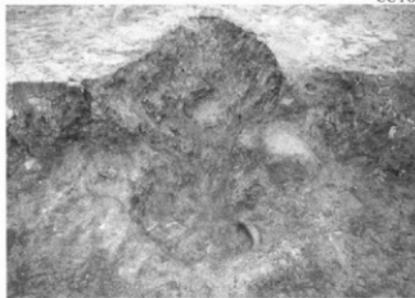


2 32・45号住居跡遺物出土状況

CUT5



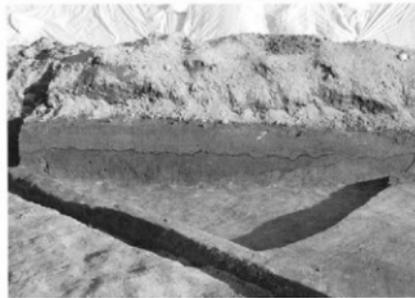
1 32号住居跡カマドセクション



2 同 カマド完形状況



3 32・45号住居跡Bセクション



4 33号住居跡セクション



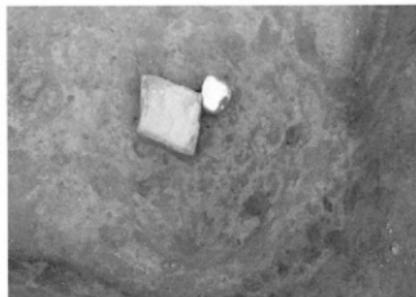
5 33号住居跡全景



1 34号住居跡全景



2 35号住居跡全景



1 35号住居跡遺物出土状況



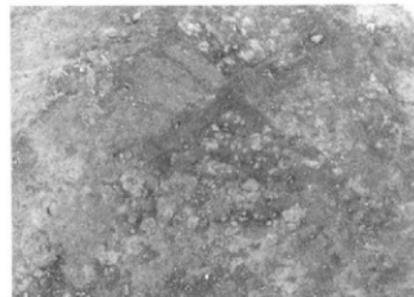
2 同 カマドセクション



3 36号住居跡遺物出土状況



4 同 セクション



5 同 伊セクション

CUT5



1 37号住居跡Aセクション



2 同 Bセクション



3 41号住居跡セクション



4 同 カマドセクション



5 同 カマド遺物出土状況



1 41号住居跡全景



2 42号住居跡全景

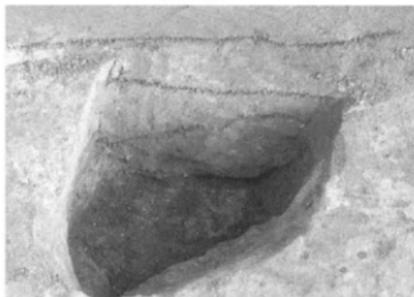
CUT5



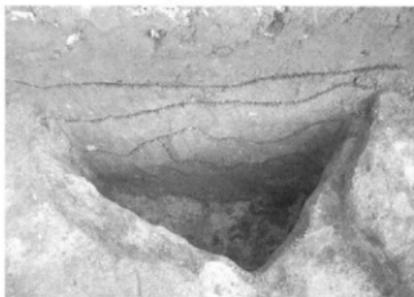
1 43号住居跡Aセクション



2 同Bセクション



3 46号住居跡カマドセクション



4 同セクション



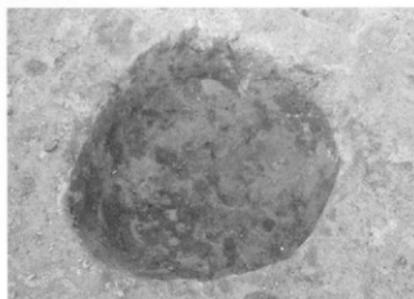
5 同 完掘状況



1 1号掘立柱建物跡



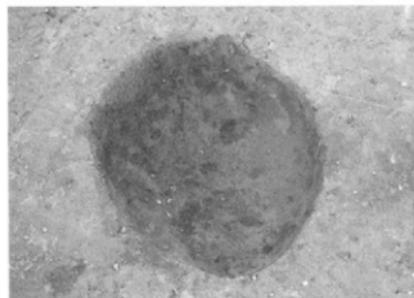
2 同 ビット1セクション



3 同 ビット1完掘状況



4 同 ビット2セクション

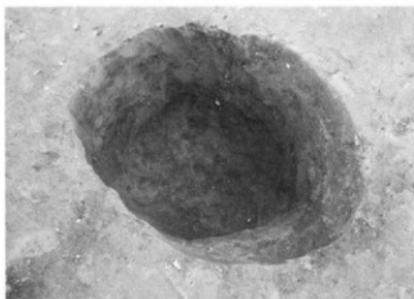


5 同 ビット2完掘状況

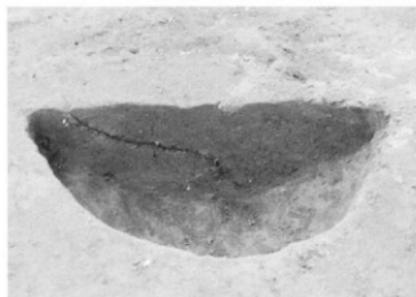
CUT5



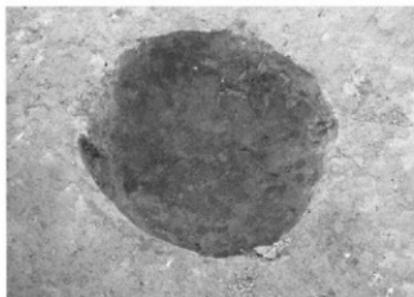
1 1号掘立柱建物跡ビット3セクション



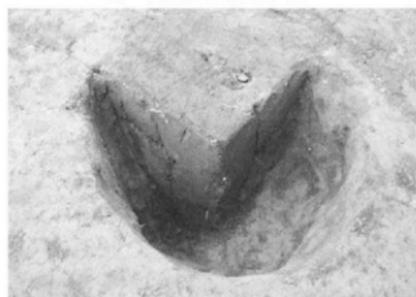
2 同 ビット3完掘状況



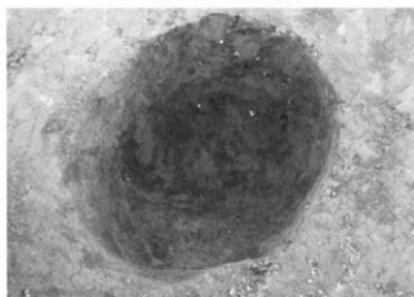
3 同 ビット4セクション



4 同 ビット4完掘状況



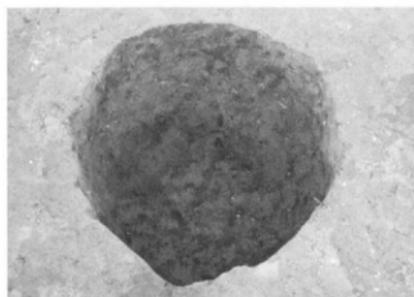
5 同 ビット5セクション



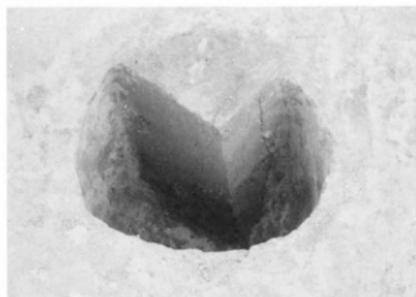
6 同 ビット5完掘状況



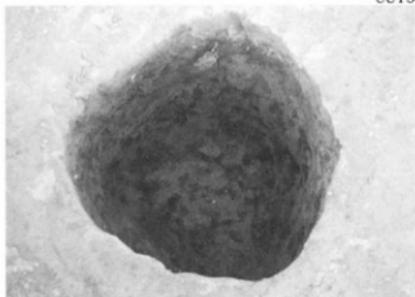
7 同 ビット6セクション



8 同 ビット6完掘状況



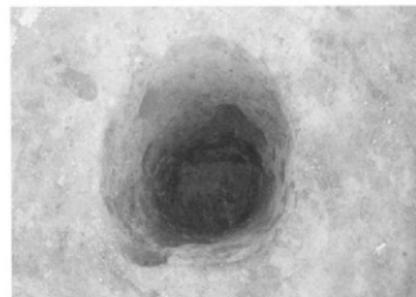
1 1号掘立柱建物跡ピット7セクション



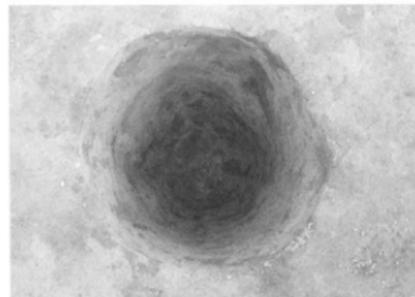
2 同 ピット7完掘状況



3 2号掘立柱建物跡

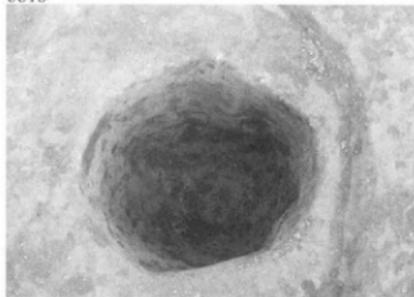


4 同 ピット1

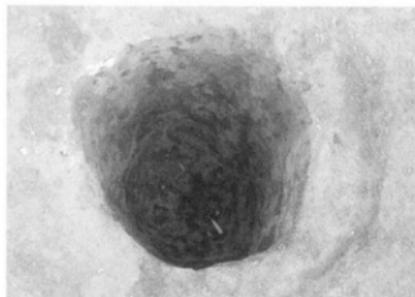


5 同 ピット2

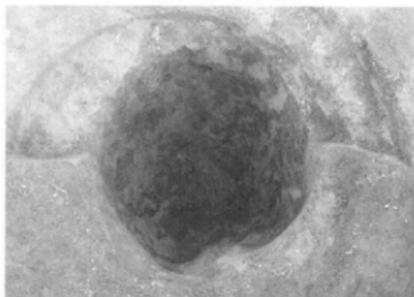
CUT5



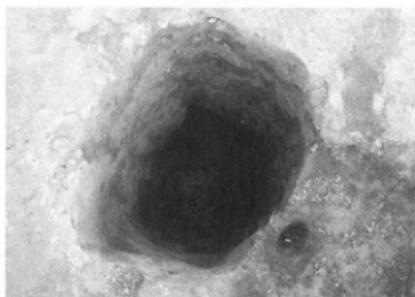
1 2号掘立柱建物跡ビット3



2 同 ビット4



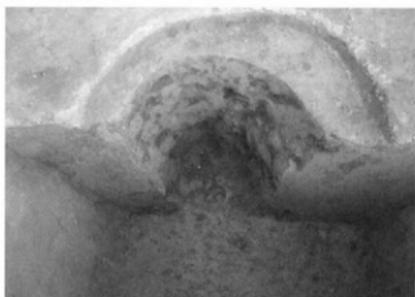
3 同 ビット5



4 同 ビット6



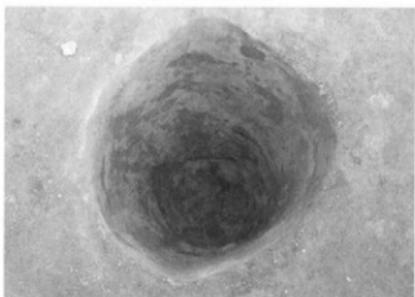
5 同 ビット7



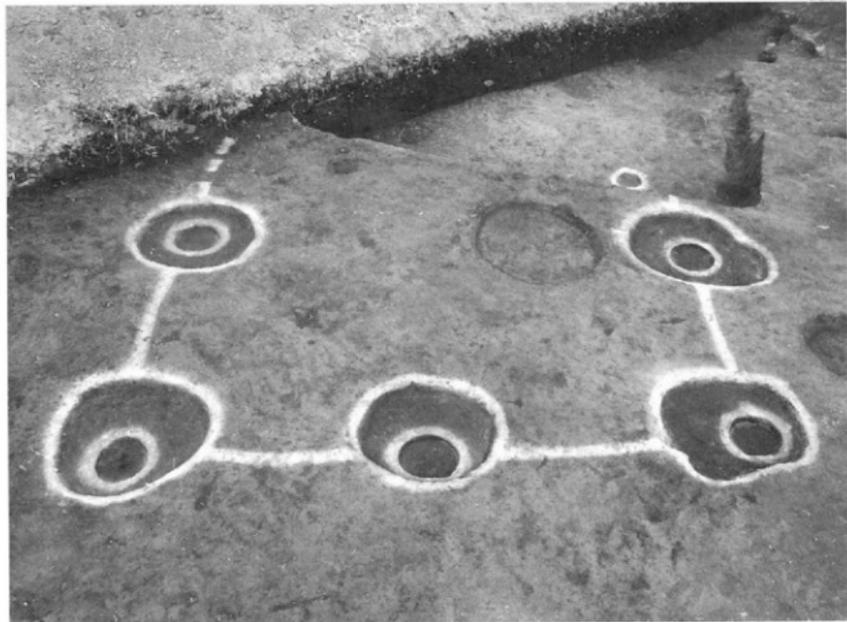
6 同 ビット8



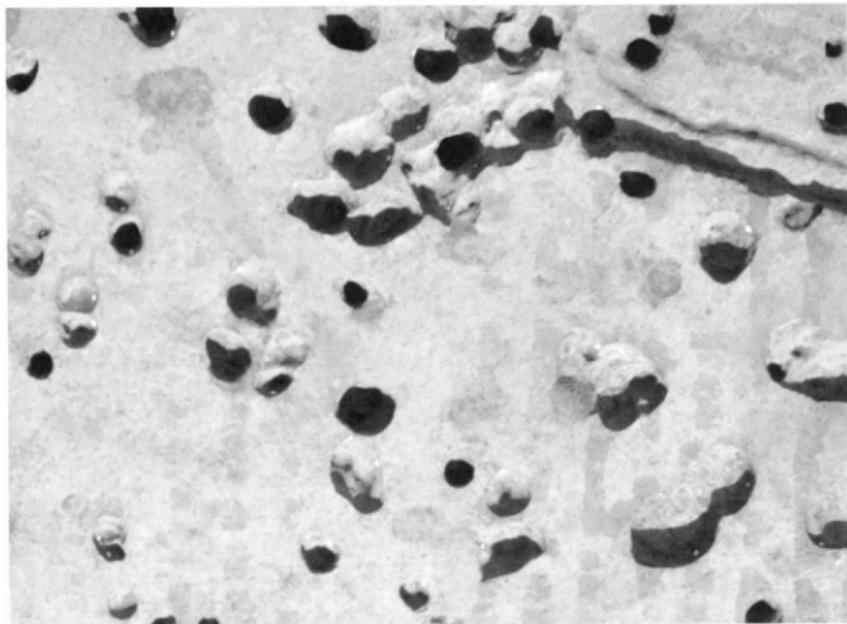
7 同 ビット9



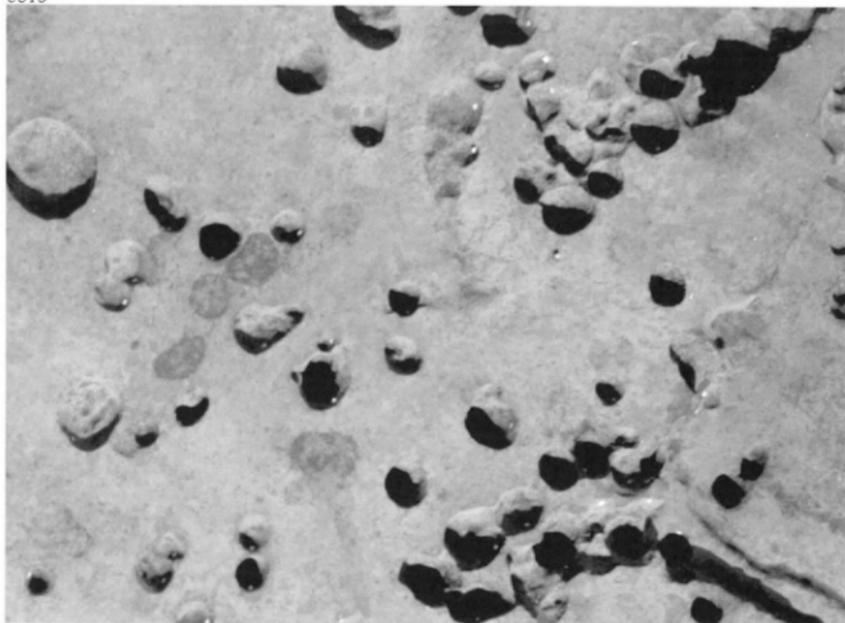
8 同 ビット10



1 3号掘立柱建物跡



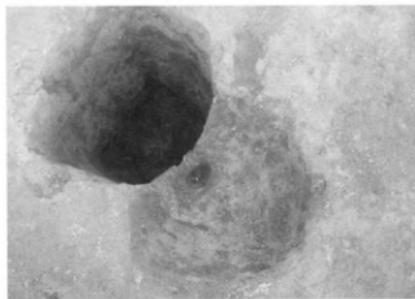
2 4・5号掘立柱建物跡



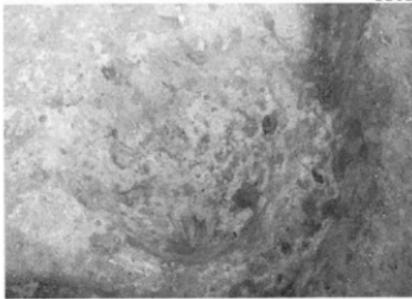
1 6号孤立柱建物跡



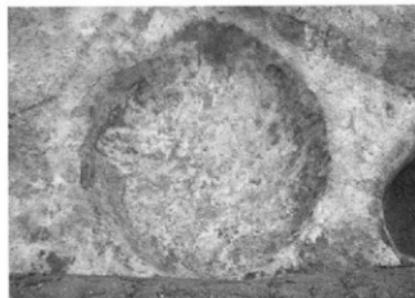
2 7~9号孤立柱建物跡



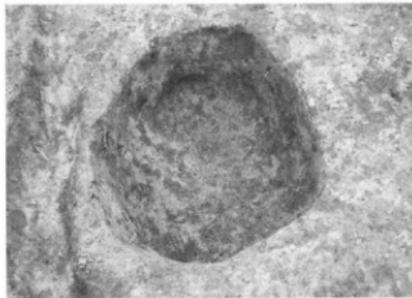
1 3号掘立柱建物跡



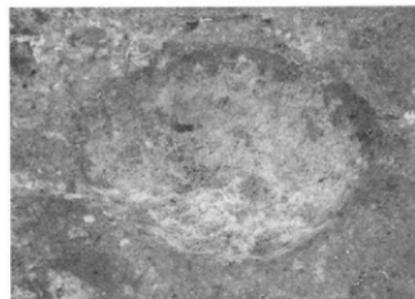
2 35号住居跡内1号土坑完掘状況



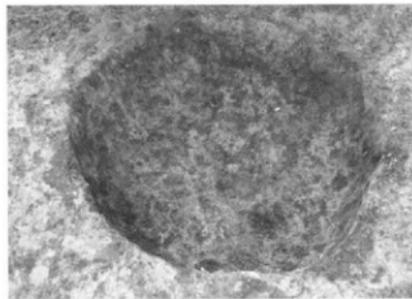
3 4号土坑完掘状況



4 6号土坑完掘状況



5 7号土坑完掘状況



6 8号土坑完掘状況



7 9号土坑セクション



8 同 完掘状況

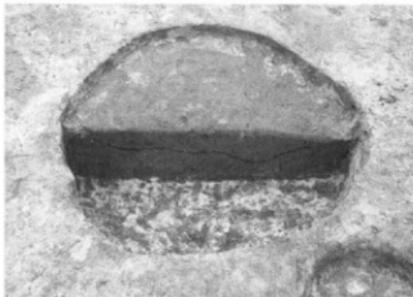
CUT5



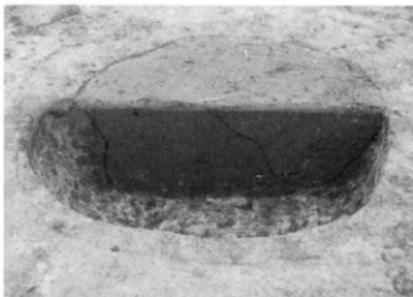
1 10号土坑セクション



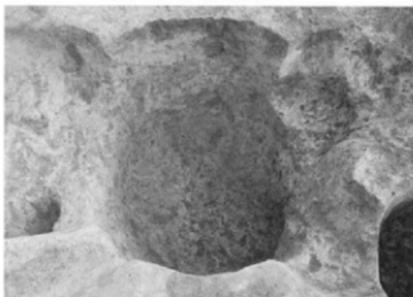
2 11号土坑セクション



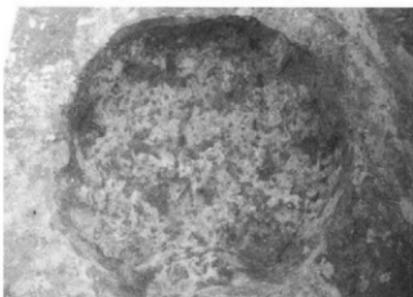
3 15号土坑セクション



4 18号土坑セクション



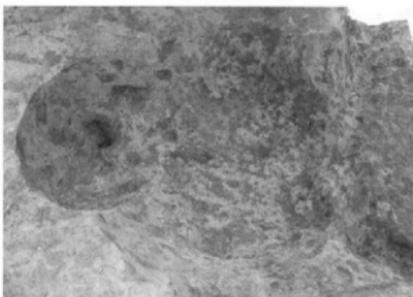
5 56号土坑完掘状況



6 76号土坑完掘状況



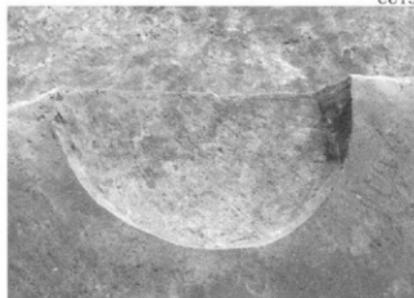
7 77号土坑完掘状況



8 78号土坑完掘状況



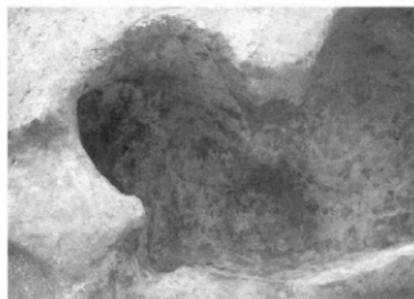
1 80号土坑完掘状況



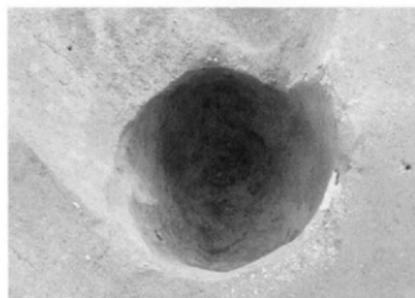
2 81号土坑完掘状況



3 82号土坑完掘状況



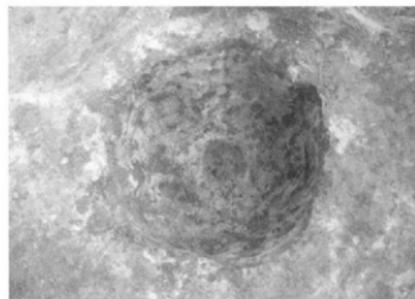
4 ビット 29・330 完掘状況



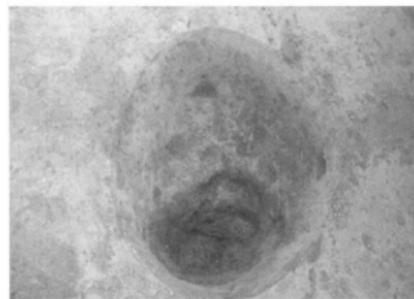
5 ビット 33 完掘状況



6 ビット 256～259 完掘状況



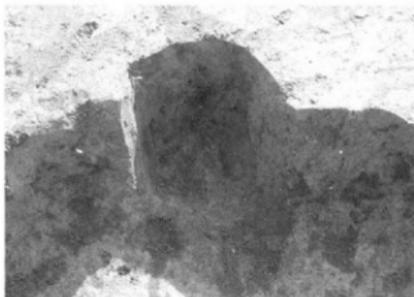
7 ビット 312 完掘状況



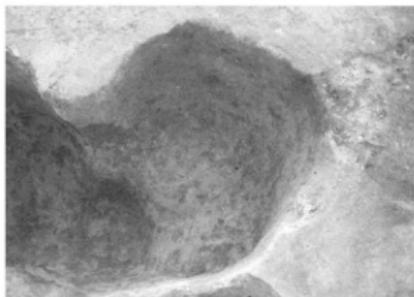
8 ビット 315 完掘状況



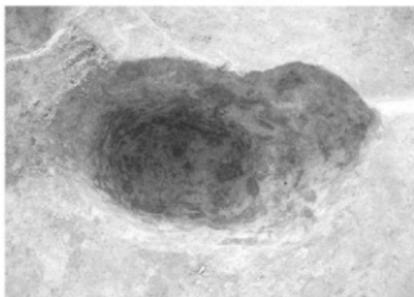
1 ビット 31 完掘状況



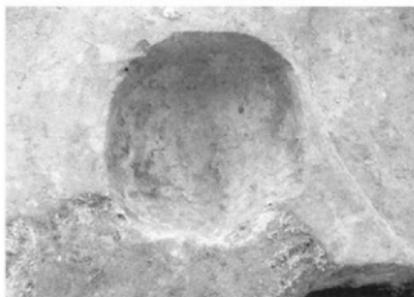
2 ビット 320 完掘状況



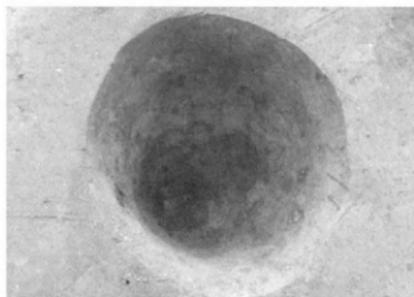
3 ビット 321 完掘状況



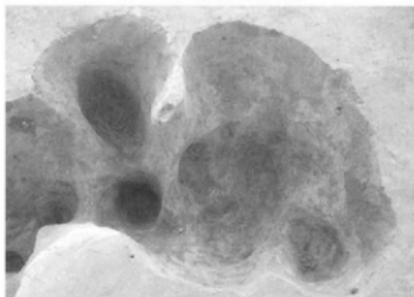
4 ビット 328 完掘状況



5 ビット 329 完掘状況



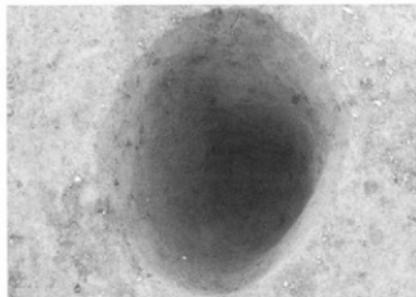
6 ビット 325 完掘状況



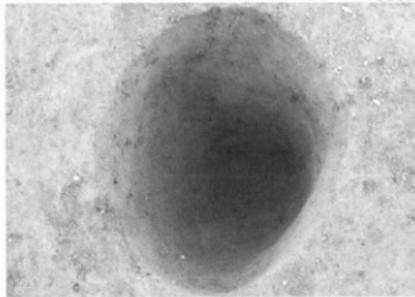
7 ビット 35・260・323・324 完掘状況



8 ビット 326 完掘状況



1 ビット 344 完掘状況



2 ビット 345 完掘状況



1 CUT6 航空写真



1 遺構確認全景



2 標準堆積土層

CUT6



1 1号住居跡全景



2 同 カマドセクション



3 同 カマド内遺物出土状況



4 同 カマド全景



5 2号住居跡セクション



1 2号住居跡全景

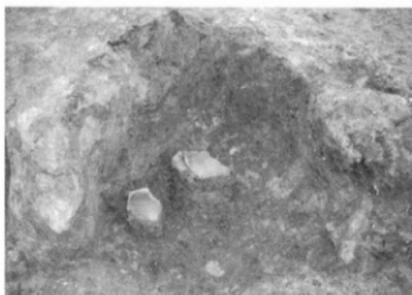


2 同 遺物出土状況

CUT6



1 2号住居跡カマドセクション



2 同 カマド遺物出土状況



3 同 カマド完掘状況



4 3号住居跡セクション



5 同 住居跡全景



6 同 カマド全景



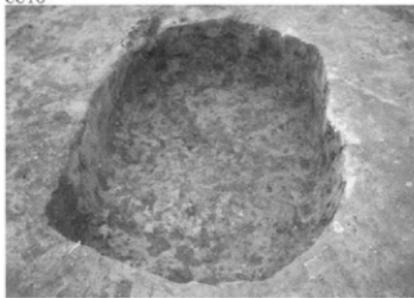
7 4号住居跡カマド



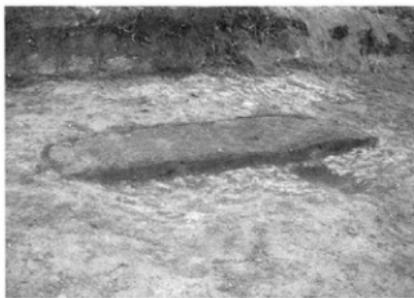
1 4号住居跡全景



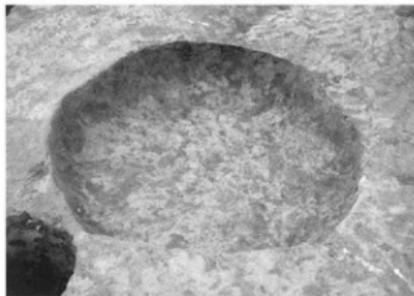
2 1号竪立柱建物跡全景



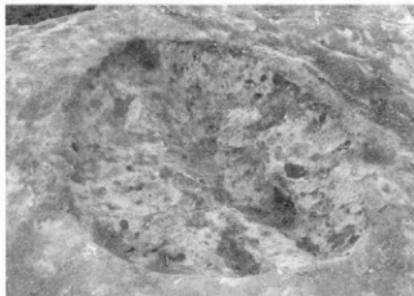
1 1号土坑全景



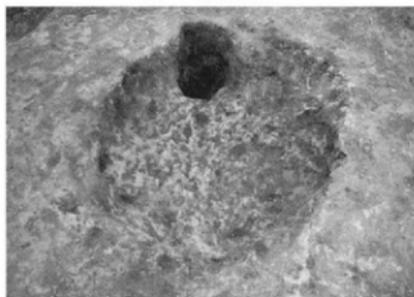
2 2号土坑セクション



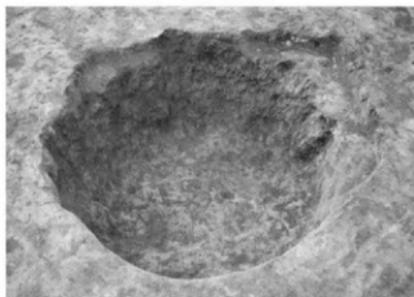
3 3号土坑全景



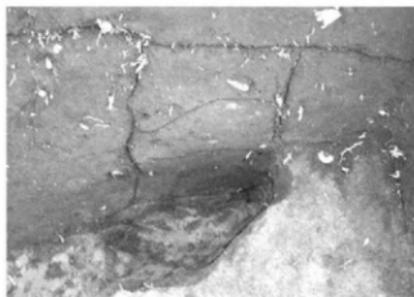
4 4号土坑全景



5 5号土坑・3号ピット全景



6 6号土坑全景



7 1号ピットセクション



8 1号住居跡全景



1 CUT8 航空写真

CUT8



1 遺構確認全景



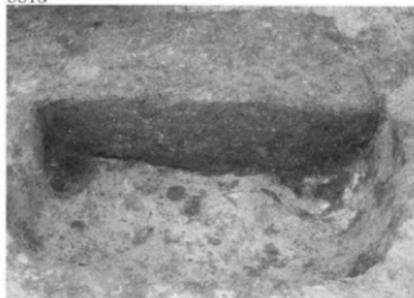
2 標準堆積土層



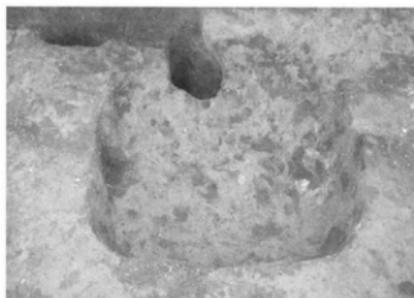
1 1号古墳セクション



2 同 周溝



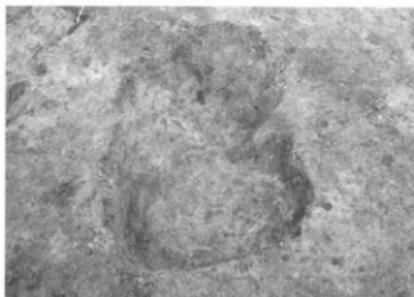
1 1号土坑セクション



2 同 完掘状況



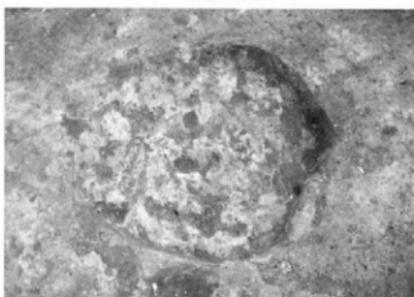
3 2号土坑セクション



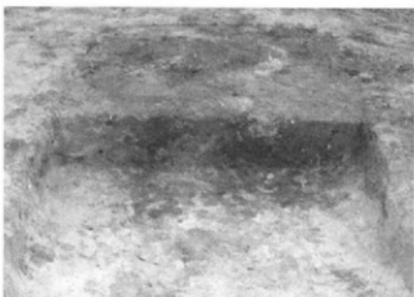
4 同 完掘状況



5 3号土坑セクション



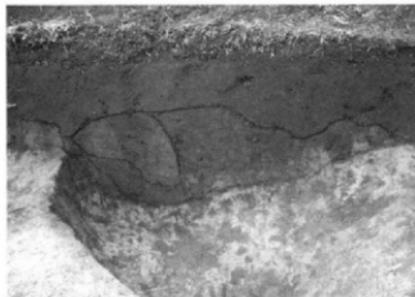
6 同 完掘状況



7 4号土坑セクション



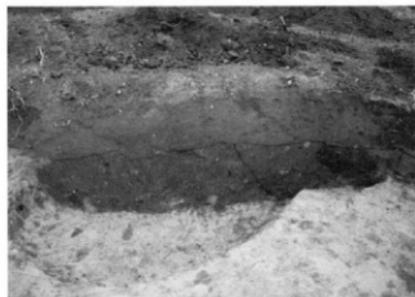
8 同 完掘状況



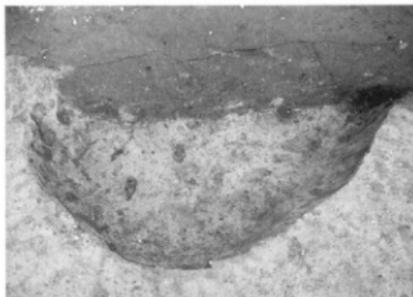
1 5号土坑セクション



2 同 完掘状況



3 6号土坑セクション



4 同 完掘状況



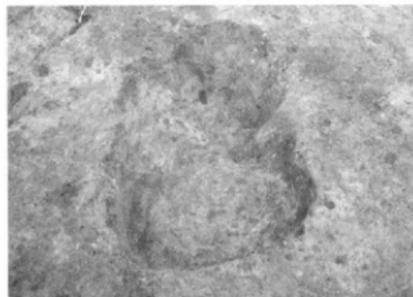
5 7号土坑完掘状況



6 8号土坑セクション



7 9号土坑セクション



8 同 完掘状況



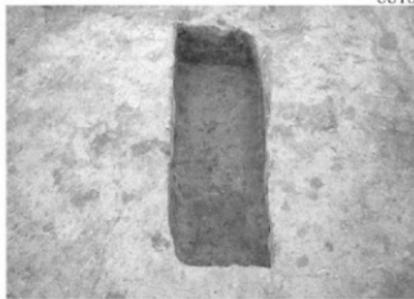
1 9号土坑藏骨器



2 同出土状况



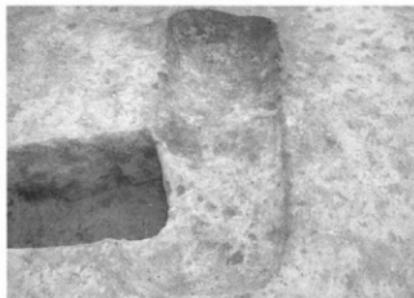
1 10号土坑セクション



2 同 完掘状況



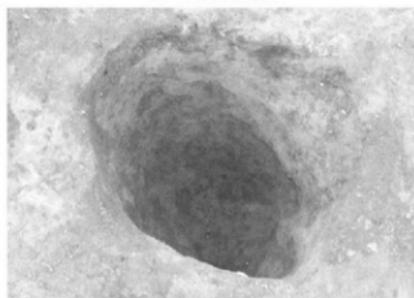
3 11号土坑セクション



4 同 完掘状況



5 12号土坑セクション



6 4号ピット完掘状況



1 CUT9 · CUT10B 航空写真



1 1号土坑セクション



2 2号土坑セクション



3 3号溝セクション



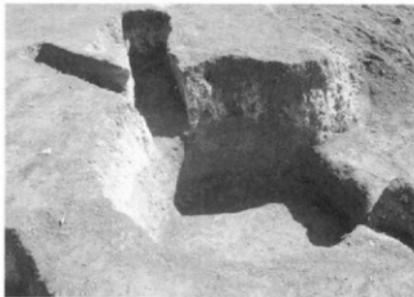
4 CUT10A 航空写真



1 1号住居跡セクション



2 1号溝完掘状況



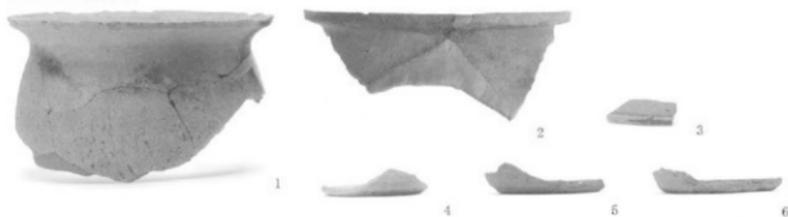
3 1号地下式坑完掘状況



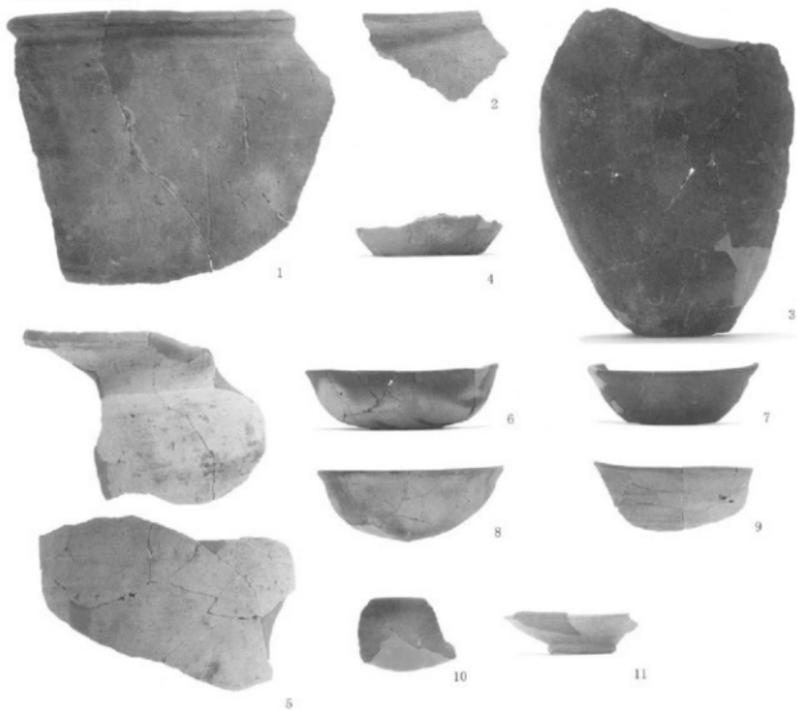
4 2号地下坑完掘状況

遺物写真図版

CUT1-S101 出土遺物



CUT1-S102 出土遺物

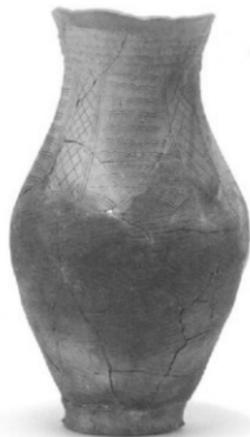
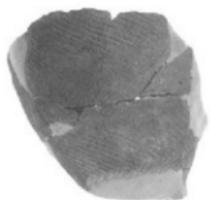
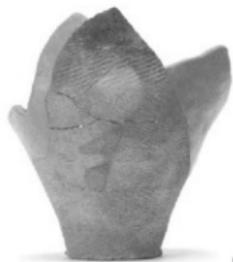


CUT1-S103 出土遺物

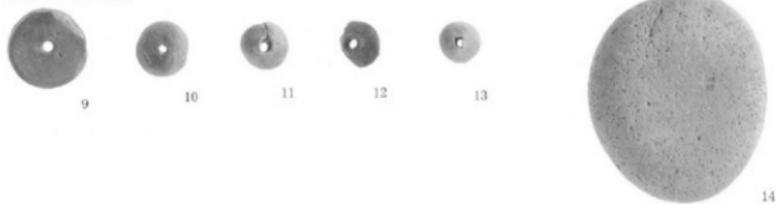


CUT1-S104 出土遺物





CUT1-S105 出土遺物



CUT1-S106 出土遺物



CUT1-S107 出土遺物



CUT1-S108 出土遺物

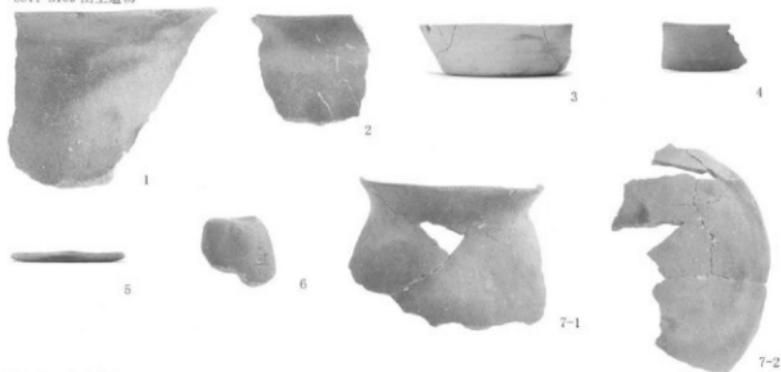


CUT1

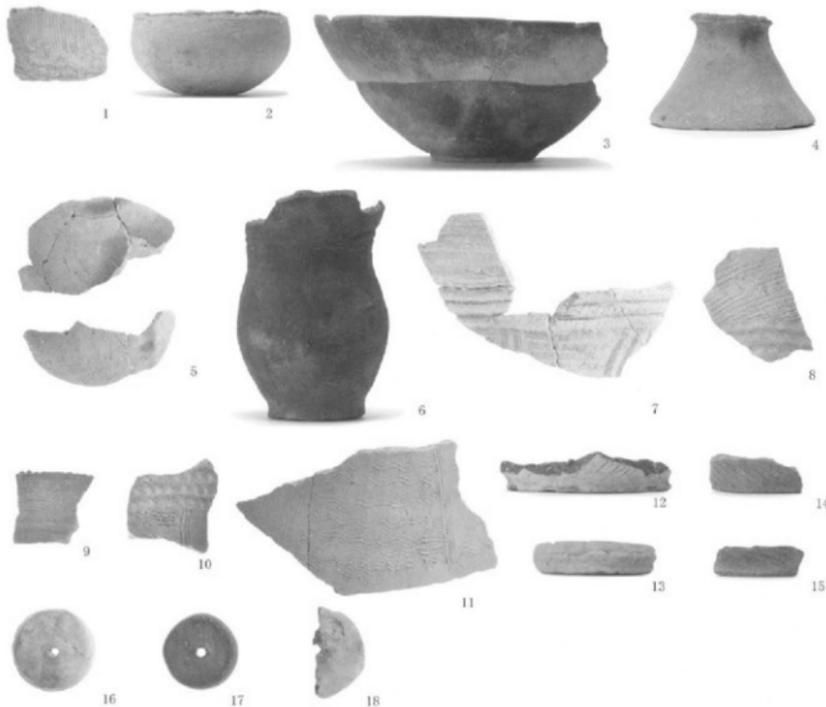
CUT1-S108 出土遺物



CUT1-S109 出土遺物



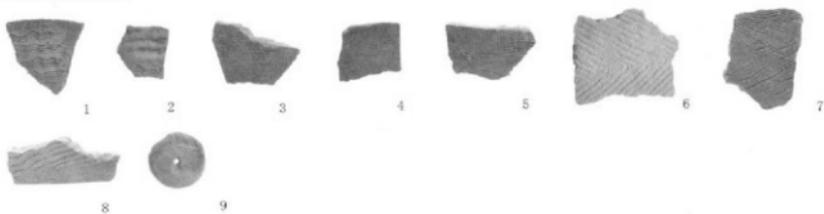
CUT1-S110 出土遺物



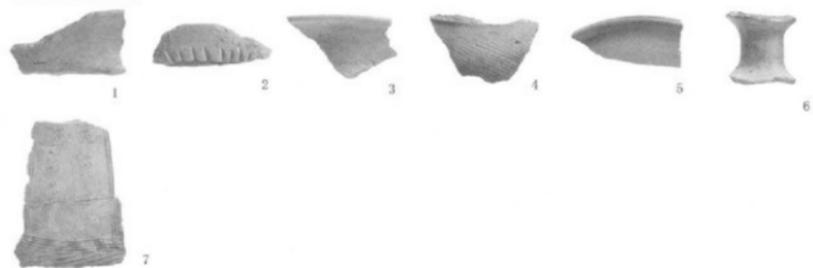
CUT1-S111 出土遺物



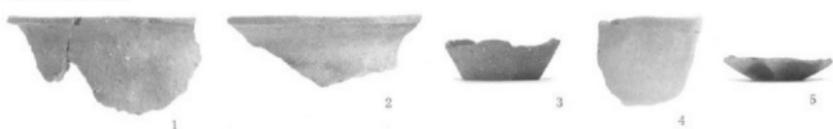
CUT1-S112 出土遺物



CUT1-S113 出土遺物



CUT1-S114 出土遺物



CUT1-SK15 出土遺物



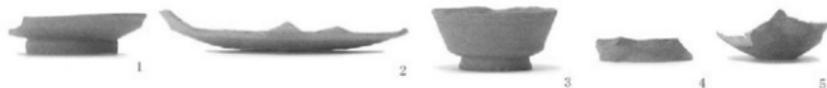
CUT2-S102 出土遺物



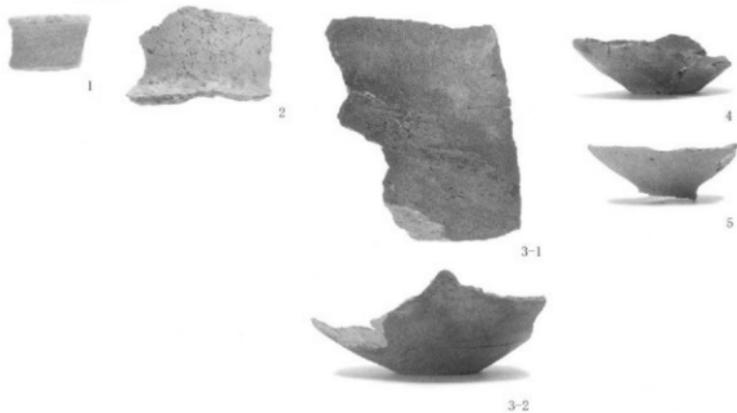
CUT2-S103 出土遺物



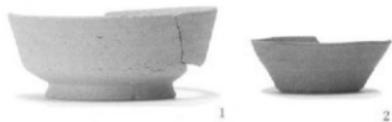
CUT2-S104 出土遺物



CUT2-S105 出土遺物



CUT2-S106 出土遺物



CUT2-遺構外出土遺物



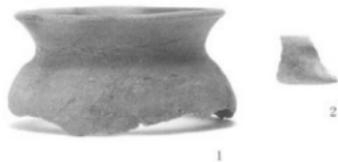
CUT5-S102 出土遺物



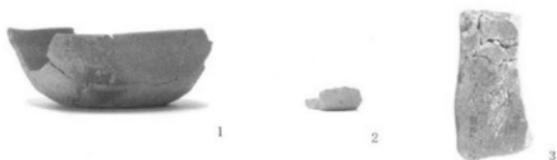
CUT5-S103 出土遺物



CUT5-S104 出土遺物



CUT5-S105 出土遺物



CUT5-S106 出土遺物



CUT5-S107 出土遺物



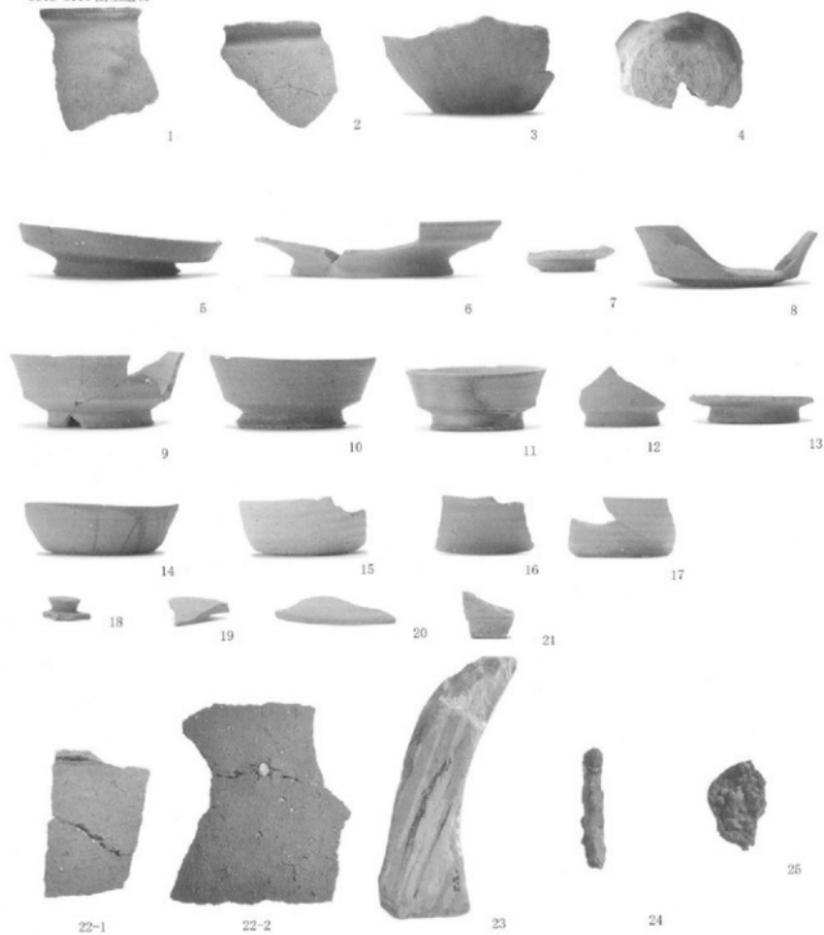
CUT5-S108 出土遺物



CUT5-S109 出土遺物



CUT5-S110 出土遺物

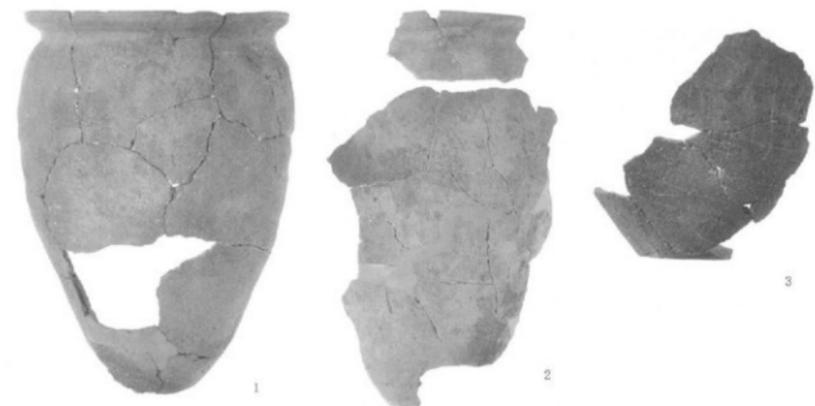


CUT5-S111 出土遺物

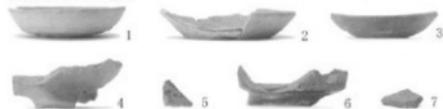


CUT5

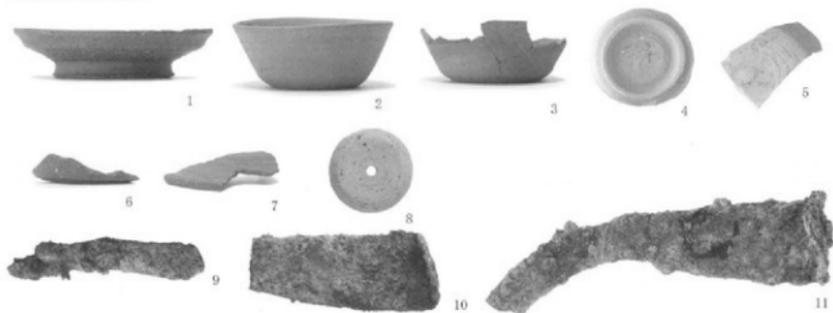
CUT5-SI12 出土遗物



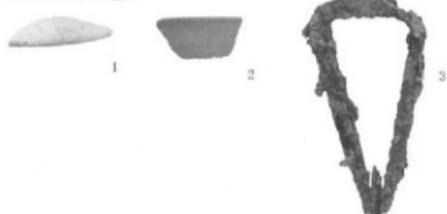
CUT5-SI13 出土遗物



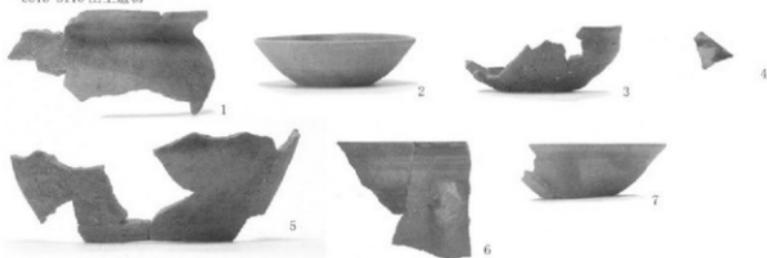
CUT5-SI14 出土遗物



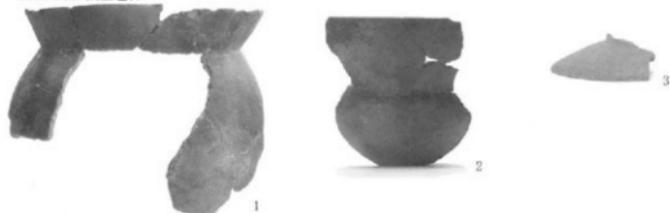
CUT5-SI15 出土遗物



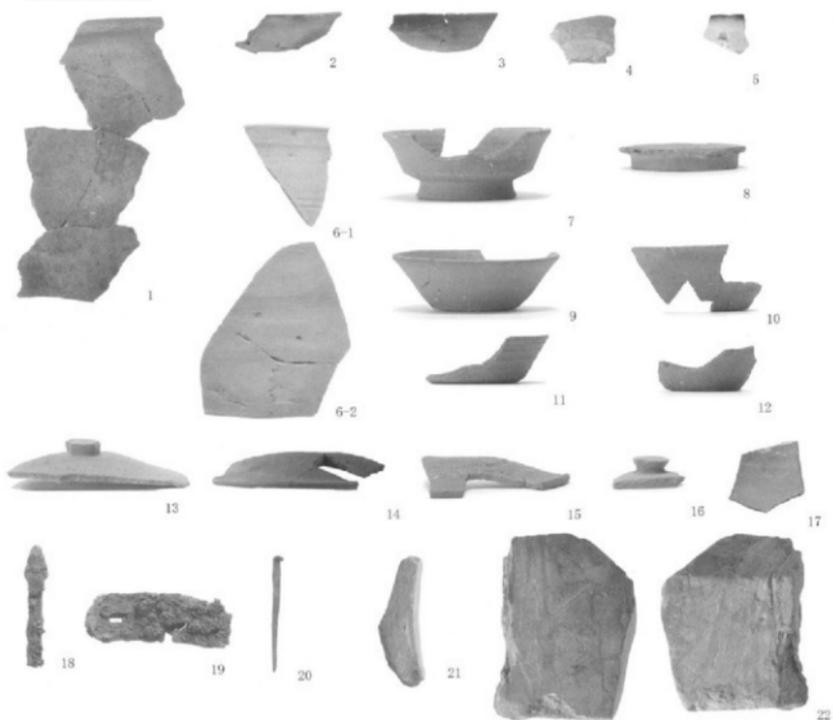
CUT5-SI16 出土遺物



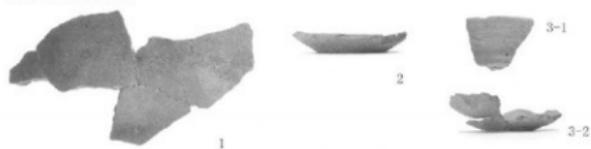
CUT5-SI18 出土遺物



CUT5-SI19 出土遺物



CUT5-S121 出土遺物



CUT5-S122 出土遺物



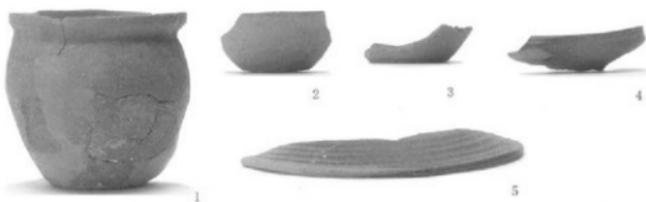
CUT5-S123 出土遺物



CUT5-S124 出土遺物



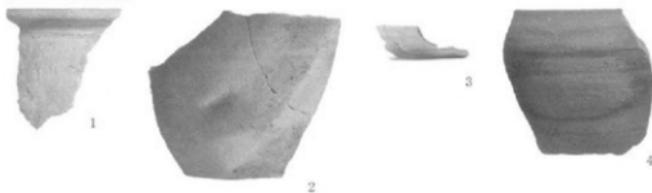
CUT5-S125 出土遺物



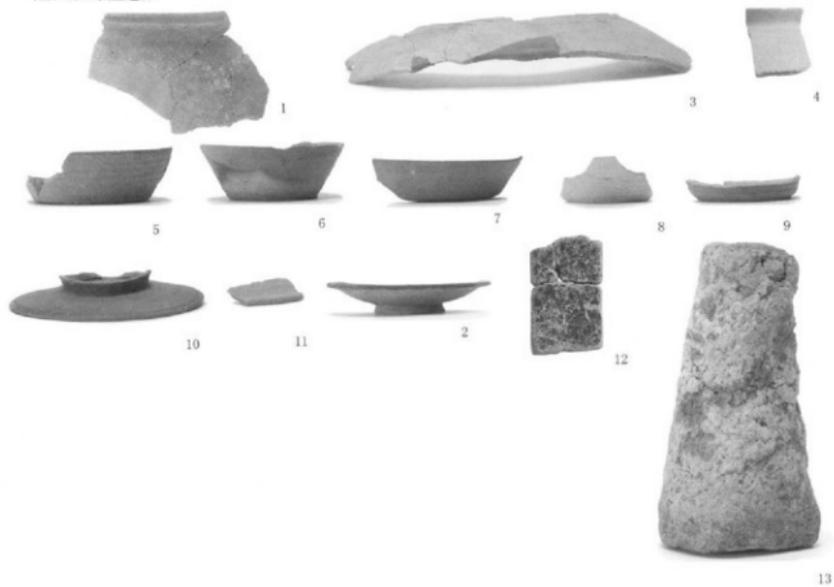
CUT5-S126 出土遺物



CUT5-S127 出土遺物



CUT5-S128 出土遺物



CUT5-S129 出土遺物



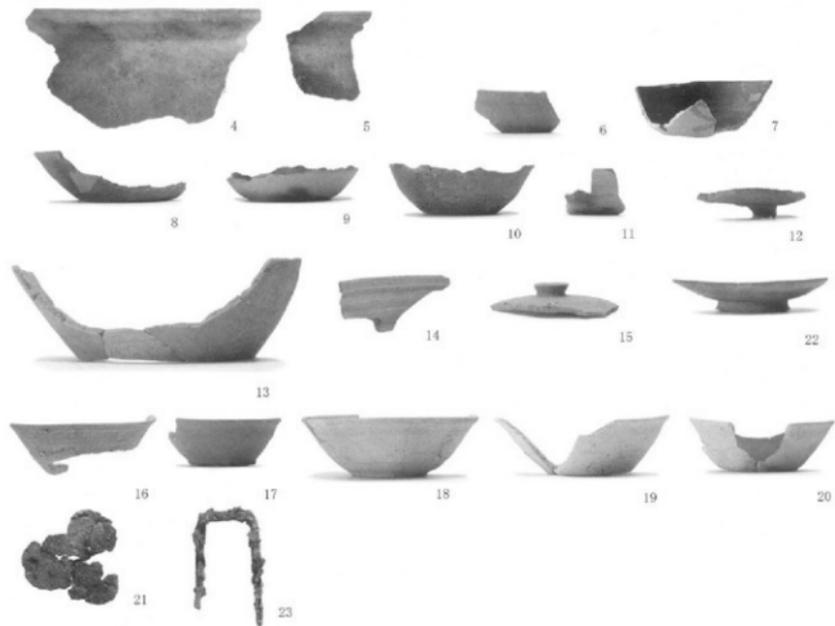
CUT5-S130 出土遺物



CUT5-S132・45 出土遺物



CUT5-SI32・45 出土遺物



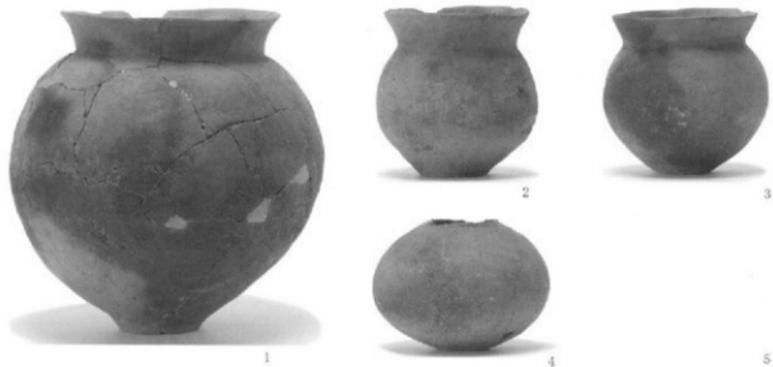
CUT5-SI33 出土遺物



CUT5-SI35 出土遺物



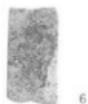
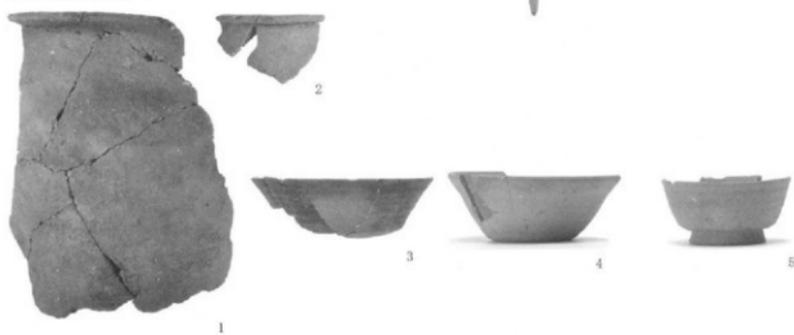
CUT5-SI36 出土遺物



CUT5-S137 出土遺物



CUT5-S138 出土遺物



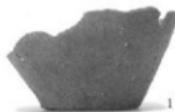
CUT5-S141 出土遺物



CUT5-S142 出土遺物



CUT5-SK09 出土遺物



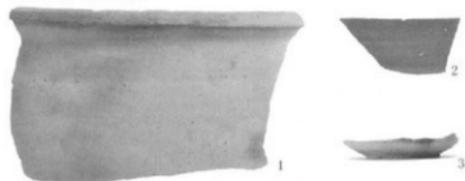
CUT5-SK19 出土遺物

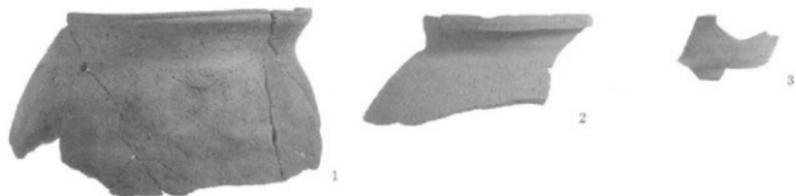


CUT5-ピット出土遺物

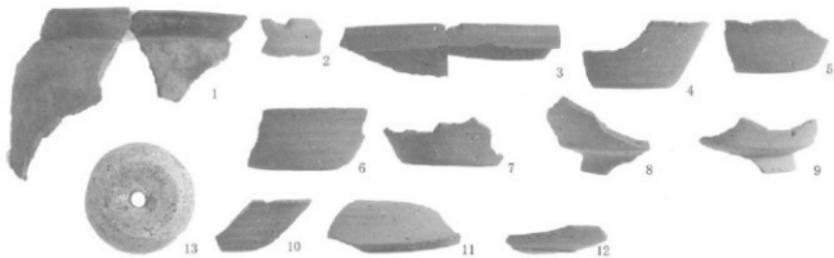


CUT5-遺構外出土遺物

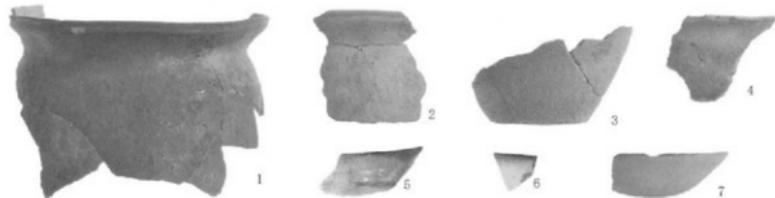




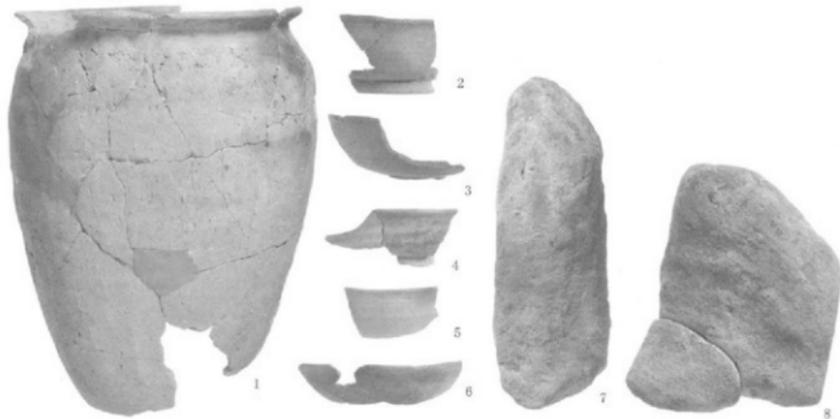
CUT6-S102 出土遺物



CUT6-S103 出土遺物



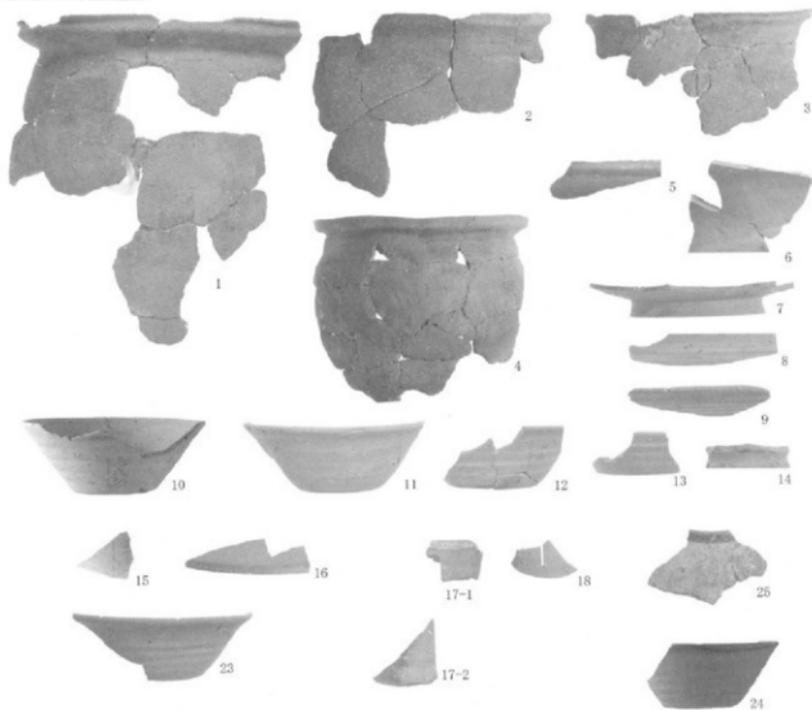
CUT6-S104 出土遺物



CUT8-SK09 出土遺物



CUT10A-S101 出土遺物



CUT10A・CUT10B

CUT10A-S101 出土遺物



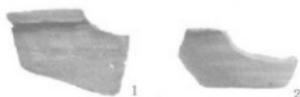
CUT10A-1 号地下式土坑出土遺物



CUT10A-SK01 出土遺物



CUT10A-SK05 出土遺物



CUT10A-SK09 出土遺物



CUT10A-SK12 出土遺物



CUT10A-SD01 出土遺物



CUT10A-カクラン出土遺物



CUT10B-SK13 出土遺物



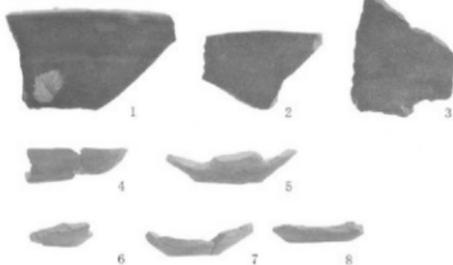
CUT10B-SK30 出土遺物



CUT10B-SK35 出土遺物



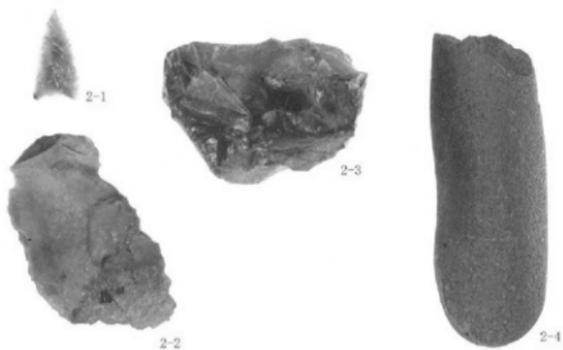
CUT10B-SK41 出土遺物



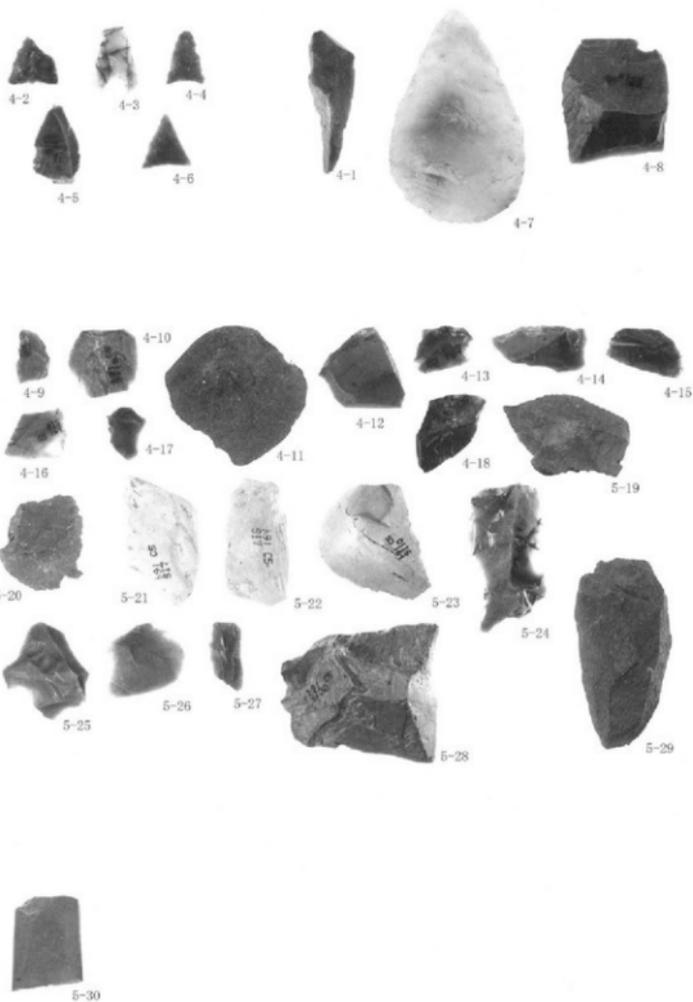
CUT10B-遺構外出土遺物



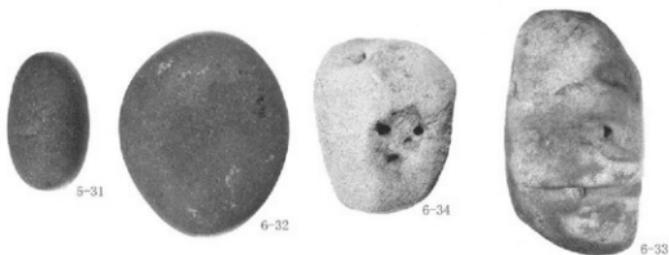
CUT01-石器



OUT05-石器-1



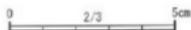
CUT05-石器-2



25住 6-35

32住 6-36

弥生時代



OUT05-石器-3



7-37



7-38



7-39



7-40



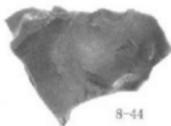
7-41



7-42  
グリッド



8-43



8-44



8-45



8-46

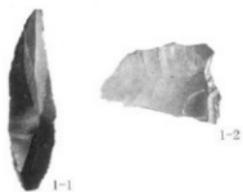
確認面

表採

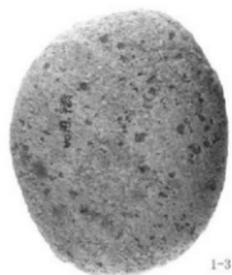
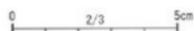
表採確認面



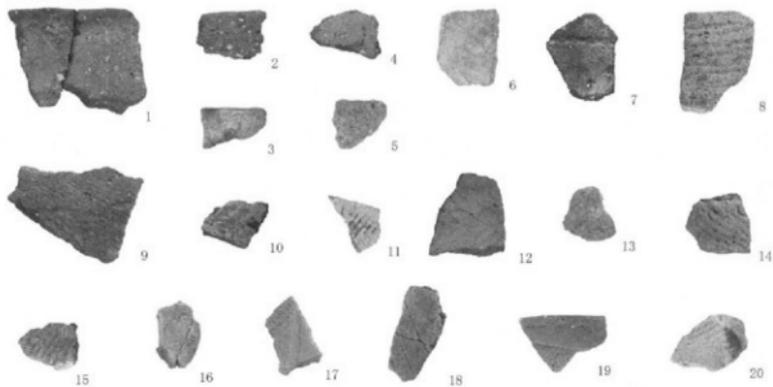
CUT10A-石器

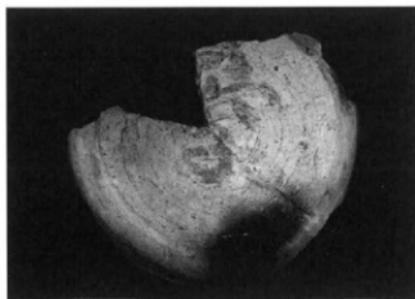


旧石器時代

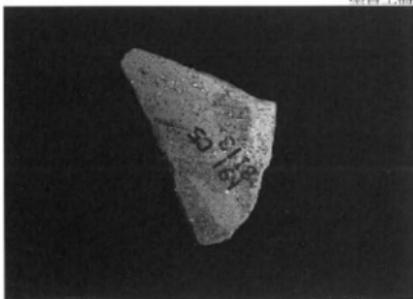


出土縄文土器

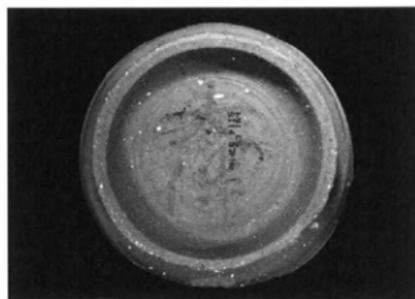




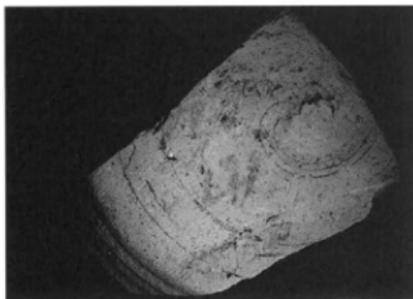
1 CUT05-S110-04 「□」



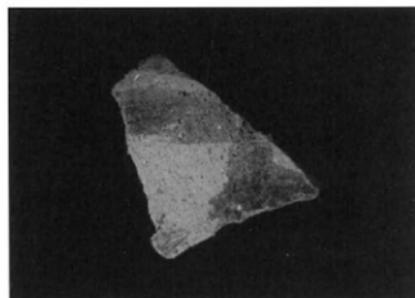
2 CUT05-S113-05 「□」



3 CUT05-S114-04 「大伴」



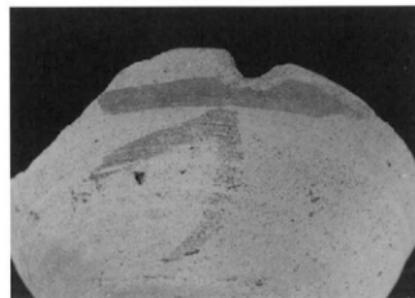
4 CUT05-S114-05 「□山」



5 CUT05-S116-04 「□」



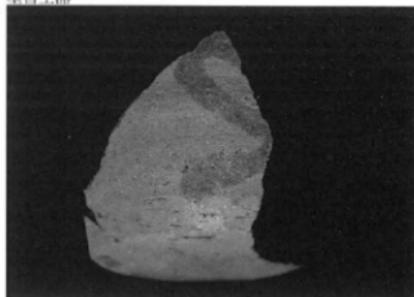
6 CUT05-S119-04 「□」



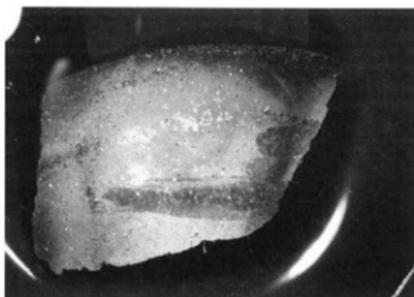
7 CUT05-S122-02 「万」



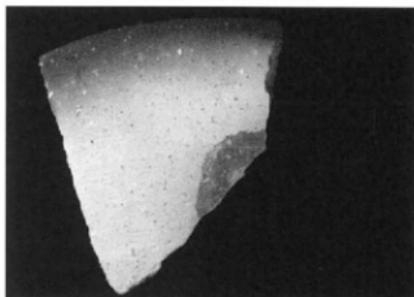
8 CUT05-S122-05 「□」



1 CUT05-SI32・45-07「□」



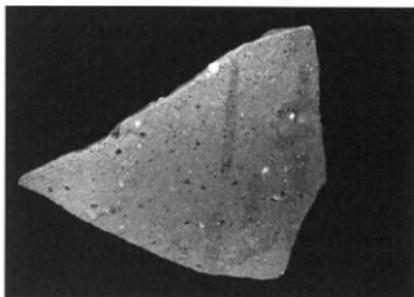
2 CUT06-SI03-05「□」



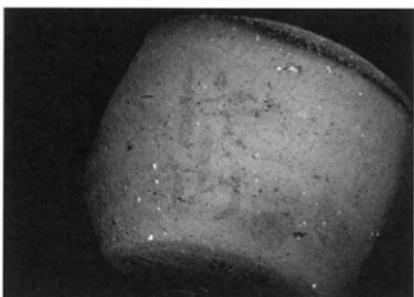
3 CUT06-SI03-06「□」



4 CUT10A-SI01-10「片山」



5 CUT10A-SI01-15「片山」



6 CUT10A-SI01-24「片山」

## 報告書抄録

ふりがな	ながみむにしいせき							
考名	長峰西遺跡							
副名	埋地帯総合整備事業（小原地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	笠岡市教育委員会・大賀健・角藤淳一・高橋 哲・田中純雄・大越亙樹・大賀さつき							
編集機関	有限会社 匂玉工房 Mori							
所在地	〒286 0203 千葉県富里市久保 238-100							
発行年月日	西暦 2010 年 3 月 15 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ° °	東経 ° ° °	調査期間	調査面積 ㎡	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
ながみむにしいせき 長峰西遺跡	いばらきけんかみとしおほら 久保町笠岡市小原 359 藩地ほか	08321	091	36	140	20081215	5,815 ㎡	埋地帯総合 整備事業
				22	20	{		
				05	30	20090331		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
長峰西遺跡	集落跡	縄文時代 縄文時代 (3期～後期)	竪穴式住居 古溝・竪穴式住居	ナイフ形石器 土器・瓦器・石鏡・石鏃・箭鏃・磁石・ ハタ・銅片・スタンプ型石群				
		弥生時代(後期)		弥生土器(十玉台式土器・五領式土器・ ミアケア土器)・土製鉛弾丸・鉄製農具(鏝)				
		古墳時代(前～中期)		土師器・須恵器・埴輪(器)・高土				
		奈良・平安時代		土師器・須恵器・埴輪(器)・透瓦土器・ 石製鉛弾丸・磁石・鉄製農具(鏝・鏃・鎌・鋤・ 銅板瓦・刀子釘)・磁石群				
中世	地下式瓦・土坑・溝・ピット	土質質土器(かわらけ・内瓦器)・陶磁器・茶目						
要約	<p>遺跡は示状台地上に位置し、旧石器時代のナイフ形石器が出土し、縄文時代早期～後期の土器・石器が出土しているが、遺構は検出されなかった。</p> <p>弥生時代後期には集落が形成され、弥生後期の十玉台式土器が出土し、2式期には五領式土器が共存する。</p> <p>古墳時代には隣接する志平塚古墳の周溝が検出された。集落は弥生時代から継続する古墳時代前期～中期まで確認され、戸と併設する初期期のカマドが検出された。</p> <p>奈良・平安時代の集落は8世紀後半～10世紀前半まで継続し、長期的な拠点集落と見られる。</p> <p>中世の遺構は台地上の増部に検出されているが、地下式瓦以外は地格不明遺構・溝・土坑・ピットなど性格が明確ではない。</p>							

長 峰 西 遺 跡

平成 22 年 3 月 15 日 発行

編 集 有限会社 勾玉工房 Mogi  
〒286-0203 千葉県富里市久能 238-100  
TEL. 0476(92)0658

発 行 笠間市教育委員会  
〒309-1698 茨城県笠間市石井717  
TEL. 0296(72)1111

印 刷 株式会社 エイティイー  
〒289-1115 千葉県八街市八街711  
TEL. 043(444)2024

